



Hewlett Packard
Enterprise

HPE ProLiant DL380 Gen10 Plusサーバーユーザーガイド

部品番号: 30-13BA8FB-001-ja-JP
発行: 2021年5月
版数: 1

HPE ProLiant DL380 Gen10 Plusサーバーユーザーガイド

摘要

このガイドは、サーバーおよびストレージシステムのインストール、管理、トラブルシューティングの担当者を対象とし、コンピューター機器の保守の資格があり、高電圧製品の危険性について理解していることを前提としています。

部品番号: 30-13BA8FB-001-ja-JP

発行: 2021年5月

版数: 1

© Copyright 2021 Hewlett Packard Enterprise Development LP

ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーション、および商業用製品の技術データ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダー標準の商業用使用許諾のもとで、米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外の情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

商標

Intel®、インテル、Itanium®、Optane™、Pentium®、Xeon®、Intel Inside®およびIntel Insideロゴは、インテルコーポレーションまたはその子会社のアメリカ合衆国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft®、Windows®、およびWindows Server®は、米国および/またはその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。

Linux®は、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標です。

VMware ESXi™とVMware vSphere®は、VMware, Inc. の米国および各国での登録商標または商標です。

Red Hat® Enterprise Linux®は、米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc. の登録商標です。

microSD®はSD-3Dの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

すべてのサードパーティのマークは、それぞれの所有者に帰属します。

目次

- コンポーネントの識別
 - フロントパネルのコンポーネント
 - フロントパネルのLEDとボタン
 - UIDボタンの機能
 - フロントパネルのLED電源障害コード
 - Systems Insight Display LED
 - Systems Insight Display LEDの組み合わせについての説明
 - リアパネルのコンポーネント
 - リアパネルのLED
 - システムボードのコンポーネント
 - ヒートシンクおよびソケットのコンポーネント
 - DIMMラベルの識別
 - HPE向けインテルOptane Persistent Memory 200シリーズのラベルの識別
 - DIMMスロット位置
 - システムメンテナンススイッチの説明
 - ドライブボックスの説明
 - ドライブの番号
 - HPEのベーシックドライブのLEDの定義
 - ファンベイ番号
 - DSC-25 2ポートSFP28カードのポートとLED
 - HPE NS204i-p NVMe OSブートデバイスのコンポーネント
 - HPE NS204i-p NVMe OSブートデバイスのLEDの定義
- 操作
 - サーバーの電源を入れる
 - サーバーの電源を切る
 - サーバーをラックから引き出す
 - ケーブルマネジメントアームにケーブルを固定する
 - サーバーをラックから取り外す
 - アクセスパネルを取り外す
 - アクセスパネルを取り付ける
 - ファンケージを取り外す
 - ファンケージを取り付ける
 - エアバッフルまたはミッドプレーンドライブケージを取り外す
 - エアバッフルを取り付ける
 - ライザーケージの取り外し
 - ライザーロットブランクを取り外す
 - ハードディスクドライブブランクを取り外す
 - ケーブルマネジメントアームを解放する
 - Systems Insight Displayにアクセスする
- セットアップ
 - オプションサービス
 - サーバーのセットアップ
 - 動作要件
 - 空間および通気要件

- 温度要件
- 電源要件
- アース要件
- DC電源ケーブルとDC電源を接続する
- サーバーの警告および注意事項
- ラックに関する警告
- 静電気対策
- サーバーボックスの内容
- ハードウェアオプションを取り付ける
- POST画面のオプション
- オペレーティングシステムのインストールと展開
- サーバーを登録する
- ハードウェアオプションの取り付け
 - 製品QuickSpecs
 - はじめに
 - セキュリティベゼルへのファンフィルターの取り付け
 - ベゼルおよびベゼルロックの取り付け
 - 電源装置オプション
 - ホットプラグ対応電源装置に関する計算
 - 冗長ホットプラグ対応電源装置の取り付け
 - HPE 800 W FS DC-48Vパワーサプライの取り付け
 - HPE 1600 W FS DC-48Vパワーサプライの取り付け
 - DC電源ケーブルとDC電源を接続する
 - Energy Packオプション
 - HPE Smartストレージバッテリー
 - HPE Smartストレージ ハイブリッドキャパシター
 - 最小ファームウェアバージョン
 - Energy Packの取り付け
 - メモリオプション
 - メモリ取り付け情報
 - DIMMプロセッサの互換性
 - HPE SmartMemory速度情報
 - DIMMブランクの取り付け
 - DIMMの取り付け
 - HPE向けインテルOptane Persistent Memory 200シリーズ
 - 不揮発性メモリモジュール - プロセッサの互換性
 - 不揮発性メモリモジュールの取り付け情報
 - 不揮発性メモリモジュールサポートのシステム要件
 - 不揮発性メモリモジュールの取り付け
 - HPE向けインテルOptane Persistent Memory 200シリーズ用のサーバーの構成
 - ファンのオプション
 - 高性能ファンの取り付け
 - ドライブオプション
 - ドライブのガイドライン
 - ホットプラグ対応SAS、SATA、またはNVMeドライブの取り付け
 - M.2ドライブの取り付け

- ユニバーサルメディアベイの取り付け
- ストレージコントローラーオプション
 - ストレージコントローラーの取り付け
- ライザーおよびライザーケージオプション
 - プライマリおよびセカンダリライザーの取り付け
 - ターシャリライザーの取り付け
 - セカンダリライザーケージの取り付け
 - ターシャリライザーケージの取り付け
- 拡張スロット
 - サポートされるPCIeフォームファクター
 - 拡張ボードの取り付け
 - アクセラレータのオプション
 - アクセラレータまたはGPUの取り付け
- ドライブケージオプション
 - フロント8NVMeドライブケージの取り付け
 - ボックス1へのフロント8 SFF (2.5型) SAS/SATAドライブケージの取り付け
 - ボックス2へのフロント8 SFF (2.5型) SAS/SATAドライブケージの取り付け
 - フロント/ターシャリ2 SFF (2.5型) NVMe/SAS/SATAスタック可能ドライブケージ
 - ミッドプレーンドライブケージの取り付け
 - プライマリまたはセカンダリライザーへのリア2 SFF (2.5型) SAS/SATAドライブケージの取り付け
 - 電源装置の上へのリア2 SFF (2.5型) SAS/SATAドライブケージの取り付け
 - プライマリまたはセカンダリライザーへのリア2LFF (3.5型) SAS/SATAドライブケージの取り付け
- プロセッサとヒートシンクのオプション
 - プロセッサヒートシンクアセンブリの取り付け
 - 高性能ヒートシンクの取り付け
- シャーシ侵入検出スイッチの取り付け
- OCP 3.0アダプターカードの取り付け
- Pensando DSP DSC-25 2p SFP28カードの取り付け
- HPE NS204i-p NVMe OSブートデバイスオプションの取り付け
- リアシリアルポートインターフェイスの取り付け
- Systems Insight Displayの取り付け
- HPE Trusted Platform Module 2.0 Gen10 Plusオプション
 - 概要
 - HPE Trusted Platform Module 2.0ガイドライン
 - HPE TPM 2.0 Gen10 Plusオプションの取り付けと有効化
 - Trusted Platform Moduleボードの取り付け
 - 取り付けのためのサーバーの準備
 - TPMボードとカバーの取り付け
 - 稼働のためのサーバーの準備
 - Trusted Platform Moduleの有効化
 - Trusted Platform Module (TPM 2.0) の有効化
 - Trusted Platform Module (TPM 1.2) の有効化
 - BitLockerのリカバリキー/パスワードの保管
- ケーブル接続
 - ケーブル接続のガイドライン
 - 電源ケーブルの接続

- ケーブル配線：フロント8SFF（2.5型）電源のケーブル接続
- ケーブル配線：フロント12LFF（3.5型）電源のケーブル接続
- ケーブル配線：ミッドプレーン電源のケーブル接続
- ケーブル配線：フロント2SFF（2.5型）並列電源のケーブル接続
- ケーブル配線：リア2SFF（2.5型）電源のケーブル接続

○ ケーブル配線図

- ケーブル配線：2NVMeボックス6からAROC NVMeアダプター
- ケーブル配線：6NVMeボックス3から3ポートプライマリライザー
- ケーブル配線：6NVMeボックス3から3ポートプライマリライザー
- ケーブル配線：8NVMeバランスボックス2からシステムボード
- ケーブル配線：8NVMe P2ボックス1からシステムボード/セカンダリライザー
- ケーブル配線：8NVMe P1ボックス3からシステムボード/プライマリライザー
- ケーブル配線：12NVMe BAL P1ボックス2+3からシステムボード/プライマリライザー/OCV NVMeアダプター/タイプaコントローラー
- ケーブル配線：12NVMe BAL P2ボックス1+2からシステムボード/4ポートNVMeセカンダリライザー
- ケーブル配線：12NVMe DIFF P1ボックス2+3からシステムボード/4ポートNVMeプライマリライザー
- ケーブル配線：12NVMe DIFF P1ボックス1+2からシステムボード/4ポートNVMeセカンダリライザー
- ケーブル配線：24NVMeバランス
- ケーブル配線：24NVMeディファレンシャル
- ケーブル配線：8NVMeボックス3から4ポートプライマリライザー
- ケーブル配線：8NVMeボックス1から4ポートセカンダリライザー
- ケーブル配線：8NVMeボックス1+2からタイプaコントローラー
- ケーブル配線：8SFF（2.5型）ボックス2からタイプaコントローラー
- ケーブル配線：8SFF（2.5型）ボックス3から2ポートプライマリタイプpコントローラー
- ケーブル配線：8SFF（2.5型）ボックス2から2ポートプライマリタイプpコントローラー
- ケーブル配線：2SFF（2.5型）並列からプライマリタイプpコントローラー
- ケーブル配線：8SFF（2.5型）4ポートボックス1から4ポートセカンダリタイプpコントローラー
- ケーブル配線：8SFF（2.5型）4ポートボックス2から4ポートプライマリタイプpコントローラー
- ケーブル配線：8SFF（2.5型）4ポートボックス3から4ポートプライマリタイプpコントローラー
- ケーブル配線：8SFF（2.5型）ボックス1+2+3から4ポートセカンダリタイプpコントローラー
- ケーブル配線：8SFF（2.5型）ボックス1+2+3から4ポートプライマリタイプpコントローラー
- ケーブル配線：4LFF（3.5型）SAS/SATAボックス7から4ポートタイプaコントローラー

○ ケーブル配線：フロントI/Oのケーブル接続

○ ケーブル配線：シリアルポート

○ ケーブル配線：OCV NVMeの有効化

● ソフトウェアおよび構成ユーティリティ

○ サーバー モード

○ 製品QuickSpecs

○ Active Health System Viewer

■ Active Health System

● Active Health Systemのデータ収集

● Active Health Systemログ

○ HPE iLO 5

■ iLO連携

■ iLOサービスポート

■ iLO RESTful API

- RESTfulインターフェイスツール
 - iLO Amplifier Pack
 - インテグレートドマネジメントログ
 - Intelligent Provisioning
 - 管理セキュリティ
 - WindowsおよびLinux用のScripting Toolkit
 - HPE Message Passing Interface (MPI)
 - HPE Performance Cluster Manager
 - UEFIシステムユーティリティ
 - ブートモードの選択
 - セキュアブート
 - 内蔵UEFIシェルの起動
 - HPE Smart Storage Administrator
 - Smart Storage Administrator
 - HPE InfoSight for Servers
 - USBサポート
 - 外部USB機能
 - 冗長ROMのサポート
 - 安全とセキュリティ上の利点
 - システムの最新状態の維持
 - ファームウェアまたはシステムROMのアップデート
 - Service Pack for ProLiant
 - Smart Update Manager
 - Integrated Smart Update Tools
 - システムユーティリティからのファームウェアのアップデート
 - UEFI 内蔵シェルからのファームウェアのアップデート
 - オンラインフラッシュコンポーネント
 - ドライバー
 - ソフトウェアおよびファームウェア
 - オペレーティングシステムバージョンのサポート
 - HPE Pointnextポートフォリオ
 - 事前通知
- トラブルシューティング
 - NMI機能
 - トラブルシューティングの資料
- バッテリーの交換
- 仕様
 - 環境仕様
 - 機械仕様
 - 電源装置の仕様
 - HPE 800 W FS LHパワーサプライ (高電圧) (HPE 800 W Flex Slot Universal Hot Plug Low Halogen Power Supply)
 - HPE 800 W FS Platinum LHパワーサプライ (HPE 800 W Flex Slot Platinum Hot-plug Low Halogen Power Supply)
 - HPE 800 W FS Titanium LHパワーサプライ (HPE 800 W Flex Slot Titanium Hot-plug Low Halogen Power Supply)
 - HPE 800 W FS DC - 48V LHパワーサプライ (HPE 800 W Flex Slot -48 VDC Hot-plug Low Halogen Power Supply)

Supply)

- HPE 1600 W FS Platinum LHパワーサプライ (HPE 1600 W Flex Slot Platinum Hot-plug Low Halogen Power Supply)
- HPE 1600 W FS DC-48Vパワーサプライ (HPE 1600 W Flex Slot -48 VDC Hot-plug Power Supply)

- サポートと他のリソース

- Hewlett Packard Enterpriseサポートへのアクセス
- アップデートへのアクセス
- リモートサポート (HPE通報サービス)
- 保証情報
- 規定に関する情報
- ドキュメントに関するご意見、ご指摘

コンポーネントの識別

サブピック

[フロントパネルのコンポーネント](#)

[フロントパネルのLEDとボタン](#)

[リアパネルのコンポーネント](#)

[リアパネルのLED](#)

[システムボードのコンポーネント](#)

[ドライブボックスの説明](#)

[ドライブの番号](#)

[HPEのベーシックドライブのLEDの定義](#)

[ファンベイ番号](#)

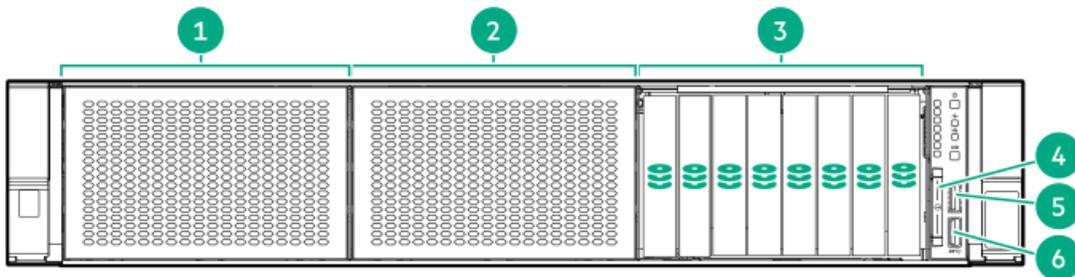
[DSC-25 2ポートSFP28カードのポートとLED](#)

[HPE NS204i-p NVMe OSブートデバイスのコンポーネント](#)

[HPE NS204i-p NVMe OSブートデバイスのLEDの定義](#)

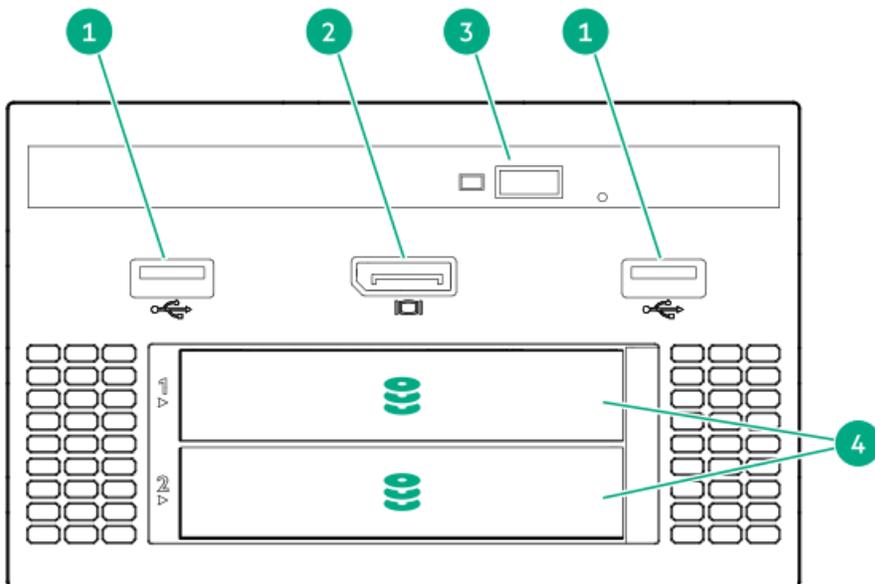
フロントパネルのコンポーネント

SFF (2.5型) フロントパネルのコンポーネント



項目	説明
1	ボックス1 (オプションのドライブまたはユニバーサルメディアベイ)
2	ボックス2 (オプションのドライブ)
3	ボックス3のドライブ1~8
4	シリアル番号/iLO情報プルタブまたはオプションSystems Insight Display
5	iLOサービスポート
6	USB 3.0ポート

ユニバーサルメディアベイのコンポーネント



番号 説明

1	USB 2.0ポート
2	ビデオディスプレイポート
3	オプティカルディスクドライブ (オプション)
4	ドライブ (オプション)

12ドライブLFF (3.5型) フロントパネルのコンポーネント

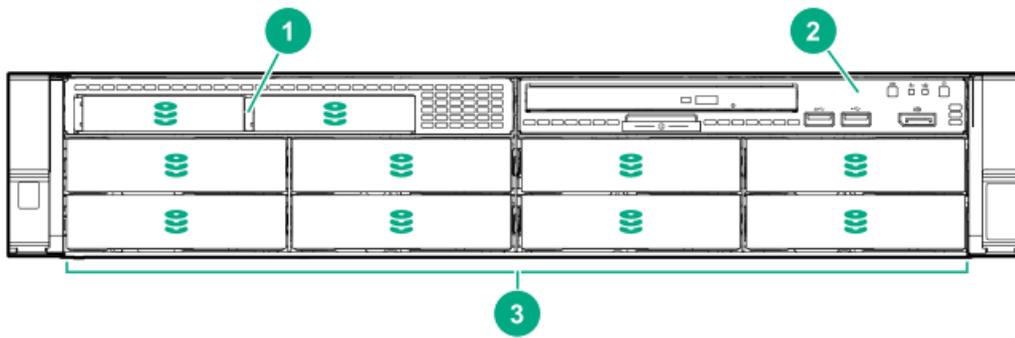


項目 説明

1	ドライブベイまたはオプティカル/ビデオ/USB (オプション)
2	ドライブベイ (オプション)
3	ドライブベイ

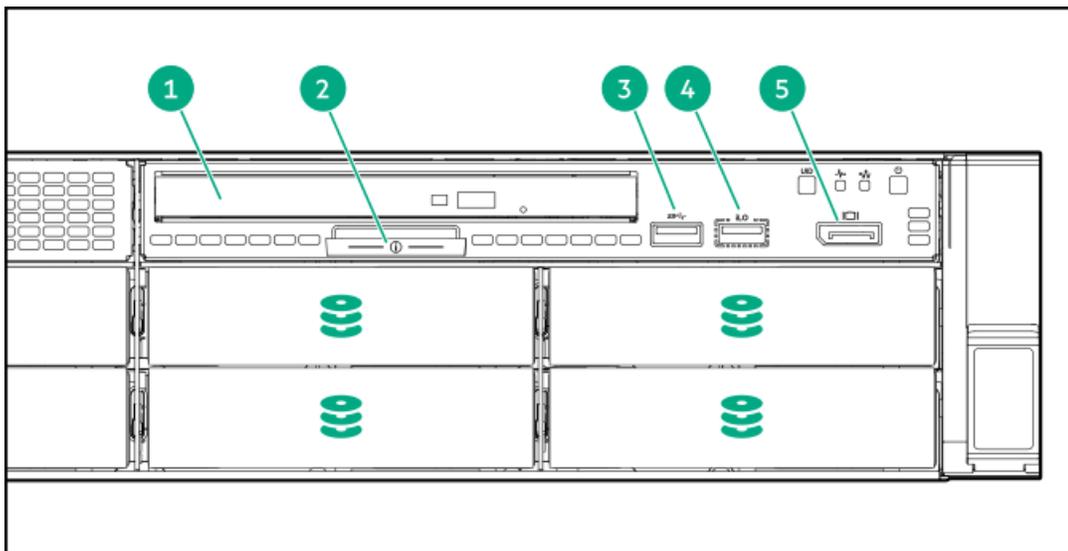
8ドライブLFF (3.5型) モデルフロントパネルのコンポーネント





項目	説明
1	2 SFF (2.5型) モジュール (オプション)
2	LFF (3.5型) 電源スイッチモジュール
3	ドライブベイ

LFF (3.5型) 電源スイッチモジュールのコンポーネント

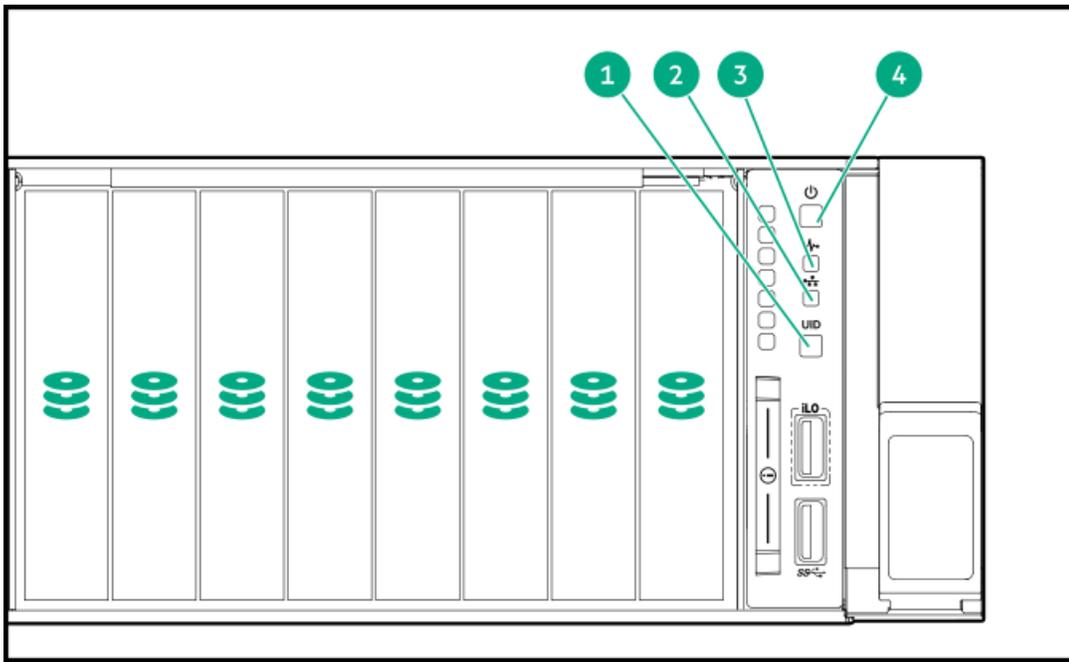


項目	説明
1	オプティカルディスクドライブ
2	シリアル番号/iLO情報プルタブ
3	USB 3.0ポート
4	iLOサービスポート
5	ディスプレイポート

フロントパネルのLEDとボタン

SFFフロントパネルのLEDとボタン

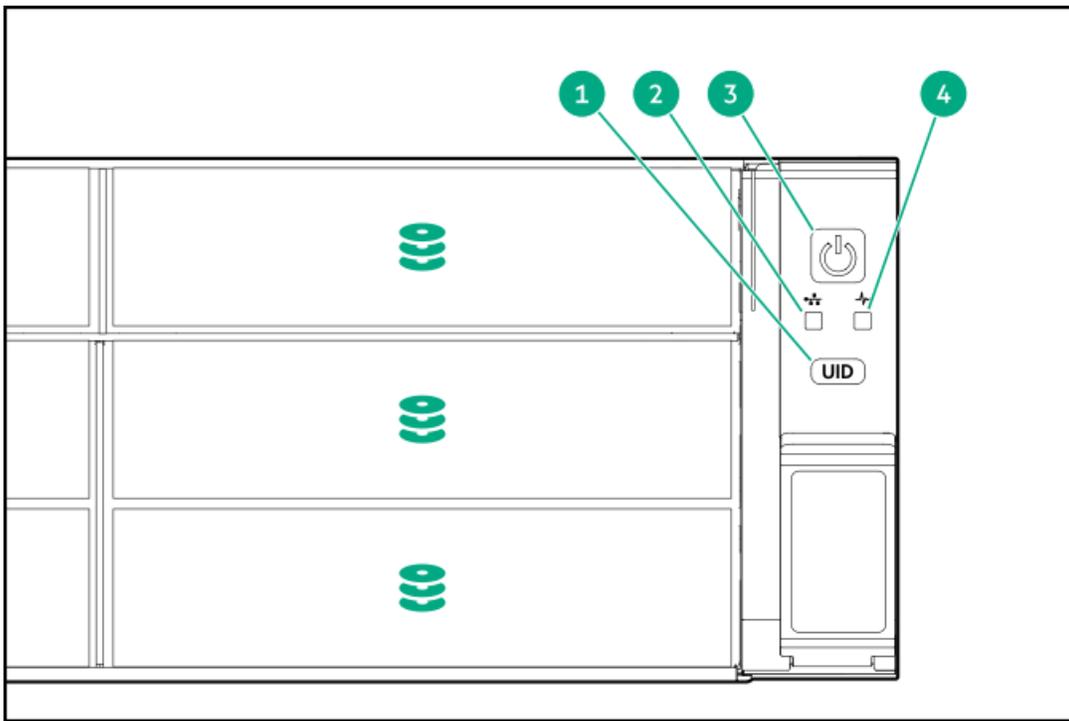




項目	説明	ステータス
1	UIDボタン/LED ¹	<ul style="list-style-type: none"> 青色で点灯 = 動作しています 青色で点滅 : <ul style="list-style-type: none"> 毎秒1回 = リモート管理またはファームウェアアップグレードを実行中です 毎秒4回 = iLOの手動再起動シーケンスが開始されました 毎秒8回 = iLOの手動再起動シーケンスが進行中です 消灯 = 動作していません
2	NICのステータスLED ¹	<ul style="list-style-type: none"> 緑色で点灯 = ネットワークにリンクされています 緑色で点滅 (毎秒1回) = ネットワークが動作しています 消灯 = ネットワークが動作していません
3	ヘルスLED ¹	<ul style="list-style-type: none"> 緑色で点灯 = 正常 緑色で点滅 (毎秒1回) = iLOが再起動しています オレンジ色で点滅 = システムの機能が劣化しています 赤色で点滅 (毎秒1回) = システムに重大な障害が発生しています。²
4	Power On/Standbyボタン/ システム電源LED ¹	<ul style="list-style-type: none"> 緑色で点灯 = システムに電源が入っています 緑色で点滅 (毎秒1回) = 電源投入シーケンスを実行中です オレンジ色で点灯 = システムはスタンバイ状態です 消灯 = 電源が供給されていません。³

¹ この表で説明されている4つのLEDがすべて同時に点滅する場合は、電源障害が発生しています。
² ヘルスLEDが性能低下またはクリティカル状態を示している場合は、システムのIMLを確認するか、またはiLOを使用してシステムヘルスステータスを確認してください。
³ 電源が供給されていない、電源コードが接続されていない、電源装置が搭載されていない、電源装置が故障している、または電源ボタンケーブルが接続されていません。

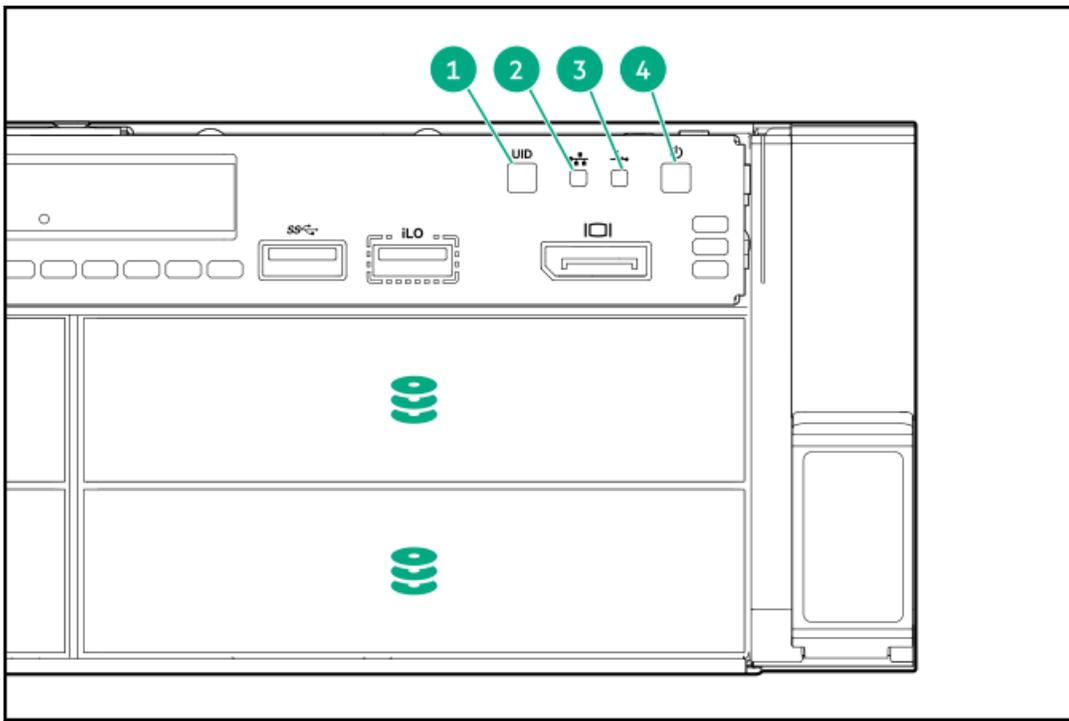
12 LFF (3.5型) のフロントパネルのLEDとボタン



項目	説明	ステータス
1	UIDボタン/LED ¹	<ul style="list-style-type: none"> 青色で点灯 = 動作しています 青色で点滅 : <ul style="list-style-type: none"> 毎秒1回 = リモート管理またはファームウェアアップグレードを実行中です 毎秒4回 = iL0の手動再起動シーケンスが開始されました 毎秒8回 = iL0の手動再起動シーケンスが進行中です 消灯 = 動作していません
2	NICのステータスLED ¹	<ul style="list-style-type: none"> 緑色で点灯 = ネットワークにリンクされています 緑色で点滅 (毎秒1回) = ネットワークが動作しています 消灯 = ネットワークが動作していません
3	Power On/Standbyボタン/ システム電源LED ¹	<ul style="list-style-type: none"> 緑色で点灯 = システムに電源が入っています 緑色で点滅 (毎秒1回) = 電源投入シーケンスを実行中です オレンジ色で点灯 = システムはスタンバイ状態です 消灯 = 電源が供給されていません。²
4	ヘルスLED ¹	<ul style="list-style-type: none"> 緑色で点灯 = 正常 緑色で点滅 (毎秒1回) = iL0が再起動しています オレンジ色で点滅 = システムの機能が劣化しています 赤色で点滅 (毎秒1回) = システムに重大な障害が発生しています。³

¹ この表で説明されている4つのLEDがすべて同時に点滅する場合は、電源障害が発生しています。
² 電源が供給されていない、電源コードが接続されていない、電源装置が搭載されていない、電源装置が故障している、または電源ボタンケーブルが接続されていません。
³ ヘルスLEDが性能低下またはクリティカル状態を示している場合は、システムのIMLを確認するか、またはiL0を使用してシステムヘルスステータスを確認してください。

LFF (3.5型) 電源スイッチモジュールLEDとボタン



項目	説明	ステータス
1	UIDボタン/LED ¹	<ul style="list-style-type: none"> 青色で点灯 = 動作しています 青色で点滅： <ul style="list-style-type: none"> 毎秒1回 = リモート管理またはファームウェアアップグレードを実行中です 毎秒4回 = iLOの手動再起動シーケンスが開始されました 毎秒8回 = iLOの手動再起動シーケンスが進行中です 消灯 = 動作していません
2	NICのステータスLED ¹	<ul style="list-style-type: none"> 緑色で点灯 = ネットワークにリンクされています 緑色で点滅（毎秒1回） = ネットワークが動作しています 消灯 = ネットワークが動作していません
3	ヘルスLED ¹	<ul style="list-style-type: none"> 緑色で点灯 = 正常 緑色で点滅（毎秒1回） = iLOが再起動しています オレンジ色で点滅 = システムの機能が劣化しています 赤色で点滅（毎秒1Hz/サイクル） = システムはクリティカルな状態です。²
4	Power On/Standbyボタン/システム電源LED ¹	<ul style="list-style-type: none"> 緑色で点灯 = システムに電源が入っています 緑色で点滅（毎秒1回） = 電源投入シーケンスを実行中です オレンジ色で点灯 = システムはスタンバイ状態です 消灯 = 電源が供給されていません。³

¹ この表で説明されている4つのLEDがすべて同時に点滅する場合は、電源障害が発生しています。
² ヘルスLEDが劣化状態またはクリティカル状態を示している場合は、システムIMLを確認するか、またはiLOを使用してシステムヘルスステータスを確認してください。
³ 電源が供給されていない、電源コードが接続されていない、電源装置が搭載されていない、電源装置が故障している、または電源ボタンケーブルが接続されていません。

サブトピック

UIDボタンの機能

フロントパネルのLED電源障害コード

Systems Insight Display LED

Systems Insight Display LEDの組み合わせについての説明

UIDボタンの機能

サーバーの電源が入らないときに、UIDボタンを使用するとサーバーヘルスサマリーを表示することができます。詳しくは、[Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト](#)にある最新のHPE iLO 5ユーザーガイドを参照してください。

フロントパネルのLED電源障害コード

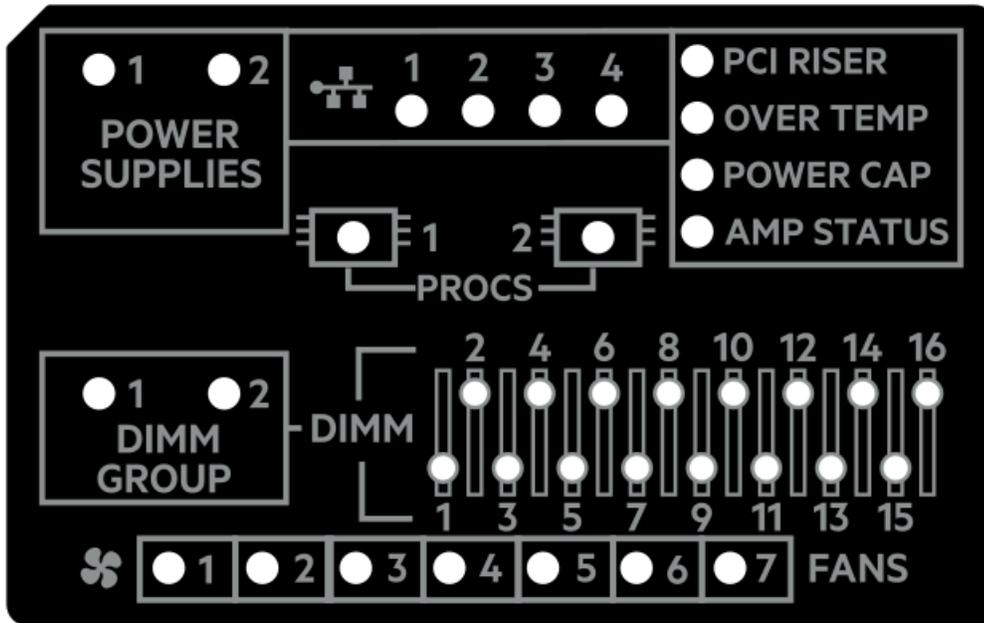
次の表は、電源障害コードと影響を受けているサブシステムのリストを提供します。すべての電源障害がすべてのサーバーに適用されるわけではありません。

サブシステム	LEDの動作
システムボード	1回の点滅
プロセッサ	2回の点滅
メモリ	3回の点滅
ライザーボードのPCIeスロット	4回の点滅
OCPアダプター	5回の点滅
ストレージコントローラー	6回の点滅
システムボードPCIeのスロット	7回の点滅
電源バックプレーン	8回の点滅
ストレージバックプレーン	9回の点滅
電源装置	10回の点滅
ライザーボードに取り付けられたPCIe拡張カード	11回の点滅
シャーシ	12回の点滅
GPUカード	13回の点滅

Systems Insight Display LED

Systems Insight Display LEDは、システムボードのレイアウトを表しています。この表示によって、取り付けられたアクセスパネルの診断が可能になります。





説明	ステータス
プロセッサ LED	消灯 = 正常 オレンジ色 = プロセッサに障害が発生しています。
DIMM LED	消灯 = 正常 オレンジ色 = DIMMに障害が発生しているか、または構成に問題があります。
ファンLED	消灯 = 正常 オレンジ色 = ファンに障害が発生しているか、またはファンが認識されていません。
NIC LED ¹	消灯 = ネットワークにリンクされていません。 緑色で点灯 = ネットワークにリンクされています。 緑色で点滅 = ネットワークにリンクされ動作しています。 電源が切れている場合は、フロントパネルのLEDが機能しません。ステータスについては、 リアパネルのLED を参照してください。
電源装置の LED	消灯 = 正常 オレンジ色で点灯 = 電源サブシステムが劣化しているか、電源装置に障害が発生しているか、または入力電源が切断されています。
PCIライザー LED	消灯 = 正常 オレンジ色 = PCIライザーケースが正しく取り付けられていません。
温度超過LED	消灯 = 正常 オレンジ色 = 高温を検出
消費電力上限 LED	消灯 = システムはスタンバイの状態か、消費電力上限が設定されていません。 緑色で点灯 = 消費電力上限が適用されます。
AMPステータ スLED	消灯 = AMPモードが無効 緑色で点灯 = AMPモードが有効 オレンジ色で点灯 = フェイルオーバー オレンジ色で点滅 = 無効な構成

¹ 内蔵NICポートはサーバーに装備されていません。Systems Insight DisplayのNIC LEDは、ネットワークアダプターポートのアクティビティに応じて点滅します。デュアルポートアダプターの場合、それぞれのネットワークポートの動作に対応して、NIC LED 1と2だけが点灯します。

フロントパネルのヘルスLEDがオレンジ色または赤色に点灯した場合は、サーバーの動作で問題が発生していることを示します。これらのLEDの組み合わせについて詳しくは、[Systems Insight Display LEDの組み合わせについての説明](#)を参照してください。

Systems Insight Display LEDの組み合わせについての説明

次のLED点灯の組み合わせは、システム状態を示します。

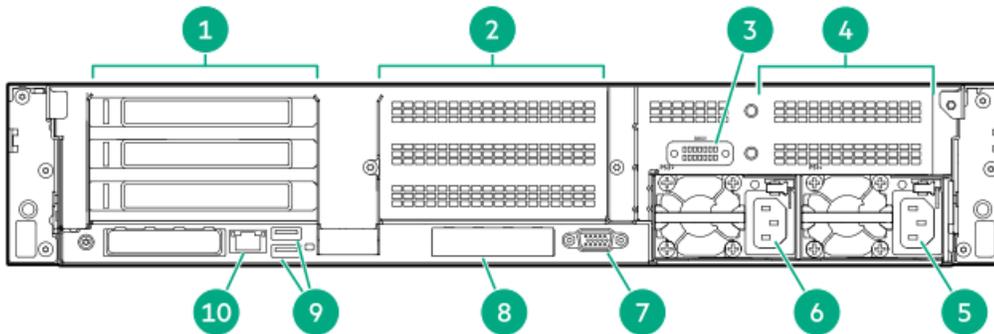
- Systems Insight Display LED
- システム電源LED
- ヘルスLED

Systems Insight Display LEDと色	ヘルス LED	システム電源LED	ステータス
プロセッサ (オレンジ色)	赤色	オレンジ色	以下に示す1つまたは複数の状態が発生している可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> • ソケットXのプロセッサに障害が発生しました。 • プロセッサXがソケットに取り付けられていない。 • プロセッサXはサポートされていない。 • POST実行中に、故障したプロセッサをROMが検出しました。
プロセッサ (オレンジ色)	オレンジ色	緑色	ソケットXのプロセッサが障害予測状態です。
DIMM (オレンジ色)	赤色	緑色	1つ以上のDIMMに障害が発生しました。
DIMM (オレンジ色)	オレンジ色	緑色	スロットXのDIMMが障害予測状態です。
温度超過 (オレンジ色)	オレンジ色	緑色	ヘルスドライバーが注意温度レベルを検出しました。
温度超過 (オレンジ色)	赤色	オレンジ色	サーバーは、ハードウェアの温度がクリティカルなレベルに達したことを検出しました。
PCIライザー (オレンジ色)	赤色	緑色	PCIライザーケージが適切に固定されていません。
ファン (オレンジ色)	オレンジ色	緑色	1つのファンが故障したか取り外されています。
ファン (オレンジ色)	赤色	緑色	2つ以上のファンが故障したか取り外されています。
電源装置 (オレンジ色)	赤色	オレンジ色	以下に示す1つまたは複数の状態が発生している可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 装着されている電源装置は1台だけで、その電源装置はスタンバイの状態です。 • 電源装置の障害です。 • システムボードの障害です。

Systems Insight Display LEDと色	ヘルス LED	システム電源LED	ステータス
電源装置 (オレンジ色)	オレンジ色	緑色	以下に示す1つまたは複数の状態が発生している可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> 冗長電源装置が取り付けられており、1つの電源装置だけが機能している。 冗長電源装置にAC電源コードが接続されていません。 冗長電源装置の障害です。 電源装置がPOST時に適合しない、またはホットプラグによる追加作業時に不適合が発生している。
パワーキャップ (消灯)	-	オレンジ色	スタンバイ。
パワーキャップ (緑色)	-	緑色で点滅	電源投入を待っています。
パワーキャップ (緑色)	-	緑色	電力が使用可能です。
消費電力上限 (オレンジ色で点滅)	-	オレンジ色	電力が使用できません。

i 重要: 複数のDIMMスロットのLEDが点灯している場合は、さらにトラブルシューティングが必要です。他のすべてのDIMMを取り外して、DIMMの各バンクをテストしてください。バンクにある各DIMMを正常に動作しているDIMMと交換して、障害のあるDIMMを特定してください。

リアパネルのコンポーネント

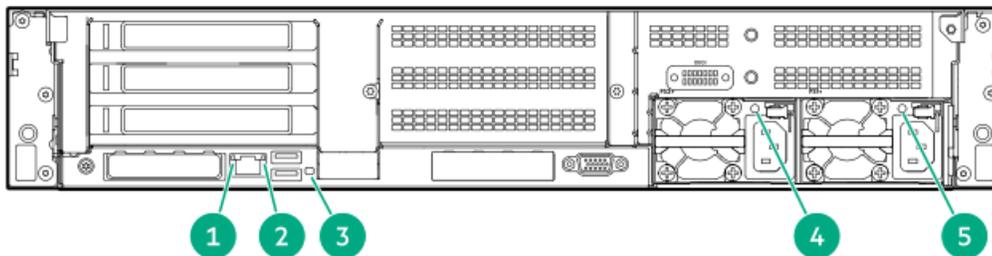


項目 説明

1	プライマリライザーズロット1~3 (オプションのドライブケージ)
2	セカンダリライザーズロット4~6 (オプションのドライブケージ)
3	シリアルポート (オプション) ¹
4	ターシャリライザーズロット7~8 (オプションのドライブケージ)
5	電源1
6	電源2
7	ビデオ (VGA) ポート
8	OCP 3.0アダプター (オプション)
9	USB 3.0コネクタ
10	iLOマネジメントポート

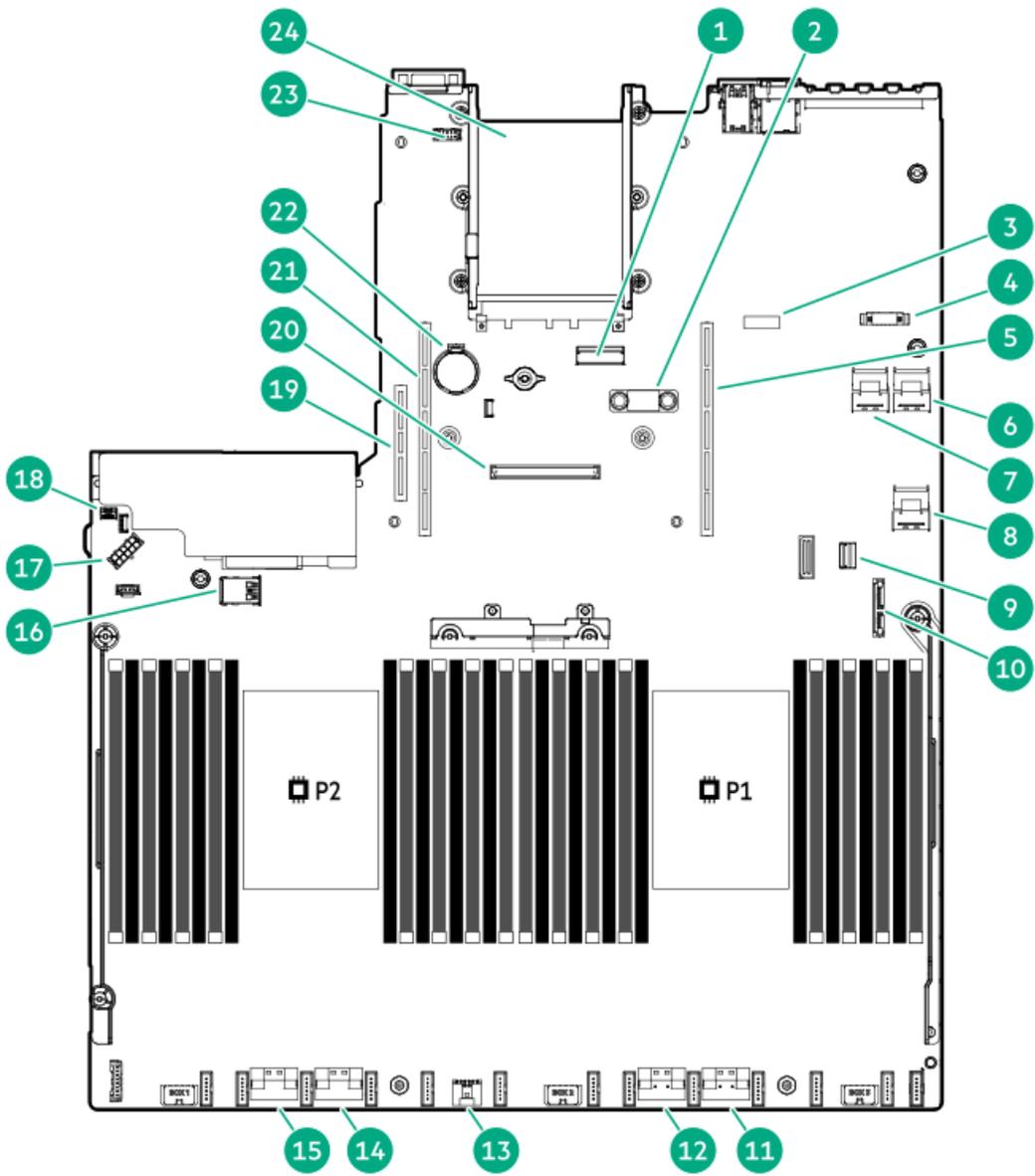
- ¹ セカンダリまたはターシャリライザーケージが示されたとおりに取り付けられていると、シリアルポートをライザーのロット8に取り付けることができます。

リアパネルのLED



項目	説明	ステータス
1	リンクLED	<ul style="list-style-type: none"> 消灯 = ネットワークにリンクされていません。 緑色 = ネットワークにリンクされています。
2	ステータスLED	<ul style="list-style-type: none"> 消灯 = ネットワークが動作していません 緑色で点灯 = ネットワークにリンクされています 緑色で点滅 = ネットワークが動作しています。
3	UID LED	<ul style="list-style-type: none"> 消灯 = 動作していません 青色で点灯 = 動作しています 青色で点滅 = システムはリモートで管理されています
4-5	電源装置LED	<ul style="list-style-type: none"> 消灯=システムが停止中、または電源装置が故障している 緑色で点灯 = 正常

システムボードのコンポーネント



項目	説明
1	x8スリムラインコネクタ
2	TPMコネクタ
3	システムメンテナンススイッチ
4	フロントディスプレイポート/USB 2.0コネクタ
5	プライマリ (プロセッサ-1) PCIeライザーコネクタ
6	x4 SATAポート2
7	x4 SATAポート1
8	x4 SATAポート3
9	フロント電源/USB 3.0コネクタ
10	SATAオプティカルポート4
11	x8 NVMeポート2A
12	x8 NVMeポート1A
13	Energy Packコネクタ
14	x8 NVMeポート2B
15	x8 NVMeポート1B
16	デュアル内部USB 3.0コネクタ
17	ドライブバックプレーン電源コネクタ
18	シャーシ侵入検知コネクタ
19	ターシャリ (プロセッサ-2) PCIeライザーコネクタ
20	タイプaストレージコントローラースロット
21	セカンダリ (プロセッサ-2) PCIeライザーコネクタ
22	システムバッテリー
23	シリアルポートコネクタ
24	OCP 3.0アダプターベイ

サブトピック

[ヒートシンクおよびソケットのコンポーネント](#)

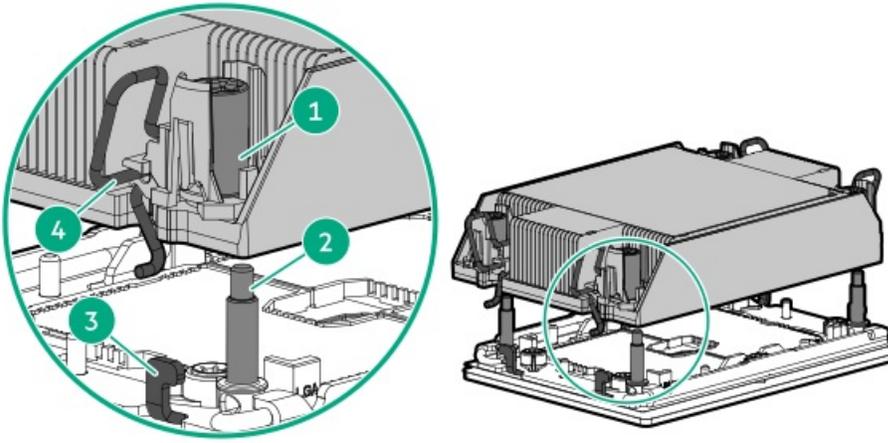
[DIMMラベルの識別](#)

[HPE向けインテルOptane Persistent Memory 200シリーズのラベルの識別](#)

[DIMMスロット位置](#)

[システムメンテナンススイッチの説明](#)

ヒートシンクおよびソケットのコンポーネント

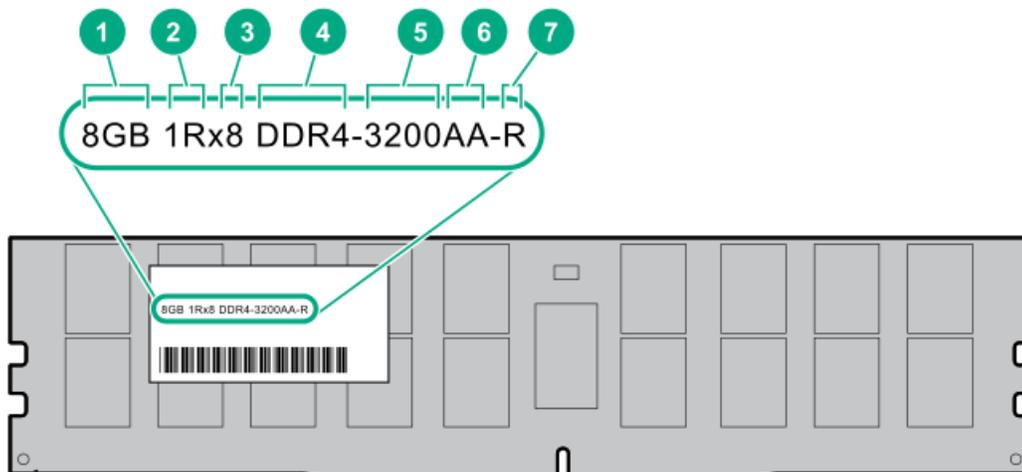


番号 説明

1	ヒートシンクナット
2	調整ネジ
3	ラッチタブ
4	ヒートシンクラッチ

DIMMラベルの識別

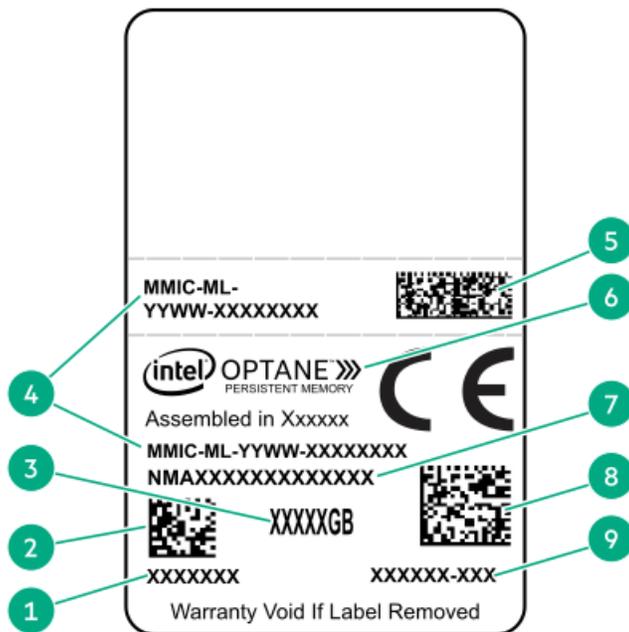
DIMMの特長を確認するには、DIMMに貼り付けられているラベルを参照してください。このセクションの情報は、ラベルを使用してDIMMの仕様情報を見つけるのに役立ちます。



番号	説明	例
1	容量	8 GB 16 GB 32 GB 64 GB 128 GB 256 GB
2	ランク	1R = シングルランク 2R = デュアルランク 4R = クアッドランク 8R = オクタルランク
3	DRAM上のデータ幅	x4 = 4ビット x8 = 8ビット
4	メモリ世代	PC4 = DDR4
5	メモリの最大速度	3200 MT/s
6	CASレイテンシ	AA = CAS 22-22-22 AA = CAS 26-22-22 (3DS LRDIMM用)
7	DIMMタイプ	R = RDIMM (レジスタ付き) L = LRDIMM (低負荷)

製品の特長、仕様、オプション、構成、および互換性について詳しくは、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト (<https://www.hpe.com/support/DDR4SmartMemoryQS>) にあるHPE DDR4 SmartMemoryのQuickSpecsを参照してください。

HPE向けインテルOptane Persistent Memory 200シリーズのラベルの識別

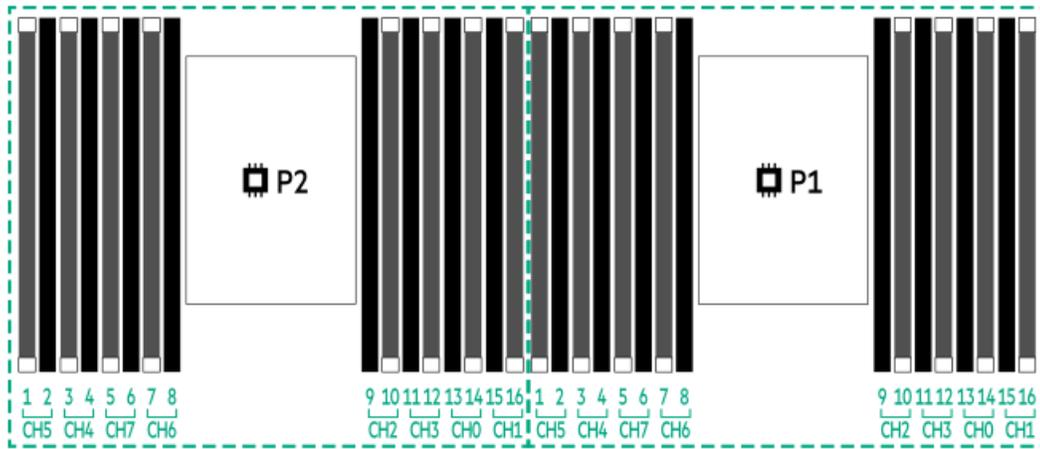


項目	説明	例
1	作業指示番号	XXXXXXX
2	作業指示番号のバーコード	XXXXXXX
3	容量	128 GB 256 GB 512 GB
4	固有のID番号	8089-A2-1802-1234567A
5	シリアル番号および部品番号のバーコード	S8089A218040000168APNMAXXXXXXXXXXXXX
6	製品名	インテル®Optane™ Persistent Memory
7	部品番号	1234567A
8	シリアル番号のバーコード	8089-A2-1802-1234567A
9	PBA番号	XXXXXX-XXX

製品の特長、仕様、オプション、構成、および互換性について詳しくは、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト (<https://www.hpe.com/support/persistentmemoryQS>) にある製品のQuickSpecsを参照してください。

DIMMスロット位置

DIMMスロットは、各プロセッサごとに順番に番号（1～16）が付けられています。



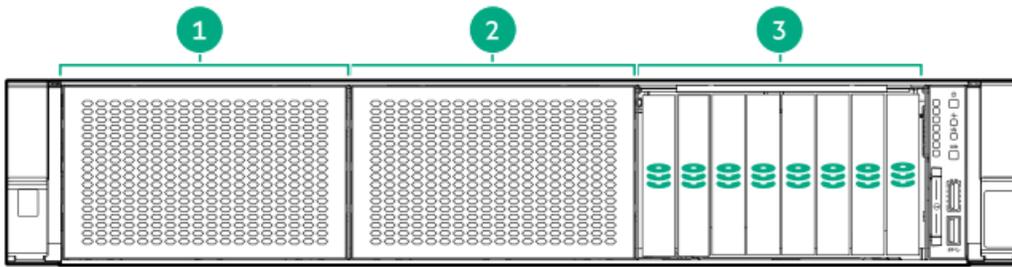
システムメンテナンススイッチの説明

位置	デフォルト	機能
S1 ¹	オフ	オフ = iLOセキュリティは有効です。 オン = iLOセキュリティは無効です。
S2	オフ	予約済み
S3	オフ	予約済み
S4	オフ	予約済み
S5 ¹	オフ	オフ = 電源投入時パスワードは有効です。 オン = 電源投入時パスワードは無効です。
S6 ¹ 、 ² 、 ³	オフ	オフ = 動作していません。 オン = 製造時のデフォルト設定を復元します。
S7	オフ	予約済み
S8	-	予約済み
S9	-	予約済み
S10	-	予約済み
S11	-	予約済み
S12	-	予約済み

- ¹ 冗長ROMにアクセスするには、S1、S5、およびS6をオンに設定します。
システムメンテナンススイッチのS6をオンの位置に設定すると、すべての構成設定を製造時のデフォルト設定に復元できるようになります。
- ² システムメンテナンススイッチのS6をオンの位置に設定してセキュアブートを有効にすると、一部の構成は復元できません。詳しくは、「[セキュアブート](#)」を参照してください。
- ³

ドライブボックスの説明

フロントボックス



項目 説明

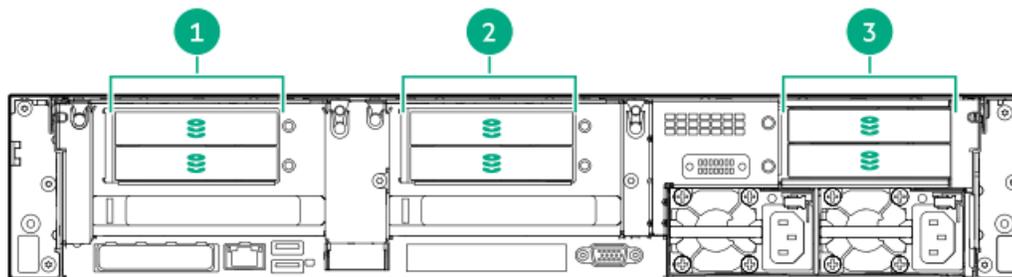
1	ボックス1
2	ボックス2
3	ボックス3



項目 説明

1	ボックス1
2	ボックス2
3	ボックス3

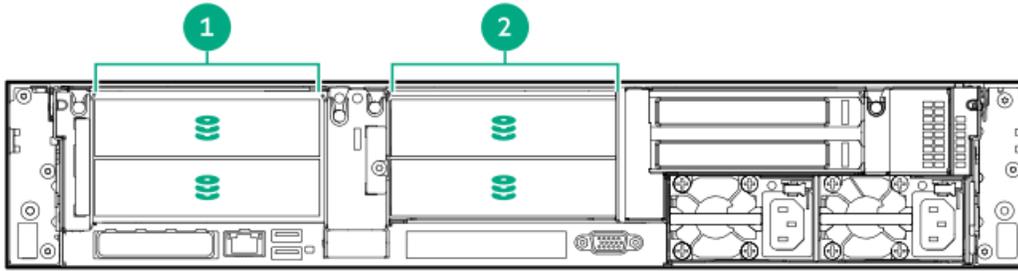
リアボックス



項目 説明

1	ボックス4
2	ボックス5
3	ボックス6

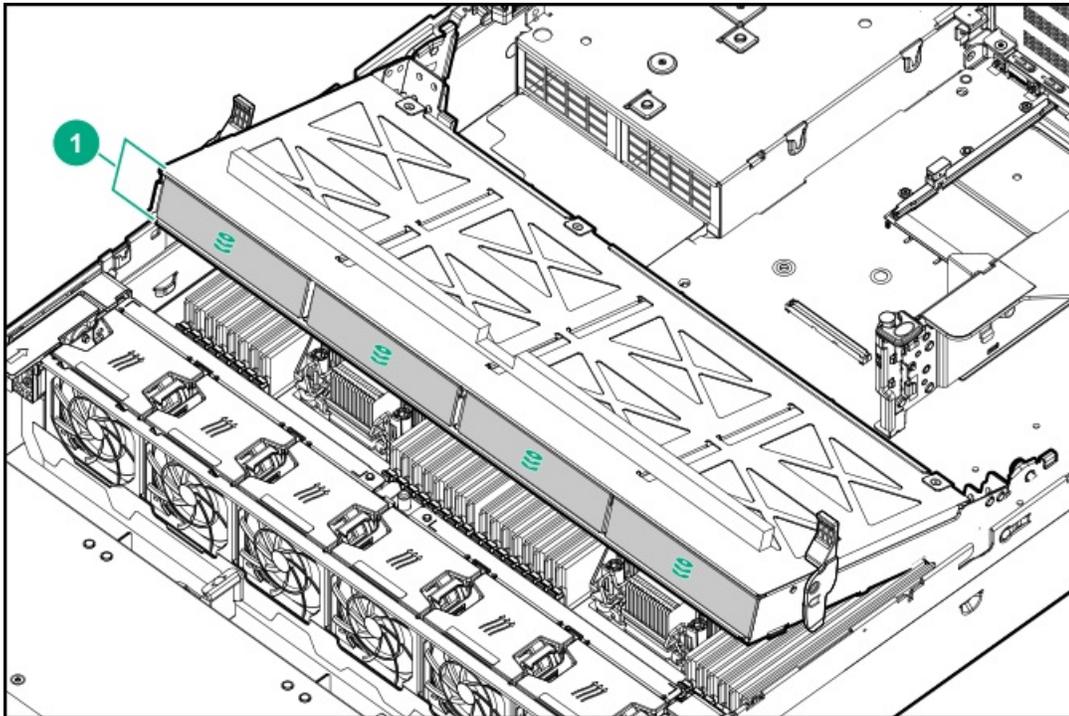




項目 説明

- | | |
|---|-------|
| 1 | ボックス4 |
| 2 | ボックス5 |

ミッドプレーンボックス (LFF (3.5型))

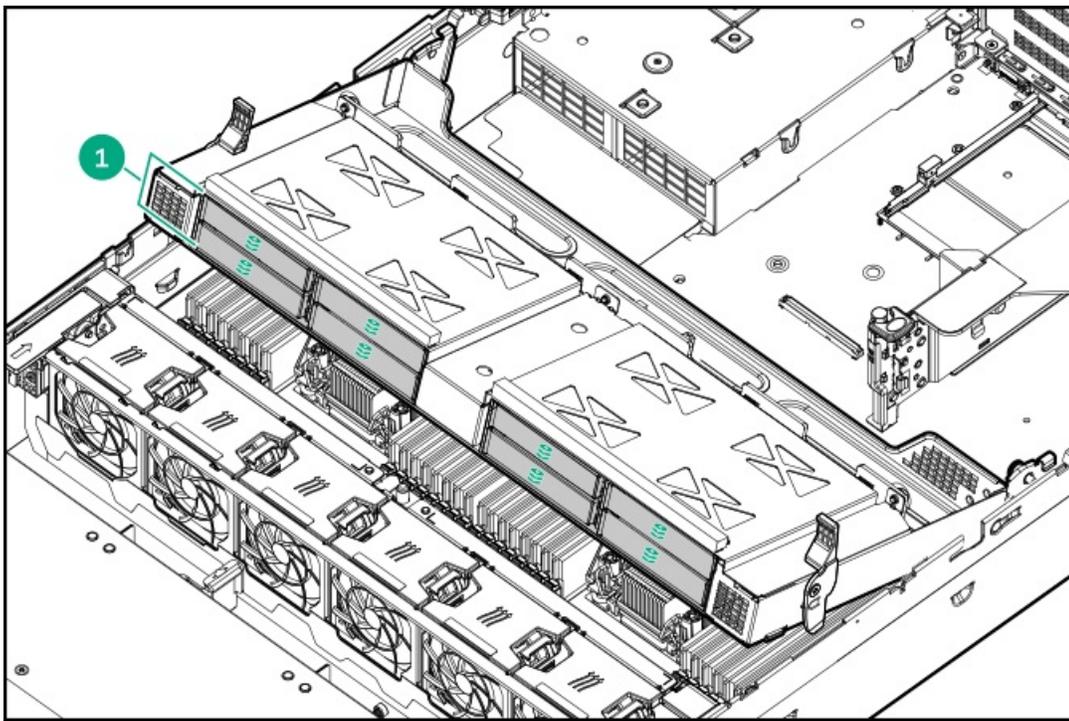


項目 説明

- | | |
|---|-------|
| 1 | ボックス7 |
|---|-------|

ミッドプレーンボックス (SFF (2.5型))





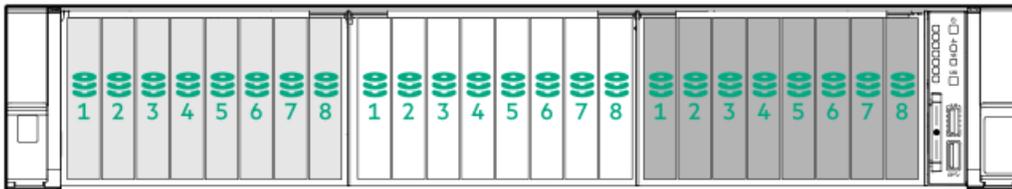
項目 説明

- 1 ボックス7

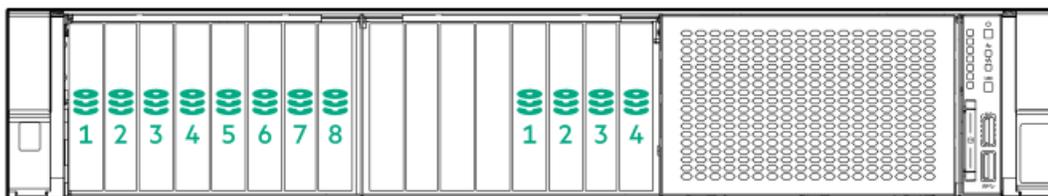
ドライブの番号

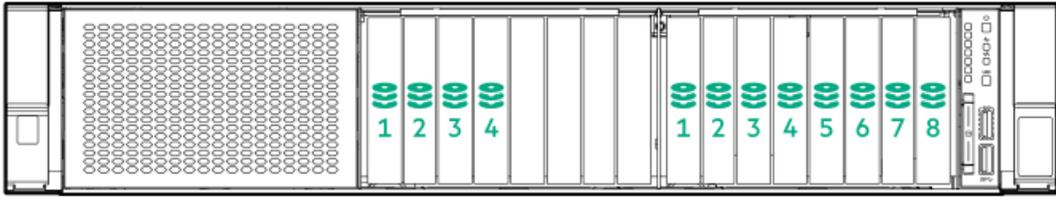
ドライブバックプレーンが直接ストレージコントローラーに接続されると、各ドライブボックスは1から始まります。次の図では、一般的な構成の例を示します。

24 SFF (2.5型)



SFF 12台

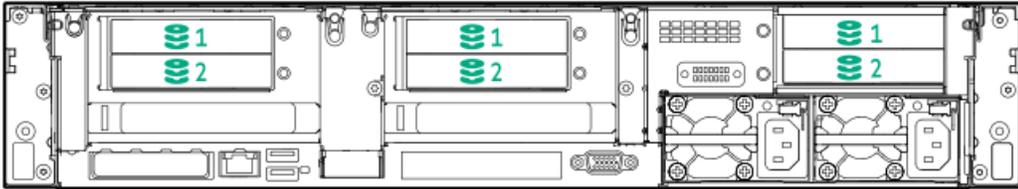




12 LFF (3.5型)



6 SFF (2.5型) リアパネル

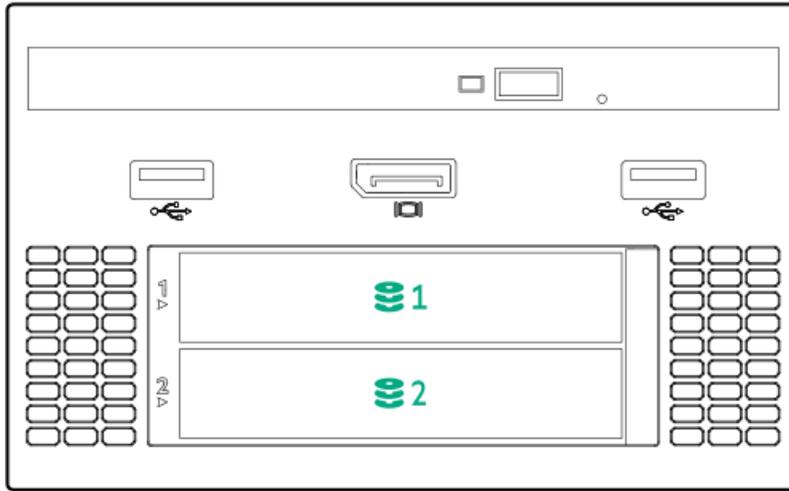


2x 2 LFF (3.5型) リアパネル

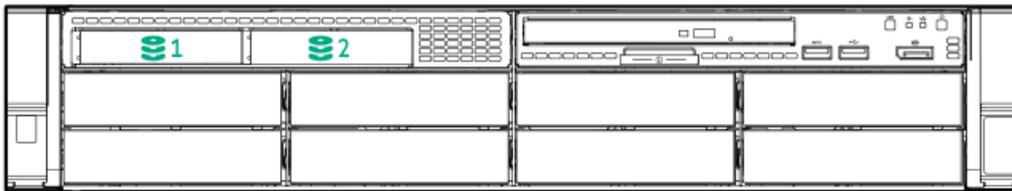


ユニバーサルメディアベイ

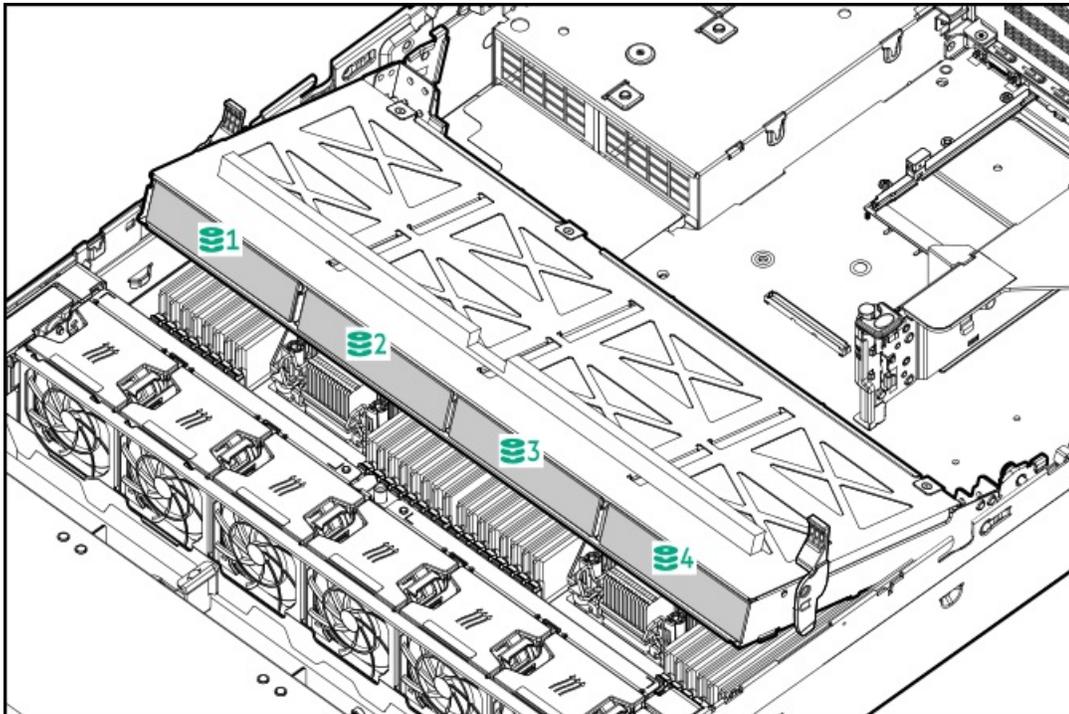




8 LFF (3.5型) +ユニバーサルメディアベイ、オプションの2SFF (2.5型)、およびオプティカルドライブ

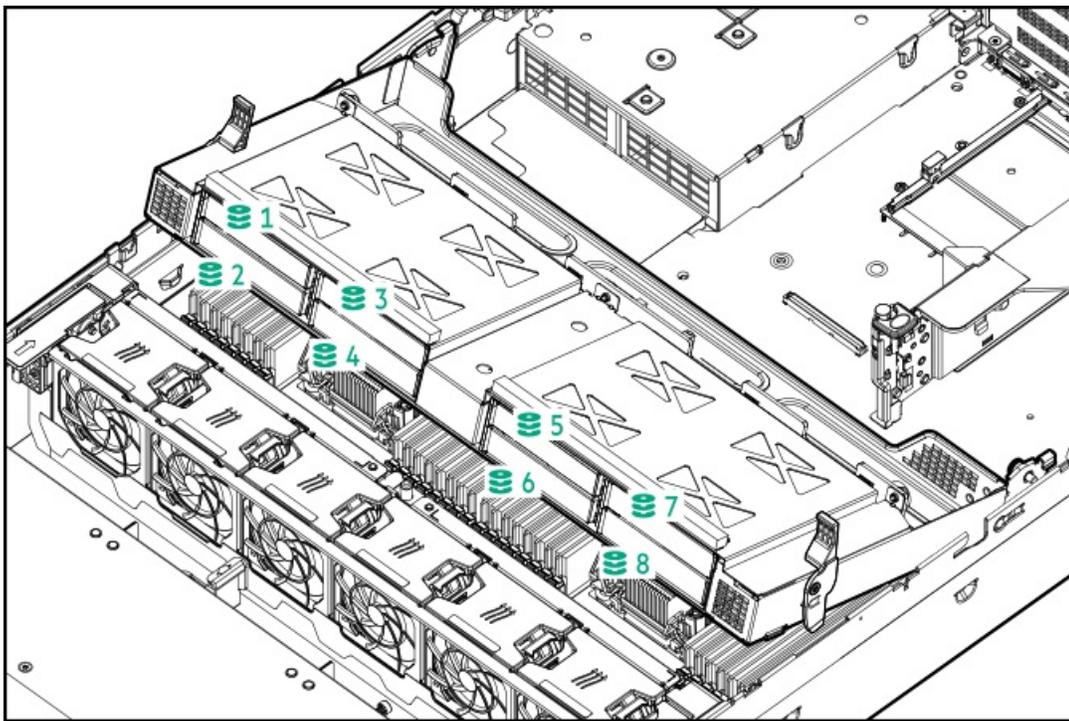


ミッドプレーンボックスLFF (3.5型)



ミッドプレーンボックスSFF (2.5型)

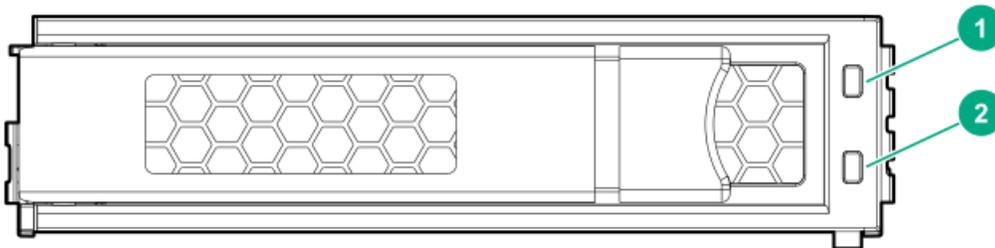




HPEのベーシックドライブのLEDの定義

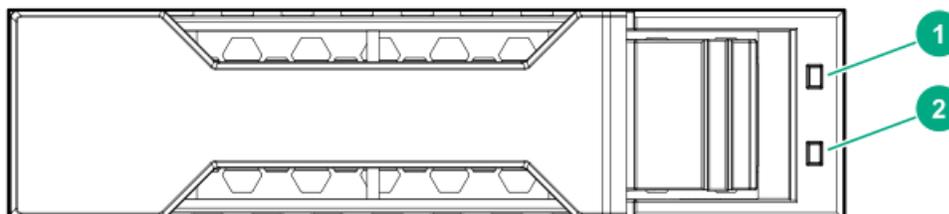
LFF (3.5型) ロープロファイルドライブキャリア

LFF (3.5型) ロープロファイルドライブキャリアでは、ホットプラグSASおよびSATAドライブをサポートしています。



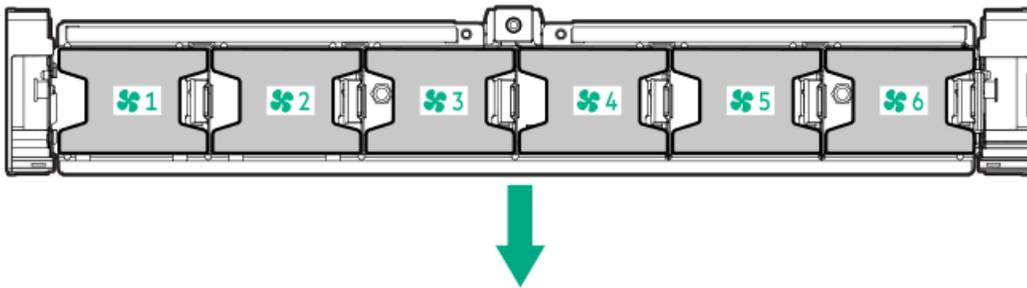
SFF (2.5型) ベーシックドライブキャリア

SFF (2.5型) ベーシックドライブキャリアでは、ホットプラグSAS、SATA、およびNVMeドライブをサポートしています。



番号	LED	ステータス	定義
1	障害/位置確認	オレンジ色で点灯	このドライブが故障したか、サポートされていないか、無効です。
		青色で点灯	ドライブは正常に動作しており、管理アプリケーションによって識別されています。
		オレンジ色/青色で点滅 (毎秒1回点滅)	ドライブに障害が発生したか、このドライブの障害予測アラートが受信されました。また、このドライブが管理アプリケーションによって識別されました。
		オレンジ色で点滅 (毎秒1回点滅)	このドライブの障害予測アラートを受信しています。できるだけ早くドライブを交換してください。
2	オンライン/動作	緑色で点灯	ドライブはオンラインで、アクティブです。
		緑色で点滅 (毎秒1回点滅)	ドライブの動作として以下のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> RAIDの再構築または実行 ストリップサイズの移行の実行 容量拡張の実行 論理ドライブの拡張の実行 消去 スペア部品のアクティブ化操作
		緑色で点滅 (毎秒4回点滅)	ドライブは正常に動作しており、アクティブです。
		消灯	ドライブで、RAIDコントローラーによる構成が行われていないか、またはスペアドライブです。

ファンベイ番号



矢印は、サーバーの正面側を指しています。

DSC-25 2ポートSFP28カードのポートとLED

ポート

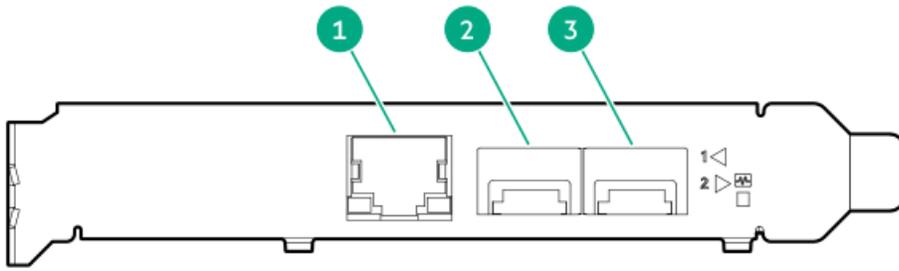


表 1. ポート

番号	ポート	説明
1	マネジメントポート	1GbE RJ45
2	ネットワークインターフェイス	10/25G SFP+ベース スポート
3	ネットワークインターフェイス	10/25G SFP+ベース スポート

LED

HPE for Pensando DSP DSC-25 2p SFP28カードは、デュアルポート、シングルスロット、ハーフハイト、ハーフレンジス（HHHL）のSFP28ネットワークアダプターです。各ポートのリンク（L）と動作（A）を示すLEDがあります。SFP28ポートとLEDを備えたハーフハイトブラケットを次の図に示します。

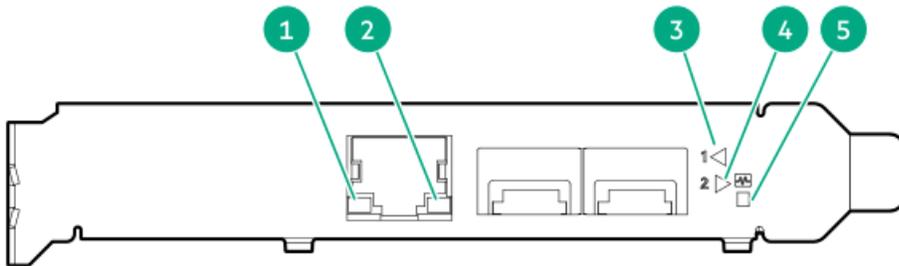
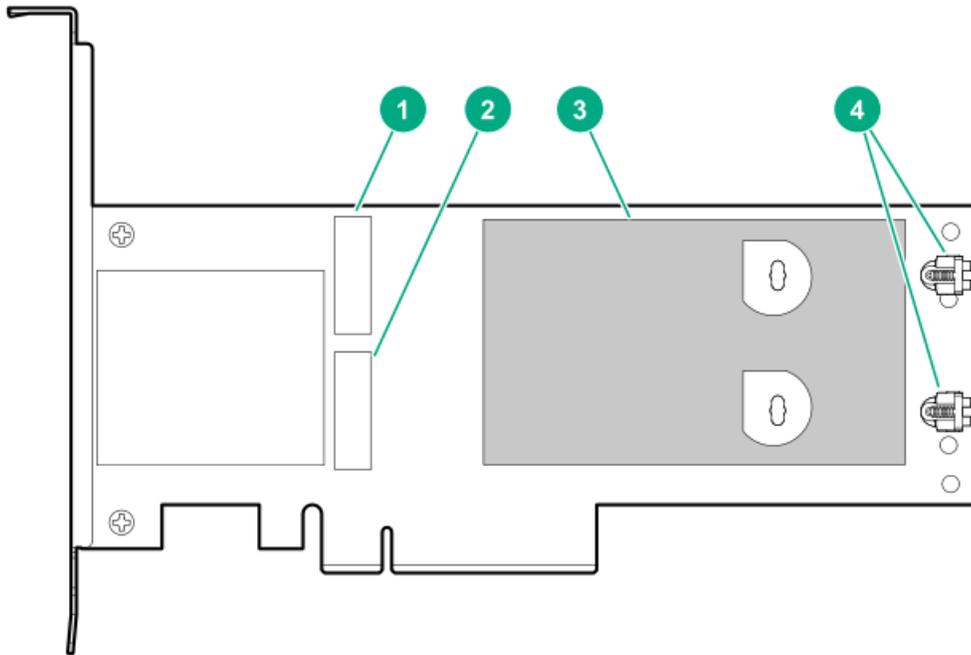


表 2. LEDインジケータ

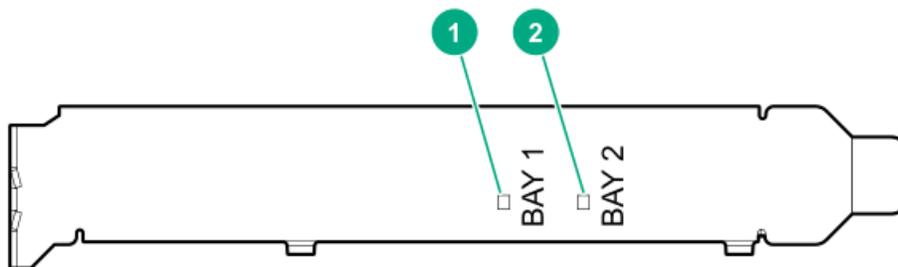
番号	LED	ステータス	説明
1	マネジメントポート動作LED	消灯	動作なし
		点滅	トラフィック通過中。点滅頻度はトラフィックの集中度を示します。
2	マネジメントポートリンクLED	消灯	リンクが確立されていません
		緑色で点灯	イーサネットリンク有効
3	SFPポート1リンク/動作LED	消灯	リンクが確立されていません
		緑色で点灯	イーサネットリンク有効
		緑色で点滅	トラフィック通過中。点滅頻度はトラフィックの集中度を示します。
		オレンジ色で点灯	リンク障害
4	SFPポート2リンク/動作LED	消灯	リンクが確立されていません
		緑色で点灯	イーサネットリンク有効
		緑色で点滅	トラフィック通過中。点滅頻度はトラフィックの集中度を示します。
		オレンジ色で点灯	リンク障害
5	システムステータスLED	消灯	システムに電源が入っていません
		オレンジ色で点灯	電源は入っていますが、ソフトウェアがまだ起動していません
		緑色で点灯	システムは稼働して、完全に機能しています

HPE NS204i-p NVMe OSブートデバイスのコンポーネント



アイテム	説明
1	ドライブベイ1
2	ドライブベイ2
3	取り外し可能なライナー付きサーマルインターフェイスパッド
4	M.2ドライブ固定ラッチ

HPE NS204i-p NVMe OSブートデバイスのLEDの定義



アイテム	説明	障害LEDステータス
1	ベイ1 LED	消灯: 通常
2	ベイ2 LED	点滅1Hz: ドライブ障害予測 オレンジ色: ドライブ障害

サブトピック

[サーバーの電源を入れる](#)

[サーバーの電源を切る](#)

[サーバーをラックから引き出す](#)

[ケーブルマネジメントアームにケーブルを固定する](#)

[サーバーをラックから取り外す](#)

[アクセスパネルを取り外す](#)

[アクセスパネルを取り付ける](#)

[ファンケースを取り外す](#)

[ファンケースを取り付ける](#)

[エアバッフルまたはミッドプレーンドライブケースを取り外す](#)

[エアバッフルを取り付ける](#)

[ライザーケースの取り外し](#)

[ライザースロットブランクを取り外す](#)

[ハードディスクドライブブランクを取り外す](#)

[ケーブルマネジメントアームを解放する](#)

[Systems Insight Displayにアクセスする](#)

サーバーの電源を入れる

このタスクについて

サーバーの電源を入れるには、以下のいずれかの方法を使用します。

- 電源ボタンを押します。
- iLO経由の仮想電源ボタンを使用します。

サーバーの電源を切る

アップグレードやメンテナンスの手順でサーバーの電源を切る前に、重要なサーバーデータとプログラムのバックアップを実行してください。

i 重要:

サーバーがスタンバイモードになっていても、システムへの補助電源の供給は続行します。

以下のいずれかの方法で、サーバーの電源を切ります。

- 電源ボタンを押して離す。
この方法は、サーバーがスタンバイモードに入る前に、アプリケーションとOSを正しい順序でシャットダウンします。
- 電源ボタンを4秒以上押したままにして、強制的にサーバーをスタンバイモードにする。
この方法は、正しい順序でアプリケーションとOSを終了せずに、サーバーを強制的にスタンバイモードにします。アプ

リケーションが応答しなくなった場合は、この方法で強制的にシャットダウンすることができます。

- iLO経由の仮想電源ボタンを使用する。
この方法は、サーバーがスタンバイモードに入る前に、アプリケーションとOSを正しい順序でリモートでシャットダウンします。

手順を続行する前に、サーバーがスタンバイモード（システム電源LEDがオレンジ色）になっていることを確認してください。

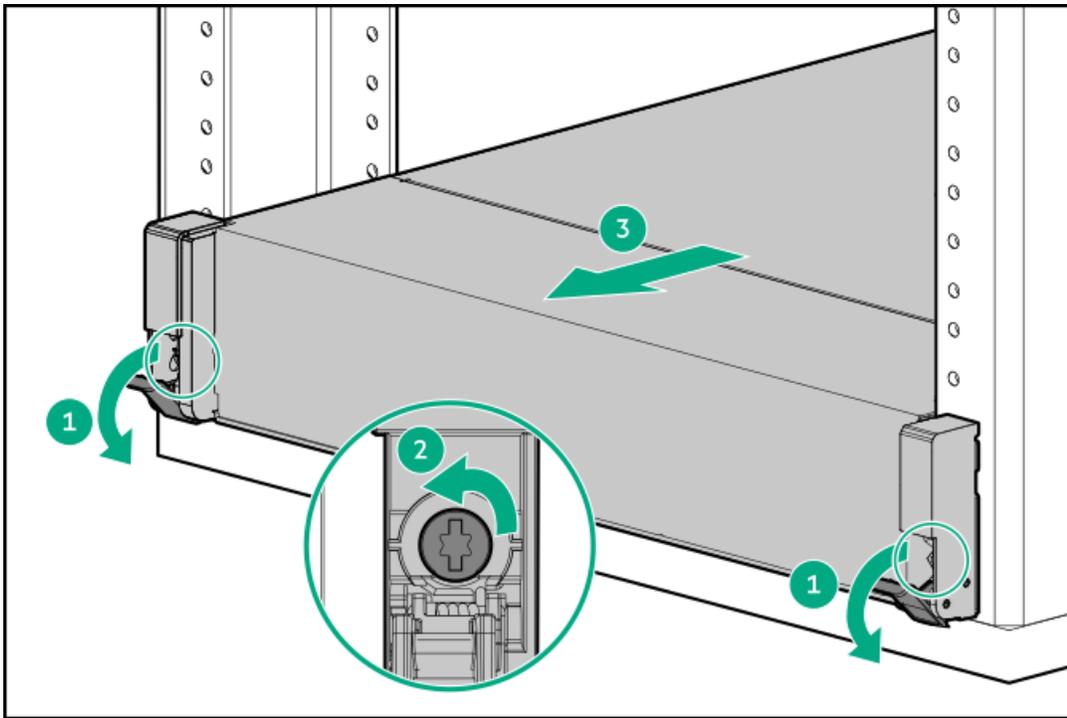
サーバーをラックから引き出す

このタスクについて

警告： けがや装置の損傷の危険を防止するため、何らかのコンポーネントをラックから引き出す前に、ラックが十分に安定していることを確認してください。

手順

1. サーバーの正面左右にあるクイックリリースレバーを引き下ろします。
2. 必要に応じて、T-25トルクスドライバーを使用して輸送用ネジを緩めます。
3. サーバーをラックから引き出します。



ケーブルマネジメントアームにケーブルを固定する

このタスクについて

ラックレールを取り付ける方法については、ラックレールに付属のドキュメントを参照してください。

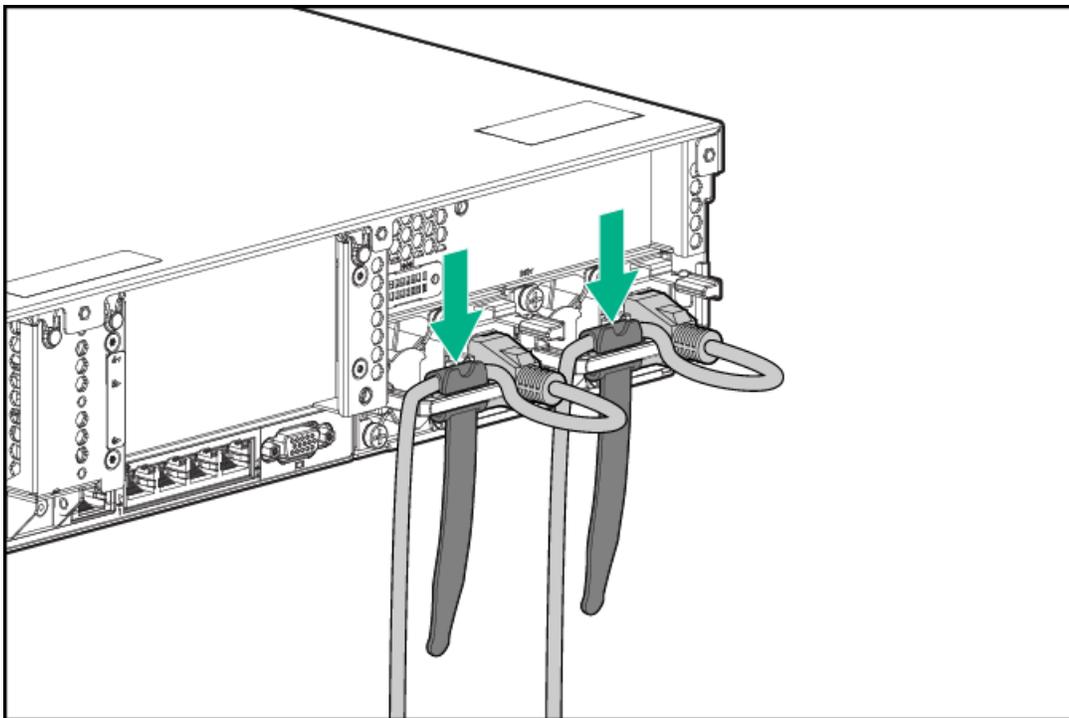


警告: 感電や装置の損傷を防ぐために:

- ポートに誤ったコネクタを挿入しないでください。
- 電源コードのアース付きプラグを無効にしないでください。アース付きプラグは安全上必要です。
- 電源コードは、いつでも簡単に手の届くところにあるアース付き電源コンセントに接続してください。
- 電源装置の電源を切る場合は、電源コードを電源装置から抜き取ってください。
- 電源コードは、踏みつけられたり、上や横に物が置かれて圧迫されることがないように配線してください。プラグ、電源コンセント、電源コードとサーバーの接続部には、特に注意してください。

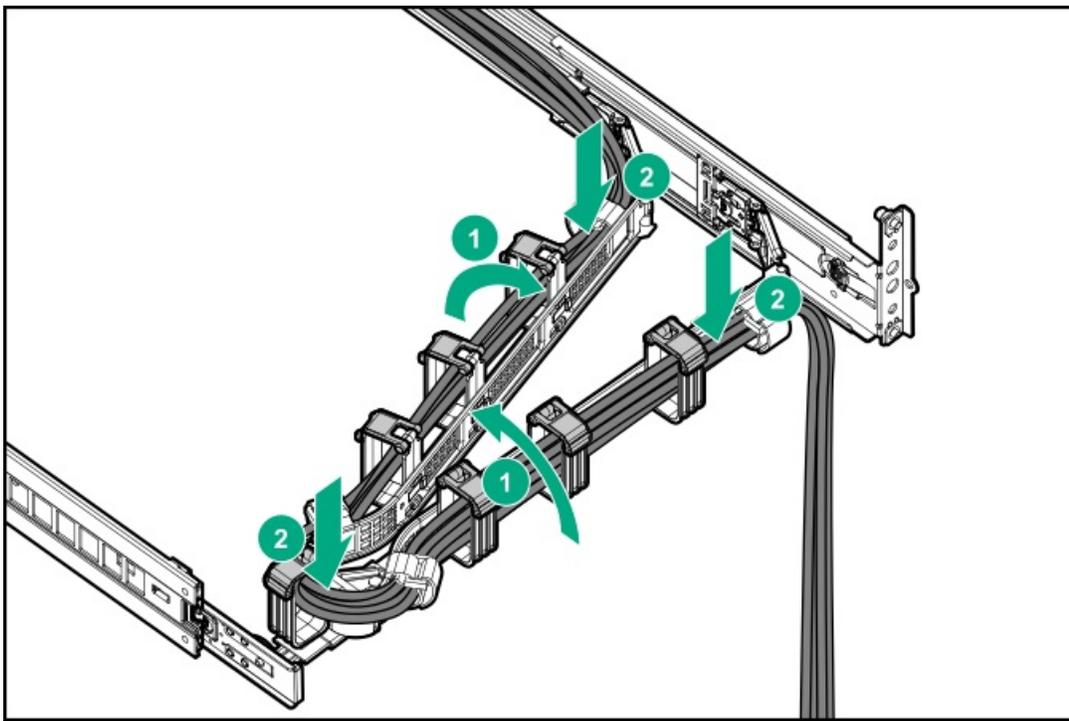
手順

1. サーバーをラックに取り付けた後、周辺機器をサーバーに接続します。
コンポーネントを特定するには、「[リアパネルのコンポーネント](#)」を参照してください。
2. サーバーの背面で、電源装置に電源コードを接続します。
3. 電源コード固定具を取り付けます。



4. ケーブルマネジメントアームにケーブルを固定します。

ⓘ 重要: ラックからサーバーを引き出す際にケーブルが損傷しないように各ケーブルに十分なたるみをもたせてください。



5. 電源コードをAC電源に接続します。

サーバーをラックから取り外す

このタスクについて

Hewlett Packard Enterprise製、Compaqブランド、Telco、または他社製ラックからサーバーを取り外すには、以下の手順に従ってください。

手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. サーバーをラックから引き出します。
3. ケーブルを抜き取り、サーバーをラックから取り外します。

詳しくは、ラックマウント用オプションに付属のドキュメントを参照してください。

4. サーバーを安定した水平な面に置きます。

アクセスパネルを取り外す

このタスクについて

警告: 高温面でやけどをしないように、ドライブ、電源、内部のコンポーネントの温度が十分に下がってから手を触れてください。

注意:

アクセスパネルを開いた状態または取り外した状態で、シャーシを長期にわたって動作させないでください。このようなマナーでシャーシを動作させると、不適切な通気および不適切な冷却により、温度損傷につながる可能性があります。

手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. 取り付けられている場合は、ケーブルマネジメントアームを解放します。
3. すべての電源の取り外し：
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
4. サーバーをラックから引き出します。
5. ロック用ラッチを開くかロックを解除し、アクセスパネルをシャーシの背面側にスライドさせて、アクセスパネルを取り外します。

アクセスパネルを取り付ける

手順

1. ラッチを開いたまま、アクセスパネルをサーバーの上に置きます。
アクセスパネルの位置をずらして、サーバーの背面側から約1.25 cm (0.5インチ) 出るようにしてください。
2. ラッチを押し下げます。
アクセスパネルが完全に閉じるまでスライドさせます。
3. 必要に応じて、ラッチのセキュリティネジを締めます。

ファンケースを取り外す

このタスクについて

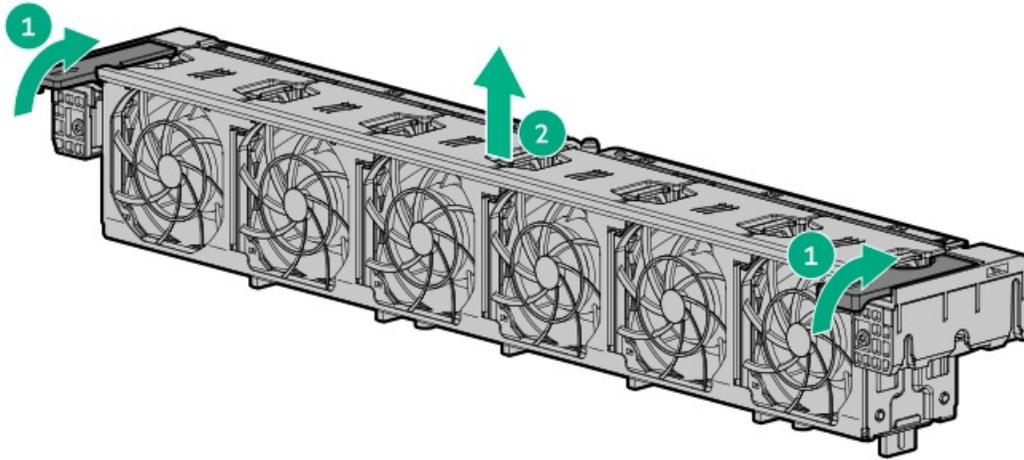
注意:

アクセスパネルを開けたまま、または取り外したまま長時間サーバーを動作させないでください。このような状態でサーバーを動作させると、通気が正しく行われなかったために冷却機構が正常に機能しなくなり、高温によって装置が損傷する場合があります。

重要: 最適な冷却を行うには、すべてのプライマリファンの位置にファンを取り付けてください。

手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源の取り外し：
 - 各電源コードを電源から抜き取ります。
 - 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - ラックからサーバーを取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. ファンケースを取り外します。



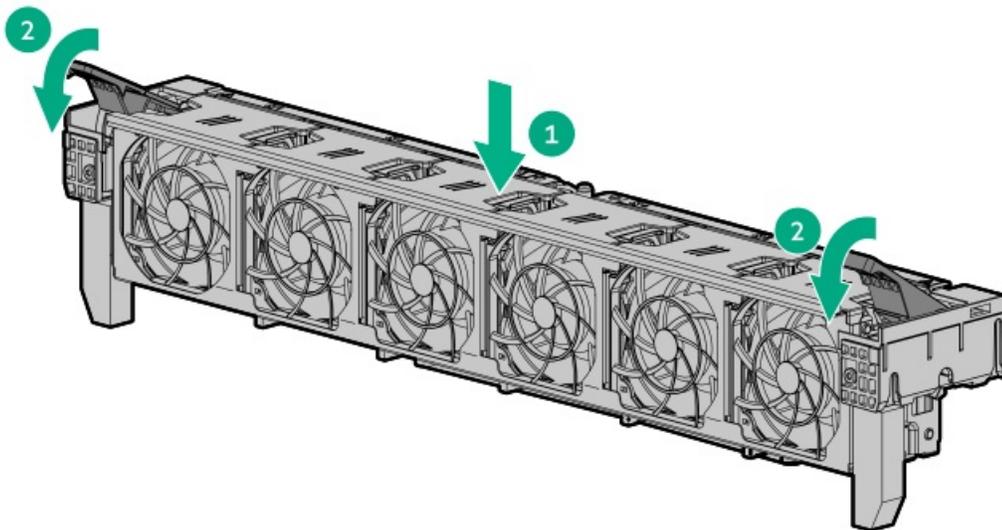
ファンケージを取り付ける

このタスクについて

△ 注意:

アクセスパネルを開けたまま、または取り外したまま長時間サーバーを動作させないでください。このような状態でサーバーを動作させると、通気が正しく行われなかったために冷却機構が正常に機能しなくなり、高温によって装置が損傷する場合があります。

ⓘ 重要: 最適な冷却を行うには、すべてのプライマリファンの位置にファンを取り付けてください。



エアバッフルまたはミッドプレーンドライブケージを取り外す

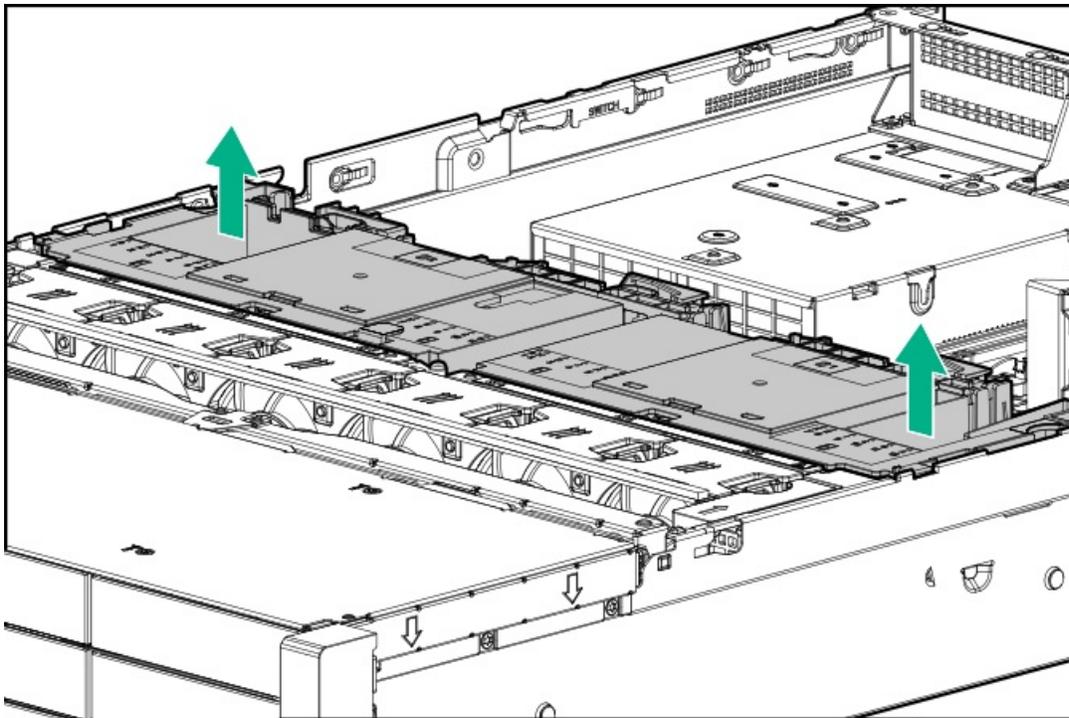
このタスクについて

△ 注意: バッテリーパックをキャッシュモジュールに接続しているケーブルは外さないでください。ケーブルを取り外すと、キャッシュモジュール内の保存されていないデータが消失します。

△ 注意: 適切な冷却を確保するために、サーバーを動作させるときは、アクセスパネル、バッフル、拡張スロットカバー、またはブランクを必ず取り付けてください。サーバーがホットプラグ対応コンポーネントをサポートしている場合は、アクセスパネルを開ける時間を最小限に抑えてください。

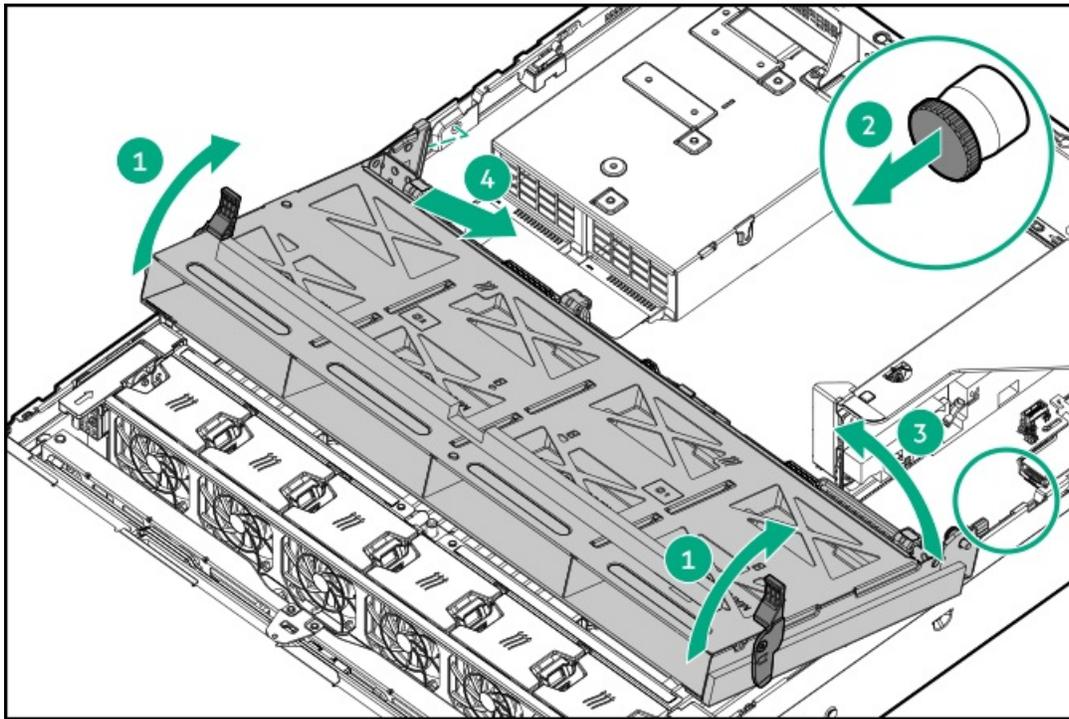
手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源の取り外し:
 - a. 各電源コードを電源から抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - ラックからサーバーを取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. 次のいずれかを実行します。
 - エアバッフルを取り外します。



- ミッドプレーンドライブケースを取り外します。
 - a. すべてのケーブルを取り外します。
 - b. ドライブをすべて取り外します。
必ず、各ドライブの位置をメモしてください。
 - c. ドライブケースを取り外します。
4LFF (3.5型) バージョンが表示されています。

△ 注意: ドライブケースをシステムボードに落とさないでください。システムボードにドライブケースを落とすと、システムまたはコンポーネントが損傷する可能性があります。すべてのドライブを取り外してから、両手を使用してドライブケースを取り付けたり取り外したりしてください。



エアバッフルを取り付ける

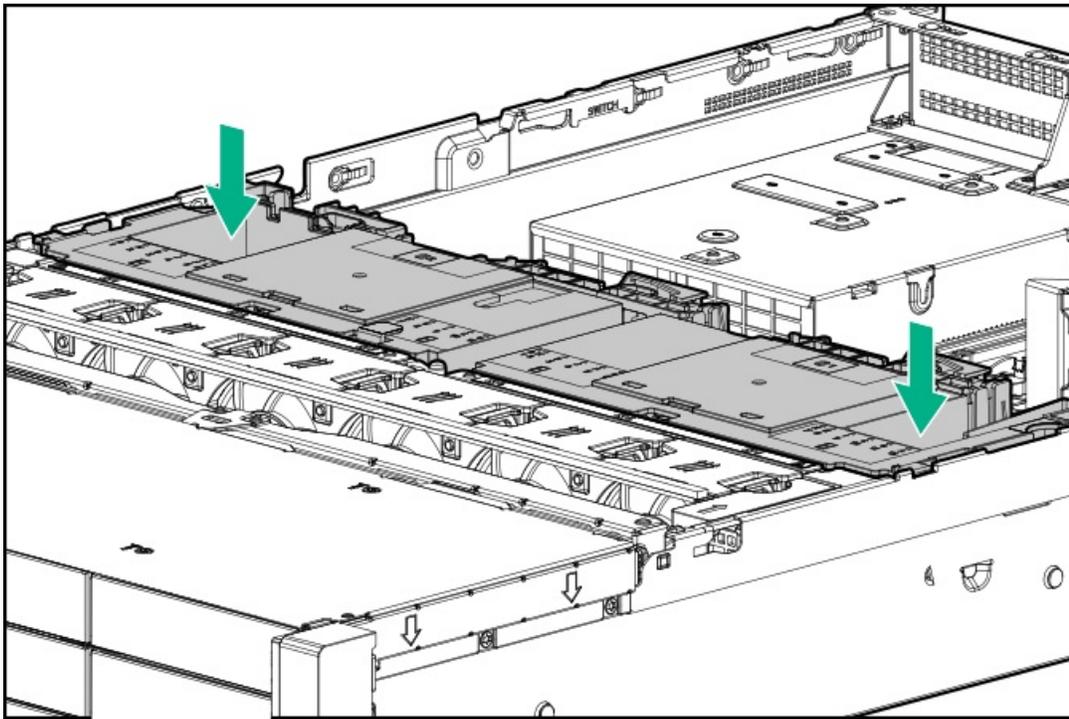
手順

1. 次のアラートに注意してください。

△ 注意: 適切な冷却を確保するために、サーバーを動作させるときは、アクセスパネル、バッフル、拡張スロットカバー、またはブランクを必ず取り付けてください。サーバーがホットプラグ対応コンポーネントをサポートしている場合は、アクセスパネルを開ける時間を最小限に抑えてください。

△ 注意: バッテリーパックをキャッシュモジュールに接続しているケーブルは外さないでください。ケーブルを取り外すと、キャッシュモジュール内の保存されていないデータが消失します。

2. エアバッフルを取り付けます。



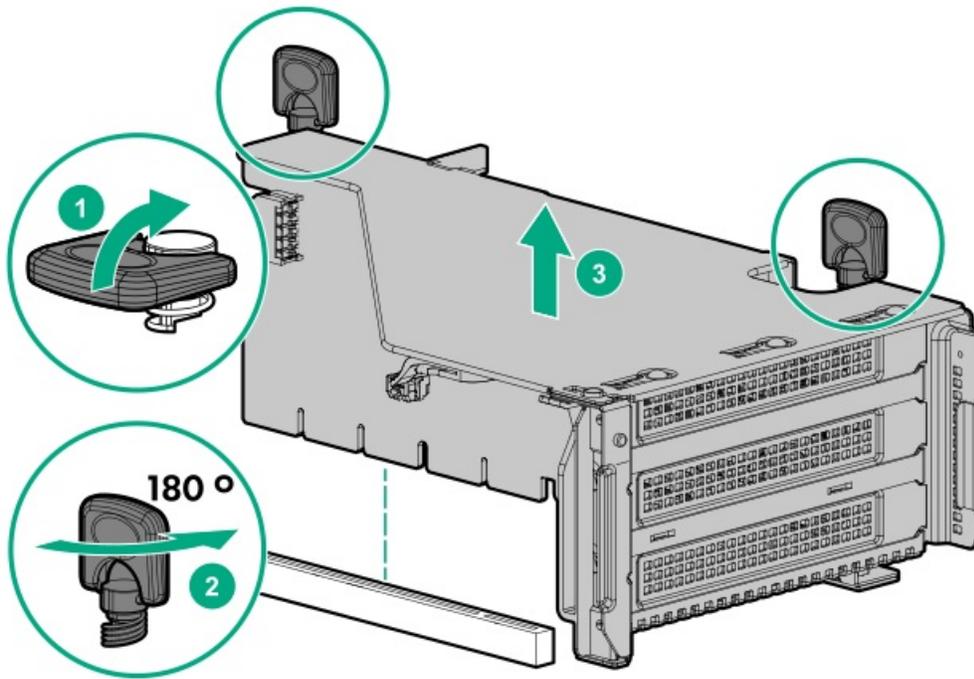
ライザーケージの取り外し

このタスクについて

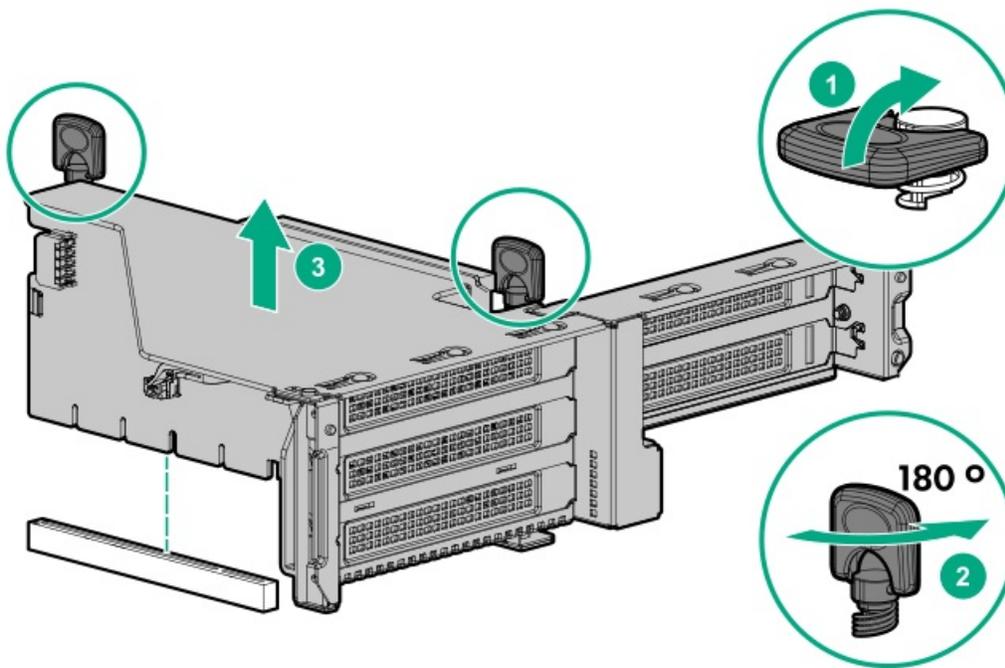
△ 注意: サーバーまたは拡張ボードの損傷を防止するために、サーバーの電源を拡張ボード、電源を切るか、すべての電源コードを抜き取ってからPCIライザーケージの取り外しまたは取り付けを行ってください。

手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源を取り外します。
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - ラックからサーバーを取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. ライザーケージを取り外します。
 - プライマリおよびセカンダリライザーケージ



- ターシャリライザーケーシング



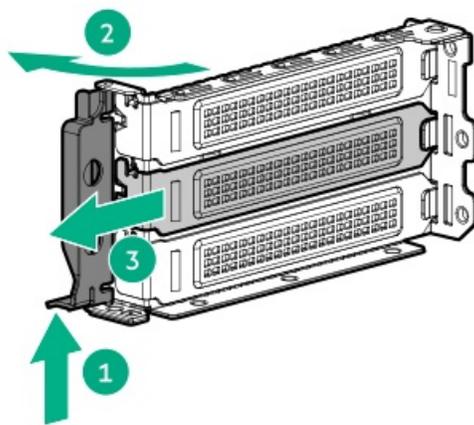
ライザースロットブランクを取り外す

このタスクについて

- △ 注意: 不適切な冷却または高温による装置の損傷を防止するために、サーバーのPCIスロットに拡張スロットブランクまたは拡張ボードのいずれかを必ず取り付けてください。

手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源を取り外します。
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - サーバーをラックから取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. ライザーケージを取り外します。
6. ブランクを取り外します。



ハードディスクドライブブランクを取り外す

このタスクについて

△ 注意: 不適切な冷却および高温による装置の損傷を防止するために、サーバーすべてのベイに必ず、コンポーネントかブランクのどちらかを実装してからを動作させてください。

図 1. SFF (2.5型) ドライブブランクを取り外す

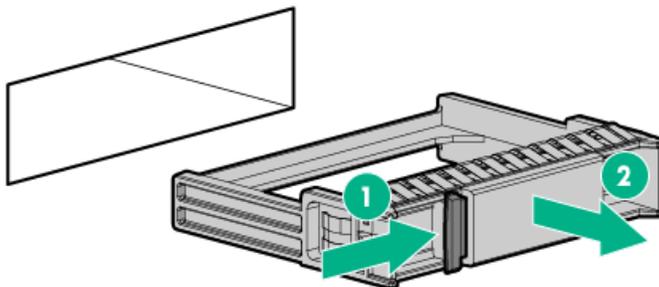
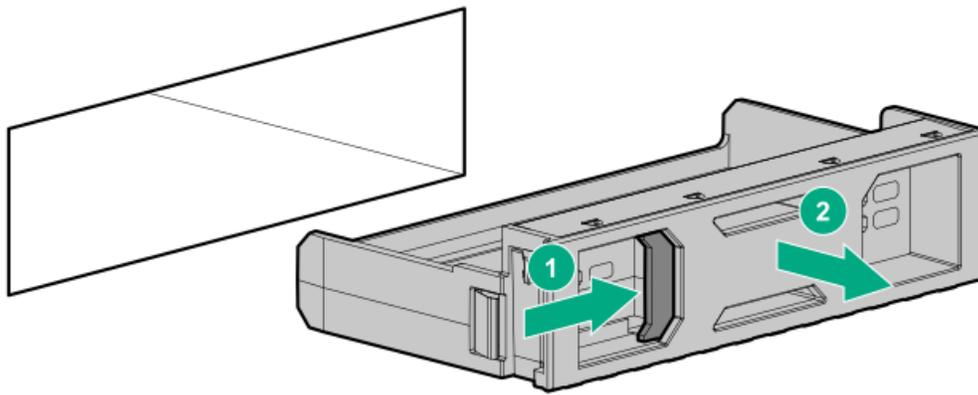


図 2. LFF (3.5型) ドライブブランクを取り外す



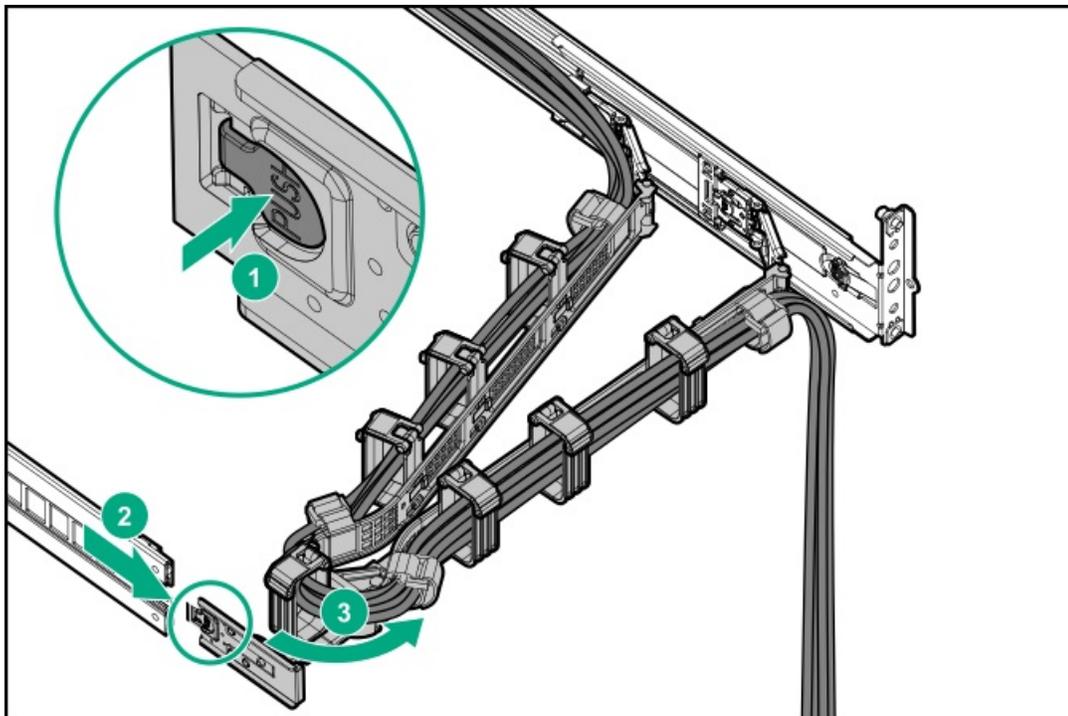
タスクの結果

バッテリーモジュールを交換するには、取り外しと逆の手順を実行します。

ケーブルマネジメントアームを解放する

このタスクについて

ケーブルマネジメントアームを解放し、アームを動かしてラックから取り外します。



Systems Insight Displayにアクセスする

このタスクについて

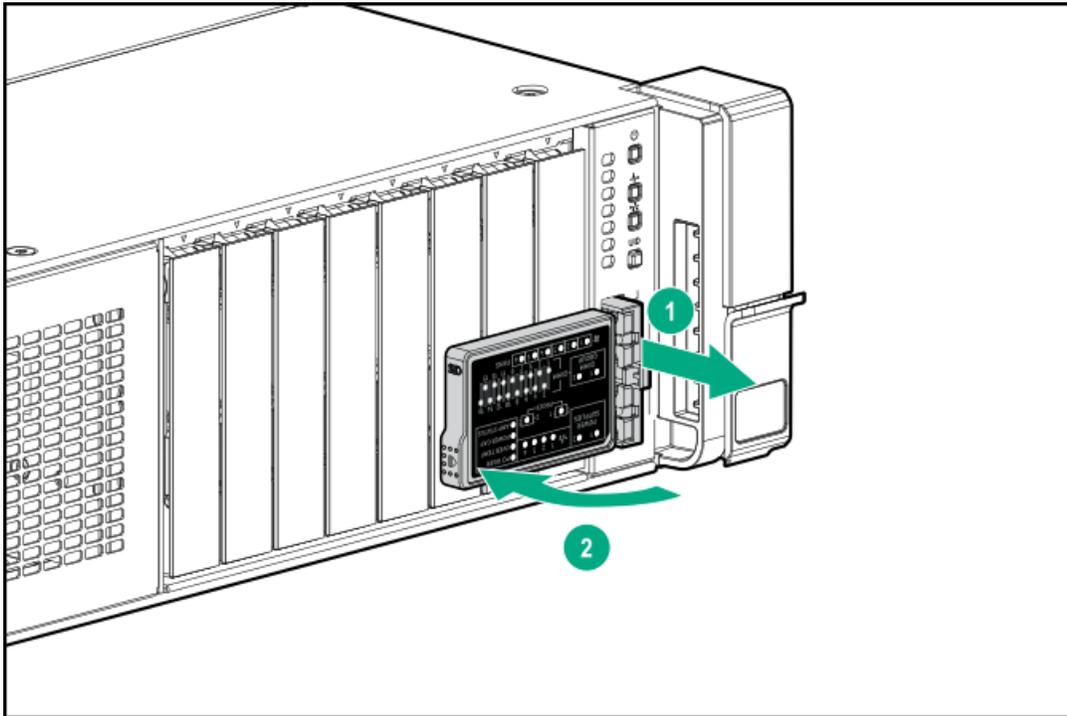
Systems Insight DisplayはSFF (2.5型) モデルでのみサポートされます。

手順

1. パネルを押してロックを解放します。



2. ディスプレイを完全に取り出したら、ディスプレイを回転させ、LEDを表示します。



セットアップ

サブトピック

オプションサービス

サーバーのセットアップ

オプションサービス

経験豊富な認定を受けたエンジニアによって提供されるHPEサポートサービスでは、HPE ProLiantシステム専用で作成されたサポートパッケージを通じて、サーバーの安定稼働に貢献します。HPEサポートサービスをご利用いただくと、ハードウェアサポートとソフトウェアサポートの両方を単一のパッケージに統合できます。お客様のビジネスおよびITニーズに合わせて、いくつかのサービスレベルオプションが用意されています。

HPEサポートサービスの購入しやすく使い勝手のよいサポートパッケージは、標準の製品保証を拡張するアップグレードされたサービスレベルを提供し、サーバーへの投資を最大限に活用するお手伝いをします。ハードウェア、ソフトウェア、またはその両方のHPEサポートサービスの一部は次のとおりです。

- ファウンデーションケア - システムの稼働を維持します。

このサービスの時間の約束は、お客様の地域によって異なることがあります。お客様の地域で利用可能なサービスについて詳しくは、最寄りのHPEサポートセンターにお問い合わせください。

- ハードウェアとソフトウェア両方の展開サービス。
- HPE教育サービス - ITスタッフのトレーニングを支援します。

HPEサポートサービスについて詳しくは、HPE PointnextのWebサイトを参照してください。

<https://www.hpe.com/services>

サーバーのセットアップ

前提条件

サーバーをセットアップする前に、次の操作を行います。

- 最新のSPPをダウンロードします。
http://www.hpe.com/jp/servers/spp_dl
サポートの検証が必要です
- ご使用のOSまたは仮想化ソフトウェアがサポートされていることを確認します。
<http://www.hpe.com/info/ossupport>
- サーバーの動作要件を確認します。
動作要件
- HPE Webサイトにある安全と準拠に関する情報を確認してください。
<http://www.hpe.com/support/safety-compliance-enterpriseproducts>
- 必要な場合は、ストレージドライバーを取得してください。
 - HPEサポートセンターのWebサイトからダウンロードします。
 - SPPから抽出します。

手順

サーバーボックスを開梱する

1. サーバーボックスの内容を確認します。

- サーバー
- 電源コード
- ラックマウント用ハードウェア部品
- ドキュメント

2. (オプション) ハードウェアオプションを取り付けます。

取り付け手順については、「ハードウェアオプションの取り付け」を参照してください。

サーバーをラックに取り付ける

3. サーバーをラックに取り付けます。

ラックへの取り付け手順書は、ラックレールに付属しています。

- a. サーバーに、デバイス、ケーブル、およびコードを接続します。
- b. ケーブルマネジメントアームを使用して、ケーブルを固定します。

4. サーバーの管理方法を決定します。

- ローカル管理の場合：KVMスイッチを使用するか、キーボード、モニター、およびマウスを接続します。
- リモート管理の場合：iLO Webインターフェイスに接続し、リモートコンソールを実行します。
 - a. 次のことを確認します。
 - iLOに、リモートコンソール機能を使用するライセンスが付与されている。
iLOがライセンスされていない場合は、https://www.hpe.com/jp/servers/i_loを参照してください。
 - iLOマネジメントポートが、安全なネットワークに接続されている。
 - b. ブラウザーを使用して、iLOのWebインターフェイスに移動し、ログインします。

`https://<iLOホスト名またはIPアドレス>`

以下を確認してください。

- ホスト名はシリアルプラタブにあります。

- DHCPサーバーにIPアドレスを割り当てると、ブート画面にIPアドレスが表示されます。
 - 静的IPアドレスが割り当てられている場合は、そのIPアドレスを使用します。
 - デフォルトのログイン認証情報は、シリアルラベルプルタブにあります。
- c. サイドナビゲーションで、リモートコンソールおよびメディアリンクをクリックしてから、リモートコンソールを起動します。

サーバーの電源をオンにする

5. 電源をオンにする/スタンバイ ボタンを押します。

リモートで管理する場合は、iL0の仮想電源ボタンを使用します。

ファームウェアをアップデートする

6. SPPを使用して、以下をアップデートします。

- システムROM
- ストレージコントローラー
- ネットワークアダプター
- Intelligent Provisioning

ストレージをセットアップする

7. 次のいずれかを実行します。

- SANから起動するサーバーを構成するには、次のガイドを参照してください。
<https://www.hpe.com/info/boot-from-san-config-guide>
- Smartアレイコントローラーが取り付けられている場合：
 - SRコントローラーの場合は、HPE Smart Storage Administratorを使用してアレイを作成します。
 - a. ブート画面で、F10キーを押してIntelligent Provisioningを実行します。
 - b. Intelligent Provisioningから、HPE Smart Storage Administratorを実行します。
 - MRコントローラーの場合は、UEFIシステム構成を使用してアレイを作成します。

ⓘ 重要:

MRコントローラーは、Intelligent ProvisioningまたはSmart Storage Administratorではサポートされていません。

📖 注記:

MRコントローラーを使用してOSをインストールする前に、ドライブを構成します。ドライブが構成されていない場合、OSではインストール時にドライブが検出されません。詳しくは、お使いのコントローラーのMRユーザーガイドを参照してください。

- コントローラーが取り付けられていない場合は、次のいずれかの手順を実行します。
 - デフォルトでは、AHCIは有効です。OSまたは仮想化ソフトウェアを展開できます。
 - AHCIを無効にして、ソフトウェアRAIDを有効にし、アレイを作成します。
 - a. ブート画面で、F9キーを押して、UEFIシステムユーティリティを実行します。
 - b. UEFIシステムユーティリティ画面で、システム構成 > BIOS/プラットフォーム構成 (RBSU) > ストレージオプション > SATAコントローラーオプション > 内蔵SATA構成 > SmartRAID SW RAIDサポートの順に選択します。
 - c. SW RAIDを有効にします。
 - d. 構成を保存してサーバーを再起動します。
 - e. アレイを作成します。

- i. ブート画面で、F9キーを押して、UEFIシステムユーティリティを実行します。
- ii. UEFIシステムユーティリティ画面で、システム構成 > 内蔵ストレージ : HPE SR100i Gen10+ SW RAID > アレイ構成 > アレイの作成の順に選択します

OSまたは仮想化ソフトウェアを展開する

8. 次のいずれかを実行します。

- Intelligent Provisioningを実行してOSを展開します。

ブート画面でF10キーを押して、Intelligent Provisioningを実行します。

i 重要:

SmartアレイMRコントローラーは、Intelligent ProvisioningまたはSmart Storage Administratorではサポートされていません。

- 手動でOSを展開します。
 - a. インストール用メディアを挿入します。

リモート管理の場合は、iLOリモートコンソールで仮想ドライブをクリックし、イメージ、ドライバー、またはファイルを仮想フォルダーにマウントします。OSのインストールにストレージドライバーが必要である場合は、仮想フォルダーを使用して、ドライバーを保存します。
 - b. ブート画面でF11キーを押して、ブートデバイスを選択します。
 - c. OSのインストール後、ドライバーをアップデートします。

9. サーバーを登録します。 (<http://www.hpe.com/info/register>)

サブトピック

動作要件

サーバーの警告および注意事項

ラックに関する警告

静電気対策

サーバーボックスの内容

ハードウェアオプションを取り付ける

POST画面のオプション

オペレーティングシステムのインストールと展開

サーバーを登録する

動作要件

サブトピック

空間および通気要件

温度要件

電源要件

アース要件

空間および通気要件

修理をしやすくし、また通気をよくするために、ラックの設置場所を決定する際には、次の空間要件に従ってください。

- ラックの正面に63.5 cm (25インチ) 以上の隙間をあけてください。
- ラックの背面に76.2 cm (30インチ) 以上の隙間をあけてください。
- ラックの背面から別のラックまたはラック列の背面まで121.9 cm (48インチ) 以上の隙間をあけてください。

Hewlett Packard Enterprise製サーバーは、冷気をフロントドアから吸収して、内部の熱気をリアドアから排出します。したがって、ラックの正面ドアと背面ドアで適切な通気を行い、室内の空気が十分にキャビネットに入る必要があります。また、背面ドアで適切な通気を行い、暖気がキャビネットから出ていくようにする必要があります。

△ 注意: 不十分な冷却や装置の損傷を防止するため、通気用開口部は塞がないようにしてください。

ラック内の縦方向のスペースにサーバーやラックコンポーネントが設置されていない場合、コンポーネント間の隙間が原因でラック全体およびサーバー間の空気の流れが変動することがあります。ブランクパネルですべての隙間を埋め、適切な通気を確保してください。

△ 注意: ラック内の空の縦スペースを満たすには必ずブランクパネルを使用してください。これにより、適切な通気が確保されます。ブランクパネルなしでラックを使用すると、冷却が不適切になり、高温による損傷が発生する可能性があります。

9000および10000シリーズのラックは、通気のための64%の開口部を備えた正面および背面ドアの通気孔から適切なサーバー冷却を提供します。

△ 注意: Compaqブランドの7000シリーズラックを使用する場合は、前面から背面への適切な通気と冷却機能を提供するため、ハイエアフローラックドアインサート（42Uラックの場合はPN 327281-B21、22Uラックの場合はPN 157847-B21）を取り付けます。

△ 注意:
他社製ラックを使用する場合、適切な通気を確保し装置の損傷を防ぐため、以下の追加要件に従ってください。

- 正面および背面ドア-42Uラックに正面および背面ドアがある場合、ラックの上部から下部にかけて5,350平方cm (830平方インチ) の通気孔（通気に必要な64パーセントの開口部と同等）を均等に確保し、十分な通気が行われるようにします。
 - 側面-取り付けられたラックコンポーネントとラックのサイドパネルの間は7 cm (2.75インチ) 以上の隙間をあける必要があります。
-

温度要件

装置が安全で正常に動作するように、通気がよく温度管理の行き届いた場所にシステムを取り付けまたは配置してください。

ほとんどのサーバー製品で推奨している最大周囲動作温度（TMRA）は、35° C (95° F) です。ラックを設置する室内の温度は、35° C (95° F) を超えてはなりません。

△ 注意: 他社製オプションをインストールする場合に装置の損傷を防止するために、次の点に注意してください。

- オプションの装置によって、サーバー周囲の通気が妨げられたり、内部のラック温度が許容される上限を超えて上昇したりすることがないようにしてください。
- 製造元のTMRAを超えないでください。

電源要件

この装置は、資格のある電気技師が情報技術機器の取り付けについて規定したご使用の地域の電気規格に従って取り付けしなければなりません。この装置は、NFPA 70, 1999 Edition (全国的な電気規約) およびNFPA-75, 1992 (電気コンピューター/データ処理装置の保護に関する規約) の適用対象となる取り付けで動作するよう設計されています。オプションの電源の定格については、製品の定格ラベルまたはそのオプションに付属のユーザードキュメントを参照してください。

⚠ 警告: けが、火災、または装置の損傷を防止するために、ラックに電源を供給するAC電源分岐回路の定格負荷を超えないようにしてください。施設の配線および取り付け要件については管轄する電力会社にお問い合わせください。

△ 注意: サーバーを不安定な電源および一時的な停電から保護するために、UPS (無停電電源装置) を使用してください。UPSは、電源サージや電圧スパイクによって発生する損傷からハードウェアを保護し、停電中でもシステムが動作を継続できるようにします。

アース要件

適切な動作および安全のために、このサーバーは正しくアースされている必要があります。米国では、必ず地域の建築基準だけでなく、NFPA 70、National Electric Code第250項に従って装置を設置してください。カナダでは、Canadian Standards Association, CSA C22.1, Canadian Electrical Codeに従って装置を取り付ける必要があります。その他のすべての国では、International Electrotechnical Commission (IEC) Code 364の第1部から第7部など、地域または全国的な電気配線規約に従って装置を取り付ける必要があります。さらに、取り付けに使用される分岐線、コンセントなどの配電装置はすべて、指定または認可されたアース付き装置でなければなりません。

同じ電源に接続された複数のサーバーから発生する高圧漏れ電流を防止するために、Hewlett Packard Enterpriseでは、建物の分岐回路に固定的に接続されているか、工業用プラグに接続される着脱不能コードを装備した、PDUを使用することをお勧めします。NEMAロック式プラグまたはIEC 60309に準拠するプラグは、この目的に適しています。サーバーに一般的な電源延長コードを使用することは推奨されません。

DC電源ケーブルとDC電源を接続する

- ⚠ 警告:** 感電や高電圧によるけがを防止するために、次の注意事項を守ってください。
- この装置の取り付けは、NECおよびIEC 60950-1の第2版、the standard for Safety of Information Technology Equipmentで定められている、訓練を受けた専門の担当者が行ってください。
 - 正しくアースされているセカンダリ回路の電源に、装置を接続してください。セカンダリ回路はプライマリ回路に直接接続されておらず、変圧器、コンバータ、または同等の絶縁装置から電源を得ています。
 - 分岐回路の過電流保護は27 Aにする必要があります。

⚠ 警告: DC電源装置を取り付ける際には、正極または負極リードを接続する前にアース線を接続する必要があります。

警告: 電源装置の取り付け手順やメンテナンスを実行する前に、電源装置の電源を切ってください。

注意: サーバー装置で、DC供給回路のアースされている導体とアース用導体が接続されます。詳しくは、電源装置に付属のドキュメントを参照してください。

注意: DC供給回路のアースされている導体とアース用導体がサーバー装置でDC接続されている場合は、次の条件を満たす必要があります。

- この装置は、DC供給システムのアース電極導体、またはその接続先であるアース端末のバーまたはバスからのボンディングジャンパーに直接接続する必要があります。
 - この装置は、同じDC供給回路のアースされている導体とアース用導体間が接続されている他の装置、およびDCシステムのアースポイントと同じ隣接区域（隣接するキャビネットなど）に設置する必要があります。DCシステムは、別の場所でアースされている必要があります。
 - DC供給源は、装置と同じ建物内に設置する必要があります。
 - スイッチや電源切断用のデバイスは、DC供給源とアース電極導体の接続ポイントの間にある、アースされている回路導体には置かないでください。
-

DC電源ケーブルとDC電源を接続するには、以下の手順に従ってください。

1. DC電源コードが150 cm (59.06インチ) 以上になるように切ります。
2. 電源にリングトングが必要な場合は、圧着工具を使って電源コード線にリングトングを取り付けます。
 - 重要:** リング端末は、UL認定の12ゲージケーブルに対応するものである必要があります。
 - 重要:** ピラーまたはスタッドタイプの端末のスレッドの最小公称直径は、3.5 mm (0.138インチ) にする必要があります。また、ネジタイプの端末の直径は、4.0 mm (0.157インチ) にする必要があります。
3. 同色ワイヤーごとにまとめて、同じ電源に取り付けます。電源コードは、3本のワイヤー（黒色、赤色、および緑色）で構成されます。

詳しくは、電源装置に付属のドキュメントを参照してください。

サーバーの警告および注意事項

警告:
このサーバーは重量があります。けがまたは装置の損傷を防止するために、次の点に注意してください。

- 手動での装置の取り扱いに関する、地域の労働衛生および安全に関する要件およびガイドラインに従ってください。
 - サーバーの取り付けおよび取り外し作業中には、特に本体がレールに取り付けられていない場合、必ず適切な人数で製品を持ち上げたり固定したりする作業を行ってください。ラックサーバーを取り付ける際は必ず、2人以上で作業を行うことをお勧めします。装置を胸より高く持ち上げるときは、サーバーの位置を合わせるために3人目の人が必要になる場合があります。
 - サーバーをラックへ取り付ける、またはラックから取り外す際には、サーバーがレールに固定されていないと、不安定になるため注意してください。
-

警告:
表面が熱くなっているため、やけどをしないように、ドライブやシステムの内部部品が十分に冷めてから手を触れてください。

警告:

けが、感電、または装置の損傷を防止するために、電源コードを抜き取って、サーバーに電源が供給されないようにしてください。フロントパネルにある電源ボタンではシステムの電源を完全に遮断することはできません。AC/DC電源を切るまで、電源装置の一部といくつかの内部回路はアクティブのままです。

警告:

Energy Packを取り外した後に、火災や火傷のリスクを低減するために：

- Energy Packを分解したり、つぶしたり、穴を開けたりしないでください。
- 外部接点をショートさせないでください。
- Energy Packを火や水の中に投げないでください。
- 爆発または可燃性の液体やガスの漏れにつながる可能性があるため、Energy Packを低い空気圧にさらさないでください。
- Energy Packを60° C以上の高温にさらさないでください。

電源が切断された後でも、バッテリー電圧が1秒から160秒間は残る可能性があります。

注意:

サーバーを不安定な電源および一時的な停電から保護するために、UPS（無停電電源装置）を使用してください。UPSは、電源サージや電圧スパイクによって発生する損傷からハードウェアを保護し、停電中でもシステムが動作を継続できるようにします。

注意:

アクセスパネルを開けたまま、または取り外したまま長時間サーバーを動作させないでください。このような状態でサーバーを動作させると、通気が正しく行われなために冷却機構が正常に機能しなくなり、高温によって装置が損傷する場合があります。

ラックに関する警告

警告:

けがや装置の損傷を防止するために、次の注意事項を守ってください。

- ラックの水平脚を床まで延ばしてください。
 - ラックの全重量が水平脚にかかるようにしてください。
 - 1つのラックだけを設置する場合は、ラックに固定脚を取り付けてください。
 - 複数のラックを設置する場合は、ラックを連結してください。
 - コンポーネントは、一度に1つずつしか広げることができません。一度に複数のコンポーネントを引き出すと、ラックが不安定になる場合があります。
-

警告:

けがや装置の損傷を防止するために、ラックを降ろすときには、次の点に注意してください。

- 荷台からラックを降ろす際は、2人以上で作業を行ってください。42Uラックは何も載せていない場合でも重量が115 kgで、高さは2.1 mを超えることがあるため、キャスターを使って移動させるときに不安定になる可能性があります。
 - ラックを傾斜路に沿って移動する際は、ラックの正面に立たないで、必ず、両側から支えてください。
-

警告:

けがや装置の損傷を防止するために、コンポーネントをラックの外に引き出す前にラックを正しく安定させてください。コンポーネントは一度に1つずつ引き出してください。一度に複数のコンポーネントを引き出すと、ラックが不安定になる場合があります。

**警告:**

サーバーをTelcoラックに取り付ける場合、ラックフレームの上部と下部が壁や床などに正しく固定されていることを確認してください。

静電気対策

システムをセットアップしたり、コンポーネントを取り扱う際に従わなければならない注意事項を必ず守ってください。人間の指など、導電体からの静電気放電によって、システムボードなどの静電気に弱いデバイスが損傷することがあります。その結果、システムまたはコンポーネントの耐用年数が短くなる可能性があります。

静電気による損傷を防止するには、次の点に注意してください。

- 運搬や保管の際は、静電気防止用のケースに入れ、手で直接触れることは避けます。
- 静電気に弱い部品は、静電気防止措置のなされている作業台に置くまでは、専用のケースに入れたままにしておきます。
- 部品をケースから取り出す前に、まずケースごと、アースされている面に置きます。
- ピン、リード線、または回路には触れないようにします。
- 静電気に弱い部品に触れなければならないときには、常に自分の身体に対して適切なアースを行います。静電気に弱い部品を取り扱うときには、以下のうち1つ以上の方法でアースを行ってください。
 - すでにアースされているワークステーションまたはコンピューターシャーシにアースバンドをつなぎます。アースバンドは柔軟な帯状のもので、アースコード内の抵抗は、1 MΩ ±10%です。アースを正しく行うために、アースバンドを肌に密着させてください。
 - 立って作業する場合、かかとやつま先にアースバンドを付けます。導電性または静電気拡散性の床の場合、両足にアースバンドを付けます。
 - 作業用具は導電性のものを使用します。
 - 折りたたみ式の静電気防止マットなどが付いた携帯式作業用具もあります。

上記のような、適切なアースを行うための器具がないときは、製品販売店にお問い合わせください。

静電気の詳細および製品のインストールの支援については、製品販売店にお問い合わせください。

サーバーボックスの内容

サーバーの出荷ボックスには、以下のものが含まれています。

- サーバー
- 電源コード
- ラックマウント用ハードウェア部品（オプション）
- ドキュメント

ハードウェアオプションを取り付ける

ハードウェアオプションを取り付けてから、サーバーを初期設定してください。オプションの取り付けについては、オプションのドキュメントを参照してください。サーバー固有の情報については、「[ハードウェアオプションの取り付け](#)」を参照してください。

POST画面のオプション

このタスクについて

サーバーの電源が入っているときは、POST画面が表示されます。以下のオプションが表示されます。

- [システムユーティリティ \(F9\)](#)
このオプションを使用して、システムBIOSを構成します。
- [Intelligent Provisioning \(F10\)](#)
このオプションを使用して、オペレーティングシステムを展開したり、ストレージを構成したりします。
- [ブート順序 \(F11\)](#)
このオプションを使用して、ワンタイムブートを選択します。
- [ネットワークブート \(F12\)](#)
このオプションを使用して、サーバーをネットワークから起動します。

オペレーティングシステムのインストールと展開

このタスクについて

オペレーティングシステムをインストールする前に、以下の点に注意してください。

- [Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト](#)にあるProLiantサーバーのHPE UEFI要件をよく読んでください。UEFI要件が満たされていないと、オペレーティングシステムのインストール時にブートが失敗したり、その他のエラーが発生したりする可能性があります。
- ソフトウェアまたはコンポーネントで古いバージョンが必要な場合を除き、サーバーを最初に使用する前に、ファームウェアをアップデートします。詳しくは、[システムの最新状態の維持](#)を参照してください。
- サポートされたオペレーティングシステムの最新情報については、[Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト](#)を参照してください。
- サーバーには、OSメディアは同梱されません。すべてのシステムソフトウェアとファームウェアは、あらかじめサーバーにロードされています。

サーバーを登録する

より迅速なサービスとより効果的なサポートを受けるには、[Hewlett Packard Enterprise製品登録Webサイト](#)で製品を登録してください。

ハードウェアオプションの取り付け

サブトピック

[製品QuickSpecs](#)

[はじめに](#)

[セキュリティベゼルへのファンフィルターの取り付け](#)

[ベゼルおよびベゼルロックの取り付け](#)

[電源装置オプション](#)

[Energy Packオプション](#)

[メモリオプション](#)

[ファンのオプション](#)

[ドライブオプション](#)

[ユニバーサルメディアベイの取り付け](#)

[ストレージコントローラーオプション](#)

[ライザーおよびライザーケージオプション](#)

[拡張スロット](#)

[ドライブケージオプション](#)

[プロセッサとヒートシンクのオプション](#)

[シャーシ侵入検出スイッチの取り付け](#)

[OC3.0アダプターカードの取り付け](#)

[Pensando DSP DSC-25 2p SFP28カードの取り付け](#)

[HPE NS204i-p NVMe OSブートデバイスオプションの取り付け](#)

[リアシリアルポートインターフェイスの取り付け](#)

[Systems Insight Displayの取り付け](#)

[HPE Trusted Platform Module 2.0 Gen10 Plusオプション](#)

製品QuickSpecs

製品の特長、仕様、オプション、構成、および互換性について詳しくは、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト (<https://www.hpe.com/info/qs>) にある製品のQuickSpecsを参照してください。

はじめに

ハードウェアオプションを取り付けてから、サーバーを初期設定してください。複数のオプションを取り付ける場合は、すべてのハードウェアオプションの取り付け手順をよく読んで類似の手順を確認してから、効率よく取り付け作業を行うようにしてください。

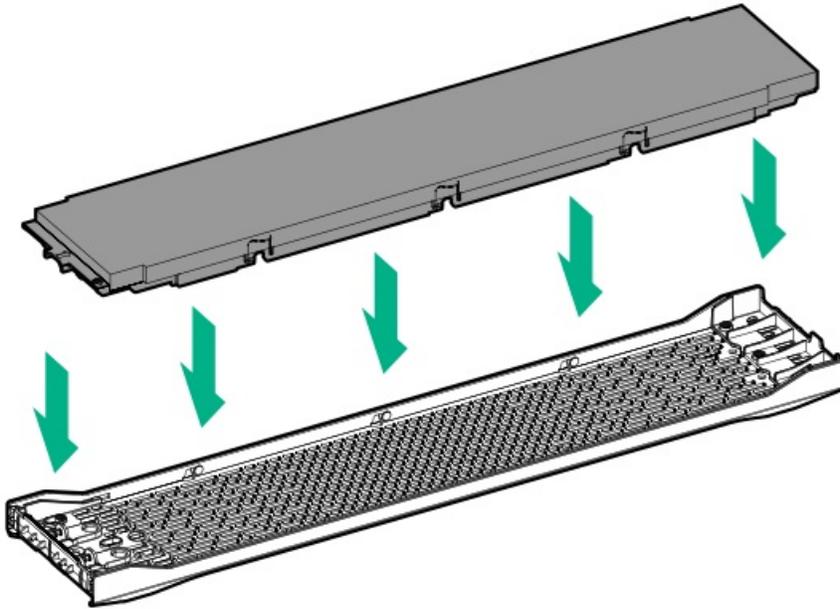
 **警告:** 表面が熱くなっているため、やけどをしないように、ドライブやシステムの内部部品が十分に冷めてから手を触れてください。

 **注意:** 電子部品の損傷を防止するために、サーバーに正しくアースを行ってから、取り付け手順を開始してください。正しくアースを行わないと静電気放電を引き起こす可能性があります。

セキュリティベゼルへのファンフィルターの取り付け

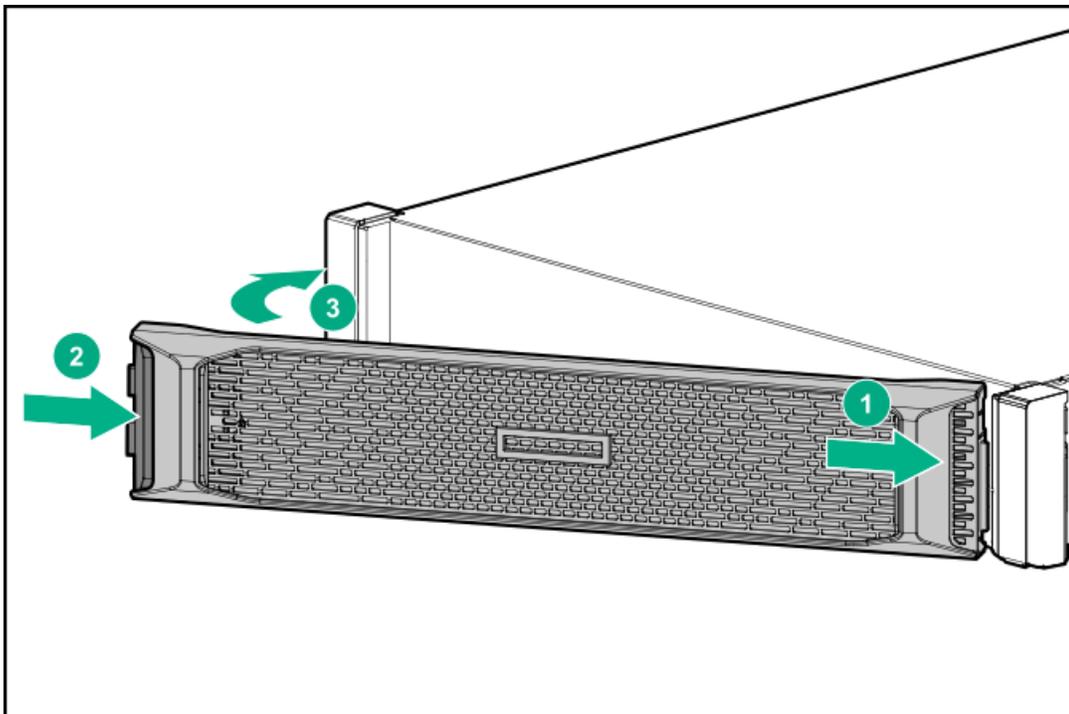
このタスクについて

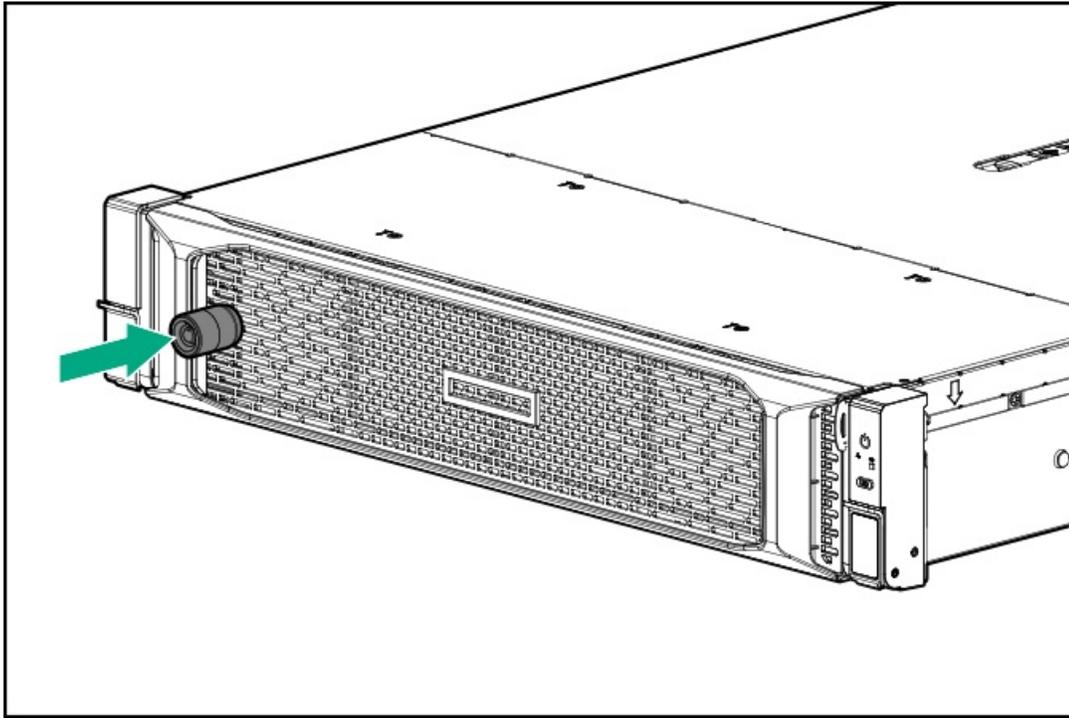
ファンフィルターをセキュリティベゼルに取り付けます。ファンフィルターを追加するには、サーバーにセキュリティベゼルが必要です。



ベゼルおよびベゼルロックの取り付け

このタスクについて





電源装置オプション

サブトピック

[ホットプラグ対応電源装置に関する計算](#)

[冗長ホットプラグ対応電源装置の取り付け](#)

[HPE 800 W FS DC-48Vパワーサプライの取り付け](#)

[HPE 1600 W FS DC-48Vパワーサプライの取り付け](#)

[DC電源ケーブルとDC電源を接続する](#)

ホットプラグ対応電源装置に関する計算

ホットプラグ対応電源装置の仕様、およびサーバーの電気ならびに熱負荷を調べるための計算ツールについては、Hewlett Packard Enterprise Power AdvisorのWebサイト (<https://www.hpe.com/info/poweradvisor/online>) を参照してください。

冗長ホットプラグ対応電源装置の取り付け

このタスクについて

△ 注意:

サーバーに取り付ける電源装置の出力電力はすべて同じでなければなりません。すべての電源装置の部品番号とラベルの色が一致することを確認してください。電源装置の不一致が検出されると、システムが不安定になりシャットダウンする場合があります。

△ 注意:

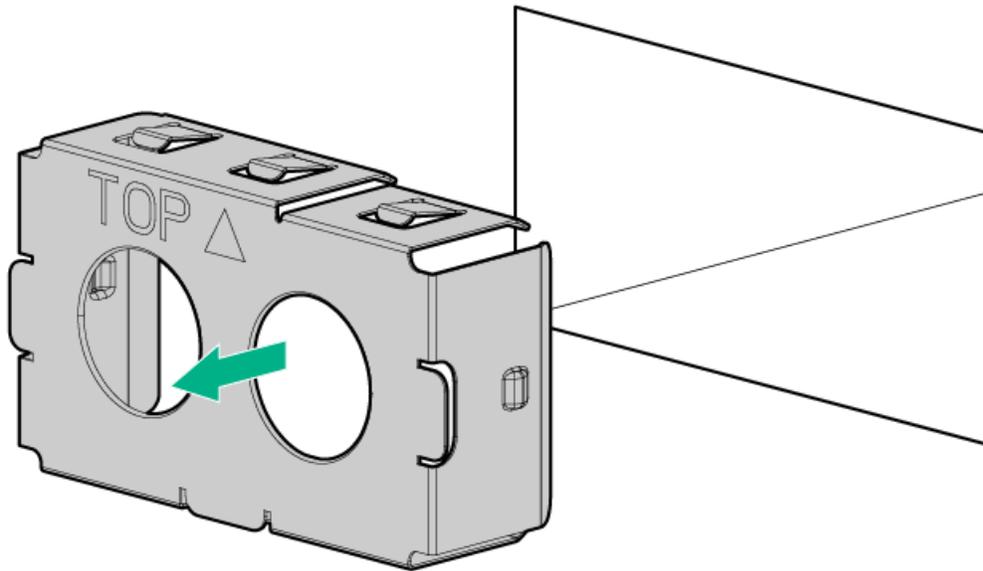
不適切な冷却や熱による破損を防止するために、すべてのベイにコンポーネントまたはブランクが挿入されていない限り、サーバーを操作しないでください。

手順

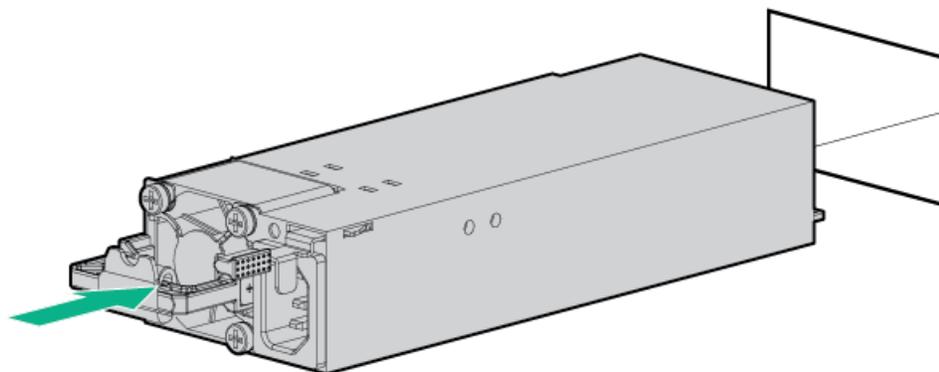
1. ケーブルマネジメントアームを解放して、リアパネルにアクセスします
2. ブランクを取り外します。

⚠ 警告:

表面が熱くなっているため、やけどをしないように、電源装置または電源装置ブランクが十分に冷めてから手を触れてください。



3. 電源装置を電源装置ベイに挿入して、カチッと音がしてはまるまで押し込みます。

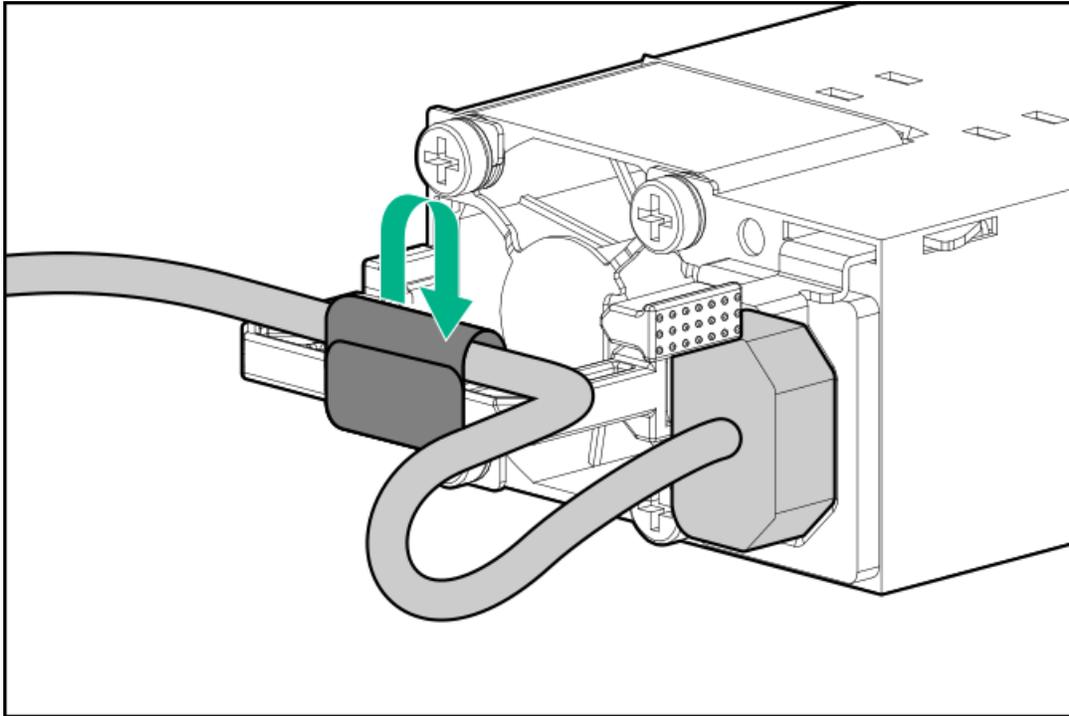


4. 電源コードを電源装置に接続します。
5. 電源装置のハンドルに取り付けられたストレインリリーフストラップで電源コードを固定します。
 - a. ストレインリリーフストラップを電源装置のハンドルから外します。

△ 注意: 電源コードまたはサーバーのケーブルの内部ワイヤーの損傷を防止するために、きつく曲げることは避けてください。電源コードやサーバーのケーブルを被覆材にしわができるほどきつく曲げないでください。

b. 電源コードをストレインリリーフストラップで固定します。

ストラップの余っている部分を電源装置のハンドルの周囲に巻き付けます。



6. 電源コードを電源に接続します。

7. 電源LEDを確認します。

HPE 800 W FS DC-48Vパワーサプライの取り付け

前提条件

このオプションを取り付ける前に、以下のアイテムが使用可能であることを確認します。

- プラスドライバー (No. 1)
- オプションのQ0H80A HPE 800W DC電源ケーブルキットは、HPE製品販売店から購入できます。
- 入力電源コードオプションを使用しない場合、電源装置のケーブル接続は資格のある電気技師と相談の上で行い、ご使用の地域の規定に準拠している必要があります。
- 工場に取り付けられた接地ラグを交換する場合は、KST RNB5-5圧着端子リングまたは同等のものを使用します。M5-0.80 x 8ネジを使用して、接地ラグを電源装置に接続します。

このタスクについて

DC電源装置オプションキットには、電源装置のDCケーブルキットが付属していないため、電源装置ケーブルラグキットが含まれていない場合があります。DCケーブルキット (オプション) またはDCケーブルラグキット (オプション) は、Hewlett Packard EnterpriseまたはHPE製品販売店から直接購入できます。詳しくは、<https://www.hpe.com/info/fsp-s-qs>にある電源装置のQuickSpecを参照してください。

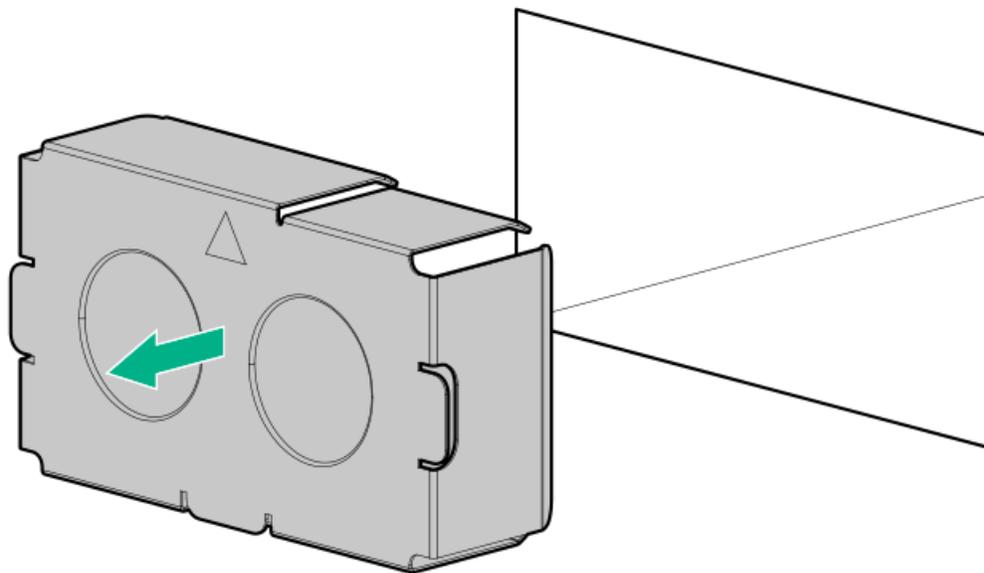
警告:

感電、火災または装置の損傷を防止するために、この製品の取り付けについては、必ず、以下のガイドラインに従ってください。

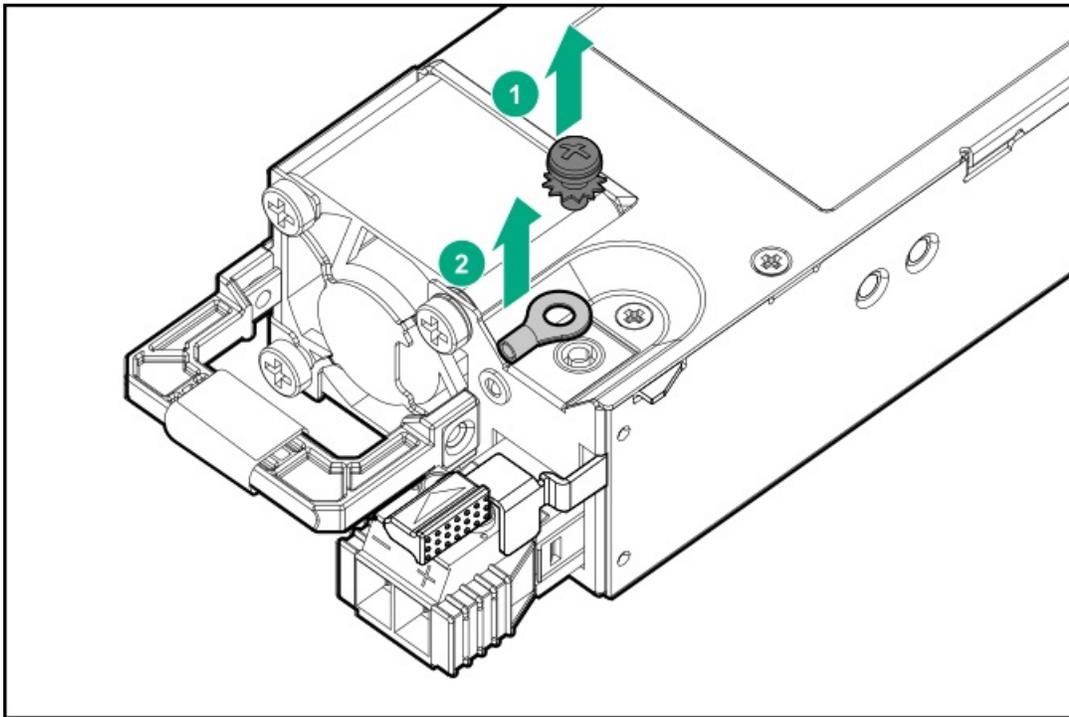
- HPE 800 W FS DC-48Vパワーサプライは、立ち入りが制限された場所に設置されたHewlett Packard Enterpriseサーバーへの取り付け専用です。
- HPE 800 W FS DC-48Vパワーサプライは、DC供給分岐回路に直接接続するものではありません。必ず、各DC電源装置用の独立した過電流保護の出力を提供するパワーディストリビューションユニット (PDU) に接続してください。PDUの過電流保護出力装置は、それぞれDC電源から利用可能な電流の障害を防止するのに適していなければなりません。また、最大30 Aの定格でなければなりません。
- PDU出力は、各電源装置への電力を切断する遮断器または回路ブレーカーを備えている必要があります。電源装置の電源を完全に切るには、PDUで電力を切断してください。複数の電源装置がある場合は、各電源装置の電力を切断します。
- この電源装置は、情報技術機器および通信機器に関する各国の適合した要件に従って、SELVまたはTNVとして分類されたDC電源にのみ接続されます。通常、これらの要件は、IEC 60950-1/IEC 62368-1の International Standard for Information Technology Equipmentに基づいています。各地域の電源に関する規定に従って、DC供給源にはアース端子に確実に接続できる電極 (Neutral/Return) が1本備わっている必要があります。
- 電源装置の前面にある電源装置アース用ネジを、必ず、適切なアース端子に接続してください。この端子は、各地域の電源に関する規定に従って、必ず、建物内の適切なアース端子に接続してください。十分なアースを継続して提供できるように、ラックまたはキャビネットシャーシの上に物を置かないでください。

手順

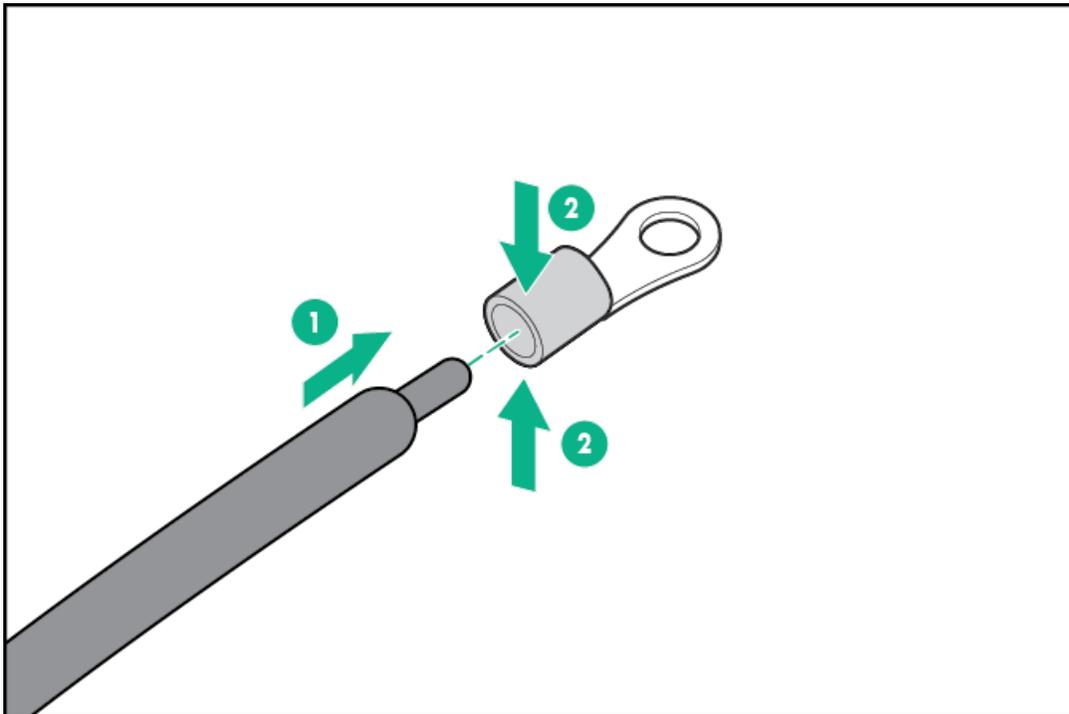
1. 電源装置ブラックを取り外します。



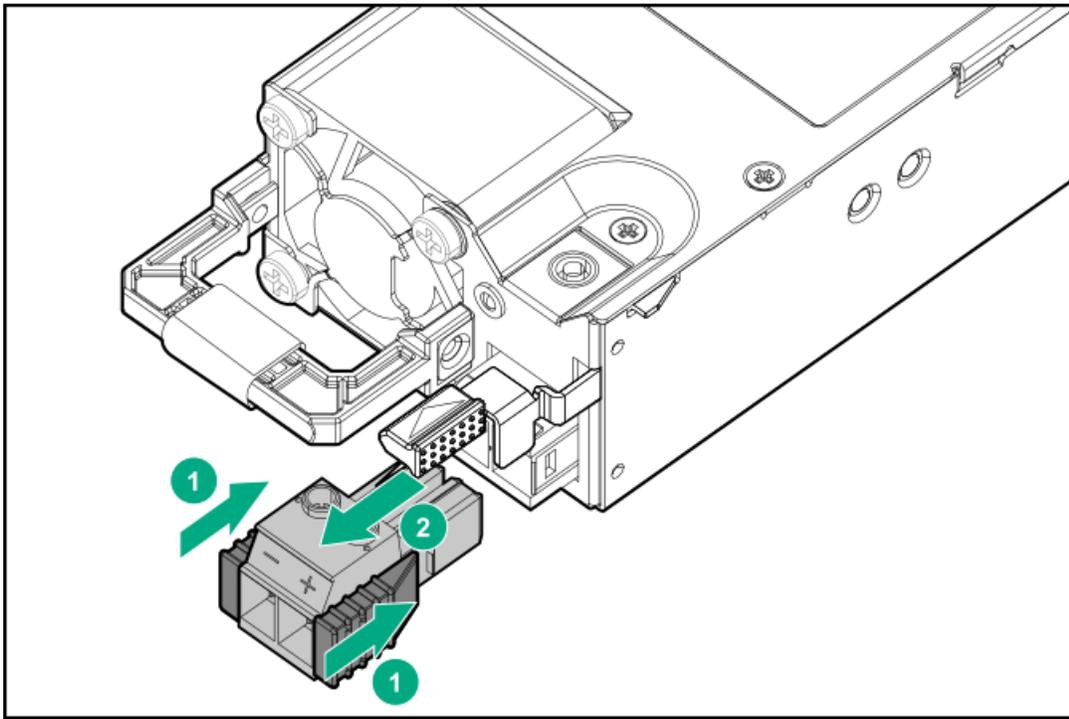
2. リングトングを取り外します。



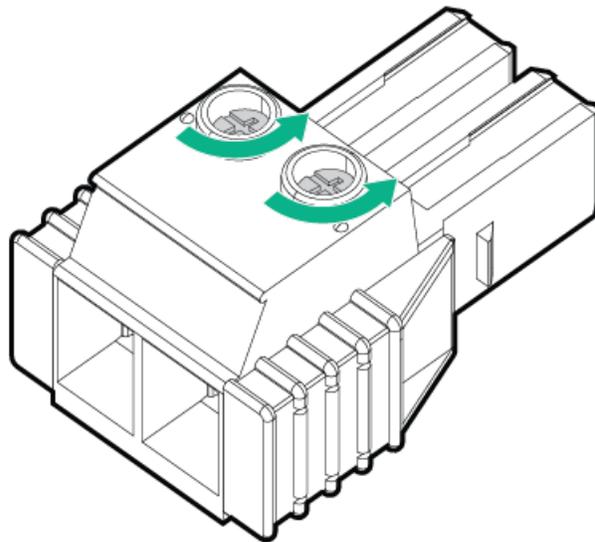
3. リングトングを-48 V DC電源の接地用ケーブルに圧着します。



4. 端子ブロックコネクタを取り外します。

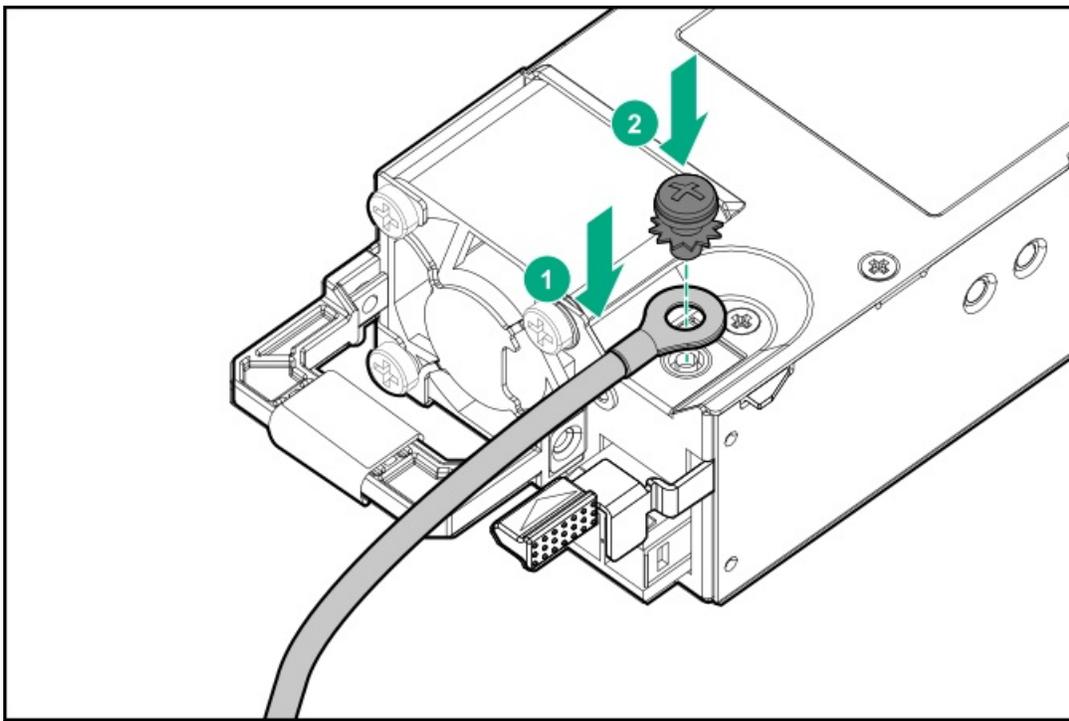


5. 端子ブロックコネクターのネジを緩めます。

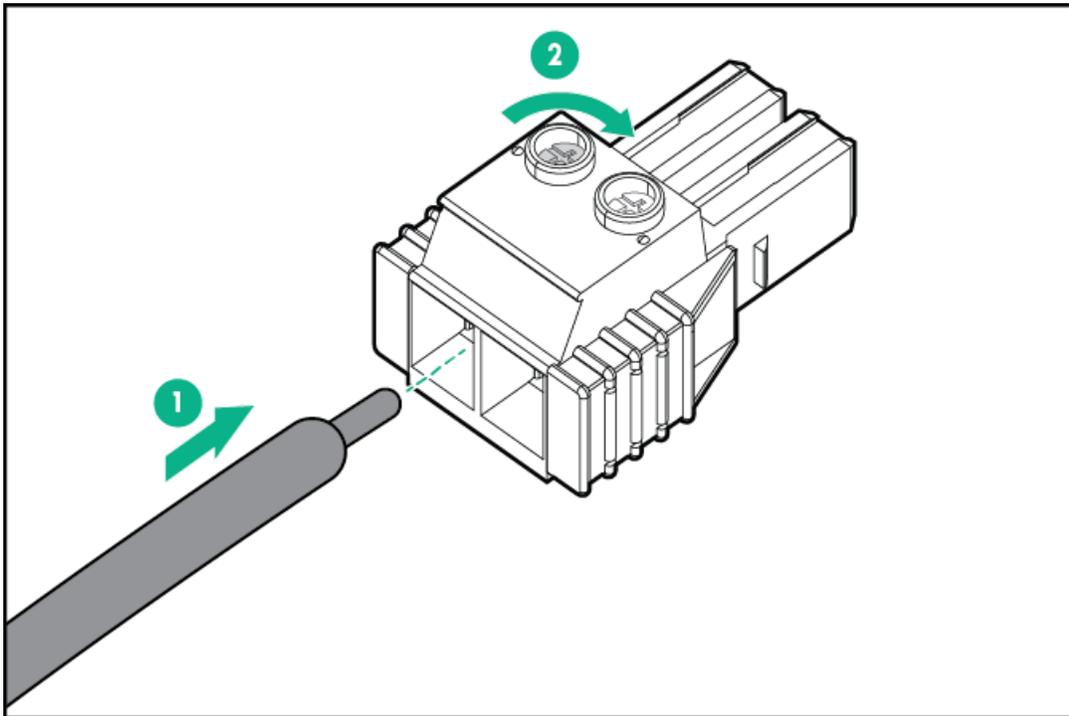


6. アース用ワイヤーをアース用ネジおよびワッシャーに取り付け、1.47 N m (13ポンドインチ) のトルクで締めます。必ずアース用ワイヤーを接続してから、-48 Vワイヤーとリターンワイヤーを接続してください。

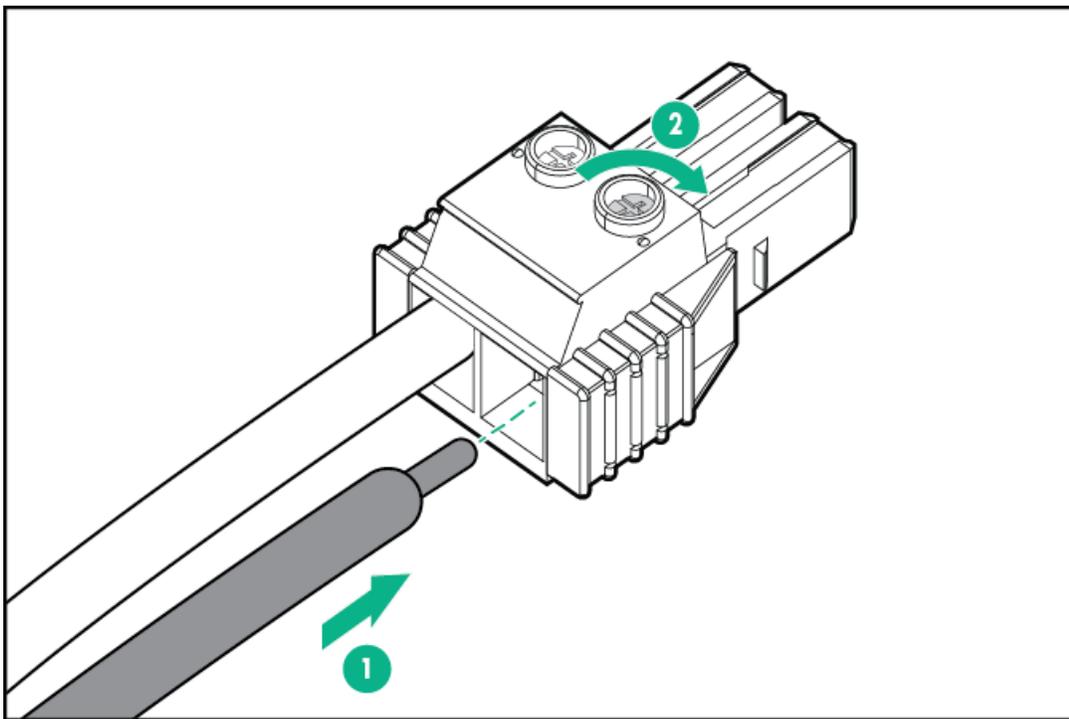




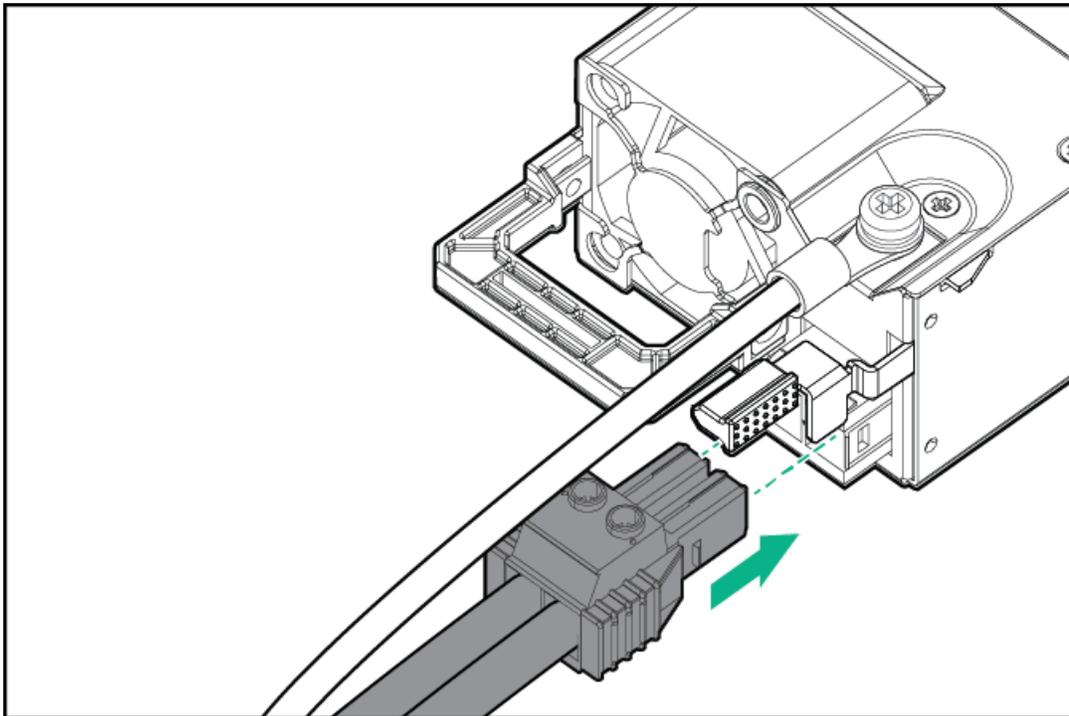
7. -48 Vワイヤーを端子ブロックコネクターの左側に挿入し、1.3 N m (10ポンドインチ) のトルクでネジを締めます。



8. リターンワイヤーをコネクターの右側に挿入し、1.3 N m (10ポンドインチ) のトルクでネジを締めます。



9. 電源装置に端子ブロックコネクタを取り付けます。

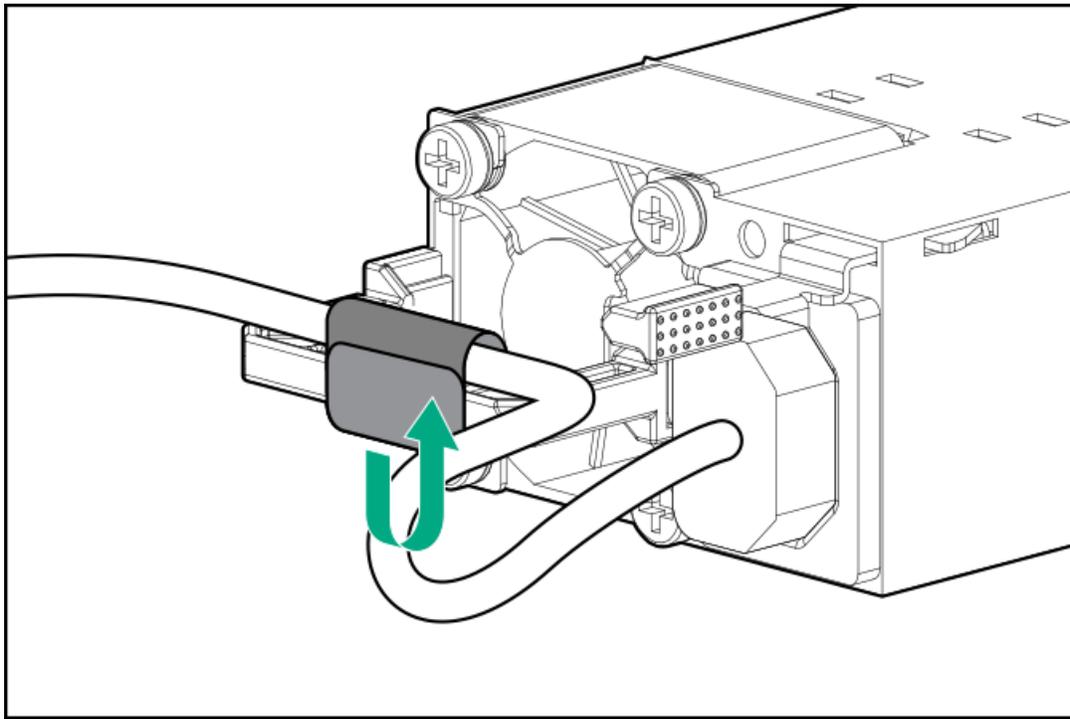


10. 電源コード、ワイヤー、ケーブルを、電源装置のハンドルに取り付けられたストレインリリーフストラップに固定します。
- ストレインリリーフストラップを電源装置のハンドルから外します。

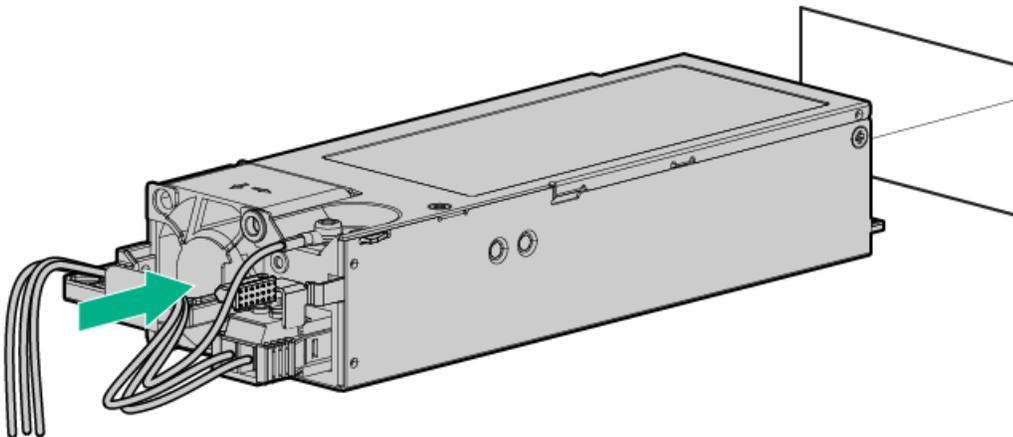
△ 注意： 電源コードまたはサーバーのケーブルの内部ワイヤーの損傷を防止するために、きつく曲げることは避けてください。電源コードやサーバーのケーブルを被覆材にしわができるほどきつく曲げないでください。

- 電源コード、ワイヤー、ケーブルをストレインリリーフストラップで固定します。ストラップの余っている部分を電源装置のハンドルの周囲に巻き付けます。





11. 電源装置が所定の位置にカチッと収まるまで、ベイにスライドさせて押し込みます。



12. 必ず、-48 V DC電源をオフにするかPDUブレーカーをオフの位置にしてから、電源コードを-48 V DC電源またはPDUに接続します。
13. -48 Vの電力を電源装置に供給するには、-48 V電源をオンにするかPDUブレーカーをオンの位置にします。
14. 電源装置LEDが緑色に点灯していることを確認します。

HPE 1600 W FS DC-48Vパワーサプライの取り付け

前提条件

このオプションを取り付ける前に、以下のアイテムが使用可能であることを確認します。

- プラスドライバー (No. 1)
- 入力電源コードオプションを使用しない場合、電源装置のケーブル接続は資格のある電気技師と相談した上で行い、ご使用の地域の規定に準拠している必要があります。
- お客様が用意した電源ケーブルで使用するために、オプションのP36877-B21 HPEラグキットをHPE製品販売店から購入で

きます。（以下にリストされている電源ケーブルとラグキットは、1600 W -48 VDC電源装置でのみ使用できます。）

- 入力電源コードオプションを使用している場合は、P22173-B21 HPE 1600 W DC PSU電源ケーブルキットをHPE製品販売店から購入できます。（以下にリストされている電源ケーブルとラグキットは、1600 W -48 VDC電源装置でのみ使用できます。）

1600 W -48VDC電源ケーブルのカラーコード

ケーブルの色 説明

黒色	正のリターン
赤色	負の入力電圧
緑色/黄色	安全アース

このタスクについて

DC電源装置オプションキットには、電源装置のDCケーブルキットが付属していないため、電源装置ケーブルラグキットが含まれていない場合があります。DCケーブルキット（オプション）またはDCケーブルラグキット（オプション）は、Hewlett Packard EnterpriseまたはHPE製品販売店から直接購入できます。詳しくは、<https://www.hpe.com/info/fsp-s-qs>にある電源装置のQuickSpecを参照してください。

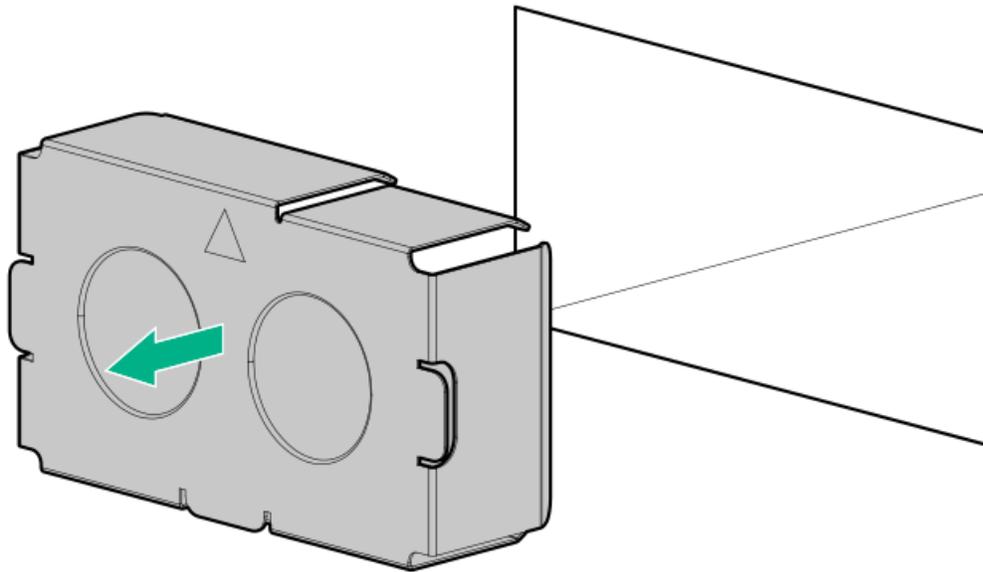
警告:

感電、火災または装置の損傷を防止するために、この製品の取り付けについては、必ず、以下のガイドラインに従ってください。

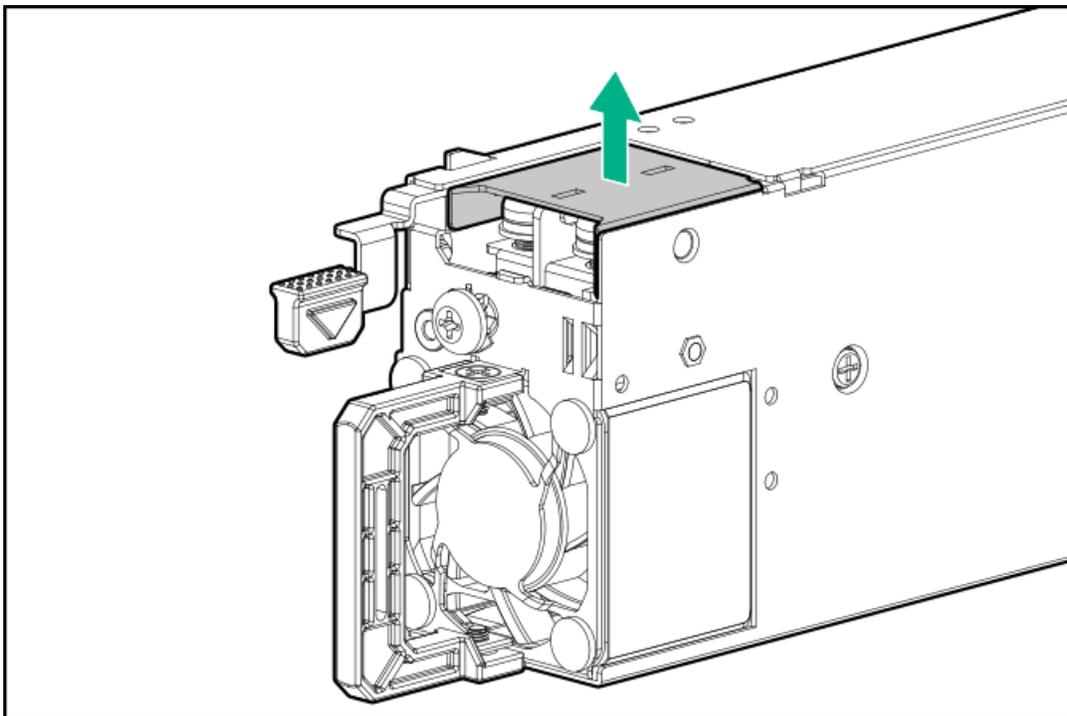
- HPE 1600 W FS DC-48Vパワーサプライは、立ち入りが制限された場所に設置されたHewlett Packard Enterpriseサーバーへの取り付け専用です。
- HPE 1600 W FS DC-48Vパワーサプライは、DC供給分岐回路に直接接続するものではありません。必ず、各DC電源装置用の独立した過電流保護の出力を提供するパワーディストリビューションユニット（PDU）に接続してください。PDUの過電流保護出力装置は、それぞれDC電源から利用可能な電流の障害を防止するのに適していなければなりません。また、最大45 Aの定格でなければなりません。
- PDU出力は、各電源装置への電力を切断する遮断器または回路ブレーカーを備えている必要があります。電源装置の電源を完全に切るには、PDUで電力を切断してください。最終的な電力供給先の製品は、複数の電源装置を備えている場合があります。そのような製品の電源を完全に切るには、各電源装置への電力を切断してください。
- この電源装置は、情報技術機器および通信機器に関する各国の適合した要件に従って、SELVまたはTNVとして分類されたDC電源にのみ接続されます。通常、これらの要件は、IEC 60950-1/IEC 62368-1のInternational Standard for Information Technology Equipmentに基づいています。各地域の電源に関する規定に従って、DC供給源にはアース端子に確実に接続できる電極（Neutral/Return）が1本備わっている必要があります。
- 電源装置の前面にある電源装置アース用ネジを、必ず、適切なアース端子に接続してください。この端子は、各地域の電源に関する規定に従って、必ず、建物内の適切なアース端子に接続してください。十分なアースを継続して提供できるように、ラックまたはキャビネットシャーシの上に物を置かないでください。

手順

1. 必要な場合は、電源装置ブラックを取り外します。

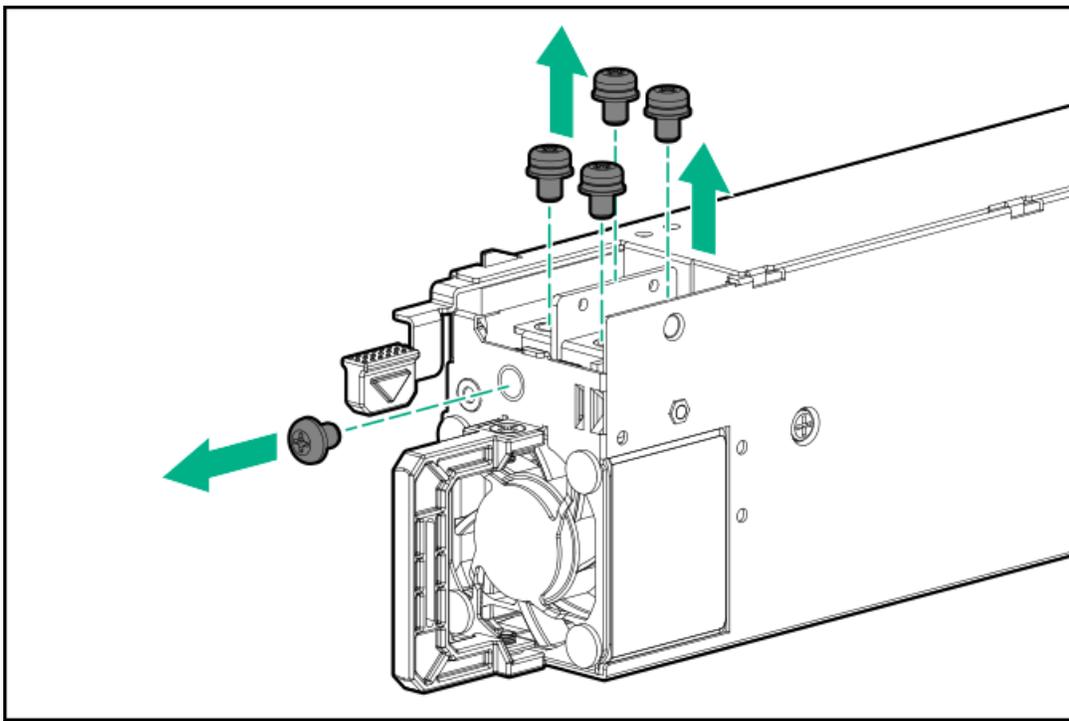


2. 電源装置の側面にある透明なプラスチックカバーを取り外します。

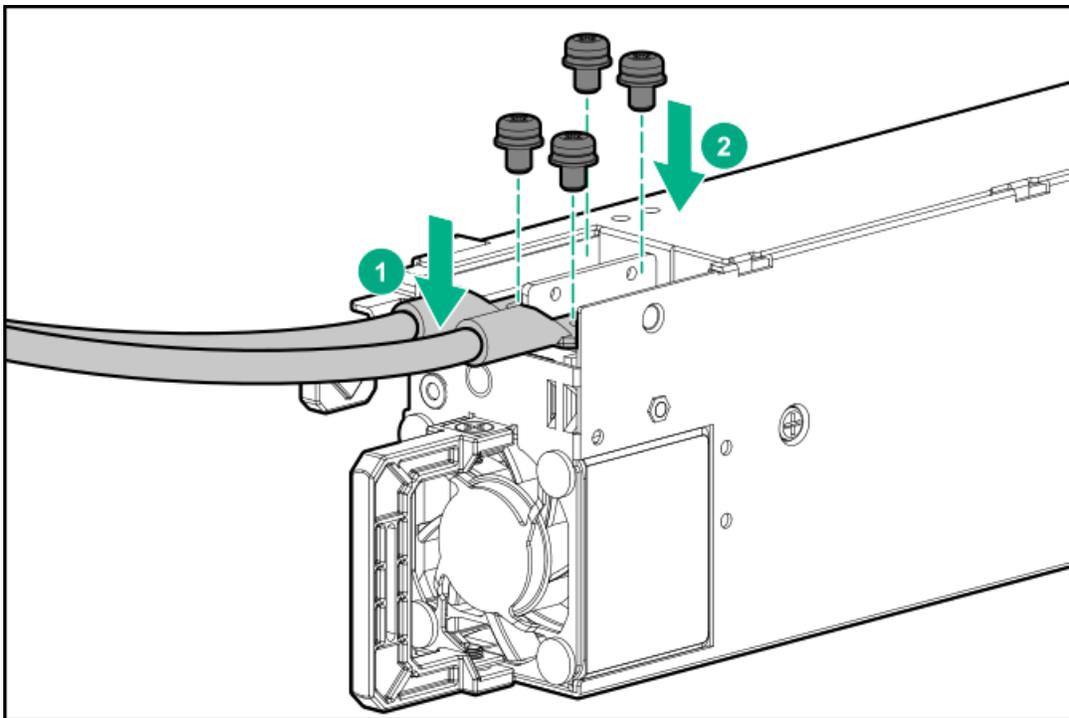


3. 以下の手順を実施します。

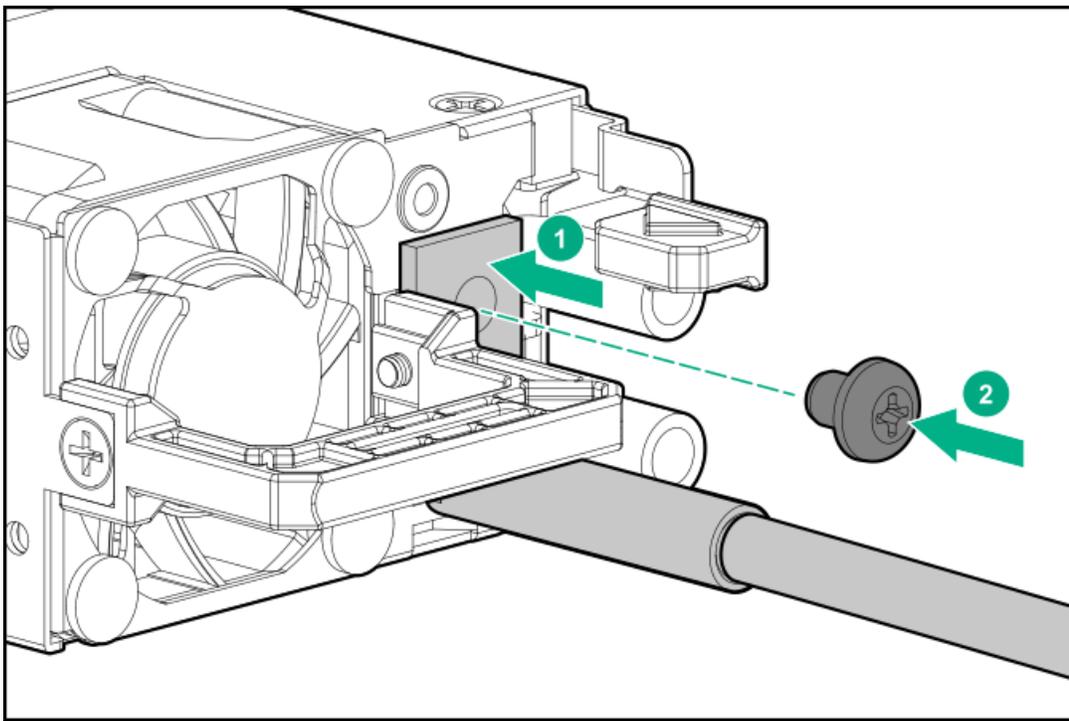
- a. 電源装置の前面からアース用ネジを取り外します。
- b. -48 Vワイヤーおよびリターンワイヤーのコネクターから4本のネジを取り外します。



4. -48 Vワイヤーおよびリターンワイヤーをマークに従ってコネクタに接続し、0.98 N m (8.68ポンドインチ) のトルクで締めます。



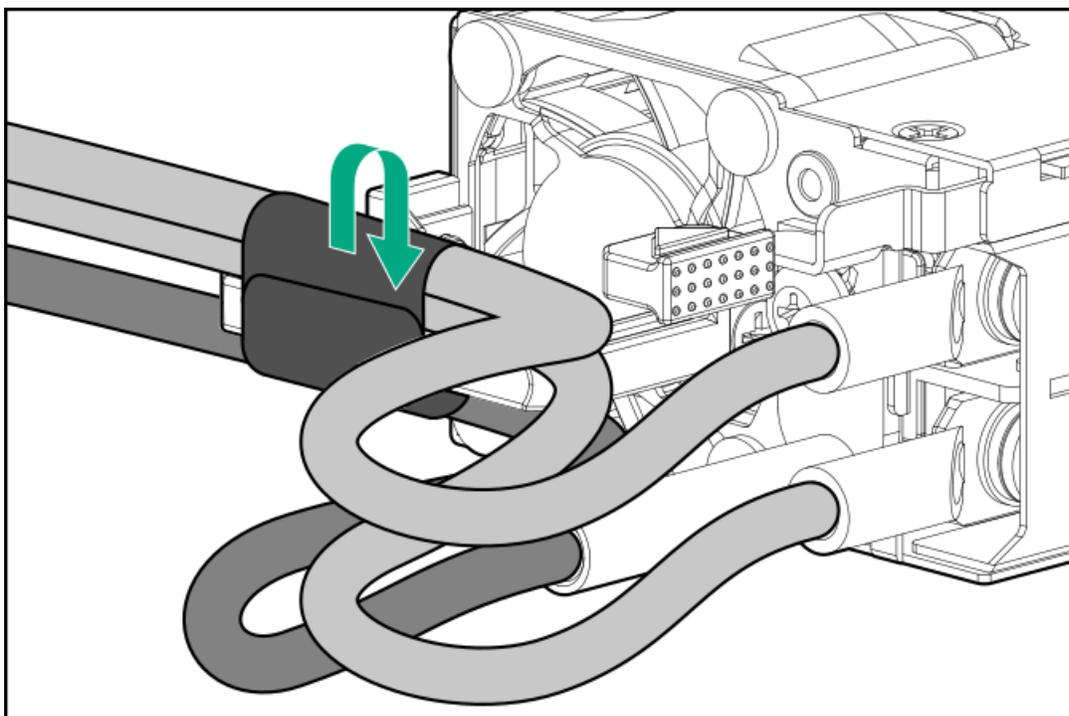
5. アース用ワイヤーをアース用ネジに取り付け、1.47 N m (13ポンドインチ) のトルクで締めます。



6. -48Vおよびリターンのコネクタに透明なプラスチックカバーを元どおりに取り付けます。
7. 電源コード、ワイヤー、ケーブルを、電源装置のハンドルに取り付けられたストレインリリーフストラップに固定します。
 - a. ストレインリリーフストラップを電源装置のハンドルから外します。

△ 注意：電源コードまたはサーバーのケーブルの内部ワイヤーの損傷を防止するために、きつく曲げることは避けてください。電源コードやサーバーのケーブルを被覆材にしわができるほどきつく曲げないでください。

- b. ワイヤーとケーブルをストレインリリーフストラップで固定します。ストラップの余っている部分を電源装置のハンドルの周囲に巻き付けます。



8. 電源装置が所定の位置にカチッと収まるまで、ベイにスライドさせて押し込みます。
9. -48 VDC電源がオフになっているか、PDUブレーカーがオフの位置にあることを確認します。
10. -48 VDC電源またはPDUに電源コードを接続します。
11. -48 V電源をオンにするかPDUブレーカーをオンの位置にして-48 Vの電力を電源装置に供給します。
12. 電源装置LEDが緑色に点灯していることを確認します。

DC電源ケーブルとDC電源を接続する

このタスクについて



警告:

感電や高電圧によるけがを防止するために、次の注意事項を守ってください。

- この装置の取り付けは、NECおよびIEC 60950-1/IEC 62368-1、the standard for Safety of Information Technology Equipmentで定められている、訓練を受けた専門の担当者が行ってください。
- 正しくアースされているセカンダリ回路の電源に、装置を接続してください。セカンダリ回路はプライマリ回路と直接の接続はなく、変圧器、コンバータ、または同等の隔離装置から電力を得ます。
- DC電源の過電流保護は45 Aを超えてはなりません。



警告:

DC電源装置を取り付ける際には、正極または負極リードを接続する前にアース線を接続する必要があります。



警告:

電源装置の取り付け手順やメンテナンスを実行する前に、電源装置の電源を切ってください。



注意:

サーバー装置で、DC供給回路のアースされている導体とアース用導体が接続されます。詳しくは、電源装置に付属のドキュメントを参照してください。



注意:

DC供給回路のアースされている導体とアース用導体がサーバー装置でDC接続されている場合は、次の条件を満たす必要があります。

- この装置は、DC供給システムのアース電極導体、またはその接続先であるアース端子のバーまたはバスからのボンディングジャンパーに直接接続する必要があります。
- 装置は、同じDC供給回路のアースされている導体とアース用導体間が接続されている他の装置、およびDCシステムのアースポイントと同じ隣接区域（隣接するキャビネットなど）に設置してください。DCシステムは、別の場所でアースされている必要があります。
- DC供給源は、装置と同じ建物内に設置する必要があります。
- スイッチや電源切断用のデバイスは、DC供給源とアース電極導体の接続ポイントの間にある、アースされている回路導体には置かないでください。

手順

1. DC電源コードが150 cm (59.06インチ) 以上になるように切ります。

① 重要:

リング端子は、UL認定の12ゲージに対応するものである必要があります。

① 重要:

ピラーまたはスタッドタイプの端子の最小公称ネジ径は、3.5 mm (0.138インチ) にする必要があります。また、ネジタイプの端子の直径は、5.0 mm (0.197インチ) にする必要があります。

- 電源にリングトングが必要な場合は、圧着工具を使って電源コード線にリングトングを取り付けます。
- 同色ワイヤーごとにまとめて、同じ電源に取り付けます。電源コードは、3本のワイヤー（黒色、赤色、および緑色）で構成されます。

詳しくは、電源装置に付属のドキュメントを参照してください。

Energy Packオプション

Hewlett Packard Enterpriseには、サーバーの予期しない停電時に備えて、コントローラーに書き込みキャッシュの内容をバックアップするために、2つのバックアップ電源オプションが用意されています。

- [HPE Smartストレージバッテリー](#)
- [HPE Smartストレージハイブリッドキャパシター](#)

① 重要:

HPE Smartストレージハイブリッドキャパシターは、Gen10サーバープラットフォーム以降でのみサポートされます。サポートされているコントローラーの一覧については、[製品のQuickSpecs](#)を参照してください。

取り付けがある場合、HPE iLOにEnergy Packのステータスが表示されます。詳しくは、[Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト](#)にあるHPE iLOユーザーガイドを参照してください。

サブトピック

[HPE Smartストレージバッテリー](#)

[HPE Smartストレージ ハイブリッドキャパシター](#)

[最小ファームウェアバージョン](#)

[Energy Packの取り付け](#)

HPE Smartストレージバッテリー

HPE Smartストレージバッテリーは、以下のデバイスをサポートします。

- HPE SmartアレイSRコントローラー

1個の96Wバッテリーで最大24のデバイスをサポートできます。

バッテリーの取り付け後、充電に最大で2時間かかることがあります。バックアップ電源が必要なコントローラーの機能は、バッテリーがバックアップ電源をサポートできるようになるまで再度有効になりません。

このサーバーは、145mmケーブル付き96W HPE Smartストレージバッテリーをサポートします。

HPE Smartストレージ ハイブリッドキャパシター

HPE Smartストレージハイブリッドキャパシターは、以下のデバイスをサポートします。

- HPE SmartRAID SRコントローラー

コンデンサーパックは、最大2つまでのデバイスをサポートできます。

このサーバーは、145mmケーブル付きHPE Smartストレージハイブリッドキャパシターをサポートします。

HPE Smartストレージ ハイブリッドキャパシターを取り付ける前に、このコンデンサーパックをサポートするためのファームウェアの最小要件をシステムBIOSが満たしていることを確認します。

i 重要:

システムBIOSまたはコントローラーファームウェアがファームウェアの最小推奨バージョンよりも古い場合、コンデンサーパックは1つのデバイスのみサポートします。

コンデンサーパックは、システムの起動後に完全に充電されています。

最小ファームウェアバージョン

製品	最小ファームウェアバージョン
HPE ProLiant DL380 Gen10 PlusサーバーシステムROM	1.40
HPE SmartアレイSRコントローラー	3.53

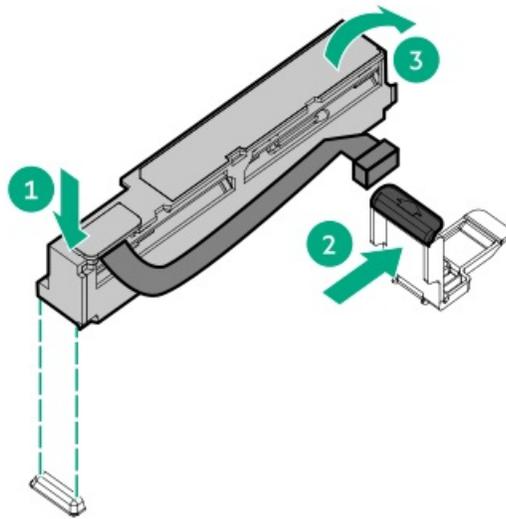
Energy Packの取り付け

前提条件

このオプションを取り付ける前に、ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネントがあることを確認します。

手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源を取り外す:
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - a. サーバーをラックから引き出す。
 - b. サーバーをラックから取り外す。
4. アクセスパネルを取り外す。
5. Energy Packを取り付けて、Energy Packケーブルを接続します。



6. アクセスパネルを取り付けます。
7. サーバーをラックに取り付けます。
8. 各電源コードをサーバーに接続します。
9. 各電源コードを電源ソースに接続します。
10. サーバーの電源を入れます。

タスクの結果

以上で取り付けは完了です。

メモリオプション

i 重要: このサーバーは、LRDIMMとRDIMMの混在をサポートしていません。これらのDIMMをいずれかの組み合わせで混在させると、BIOS初期化中にサーバーが停止する場合があります。サーバーに取り付けられているすべてのメモリは、同じタイプである必要があります。

サブトピック

メモリ取り付け情報

DIMMプロセッサの互換性

HPE SmartMemory速度情報

DIMMブランクの取り付け

DIMMの取り付け

HPE向けインテルOptane Persistent Memory 200シリーズ

メモリ取り付け情報

特定のメモリ取り付けについては、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト (<https://www.hpe.com/docs/memory-population-rules>) にあるメモリの取り付けガイドラインを参照してください。

DIMMプロセッサの互換性

インストールされたプロセッサによって、サーバーでサポートされるDIMMのタイプが決まります。

- 第3世代インテルXeonスケーラブルプロセッサは、DDR4-3200 DIMMをサポートします。

DIMMタイプを混在させて取り付けることはできません。サーバーでサポートされているDDR4-3200 DIMMのみを取り付けます。

HPE SmartMemory速度情報

メモリ速度の情報について詳しくは、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト (<https://www.hpe.com/docs/memory-speed-table>) を参照してください。

DIMMブランクの取り付け

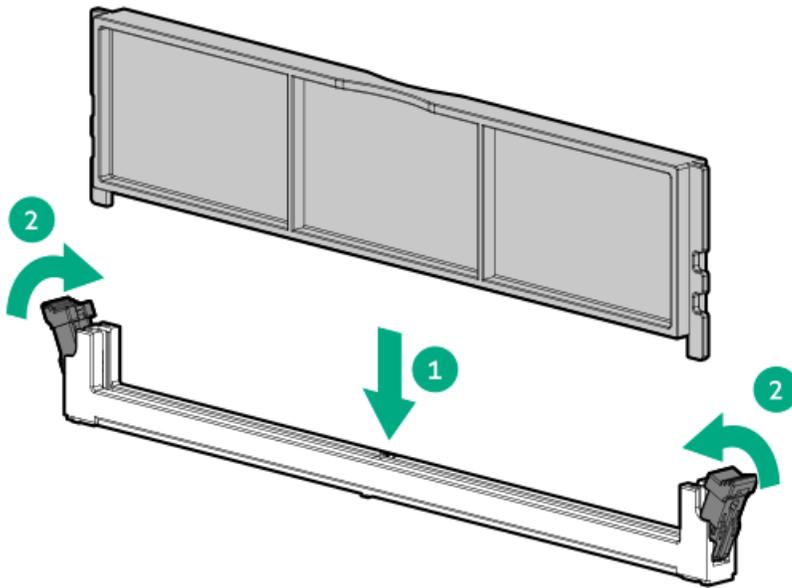
このタスクについて

次の表を使用して、サーバーの温度制限により、構成のすべての空きスロットにDIMMブランクが必要かどうかを判断してください。

プロセッサ-TDP	DIMMブランクの取り付け
105W~140W	推奨
230W~270W	推奨
150W~270W	必須

手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源を取り外す：
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - a. サーバーをラックから引き出します。
 - b. サーバーをラックから取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. DIMMスロットのラッチを開きます。
6. DIMMブランクを取り付けます。



DIMMの取り付け

前提条件

このオプションを取り付ける前に、以下のものがあることを確認します。

ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネント

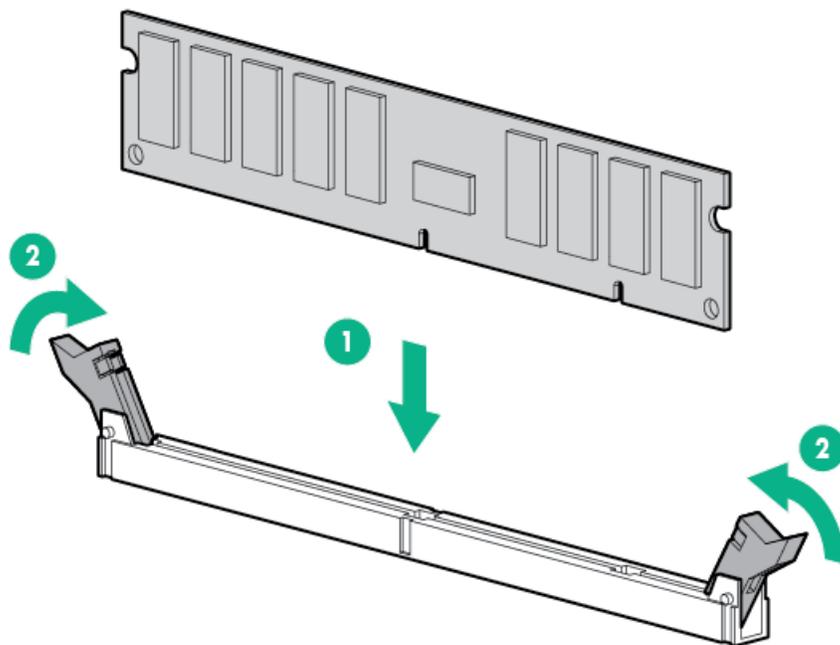
個々のオプションについて詳しくは、サーバーのQuickSpecsを[Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト](#)で参照してください。

このタスクについて

このサーバーは、最大32枚のDIMMをサポートします。

手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源の取り外し：
 - a. 各電源コードを電源から抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - a. サーバーをラックから引き出します。
 - b. サーバーをラックから取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. DIMMスロットのラッチを開きます。
6. DIMMを取り付けます。



7. アクセスパネルを取り付けます。
8. サーバーをラックに取り付けます。
9. 各電源コードをサーバーに接続します。
10. 各電源コードを電源ソースに接続します。
11. サーバーの電源を入れます。

タスクの結果

UEFIシステムユーティリティのBIOS/プラットフォーム構成 (RBSU) を使用して、メモリモードを構成します。

LEDおよび障害が発生したDIMMのトラブルシューティングについて詳しくは、[System Insight Display LEDの組み合わせについての説明を参照してください。](#)

HPE向けインテルOptane Persistent Memory 200シリーズ

HPE向けインテルOptane Persistent Memory 200シリーズは、メモリを高密度メモリ（メモリモード）または高速ストレージ（App Directモード）として展開する柔軟性を提供し、最大6.0 TBのソケット単位のメモリ容量を可能にします。不揮発性メモリモジュールと従来の揮発性DRAM DIMMの併用により、高速で大容量の、費用対効果の高いメモリとストレージを提供し、データの迅速な保存、移動、処理を可能にすることで、ビッグデータのワークロードと分析を実現します。

不揮発性メモリモジュールは、標準のDIMMフォームファクターを使用し、サーバーメモリスロット内でDIMMの横に取り付けられます。HPE向けインテルOptane Persistent Memory 200シリーズは、第3世代インテルXeonスケーラブルプロセッサでのみ使用するように設計されており、次の容量が用意されています。

- 128 GB
- 256 GB
- 512 GB

サブトピック

[不揮発性メモリモジュール - プロセッサの互換性](#)

[不揮発性メモリモジュールの取り付け情報](#)

不揮発性メモリモジュールサポートのシステム要件

不揮発性メモリモジュールの取り付け

HPE向けインテルOptane Persistent Memory 200シリーズ用のサーバーの構成

不揮発性メモリモジュール - プロセッサの互換性

HPE向けインテルOptane Persistent Memory 200シリーズは、第2世代インテルXeonスケーラブルプロセッサを搭載するサーバーでのみサポートされます。

不揮発性メモリモジュールの取り付け情報

特定の取り付けと構成情報については、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト (<https://www.hpe.com/docs/memory-population-rules>) にあるメモリの取り付けガイドラインを参照してください。

不揮発性メモリモジュールサポートのシステム要件

① 重要:

Hewlett Packard Enterpriseでは、高可用性 (HA) のためにクラスター構成などのベストプラクティス構成を実装することをお勧めします。

不揮発性メモリモジュールを取り付ける前に、以下のコンポーネントとソフトウェアが使用できることを確認します。

- 第2世代インテルXeonスケーラブルプロセッサを搭載したサポート対象のHPE ProLiant Gen10サーバーまたはSynergy コンピュータモジュール。詳しくは、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト (<https://www.hpe.com/support/persistentmemoryQS>) にある製品QuickSpecsを参照してください。
- HPE DDR4標準メモリRDIMMまたはLRDIMM (数は選択した構成によって異なります)。
- サポート済みのファームウェアとドライバー :
- サポートされているオペレーティングシステム :
- 不揮発性メモリモジュールの暗号化 (オプション) のためのハードウェアおよびライセンス要件 :

詳しくは、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト (<https://www.hpe.com/info/persistentmemory-docs>) にあるHPE向けインテルOptane Persistent Memoryユーザーガイドを参照してください。

不揮発性メモリモジュールの取り付け

前提条件

この手順を実行する前に、次のものを用意しておきます。

- ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネント
- T-10トルクスドライバーは、アクセスパネルのロックを解除するために必要な場合があります。

このタスクについて

この手順は新しい不揮発性メモリモジュールの取り付けにのみ使用します。この不揮発性メモリモジュールを他のサー

バーから移行する場合は、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト (<https://www.hpe.com/info/persistentmemory-docs>) にあるHPE向けインテルOptane Persistent Memory 200シリーズユーザーガイドを参照してください。

手順

1. 次のアラートに注意してください。

△ 注意:

DIMMおよび不揮発性メモリモジュールは適切な配置のために重要です。コンポーネントを取り付ける前に、DIMMまたは不揮発性メモリモジュールのノッチを対応するスロットのノッチに合わせます。DIMMまたは不揮発性メモリモジュールをスロットに押し込まないでください。正しく取り付けられた場合、必ずしもすべてのDIMMまたは不揮発性メモリモジュールが同じ方向に向く訳ではありません。

△ 注意:

静電気放電によって、電気回路などのコンポーネントが損傷することがあります。必ず、正しくアースを行ってからこの手順を開始してください。

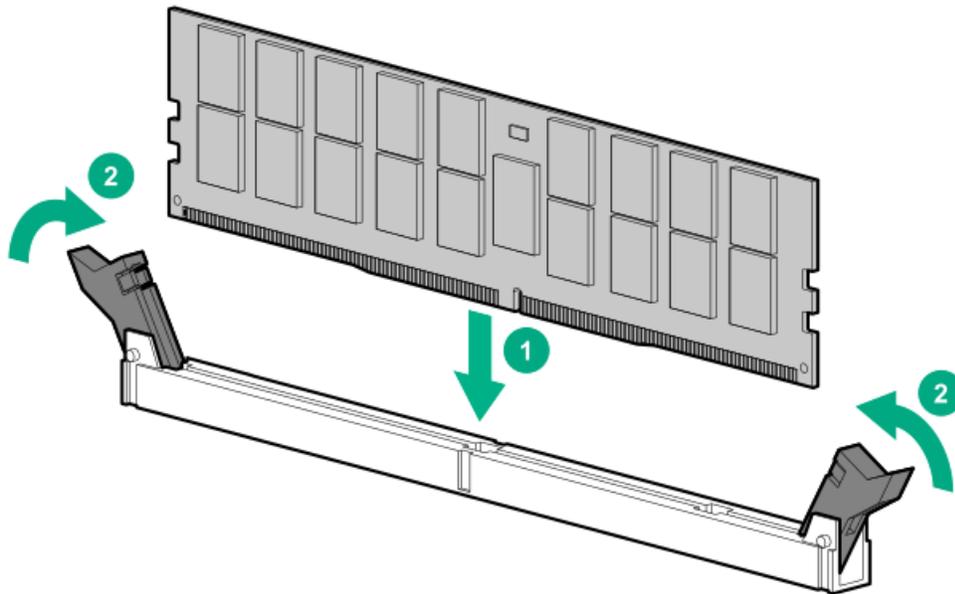
△ 注意:

不揮発性メモリモジュールを正しく取り扱わない場合、コンポーネントとシステムボードのコネクタに損傷が発生する原因となります。

① 重要:

Hewlett Packard Enterpriseでは、高可用性 (HA) のためにクラスター構成などのベストプラクティス構成を実装することをお勧めします。

-
2. サーバーの電源を切ります (サーバーの電源を切る) 。
 3. すべての電源を取り外す:
 - a. 各電源コードを電源から抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
 4. 次のいずれかを実行します。
 - a. サーバーをラックから引き出します (サーバーをラックから引き出す) 。
 - b. サーバーをラックから取り外します (サーバーをラックから取り外す) 。
 5. サーバーを平らで水平な作業台に置きます。
 6. アクセスパネルを取り外す。
 7. DIMMスロットのラッチを開きます。
 8. 不揮発性メモリモジュールを取り付けます。



9. アクセスパネルを取り付けます（アクセスパネルを取り付ける）。
10. サーバーをラック内部へスライドさせるか、または取り付けます。
11. すべての電源ケーブルを取り外した場合は、接続し直します。
12. サーバーの電源を入れます。
13. サーバーをHPE向けインテルOptane Persistent Memory用に構成します。

HPE向けインテルOptane Persistent Memory 200シリーズ用のサーバーの構成

不揮発性メモリモジュールを取り付けたら、HPE向けインテルOptane Persistent Memory用にサーバーを構成します。

❗ 重要:

最大限のアップタイムとデータ保護を確保するには、高可用性のベストプラクティスに関するソフトウェアアプリケーションプロバイダの推奨事項に常に従ってください。

次のような多数の構成ツールがあります。

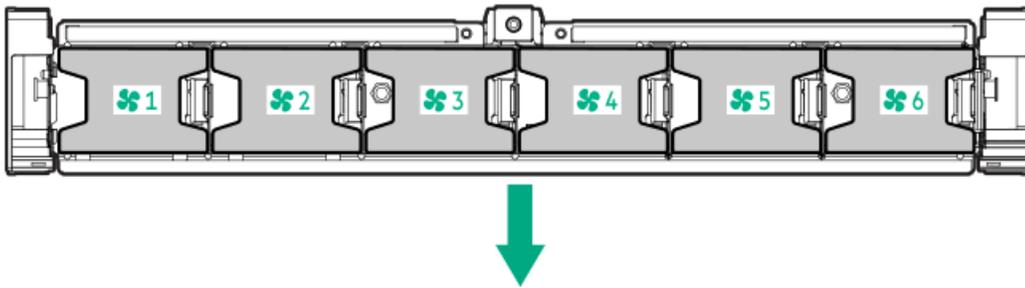
- UEFIシステムユーティリティ - リモートコンソールからUEFIシステムユーティリティを使用してサーバーを構成します。UEFIシステムユーティリティにアクセスするには、POST中にF9キーを押します。
- iLO RESTful API - RESTfulインターフェイスツール (ilorest) または他のサードパーティ製ツールなどを介してiLO RESTful APIを使用します。

詳しくは、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト (<https://www.hpe.com/info/persistentmemory-docs>) にあるHPE向けインテルOptane Persistent Memory 200シリーズユーザーガイドを参照してください。

ファンのオプション

△ 注意: サーバーコンポーネントの損傷を防止するために、シングルプロセッサ構成では、必ずファンベイ1と2にファンブラックを取り付けてください。

△ 注意: 装置の損傷を防止するために、最適な数のファンが取り付けられていない場合は、サーバーを長時間動作させないでください。サーバーが起動する場合がありますが、必要なファンが取り付けられて稼働していない状態でサーバーを動作させないでください。



次の表に、有効なファン構成を示します。

構成	ファンベイ1	ファンベイ2	ファンベイ3	ファンベイ4	ファンベイ5	ファンベイ6
プロセッサー1個	ファンブランク	ファンブランク	ファン	ファン	ファン	ファン
プロセッサー1個、SFF (2.5型) ドライブ24個またはLFF (3.5型) ドライブ12個の構成、高性能ファンを使用	ファン	ファン	ファン	ファン	ファン	ファン
プロセッサー2個	ファン	ファン	ファン	ファン	ファン	ファン

シングルプロセッサ構成の場合、24 SFF (2.5型) および12 LFF (3.5型) 構成を除き、冗長化のためには特定のファンベイに4つのファンと2つのブランクが必要です。ファンの障害やファンの欠落が発生すると、冗長性を損ないます。2つ目のファンに障害が発生したりファンがないと、サーバーが通常の方法でシャットダウンされます。

デュアルプロセッサの構成またはシングルプロセッサの24 SFF (2.5型) あるいは12 LFF (3.5型) 構成の場合、冗長化のためには6つのファンが必要です。ファンの障害やファンの欠落が発生すると、冗長性を損ないます。2つ目のファンに障害が発生したりファンがないと、サーバーが通常の方法でシャットダウンされます。

高パフォーマンスファンは24 SFF (2.5型) および12 LFF (3.5型) ドライブ構成で、次の取り付けに必要となる場合があります。

- オプションのGPUライザーの取り付け
- ASHRAE準拠の構成
詳しくは、[Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト](#)を参照してください。

サーバーはファンの回転速度の変更をサポートしています。温度が上昇し、ファンの回転速度を上げてサーバーを冷却する必要が発生するまでは、ファンは最小限の速度で回転します。サーバーは、温度に関連した以下の場合にシャットダウンします。

- 注意レベルの温度が検出された場合、iLOは、POST実行時およびOSで、通常の方法のシャットダウンを実行します。通常のシャットダウンが行われる前にサーバーハードウェアが重大レベルの温度を検出した場合、サーバーが即時シャットダウンを実行します。
- サーマルシャットダウン機能がBIOS/プラットフォーム構成 (RBSU) で無効に設定されている場合、注意レベルの温度が検出されても、iLOは通常の方法のシャットダウンを実行しません。この機能が無効に設定されている場合でも、重大な

温度レベルが検出されると、サーバーハードウェアは即時シャットダウンを実行します。

△ 注意: BIOS/プラットフォーム構成 (RBSU) で高温シャットダウン機能が無効に設定されている場合、高温イベントによりサーバーコンポーネントが損傷する場合があります。

サブピック

高性能ファンの取り付け

高性能ファンの取り付け

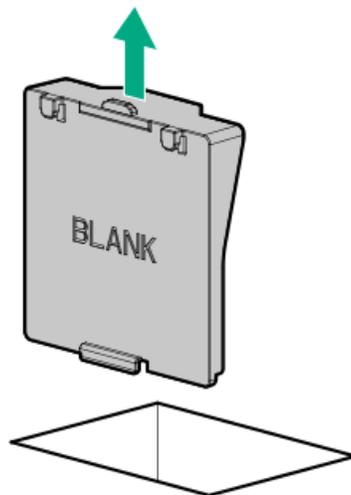
このタスクについて

△ 注意: 注意: サーバーの損傷を防ぐために、ファンを取り付ける前に、すべてのDIMMラッチが閉じられロックされていることを確認します。

△ 注意:
アクセスパネルを開けたまま、または取り外したまま長時間サーバーを動作させないでください。このような状態でサーバーを動作させると、通気が正しく行われないために冷却機構が正常に機能しなくなり、高温によって装置が損傷する場合があります。

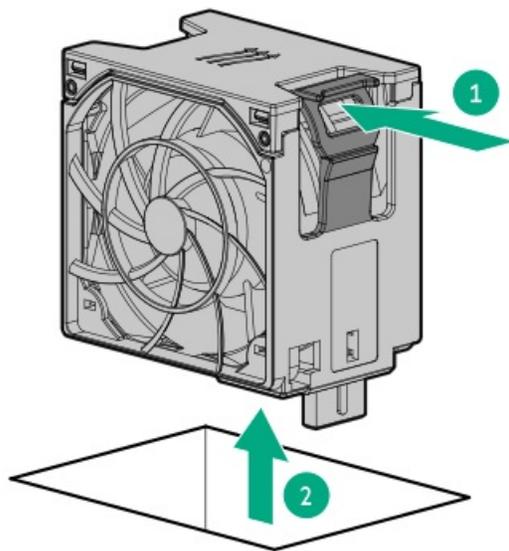
手順

1. サーバーをラックから引き出します。
2. アクセスパネルを取り外します。
3. ファンのブラנקが取り付けられている場合は、すべて取り外します。

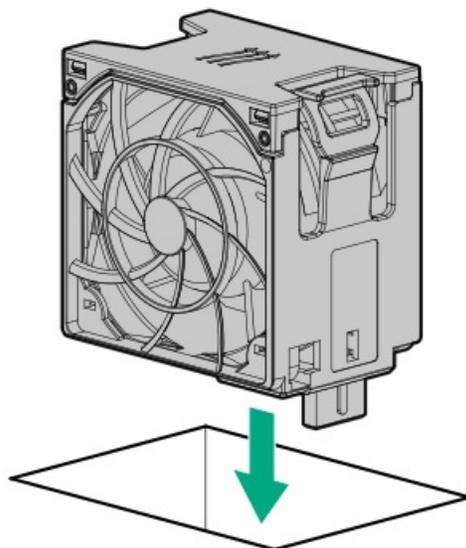


4. エアバッフルを取り外します。
5. すべての標準的ファンを取り外します。

ⓘ 重要: 同じサーバー内に標準ファンと高性能ファンを混在させないでください。



6. すべてのファンベイに高性能ファンを取り付けます。



7. エアバッフルを取り付けます。

8. アクセスパネルを取り付けます。

タスクの結果

以上で取り付けは完了です。

ドライブオプション

構成によって、このサーバーはSAS、SATA、NVMe、およびM.2ドライブをサポートします。ドライブのサポートについては詳しくは、製品のQuickSpecsを参照してください。

サーバーにハードディスクドライブを追加するときには、次の一般的なガイドラインに従ってください。

- システムがすべてのデバイス番号を自動的に設定します。

- ドライブ番号については、「[ドライブベイの番号](#)」を参照してください。
- ハードドライブが1台だけ使用されている場合は、最も小さなデバイス番号のベイに取り付けてください。
- ストレージの容量効率を最大にするには、容量が同じドライブを同じドライブアレイにグループ化します。
- NVMe SSDはPCIeバスデバイスです。デバイスの動作を停止させずにNVMeドライブを取り外さないでください。アクティブな状態でドライブを取り外すと、データが失われる可能性があります。

サブトピック

[ドライブのガイドライン](#)

[ホットプラグ対応SAS、SATA、またはNVMeドライブの取り付け](#)

[M.2ドライブの取り付け](#)

ドライブのガイドライン

サーバーはSAS、SATA、およびNVMeドライブをサポートします（構成による）。

次の一般的なガイドラインに従ってください。

- システムがすべてのドライブ番号を自動的に設定します。
- ハードドライブを1台しか使用しない場合、最も小さいドライブ番号のベイに取り付けてください。ドライブ番号については、「[ドライブベイの番号](#)」を参照してください。
- NVMe SSDはPCIeバスデバイスです。PCIeバスに接続されたデバイスは、デバイスとバスの信号またはトラフィックフローが完全に終了するまで取り外すことはできません。
取り外し禁止ボタンのLEDが点滅している場合は、ドライブベイからNVMe SSDを取り外さないでください。取り外し禁止ボタンのLEDの点滅は、デバイスがまだ使用されていることを示します。デバイスの信号またはトラフィックフローが完全に終了する前にNVMe SSDを取り外すと、データが消失する可能性があります。
- 容量が同じドライブを同じドライブアレイにグループ化すると、ストレージの容量効率が最大になります。

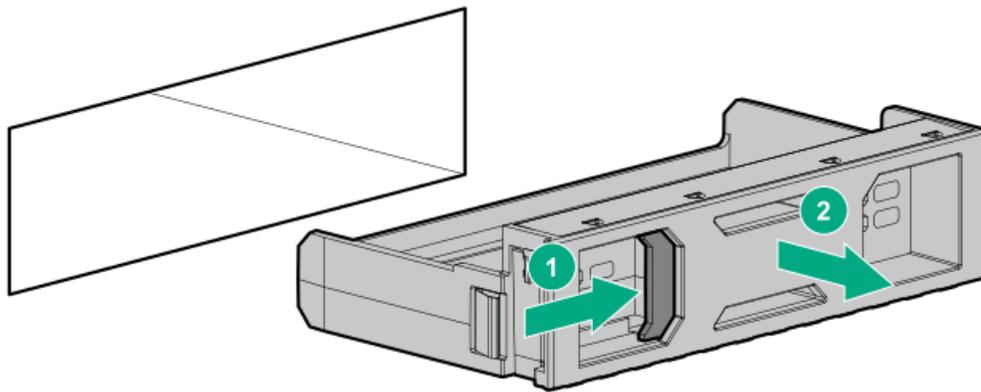
ホットプラグ対応SAS、SATA、またはNVMeドライブの取り付け

このタスクについて

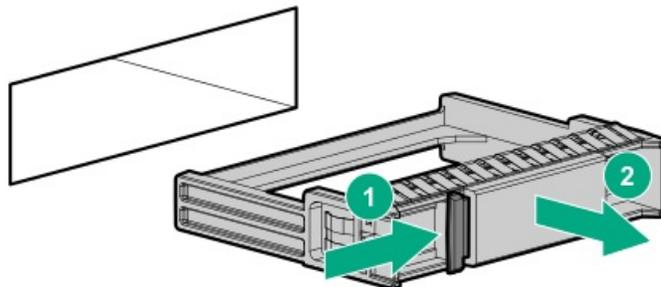
△ 注意: 不適切な冷却や高温による装置の損傷を防止するために、すべてのドライブベイとデバイスベイに必ず、コンポーネントかブランクのいずれかを実装してサーバーを動作させてください。

手順

1. 次のドライブブランクを取り外します。
 - LFF（3.5型）ドライブブランク

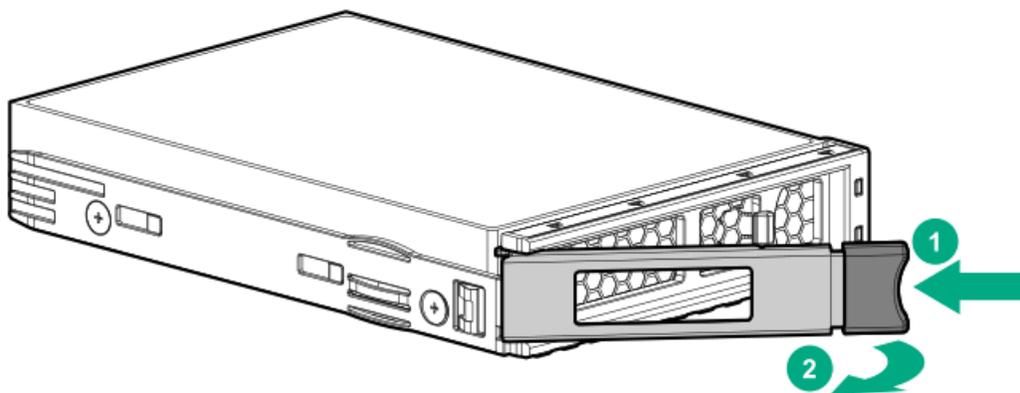


- SFF (2.5型) ドライブブランク

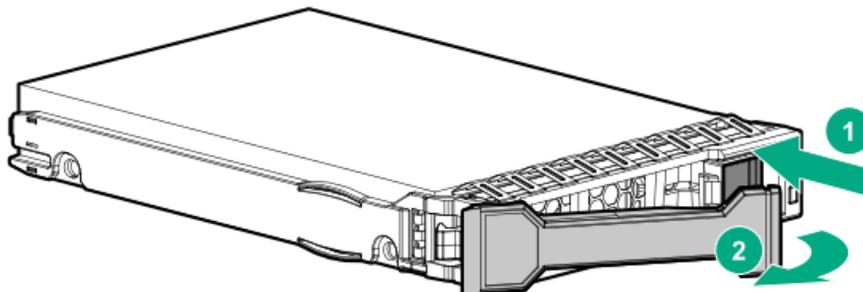


2. ドライブを準備します。

- LFF (3.5型) ドライブ



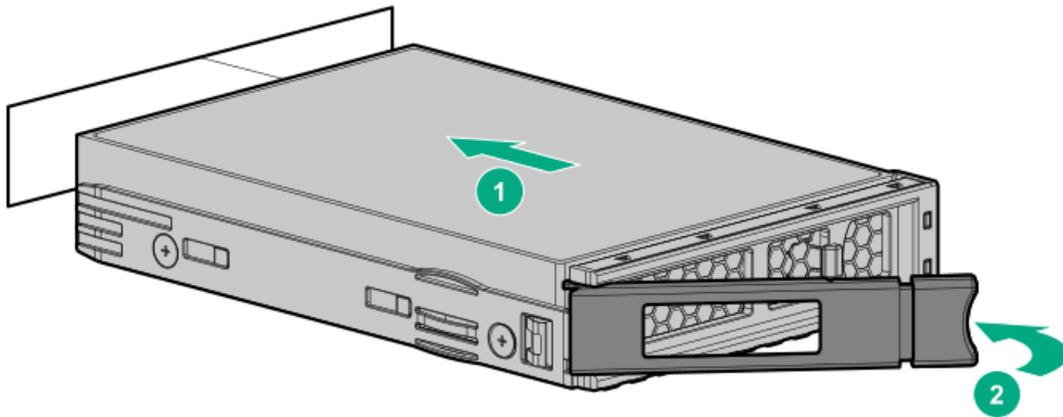
- SFF (2.5型) ドライブ



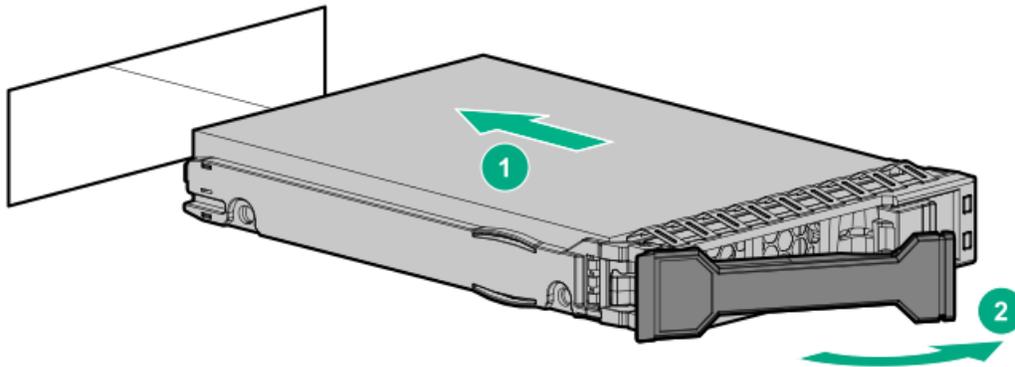
3. ドライブを取り付けます。

- LFF (3.5型) ドライブ





- SFF (2.5型) ドライブ



4. ドライブLEDの定義から、ドライブのステータスを確認します。
5. ドライブアレイを構成するには、詳しい手順について次のドキュメントを参照してください。
 - HPE SR Gen10 PlusソフトウェアRAIDユーザーガイド (<https://www.hpe.com/support/SSC-SRGen10Plus-ug>)
 - HPE SmartRAID SR Gen10 Plusコントローラーユーザーガイド (<https://www.hpe.com/info/SmartRAID-Gen10Plus-UG>)
 - HPE MegaRAID MR Gen10 Plusコントローラーユーザーガイド (<https://www.hpe.com/info/MegaRAID-Gen10Plus-UG>)

M. 2ドライブの取り付け

前提条件

この手順を実行する前に、次のものを用意しておきます。

- ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネント
- T-10トルクスドライバー

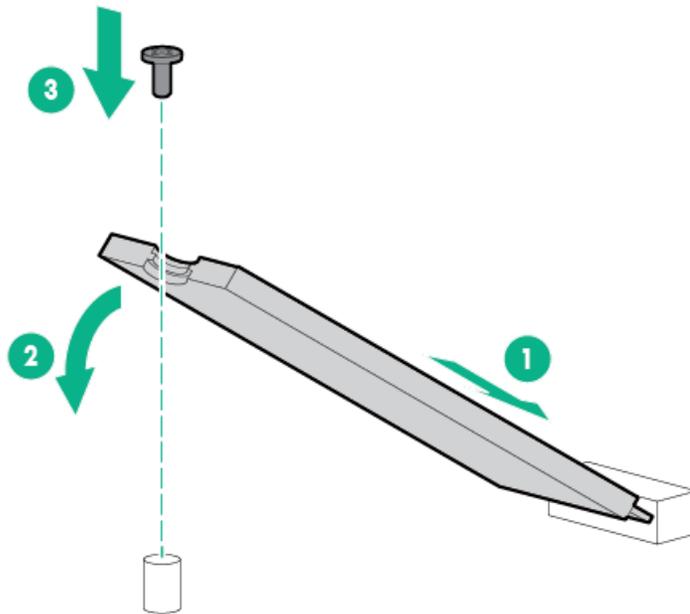
このタスクについて

この手順は、拡張カード、ライザー、またはシステムボード上のみ搭載されたM. 2ドライブを交換するための手順です。この手順をuFFドライブの交換には使用しないでください。

手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源の取り外し：

- a. 各電源コードを電源から抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 以下のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - サーバーをラックから取り外します。
 4. アクセスパネルを取り外します。
 5. ライザーケージを取り外します。
 6. ドライブを取り付けます。



タスクの結果

以上で取り付けは完了です。

ユニバーサルメディアベイの取り付け

前提条件

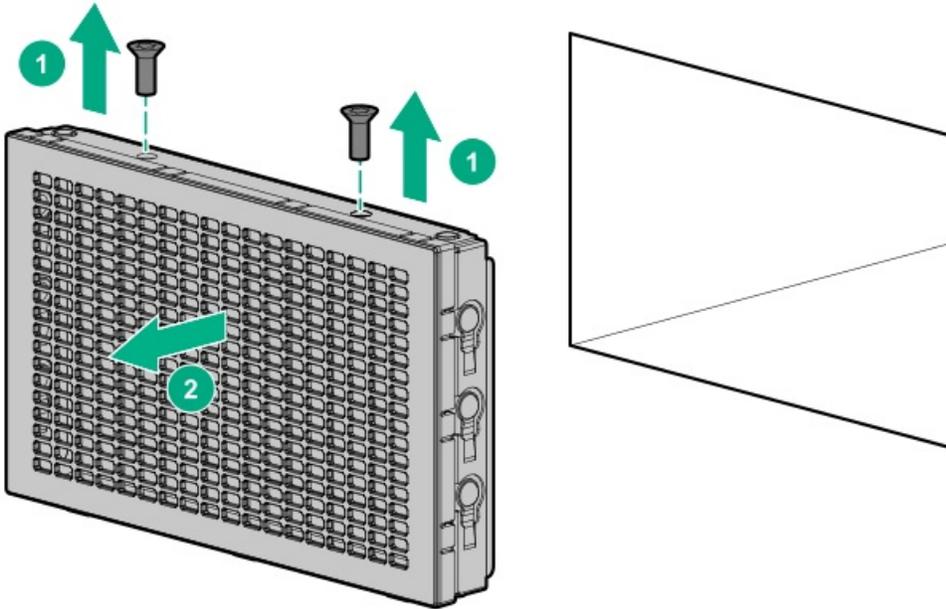
この手順を実行する前に、次のものを用意しておきます。

- ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネント
- T-10トルクスドライバー

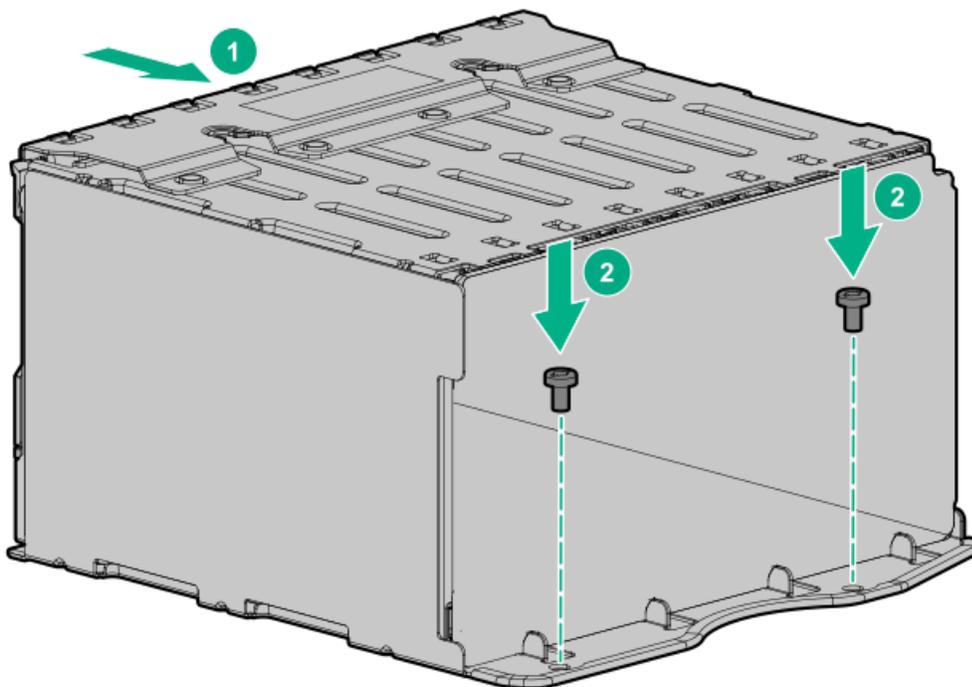
手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源を取り外します。
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。

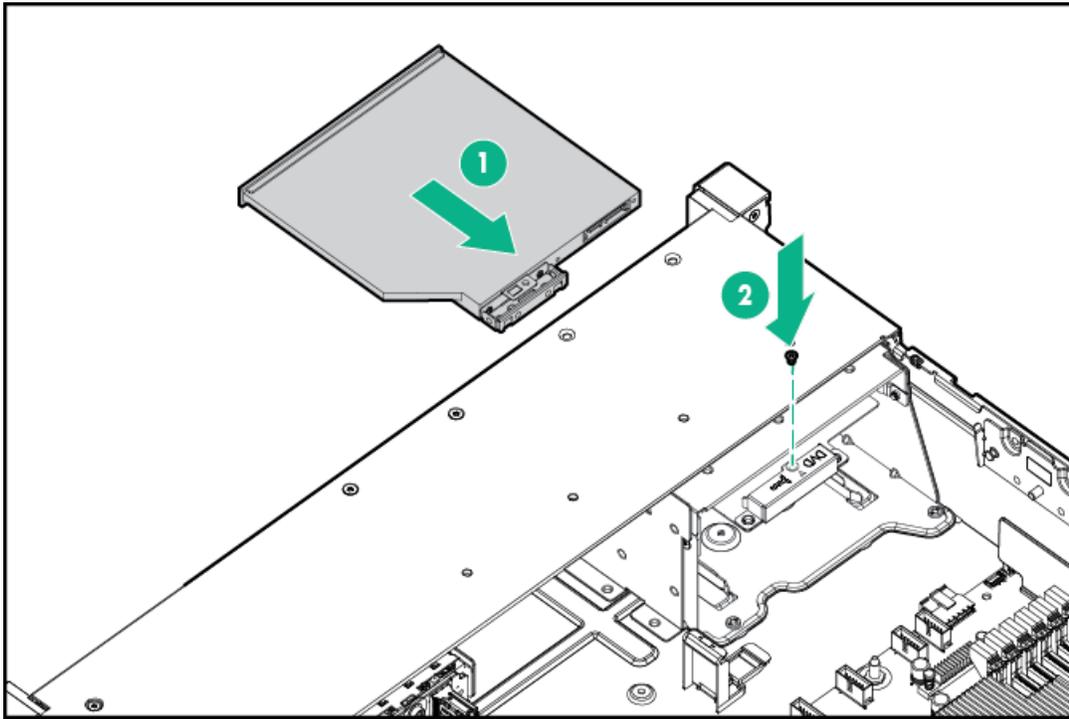
- サーバーをラックから引き出します。
 - サーバーをラックから取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
 5. エアバッフルを取り外します。
 6. ファンケージを取り外します。
 7. ベイブランクを取り外します。



8. 開口部を通してUSBとビデオのケーブルを配線します。
9. 2ベイSFF (2.5型) フロントドライブケースを取り付ける場合は、ドライブケースを取り付けます。
10. ユニバーサルメディアベイを取り付けます。



11. (オプション) オプティカルディスクドライブを取り付けます。



12. ケーブルを接続します。
13. ファンケージを取り付けます。
14. エアバッフルを取り付けます。
15. アクセスパネルを取り付けます。
16. サーバーをスライドさせてラックに押し込みます。
17. 各電源コードをサーバーに接続します。
18. 各電源コードを電源ソースに接続します。
19. サーバーの電源を入れます。

タスクの結果

以上で取り付けは完了です。

ストレージコントローラーオプション

サーバーは、以下のストレージコントローラーをサポートします。

- 内蔵コントローラー
UEFIシステムユーティリティを介して有効化され、システムユーティリティまたはHPE Smart Storage Administrator (インテリジェントプロビジョニング) を使用して構成されます。
- タイパコントローラー
タイプaコントローラーは、タイプaストレージコントローラーロットに取り付けます。
- タイプpコントローラー
タイプpコントローラーはPCIe拡張ロットに取り付けます。

サポートされているストレージコントローラーモデルの完全なリストについては、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト (<https://www.hpe.com/info/qs>) にあるサーバーのQuickSpecsを参照してください。

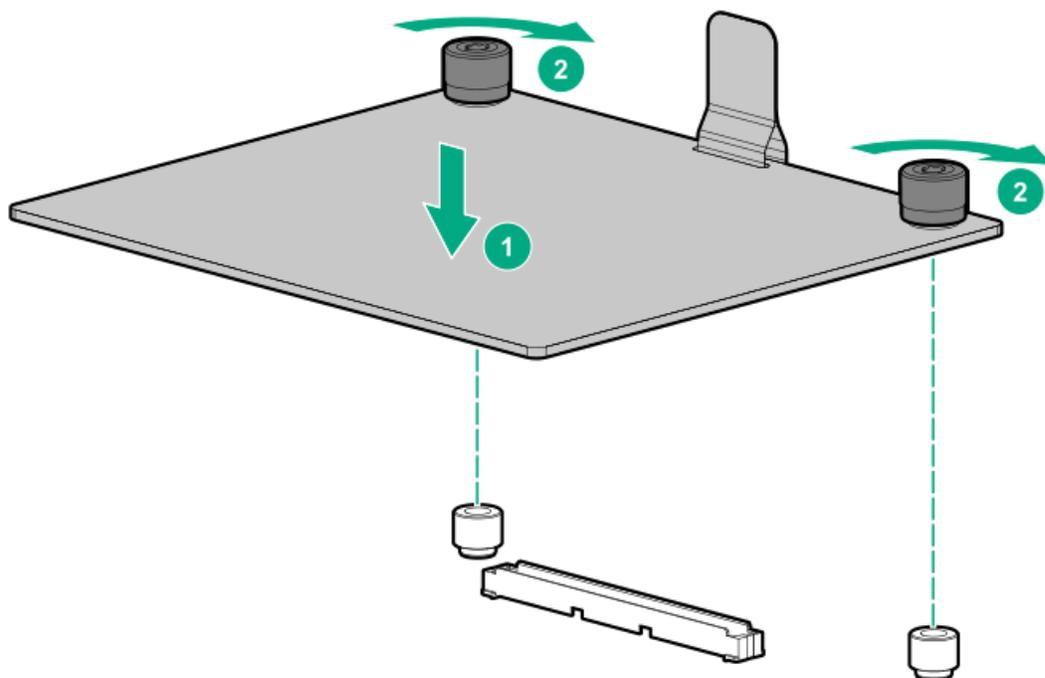
ストレージコントローラーの取り付け

前提条件

この手順を実行する前に、ハードウェアオプションキットに付属のコンポーネントが揃っていることを確認してください。

手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源を取り外します。
 - a. 各電源コードを電源から抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 以下のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - ラックからサーバーを取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. 以下のいずれかを実行します。
 - エアバッフルを取り外します。
 - 4 LFF (3.5型) ミッドプレーンドライブケージが取り付けられている場合は、取り外します。
6. 以下のいずれかを実行します。
 - タイプaのSmartアレイコントローラーの場合、コントローラーをSmartアレイモジュラーコントローラーコネクターに取り付けます。



- タイプpのSmartアレイコントローラーの場合、コントローラーを互換性のある拡張スロットに取り付けます。

7. コントローラーのケーブルの配線を行います。

タスクの結果

以上で取り付けは完了です。

ライザーおよびライザーケージオプション

サブトピック

プライマリおよびセカンダリライザーの取り付け

ターシャリライザーの取り付け

セカンダリライザーケージの取り付け

ターシャリライザーケージの取り付け

プライマリおよびセカンダリライザーの取り付け

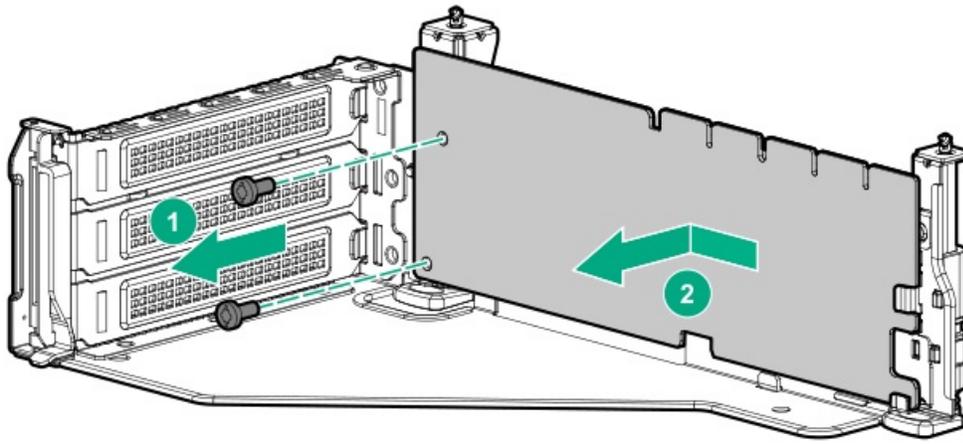
前提条件

この手順を実行する前に、次のものを用意しておきます。

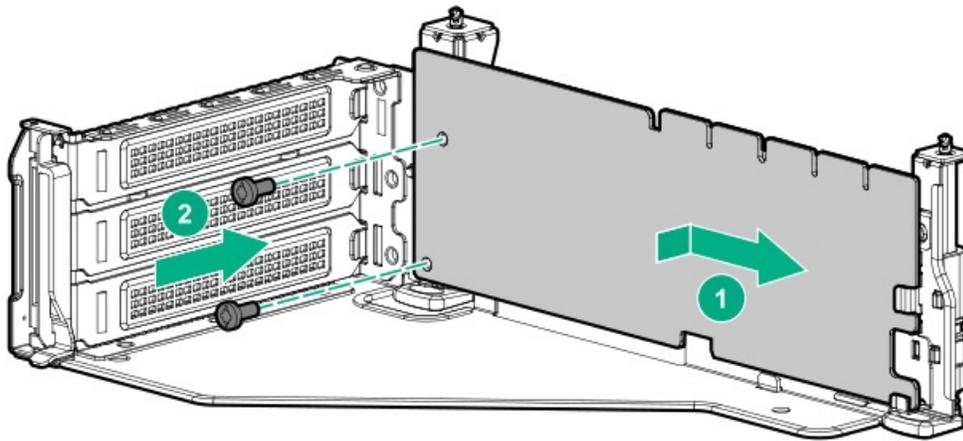
- ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネント
- T-10トルクスドライバー

手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. 次のいずれかを実行します。
 - 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - サーバーをラックから取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. ライザーケージを取り外します。
6. ライザーボードを取り外します。



7. ライザーを取り付けます。

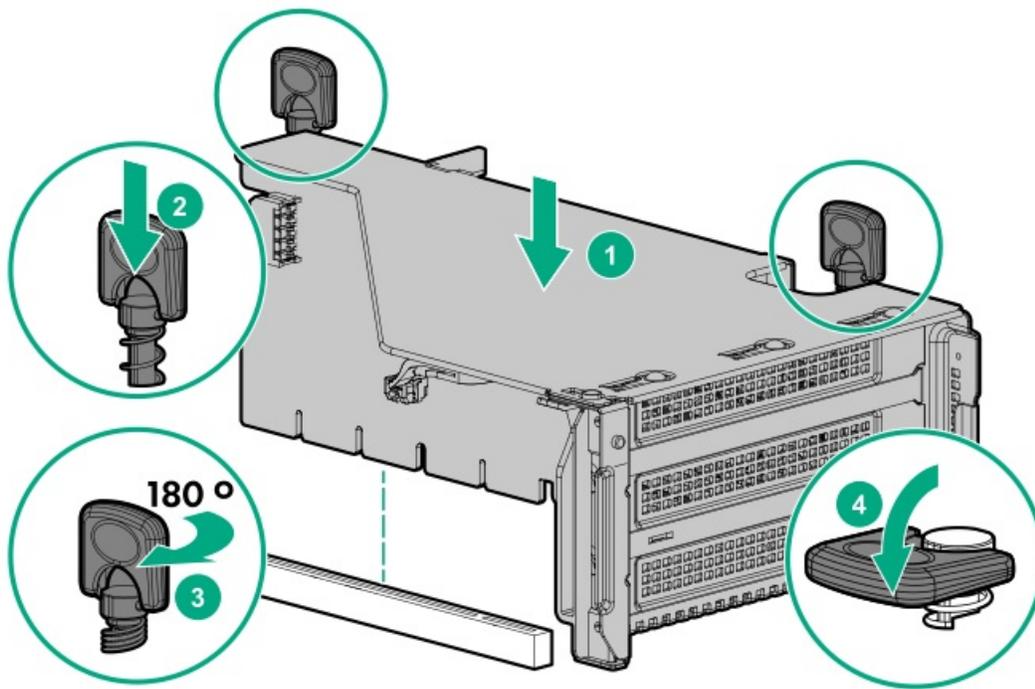


8. 必要な場合、拡張ボードを取り付けます。

9. 必要な場合は、データケーブルをライザーまたは拡張ボードに接続します。

10. ライザーケースを取り付けます。





11. 必要な場合は、データケーブルをドライブバックプレーンに接続します。

タスクの結果

以上で取り付けは完了です。

ターシャリライザーの取り付け

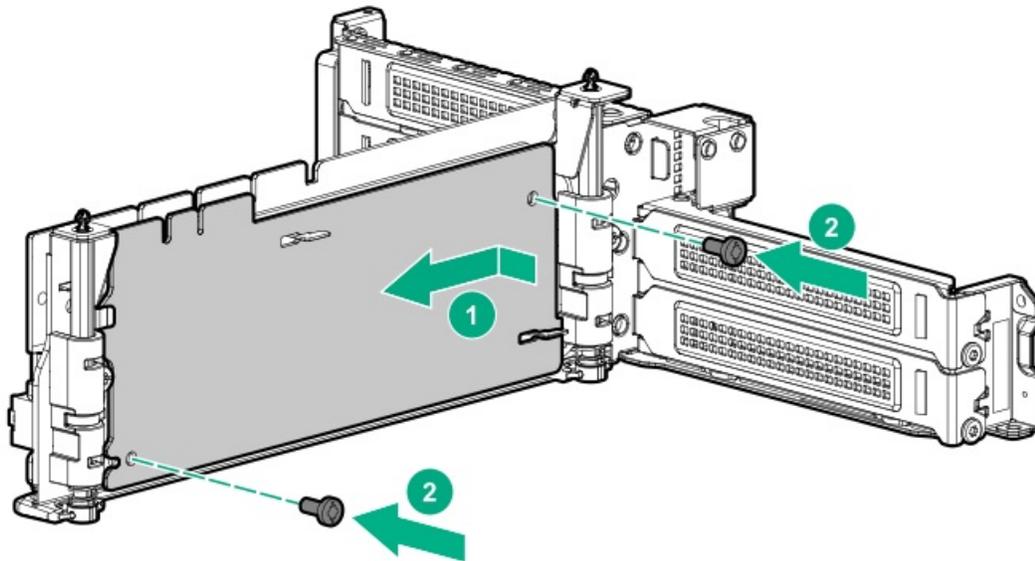
前提条件

この手順を実行する前に、次のものを用意しておきます。

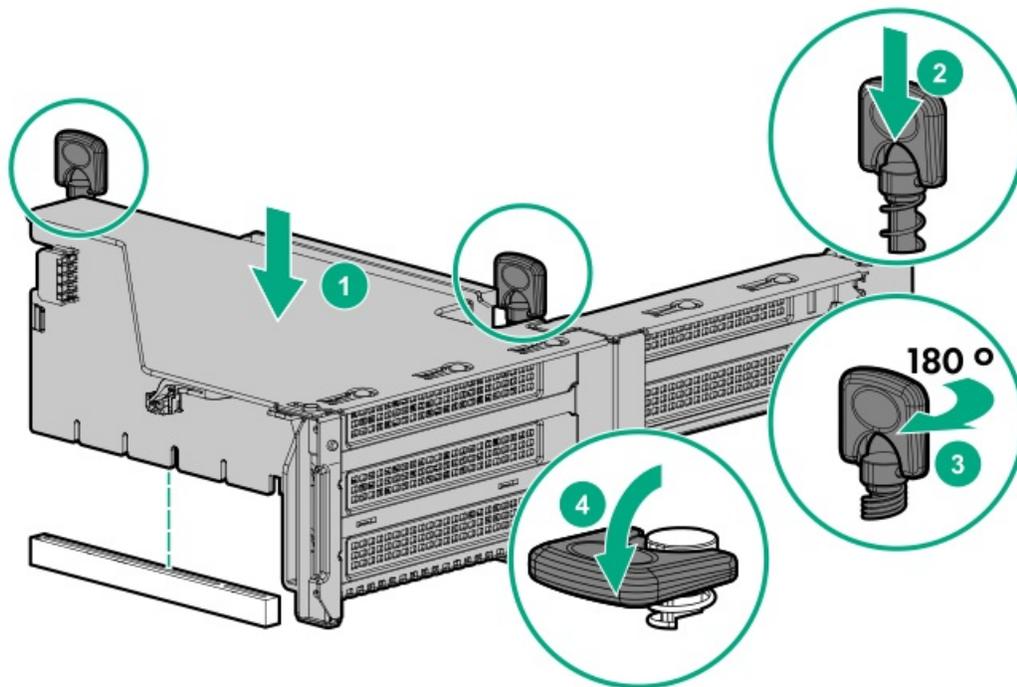
- ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネント
- T-10トルクスドライバー
- このオプションを取り付けるには、ターシャリライザーケースが必要です。

手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. 次のいずれかを実行します。
 - 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - サーバーをラックから取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. ライザーケースを取り外します。
6. ライザーを取り付けます。



7. 必要な場合、拡張ボードを取り付けます。
8. 必要な場合は、データケーブルをライザーまたは拡張ボードに接続します。
9. ターシャリライザーケージを取り付けます。



10. 必要な場合は、ケーブルをドライブバックプレーンに接続します。

タスクの結果

以上で取り付けは完了です。

セカンダリライザーケージの取り付け

前提条件



この手順を実行する前に、次のものを用意しておきます。

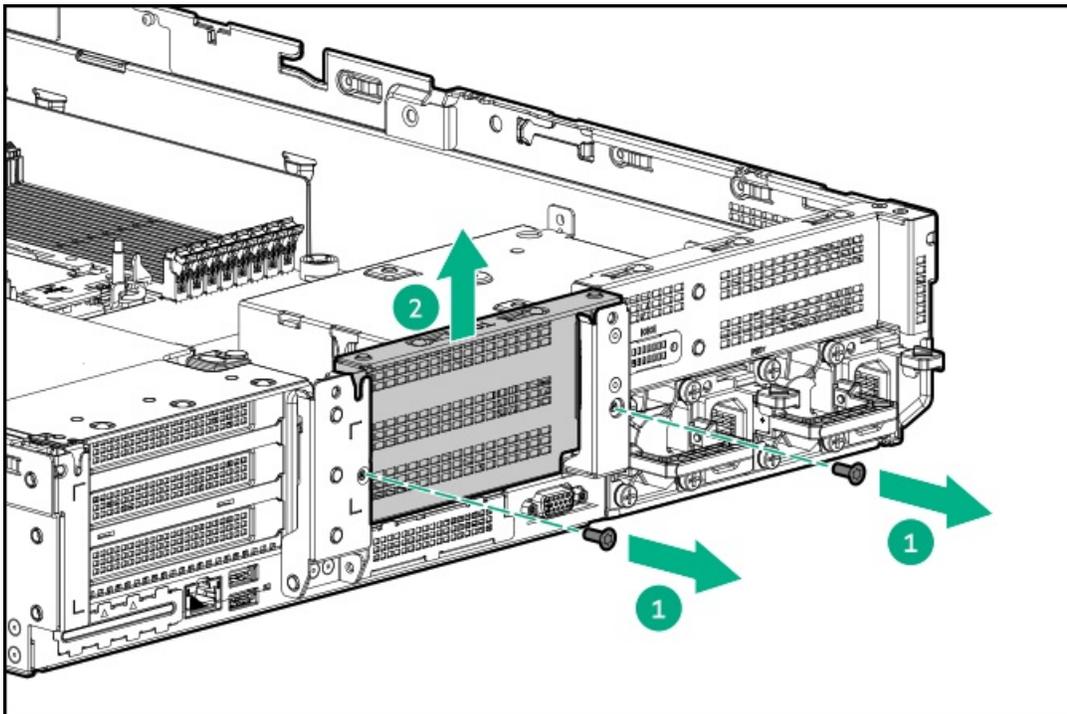
- ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネント
- T-10トルクスドライバー

手順

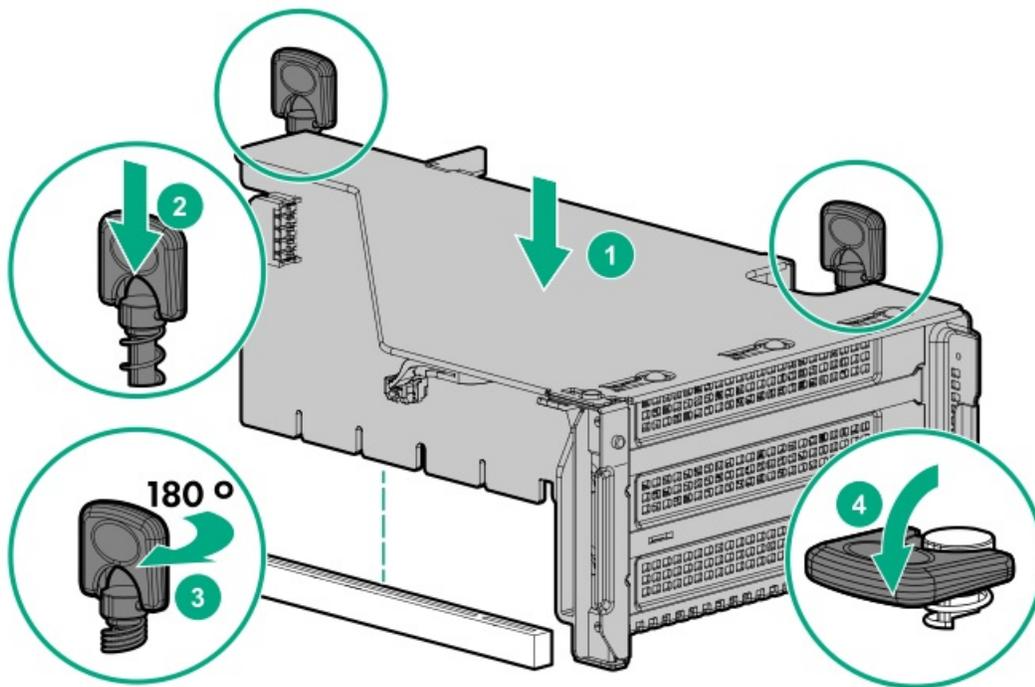
1. 次のアラートに注意してください。

△ 注意: サーバーまたは拡張ボードの損傷を防止するために、サーバーの電源を拡張ボード、電源を切るか、すべての電源コードを抜き取ってからPCIライザーケージの取り外しまたは取り付けを行ってください。

2. サーバーの電源を切ります。
3. すべての電源を取り外します。
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
4. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - ラックからサーバーを取り外します。
5. アクセスパネルを取り外します。
6. リアウォールブランクを取り外します。



7. 必要な場合、拡張ボードを取り付けます。
8. ライザーケージを取り付けます。



タスクの結果

以上で取り付けは完了です。

ターシャリライザーケースの取り付け

前提条件

この手順を実行する前に、次のものを用意しておきます。

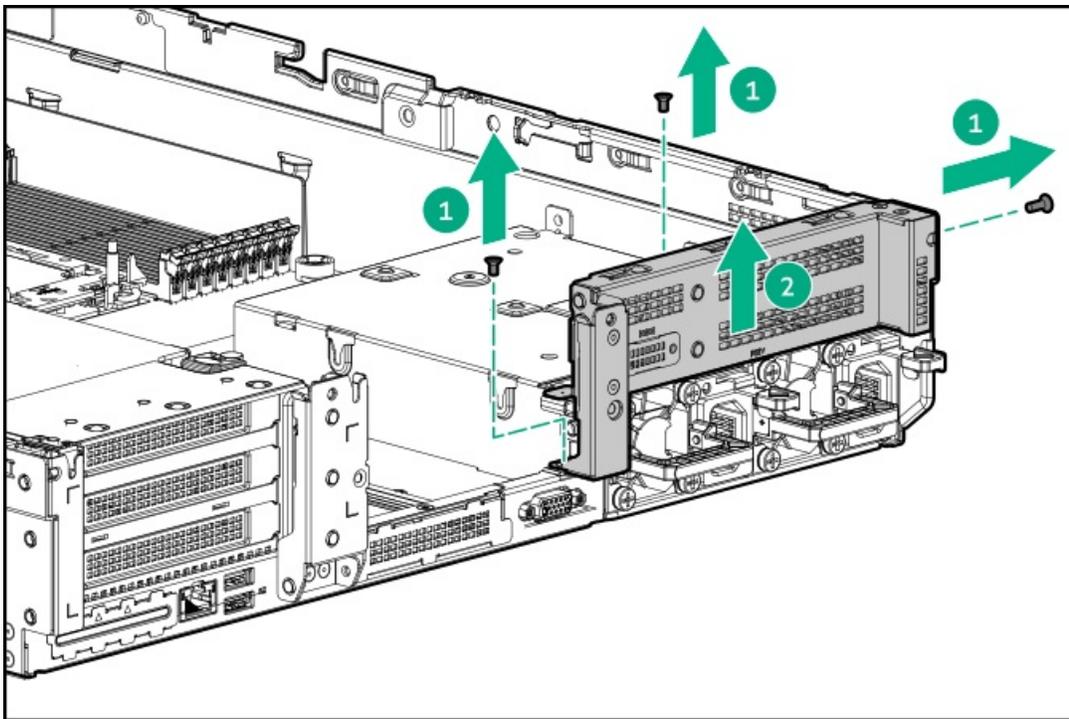
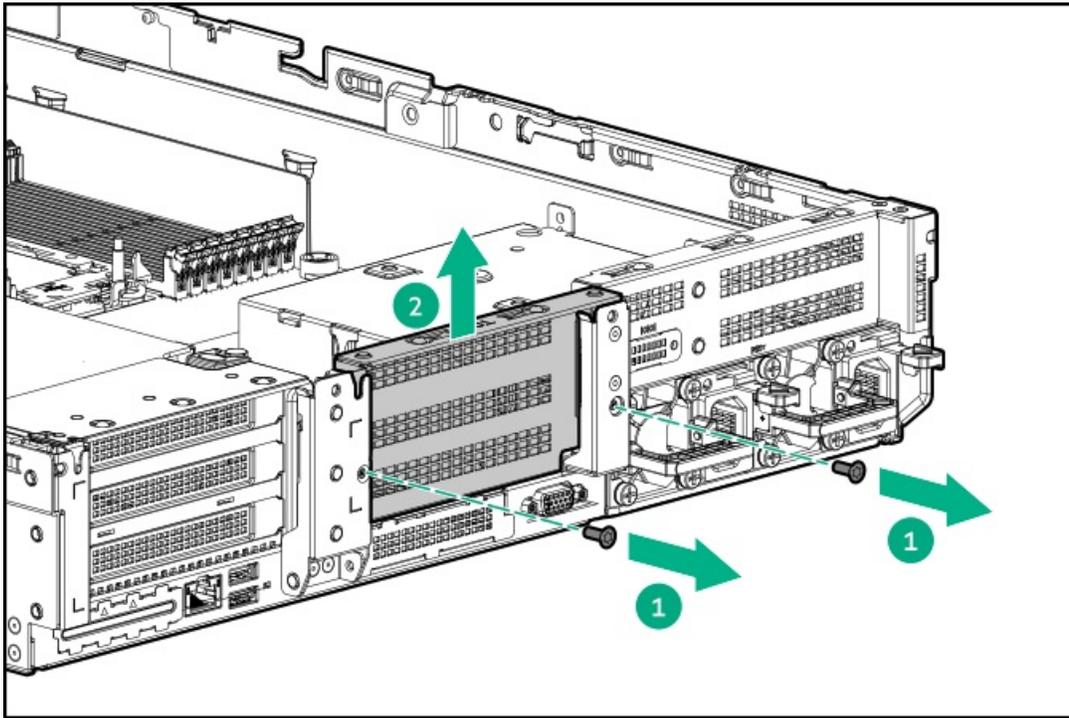
- ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネント
- T-10トルクスドライバー

手順

1. 次のアラートに注意してください。

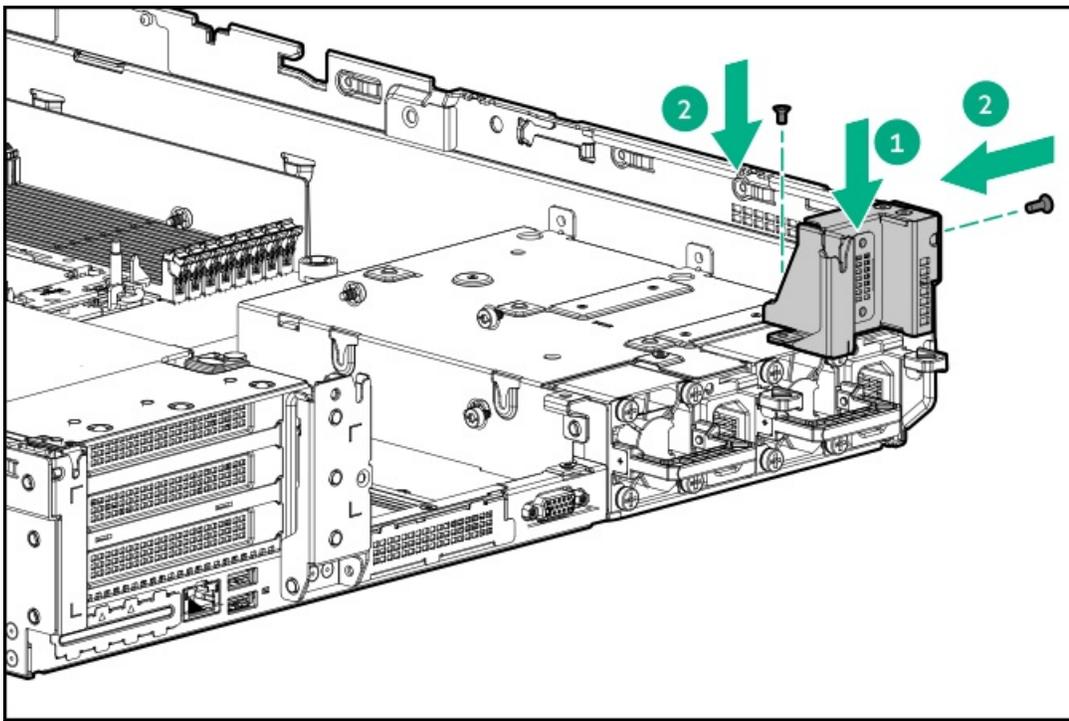
△ 注意: サーバーまたは拡張ボードの損傷を防止するために、サーバーの電源を拡張ボード、電源を切るか、すべての電源コードを抜き取ってからPCIライザーケースの取り外しまたは取り付けを行ってください。

2. サーバーの電源を切ります。
3. すべての電源を取り外します。
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
4. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - ラックからサーバーを取り外します。
5. アクセスパネルを取り外します。
6. リアウォールブラックを取り外します。

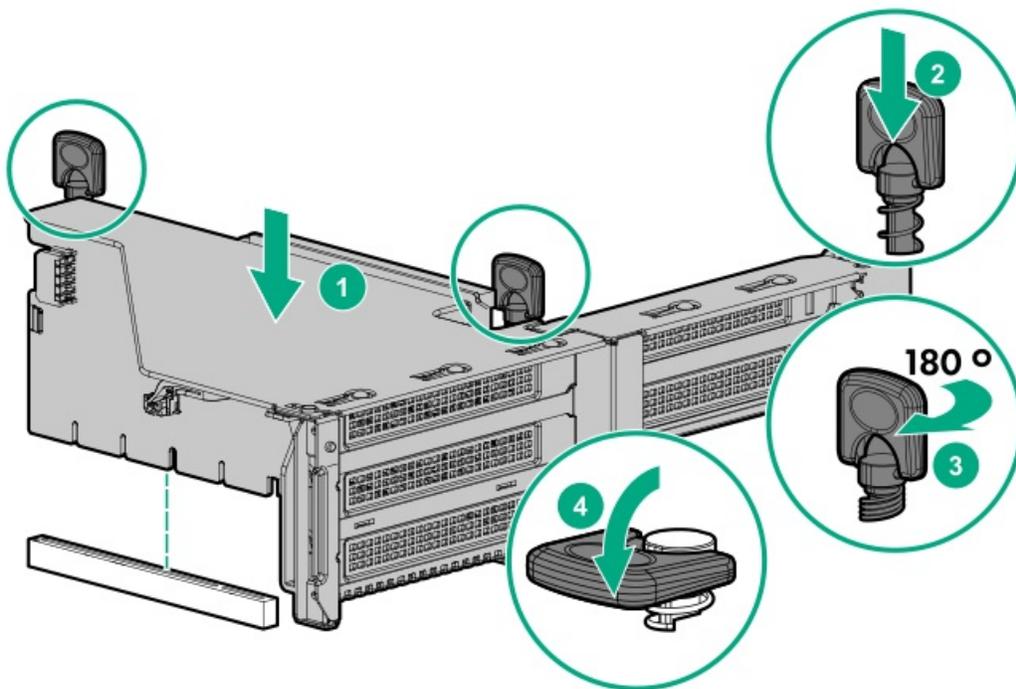


7. オプションキットのリアブランクを取り付けます。





8. 必要な場合、拡張ボードを取り付けます。
9. ターシャリライザーケージを取り付けます。



タスクの結果

以上で取り付けは完了です。

拡張スロット

サブトピック



サポートされるPCIeフォームファクター

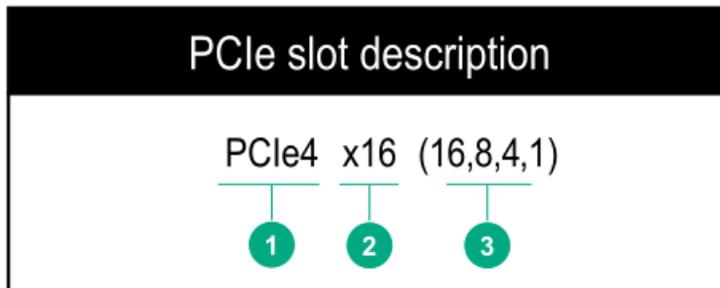
拡張ボードの取り付け

アクセラレータのオプション

サポートされるPCIeフォームファクター

すべてのスロットは、フルハイトの拡張カードをサポートします。以下の情報を使用して、各スロットでサポートされている長さを探します。

スロット説明の例



プライマリライザーコネクタ

PCIeスロットとカードの長さ	3スロットライザー*	2スロットライザー (オプション)	2スロットライザー (オプション)
スロット1 - フルレンジス/フルハイト (FL/FH)	PCIe4 x8 (8、4、2、1)	-	PCIe3 x16 (16、8、4、2、1)
スロット2 - フルレンジス/フルハイト (FL/FH)	PCIe4 x16 (16、8、4、2、1)	PCIe3 x16 (16、8、4、2、1)	PCIe3 x16 (16、8、4、2、1)
スロット3 - ハーフレンジス/フルハイト (HL/FH)	PCIe4 x8 (8、4、2、1)	PCIe3 x16 (16、8、4、2、1)	-

*サーバーは、プライマリライザーケーシングコネクタに1つのPCIe3ライザーケーシングが取り付けられた状態で出荷されます。

セカンダリライザーコネクタ

PCIeスロットとカードの長さ	3スロットライザー*	2スロットライザー (オプション)	2スロットライザー (オプション)
スロット4 - フルレンジス/フルハイト (FL/FH)	PCIe3 x8 (8、4、2、1)	-	PCIe3 x16 (16、8、4、2、1)
スロット5 - フルレンジス/フルハイト (FL/FH)	PCIe3 x16 (16、8、4、2、1)	PCIe3 x16 (16、8、4、2、1)	PCIe3 x16 (16、8、4、2、1)
スロット6 - ハーフレンジス/フルハイト (HL/FH)	PCIe3 x8 (8、4、2、1)	PCIe3 x16 (16、8、4、2、1)	-

ターシャリライザーコネクタ

PCIeスロットとカードの長さ	2スロットライザー (オプション)	1スロットライザー (オプション)
スロット7 - フルレングス/フルハイ (FL/FH)	PCIe3 x8 (8、4、2、1)	PCIe3 x16 (16、8、4、2、1)
スロット8 - ハーフレングス/フルハイ ト (HL/FH)	PCIe3 x8 (8、4、2、1)	-

拡張ボードの取り付け

前提条件

この手順を実行する前に、次のものを用意しておきます。

ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネント

このタスクについて

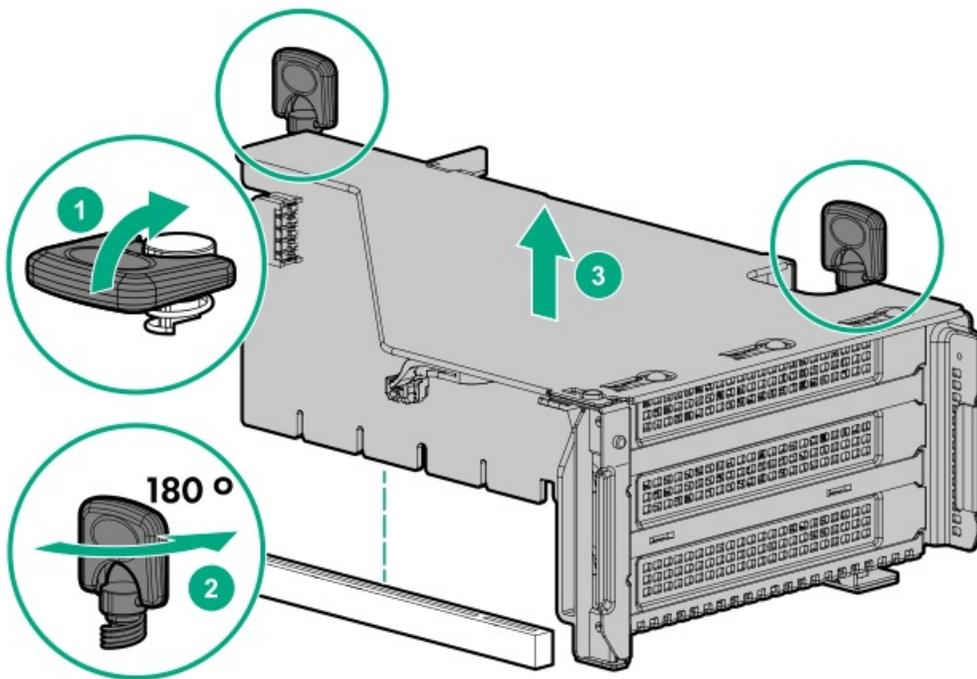
警告: けが、感電、または装置の損傷に対するリスクの低減のために、電源コードを抜き取って、サーバーに電力が供給されないようにしてください。フロントパネルにある電源ボタンではシステムの電源を遮断することはできません。AC電源コードを抜き取るまで、電源装置の一部といくつかの内部回路はアクティブのままです。

注意: 不適切な冷却または高温による装置の損傷を防止するために、すべてのPCIスロットに必ず、拡張スロットカバーか拡張ボードのいずれかを実装してサーバーを動作させてください。

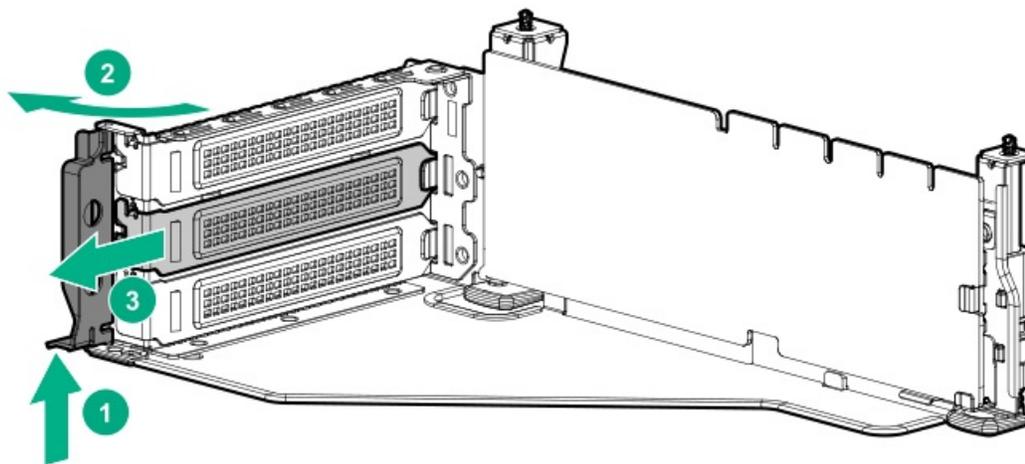
コンポーネントを取り付けるには、以下の手順に従ってください。

手順

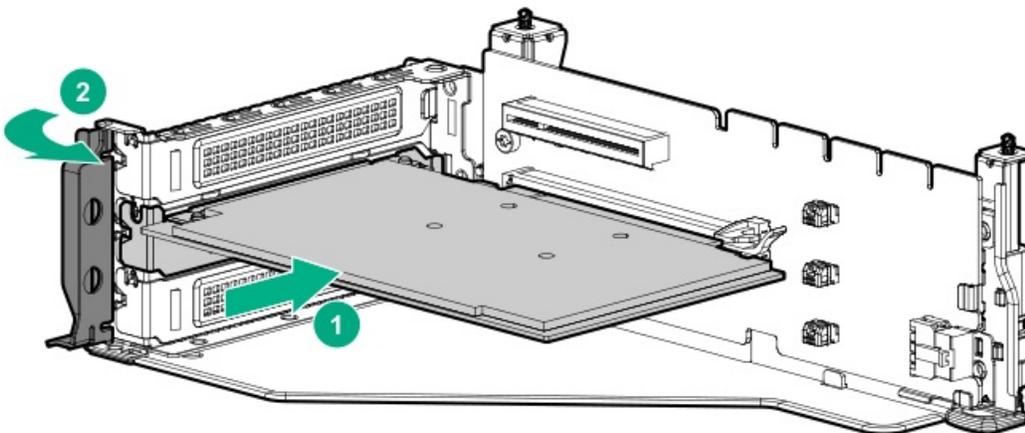
1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源を取り外します。
 - a. 各電源コードを電源から抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 以下のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - サーバーをラックから取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. ライザーケースを取り外します。



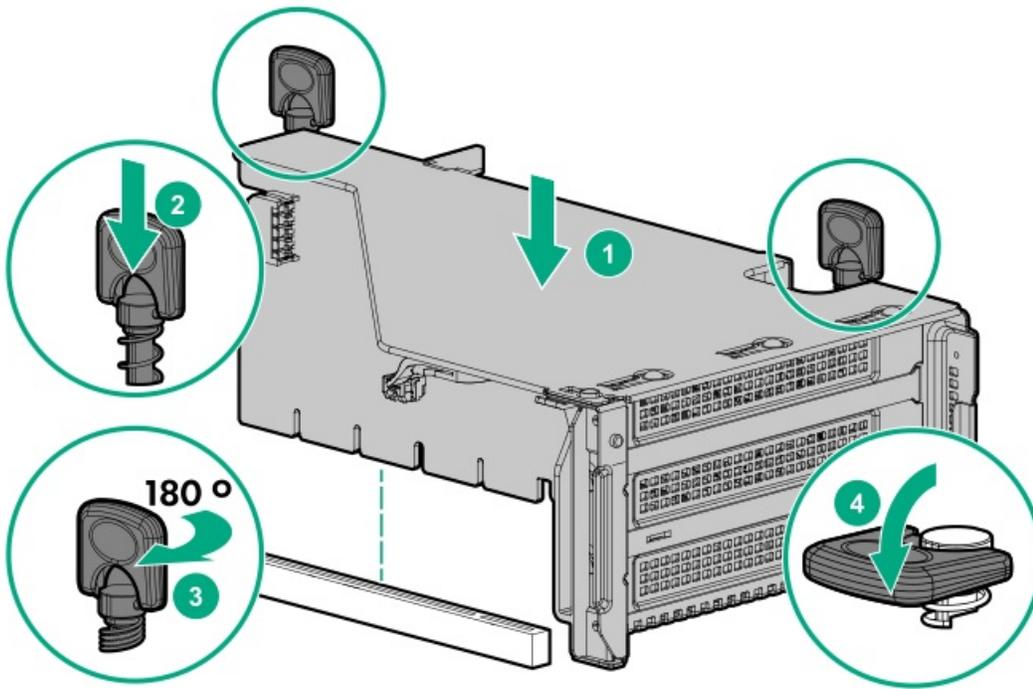
6. PCIeブランクを特定して、ライザーケージから取り外します。



7. 拡張ボードを取り付けます。



- 拡張ボードに内部ケーブルが必要な場合、ケーブルを接続します。
- ライザーケージを取り付けます。



- アクセスポネルを取り付けます。
- サーバーをスライドさせてラックに押し込みます。
- 各電源コードをサーバーに接続します。
- 各電源コードを電源に接続します。
- サーバーの電源を入れます。

タスクの結果

以上で取り付けは完了です。

アクセラレータのオプション

このサーバーは、コンピューターおよびグラフィックスのワークロード要件を満たすためにさまざまなアクセラレータのオプションをサポートしています。サポートされるアクセラレータモデルのリストについては、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト (<https://www.hpe.com/info/qs>) のサーバーQuickSpecsを確認してください。

- PCIeワークロードアクセラレータ - これらのオプションはPCIeカードベースのダイレクトアタッチソリューションで、PCIバスに直接ソリッドステートストレージテクノロジーを使用して、I/Oパフォーマンスを飛躍的に向上させたり、処理要件に応じてスケールするために遅延時間を低減させたりしています。
- 演算およびグラフィックスアクセラレータ - これらのオプションは、ディープラーニング、ハイパフォーマンスコンピューティング (HPC)、およびグラフィックスを多用するアプリケーションを幅広くサポートするための高速計算パフォーマンスを提供します。

サブトピック

アクセラレータまたはGPUの取り付け

アクセラレータまたはGPUの取り付け

前提条件

この手順を実行する前に、次のものを用意しておきます。

- ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネント
- T-30トルクスドライバー
- T-10トルクスドライバー
- このオプションを使用するには、高性能のヒートシンクが取り付けられている必要があります。

このタスクについて

アクセラレータまたはGPUは、プライマリ、セカンダリ、またはターシャリの位置に取り付けることができます。ここでは、セカンダリの位置に取り付ける場合の手順を示します。

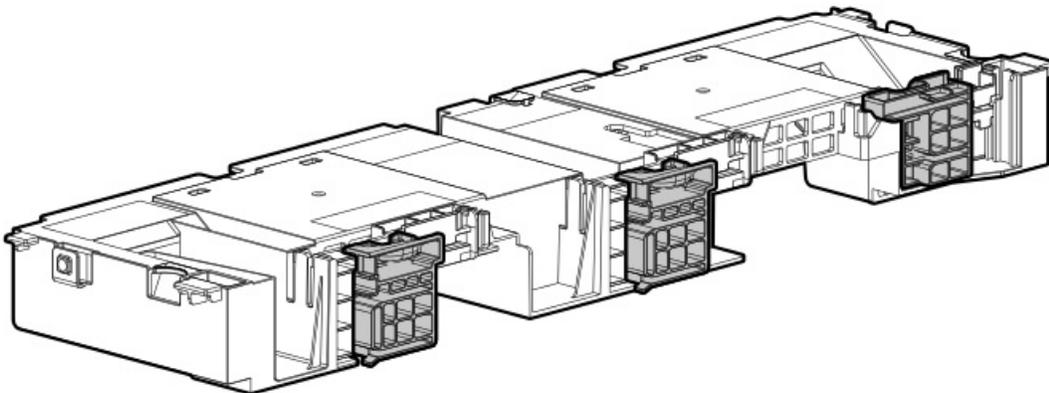
手順

1. 次のアラートに注意してください。

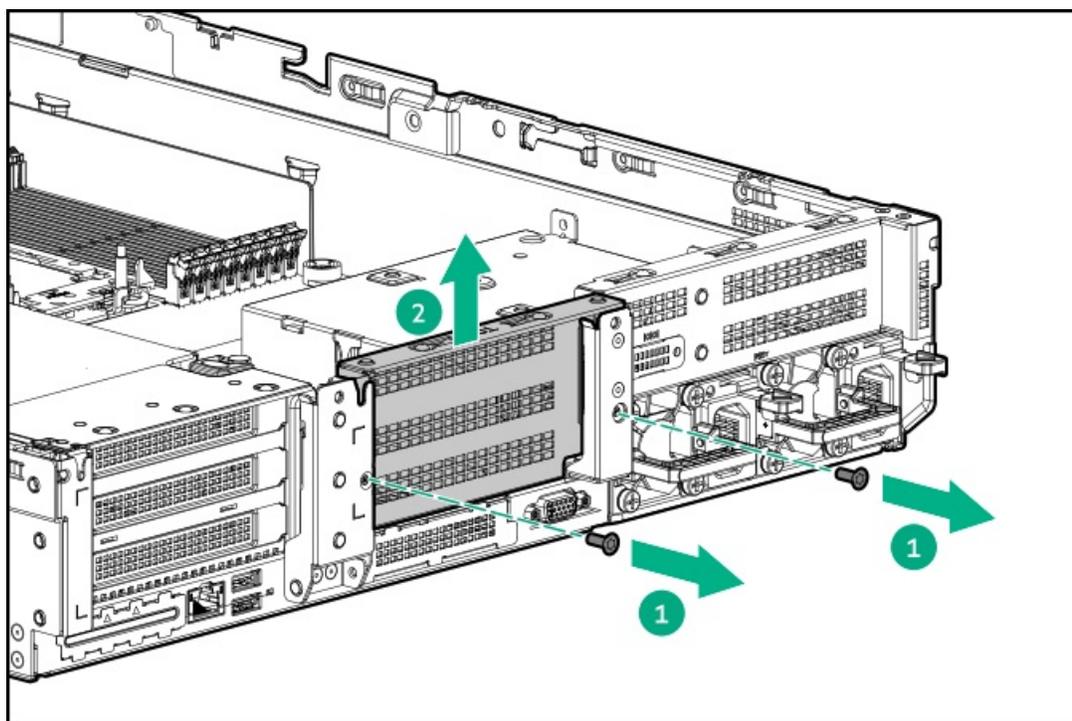
△ 注意: 不適切な冷却や高温による装置の損傷を防止するために、すべてのPCIeスロットに拡張スロットカバーまたは拡張ボードが取り付けられている場合を除き、サーバーを動作させないでください。

2. サーバーの電源を切る。
3. すべての電源を取り外します。
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
4. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出す。
 - サーバーをラックから取り外す。
5. アクセスパネルを取り外す。
6. エアバッフルまたはミッドプレーンドライブケージを取り外す。
7. エアバッフルに適切な固定用クリップを取り付けます。

ご使用の構成をサポートしているクリップを取り付けます。プライマリ、セカンダリ、およびターシャリの位置が示されています。



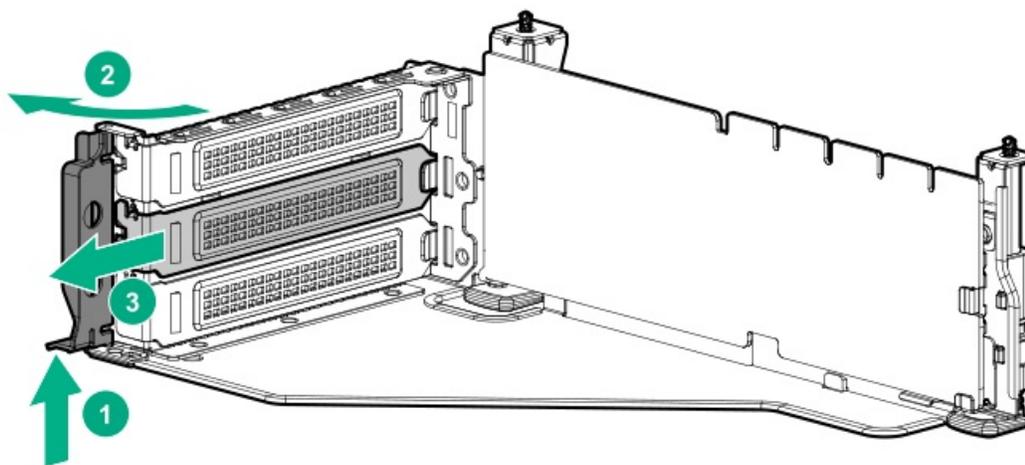
8. 高性能ヒートシンクを取り付けます。
9. エアバッフルを取り付けます。
10. リアウォールブランクを取り外します。
セカンダリリアウォールブランクが表示されます。



プライマリライザーケースにライザーカードを取り付ける場合は、「ライザーケースの取り外し」を参照してください。

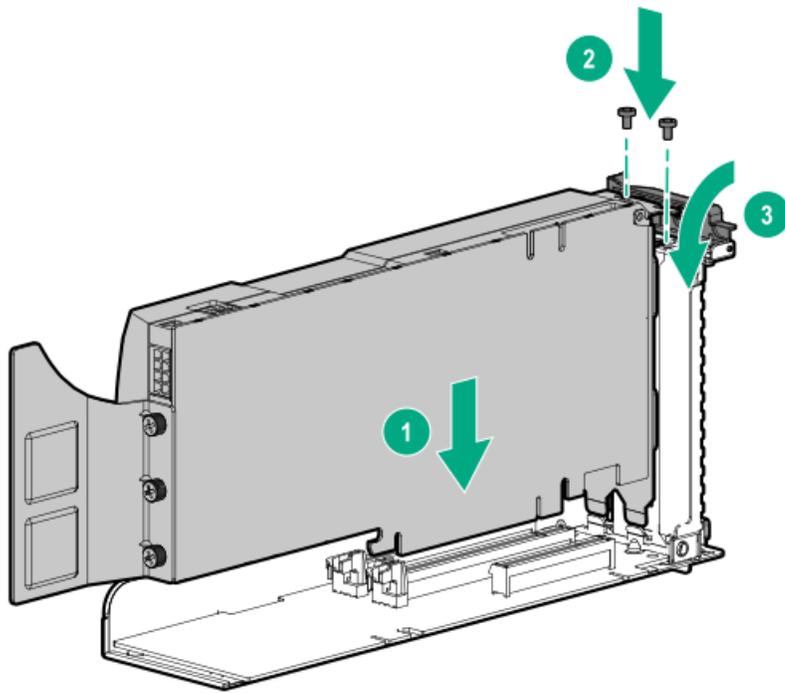
ターシャリライザーケースにライザーカードを取り付ける場合は、「ターシャリライザーの取り付け」を参照してください。

11. PCIeブランクを取り外します。



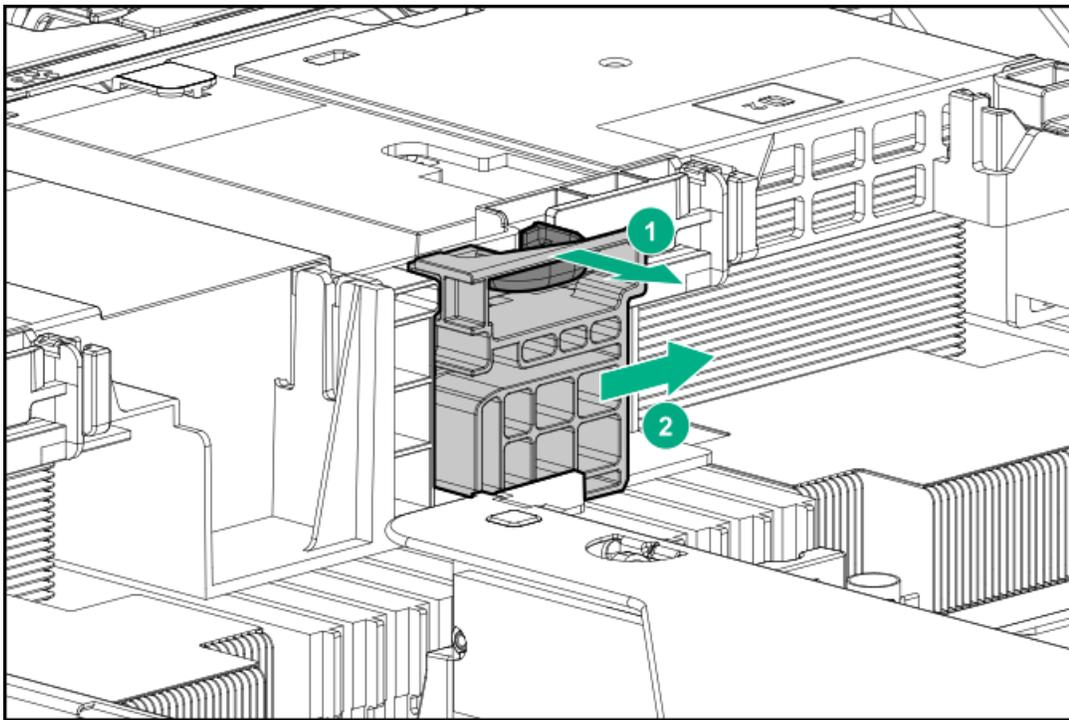
12. カードをライザーに取り付けます。





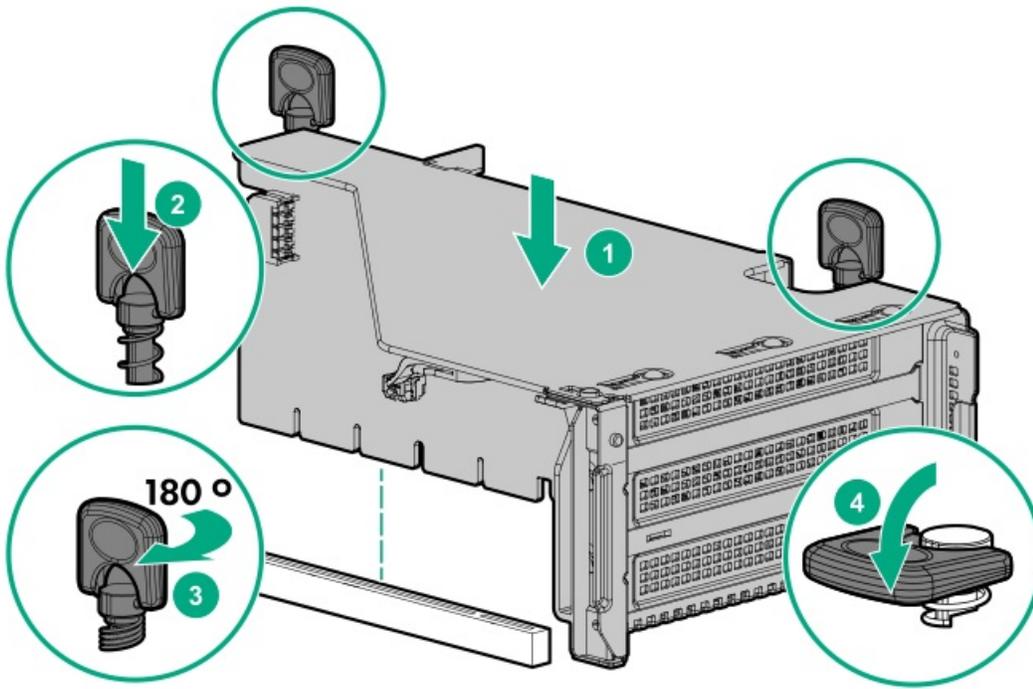
13. 必要に応じて、電源ケーブルをカードからライザーに接続します。

14. フルレングスカードの場合は、固定用クリップを開きます。

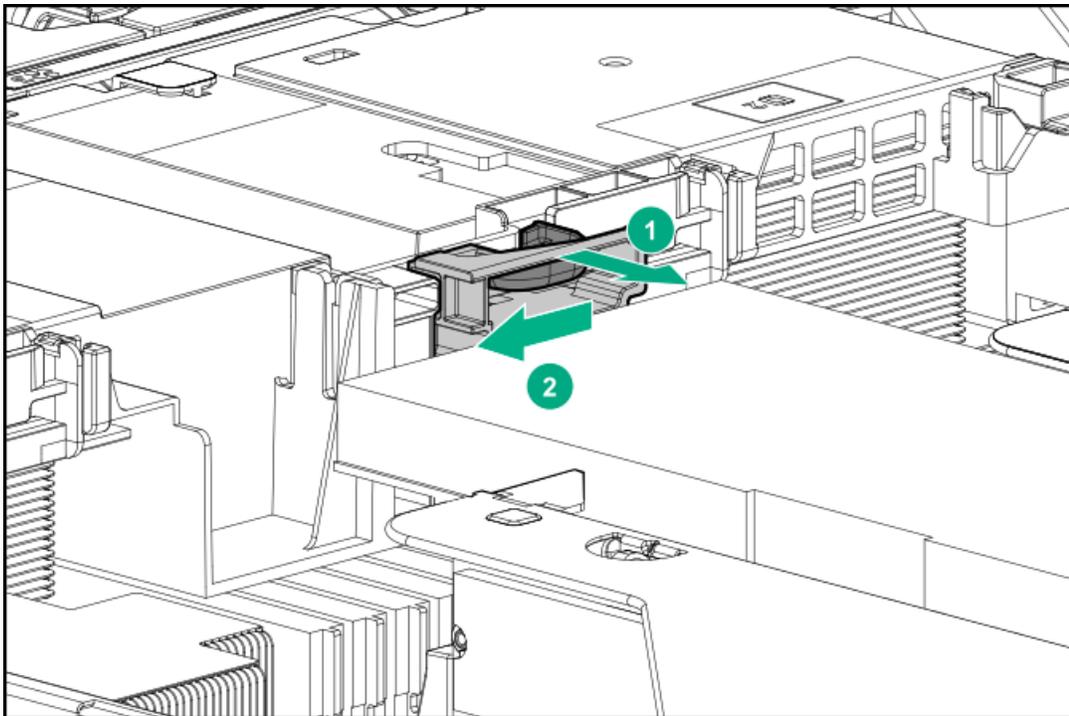


15. ライザーケージを取り付けます。





16. フルレングスカードの場合は、固定用クリップをロック位置にスライドします。



タスクの結果

以上で取り付けは完了です。

ドライブケースオプション

サブトピック

フロント8NVMeドライブケースの取り付け



ボックス1へのフロント8 SFF (2.5型) SAS/SATAドライブケースの取り付け

ボックス2へのフロント8 SFF (2.5型) SAS/SATAドライブケースの取り付け

フロント/ターシャリ2 SFF (2.5型) NVMe/SAS/SATAスタック可能ドライブケース

ミッドプレーンドライブケースの取り付け

プライマリまたはセカンダリライザーへのリア2 SFF (2.5型) SAS/SATAドライブケースの取り付け

電源装置の上へのリア2 SFF (2.5型) SAS/SATAドライブケースの取り付け

プライマリまたはセカンダリライザーへのリア2LFF (3.5型) SAS/SATAドライブケースの取り付け

フロント8NVMeドライブケースの取り付け

前提条件

このオプションを取り付ける場合は、高性能なファンが必要です。

このタスクについて

ドライブケースは、どのボックスにも取り付けることができます。ここでは、ドライブケースをボックス1に取り付ける場合の手順について説明します。

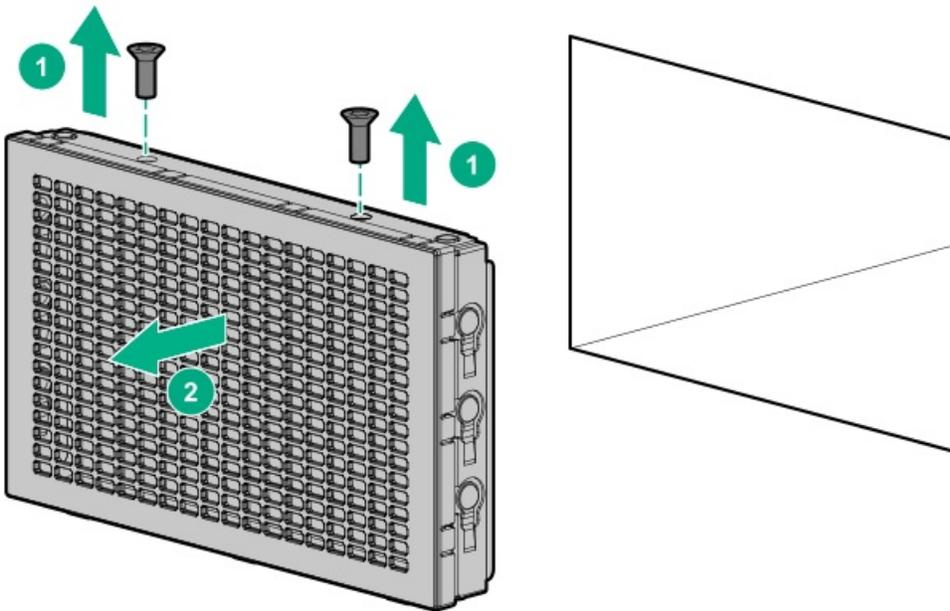
手順

1. 次のアラートに注意してください。

 **警告:** 表面が熱くなっているため、やけどをしないように、ドライブや内部システムコンポーネントが十分に冷めてから手を触れてください。

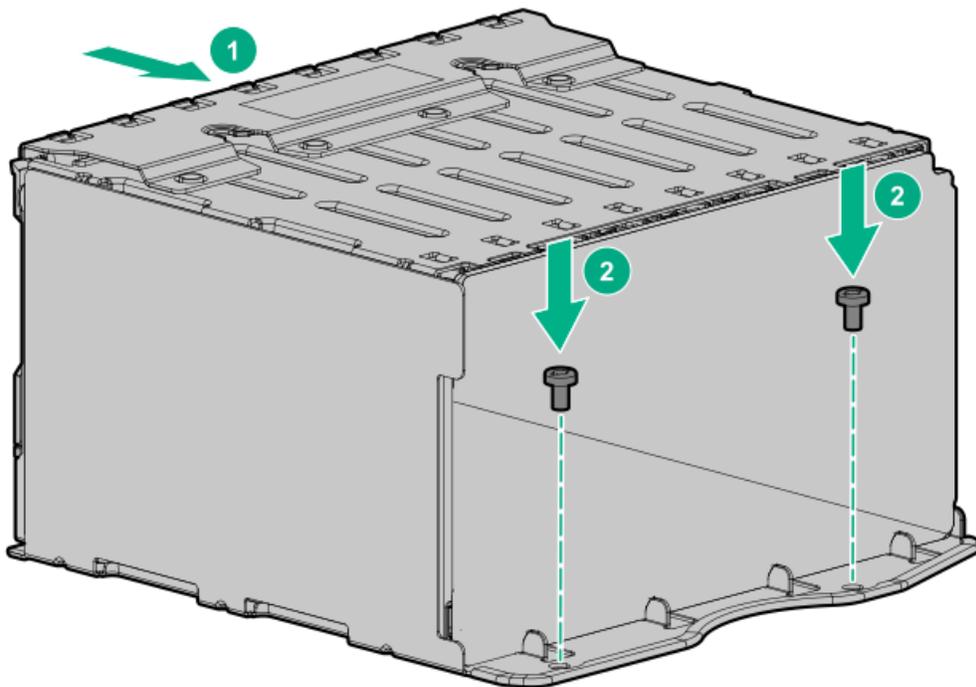
 **注意:** 電子部品の損傷を防ぐには、サーバーの接地を正しく行ってから、取り付け作業を開始します。正しくアースを行わないと静電気放電を引き起こす可能性があります。

2. サーバーの電源を切ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - サーバーをラックから取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. エアバッフルを取り外します。
6. ファンケースを取り外します。
7. ブランクを取り外します。



8. ドライブケージを取り付けます。

- a. ドライブblankをすべて取り外します。
- b. ドライブケージを設置します。



9. 関連するNVMeライザーを取り付けます。

10. 電源ケーブルをドライブバックプレーンの電源コネクタに接続します。

11. データケーブルをドライブバックプレーンからNVMeライザーに接続します。

12. ドライブblankまたはドライブを取り付けます。

タスクの結果

以上で取り付けは完了です。

ボックス1へのフロント8 SFF (2.5型) SAS/SATAドライブページの取り付け

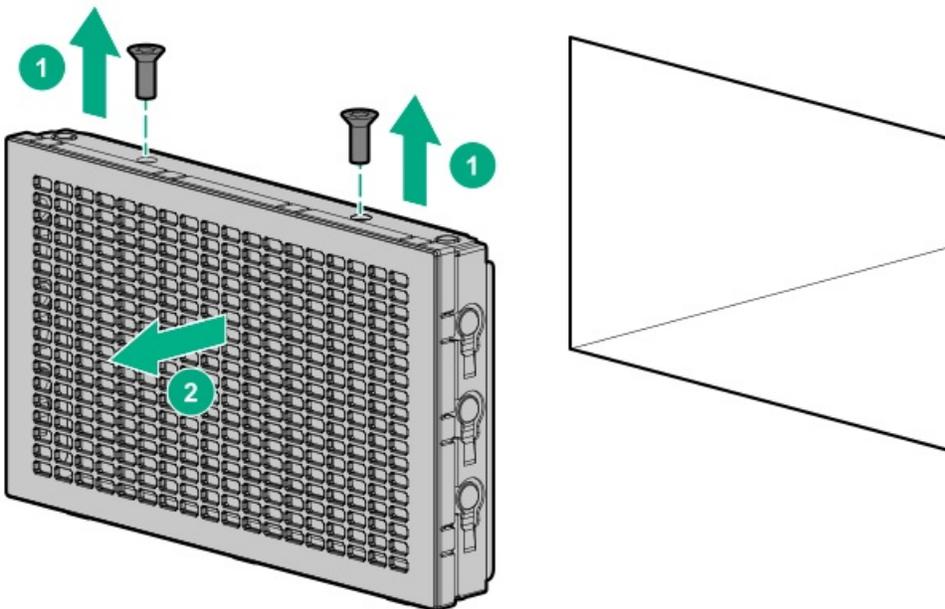
前提条件

この手順を実行する前に、次のものを用意しておきます。

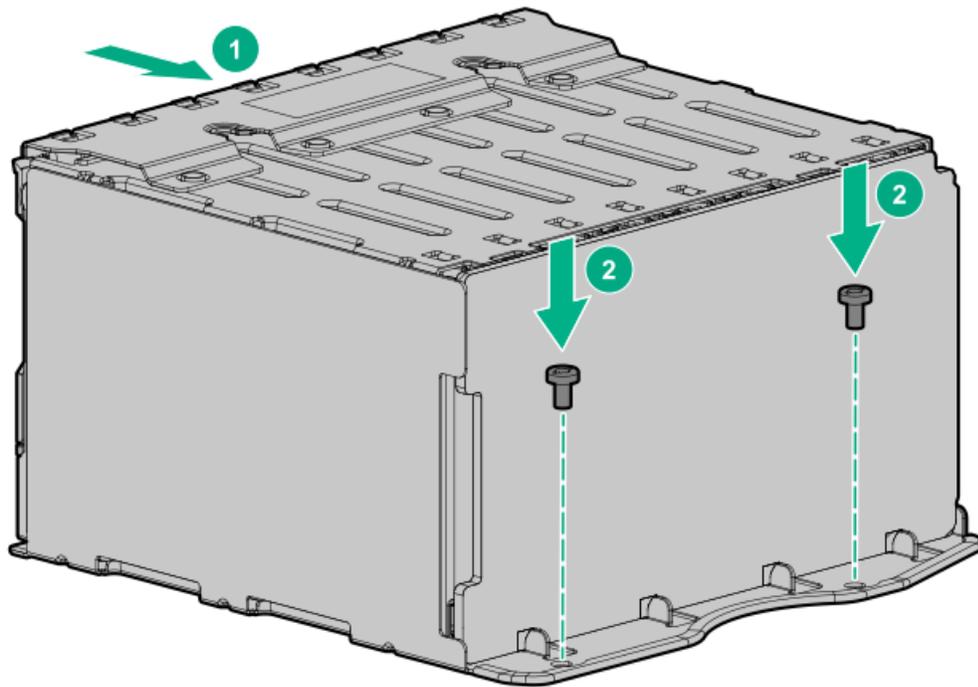
- T-15トルクスドライバー
- ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネント

手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源を取り外します。
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - サーバーをラックから取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. エアバッフルを取り外します。
6. ファンページを取り外します。
7. ベイブランクを取り外します。



8. 8 SFF (2.5型) フロントドライブページオプションを取り付けます。



9. 電源ケーブルおよびデータケーブルを接続します。
10. ファンケージを取り付けます。
11. エアバッフルを取り付けます。
12. アクセスパネルを取り付けます。
13. サーバーをスライドさせてラックに押し込みます。
14. 各電源コードをサーバーに接続します。
15. 各電源コードを電源ソースに接続します。
16. サーバーの電源を入れます。

ボックス2へのフロント8 SFF (2.5型) SAS/SATAドライブケージの取り付け

前提条件

この手順を実行する前に、次のものを用意しておきます。

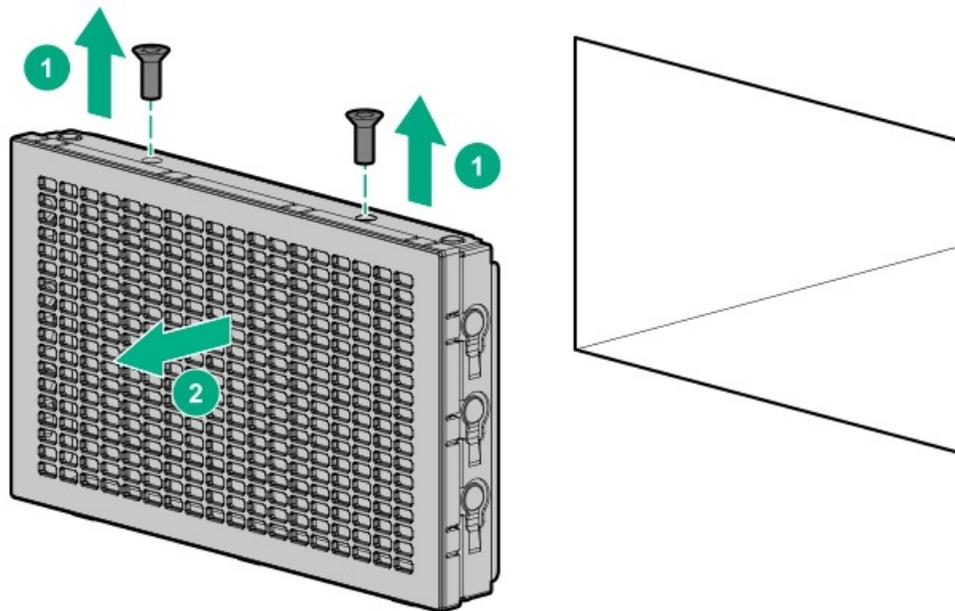
- T-15トルクスドライバー
- ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネント

手順

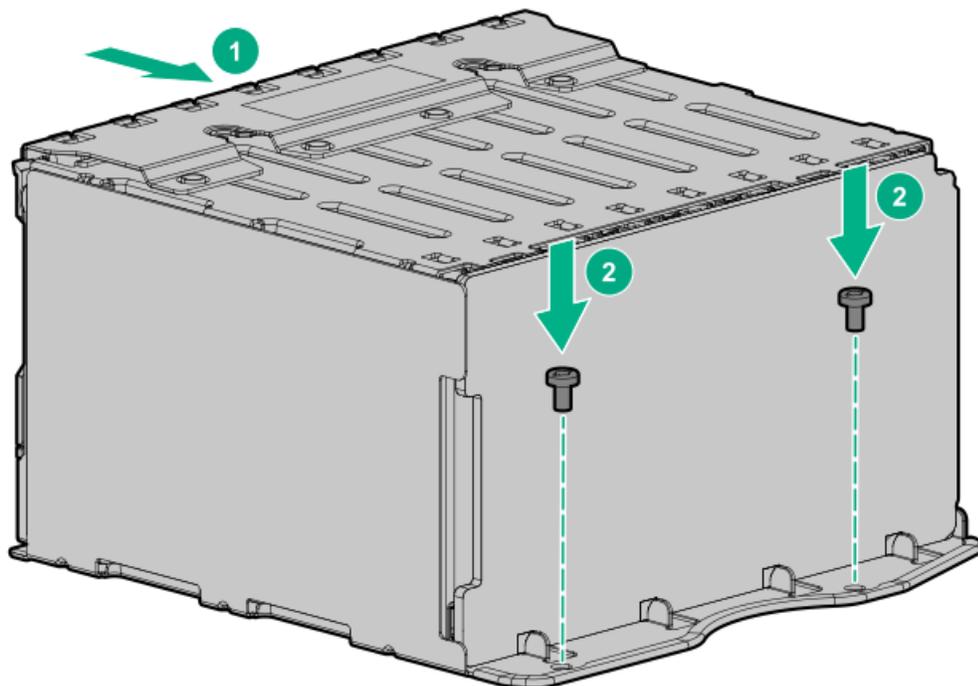
1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源を取り外します。
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。

- サーバーをラックから取り外します。

4. アクセスパネルを取り外します。
5. エアバッフルを取り外します。
6. ファンケージを取り外します。
7. ベイブランクを取り外します。



8. 8 SFF (2.5型) フロントドライブケージオプションを取り付けます。



9. 電源ケーブルおよびデータケーブルを接続します。
10. ファンケージを取り付けます。



11. アクセスパネルを取り付けます。
12. サーバーをスライドさせてラックに押し込みます。
13. 各電源コードをサーバーに接続します。
14. 各電源コードを電源ソースに接続します。
15. サーバーの電源を入れます。

フロント/ターシャリ2 SFF (2.5型) NVMe/SAS/SATAスタック可能ドライブケージ

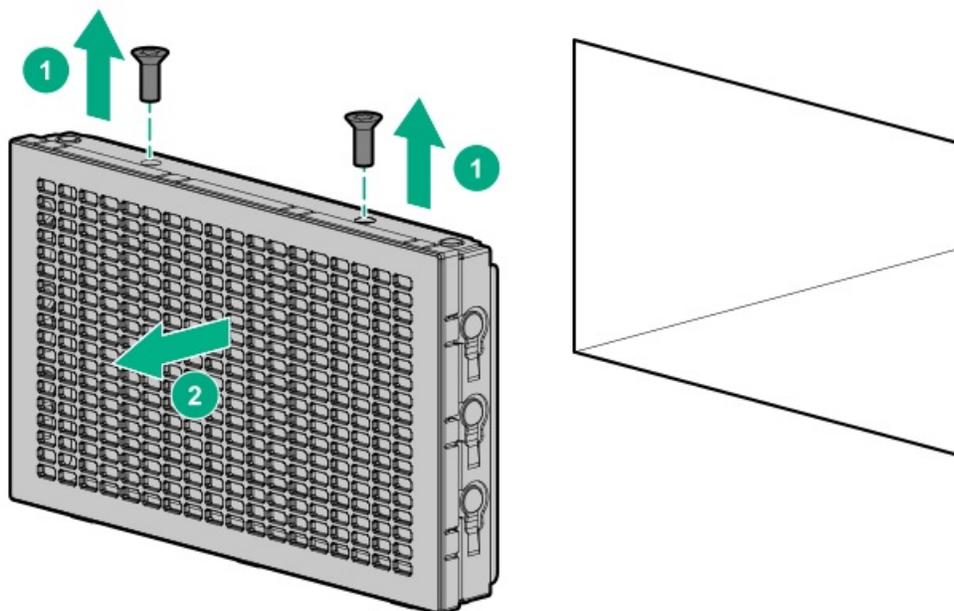
前提条件

この手順を実行する前に、次のものを用意しておきます。

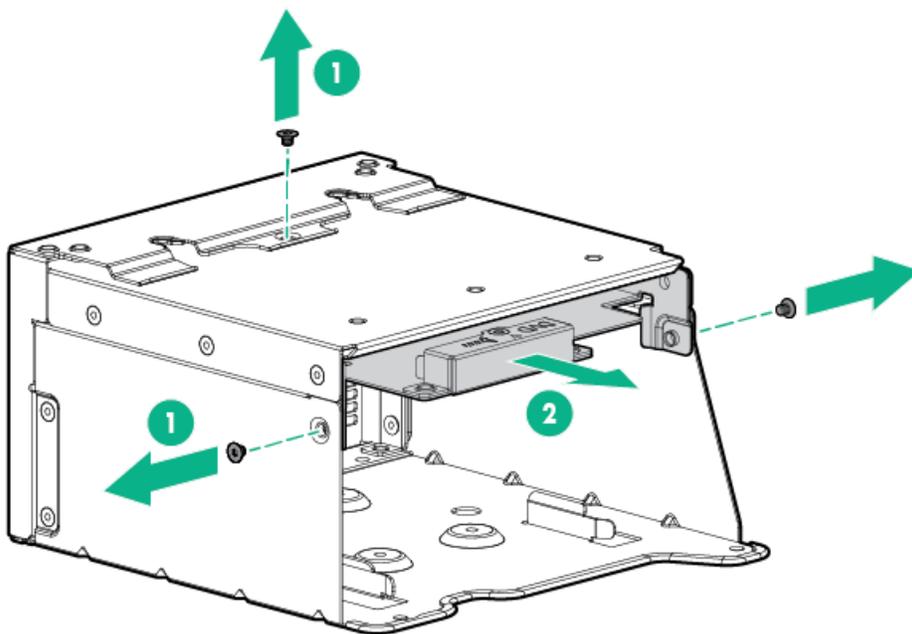
- T-10トルクスドライバー
- ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネント
- この取り付けには、ユニバーサルメディアベイが必要です。

手順

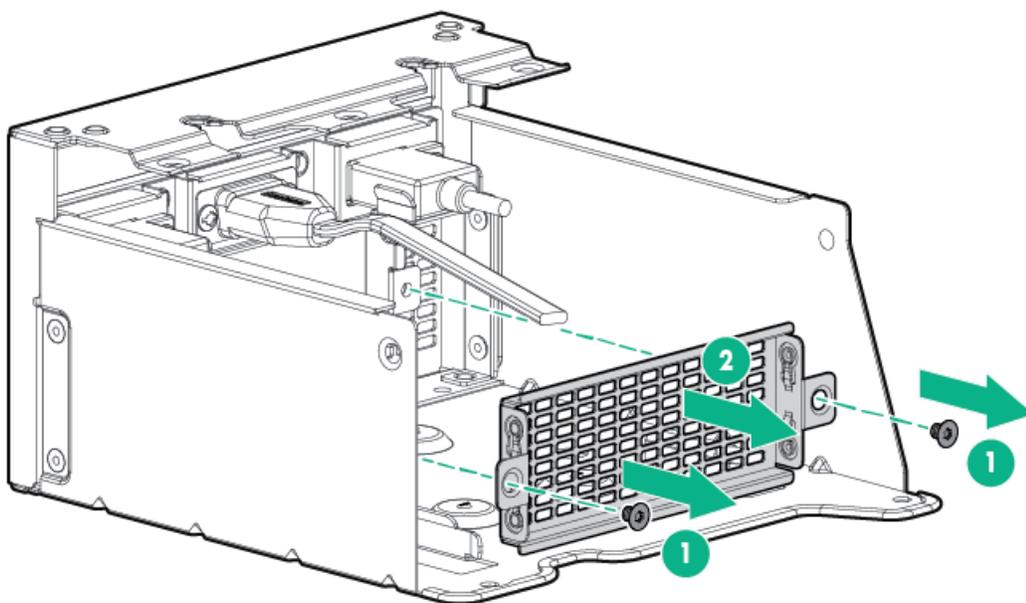
1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源を取り外します。
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - サーバーをラックから取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. フロントベイブランクを取り外します。



6. ユニバーサルメディアベイからオプティカルディスクドライブトレイを取り外します。

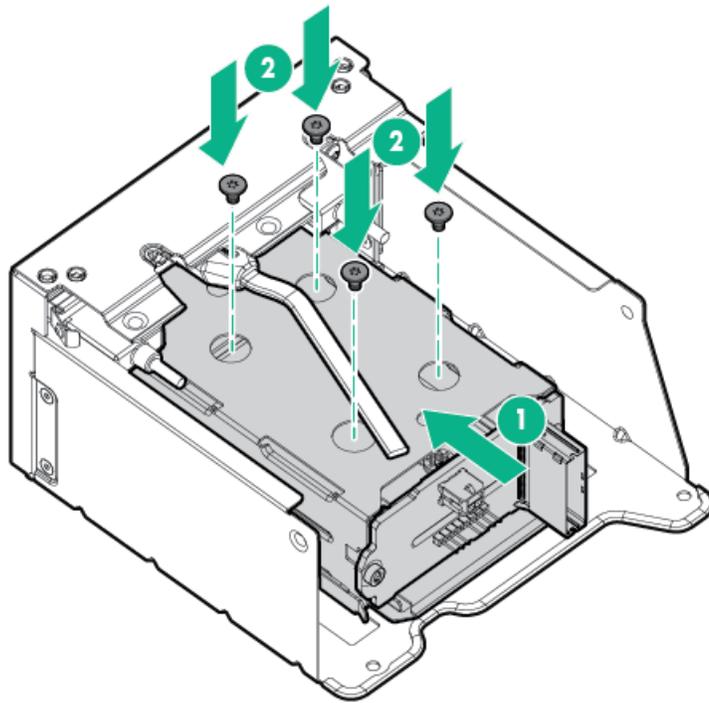


7. ユニバーサルメディアベイからSFF (2.5型) ドライブblankを取り外します。

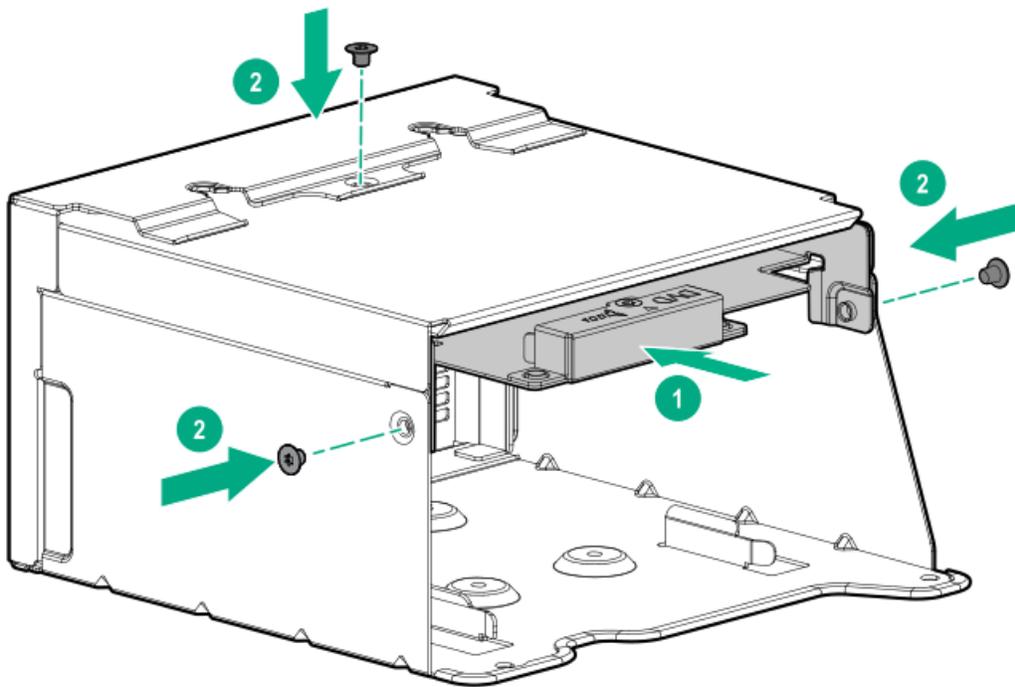


8. ユニバーサルメディアベイにドライブパッケージを取り付けます。





9. オプティカルディスクドライブトレイを取り付けます。



10. ユニバーサルメディアベイを取り付けます。
11. 電源ケーブルおよびデータケーブルを接続します。
12. アクセスパネルを取り付けます。
13. サーバーをスライドさせてラックに押し込みます。
14. 各電源コードをサーバーに接続します。
15. 各電源コードを電源ソースに接続します。
16. サーバーの電源を入れます。

ミッドプレーンドライブページの取り付け

前提条件

この手順を実行する前に、ハードウェアキットに付属のコンポーネントが使用可能であることを確認してください。

このタスクについて

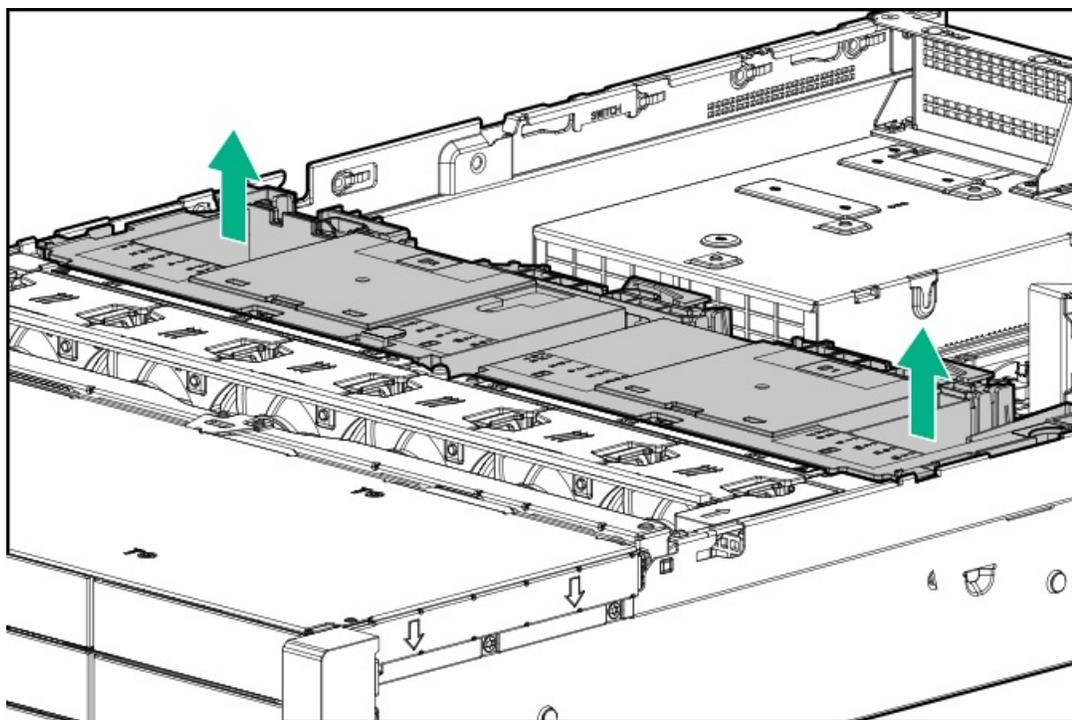
以下を観察してください。

- このオプションを取り付ける場合は、プロセッサごとに1Uヒートシンクが必要です。
- TPMがある場合、このオプションの前に取り付けます。
- タイプaコントローラーがある場合、このオプションの前に取り付けます。

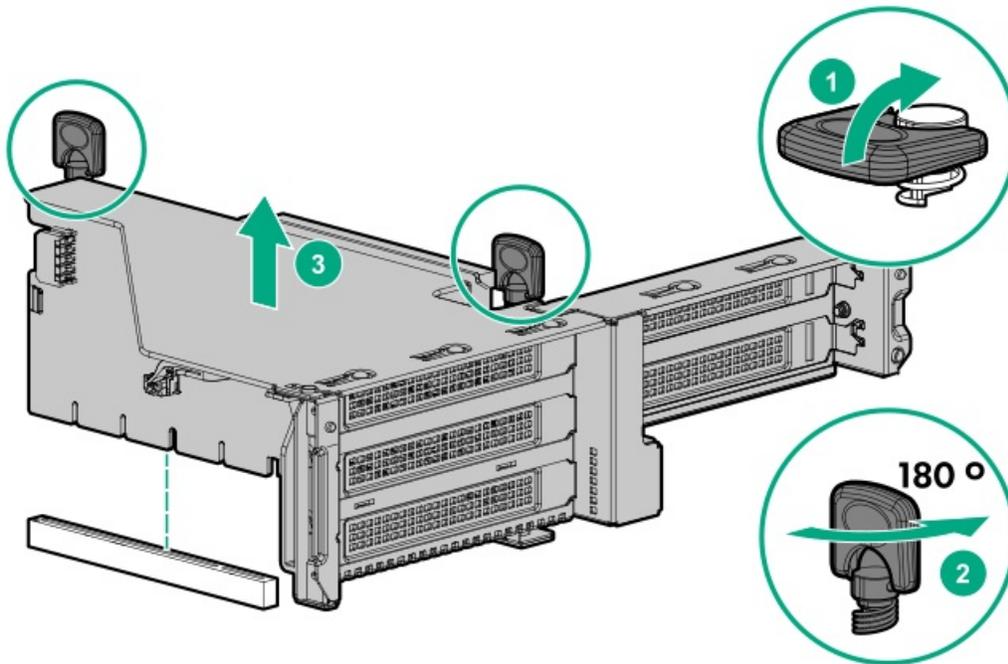
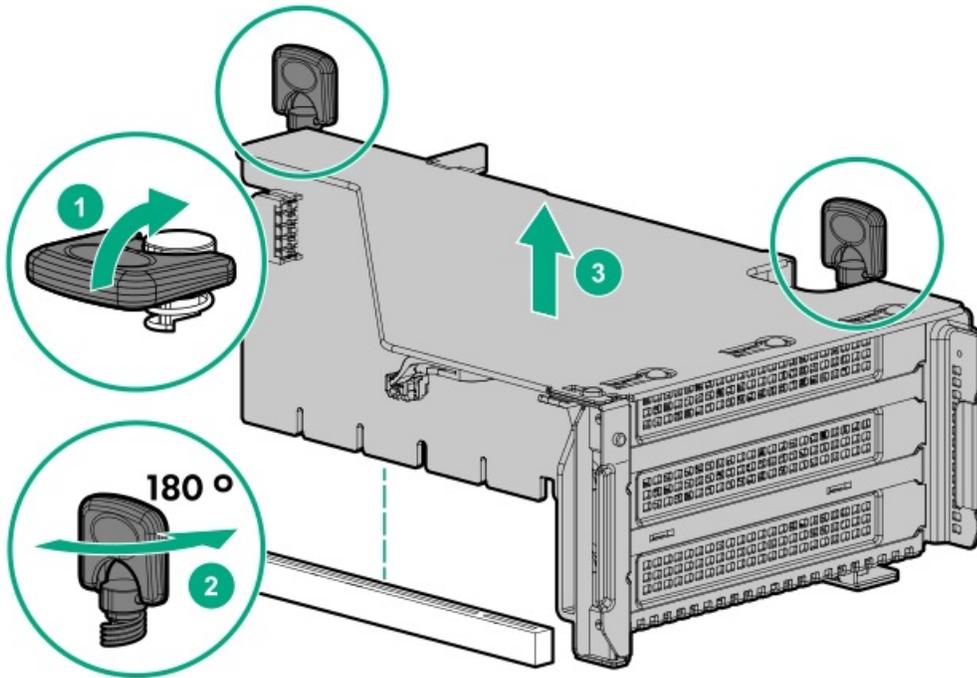
手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源を取り外します。
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - ラックからサーバーを取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. エアバッフルを取り外します。

取り外したエアバッフルは必要ありません。ドライブページは、サーバーのエアバッフルとして機能します。



6. すべてのライザーページを取り外します。

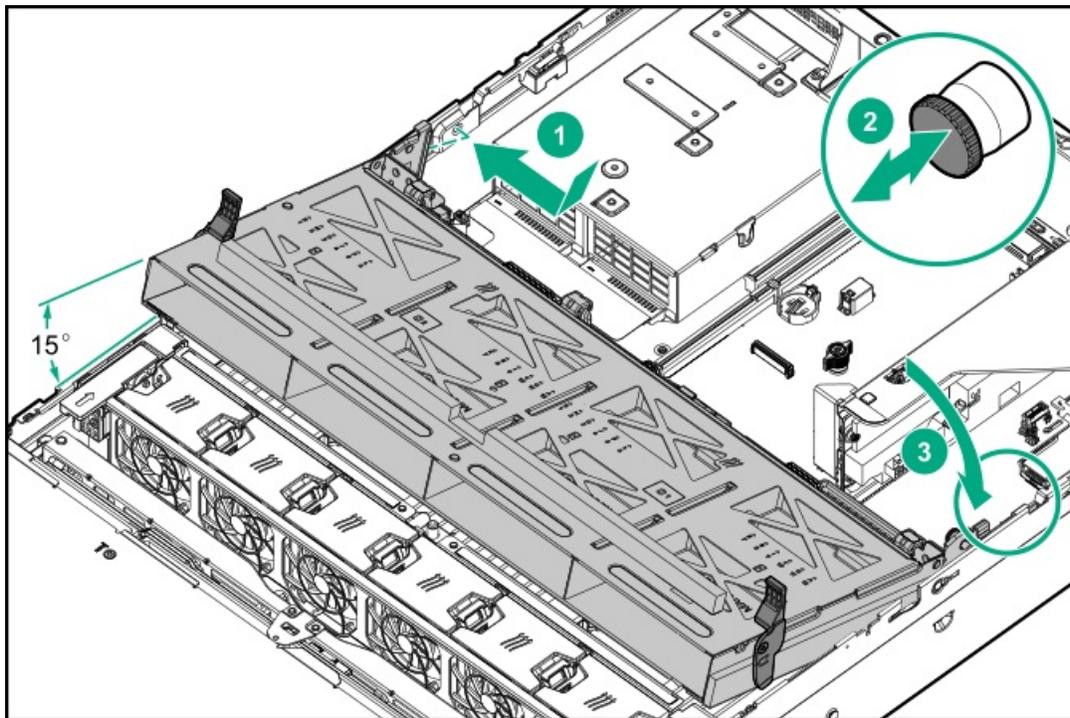


7. システムボード上のドライブバックプレーンの電源コネクタに電源ケーブルを接続します。
8. データケーブルをシステムボードまたはコントローラーに接続する場合は、接続します。
9. ドライブケースのラッチを引き上げてドライブケースの取り付けの準備を行います。
10. ドライブケースを取り付けます。

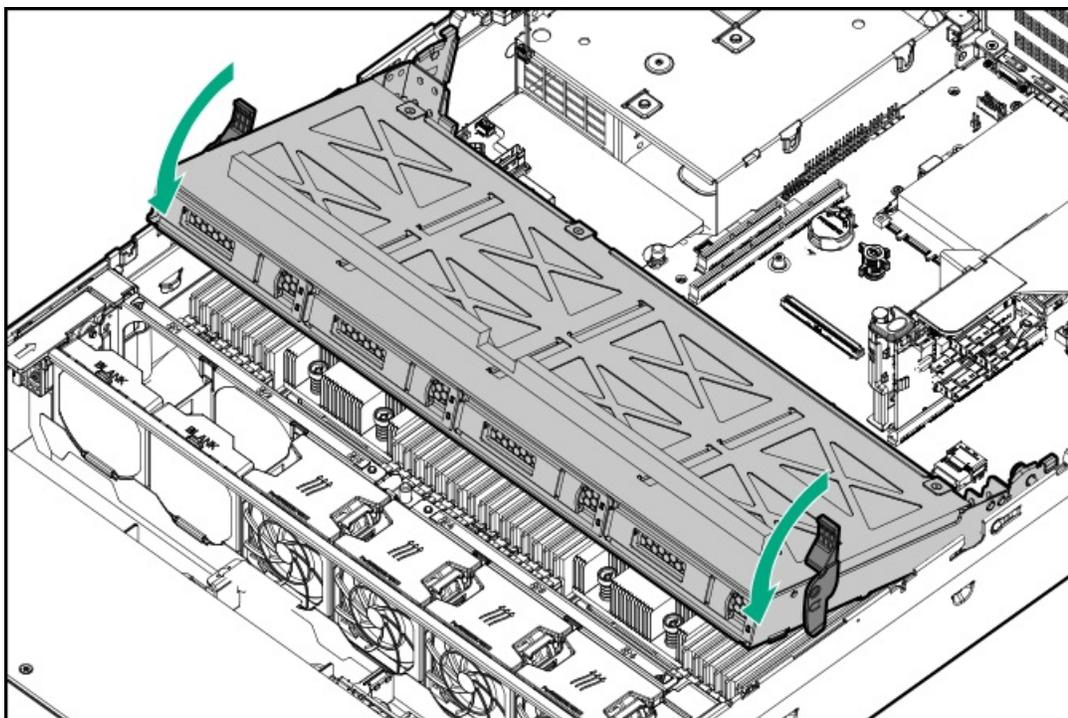
△ 注意: ドライブケースをシステムボードに落とさないでください。システムボードにドライブケースを落とすと、システムまたはコンポーネントが損傷する可能性があります。すべてのドライブを取り外してから、両手を使用してドライブケースを取り付けたり取り外したりしてください。

- a. ドライブケースの背面で位置決めピンを探します。

- b. ドライブケースの背面左側のピンをサーバーに合わせてから、ピンを挿入します。
- c. ドライブケースの反対側をゆっくり下げます。
- d. ドライブケースの背面右側のプランジャーピンを引き出して、プランジャーピンがかみ合うまでドライブケースを下げます。



- 11. ドライブblankまたはドライブを取り付けます。
- 12. ラッチを下に押し、所定の位置にドライブケースを下げます。



- 13. 電源ケーブルとデータケーブルをバックプレーンに接続します。



プライマリまたはセカンダリライザーへのリア2 SFF (2.5型) SAS/SATAドライブ ケージの取り付け

前提条件

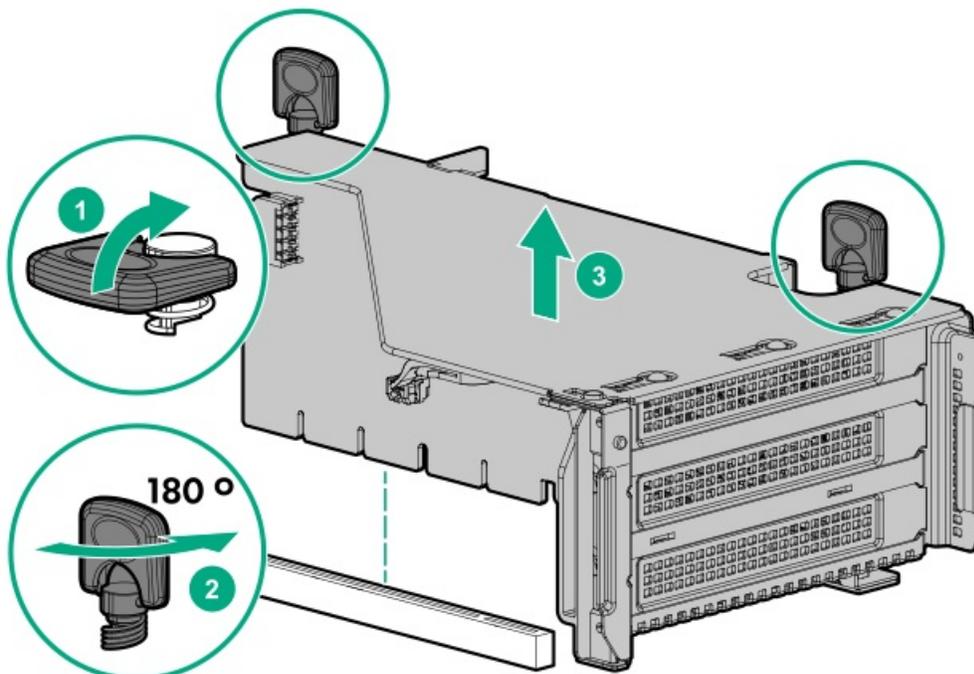
-

この手順を実行する前に、次のものを用意しておきます。

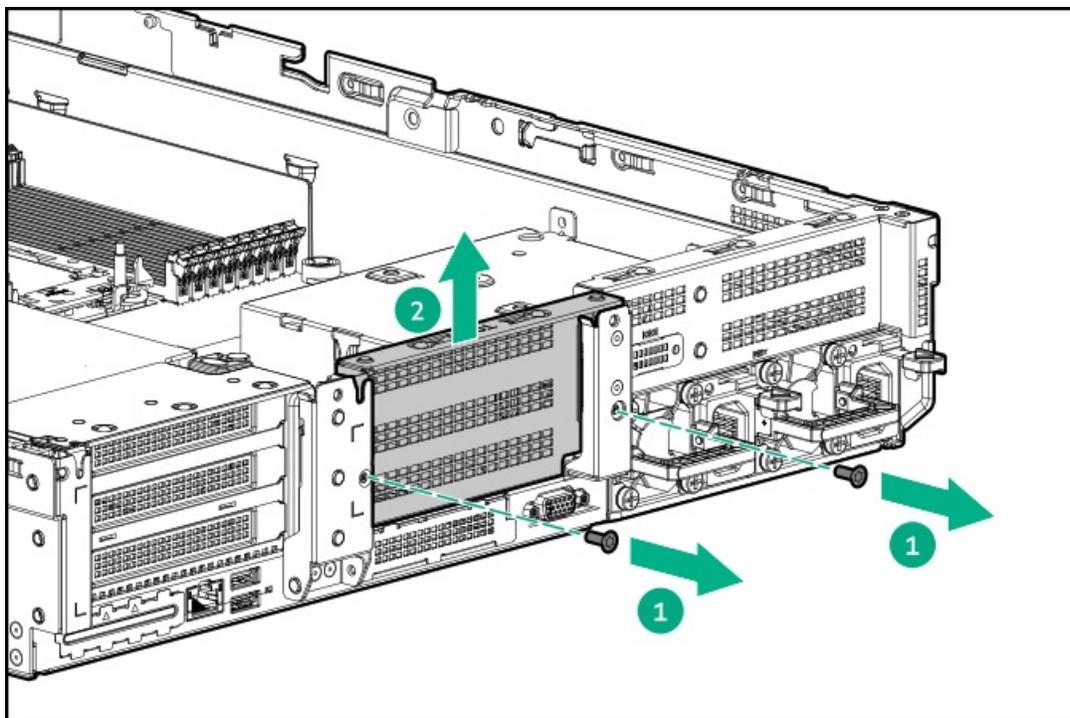
- T-10トルクスドライバー
- ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネント
- フロントドライブベイに12個のLFF (3.5型) ドライブまたは24個のSFF (2.5型) ドライブが完全に取り付けられている必要があります。
- すべてのファンベイに高性能ファンが取り付けられている必要があります。

手順

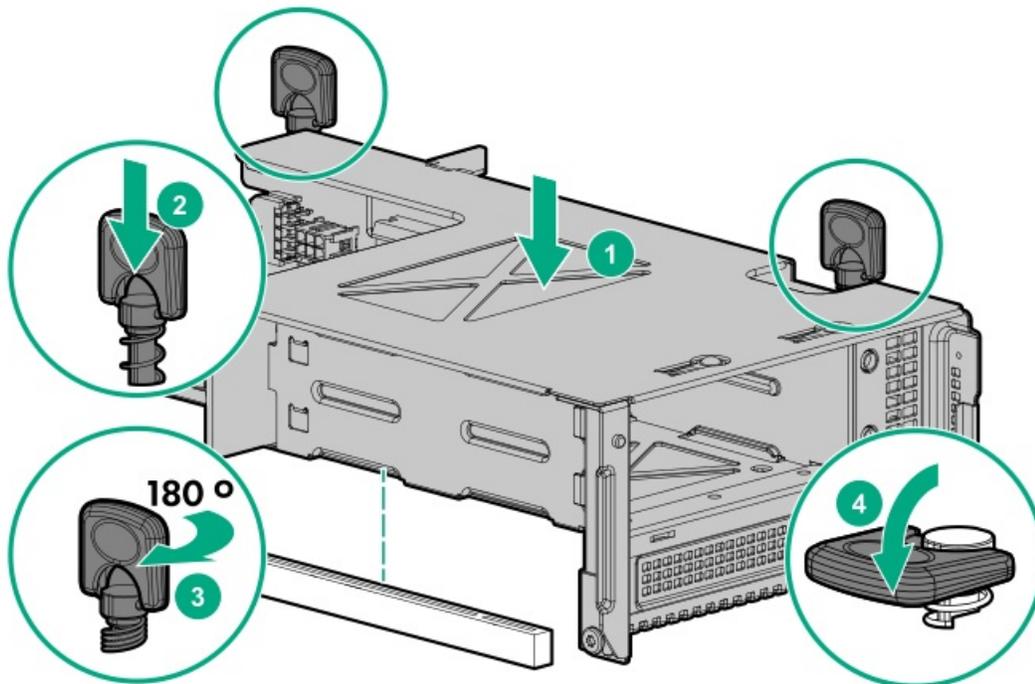
1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源を取り外します。
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - サーバーをラックから取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. 次のいずれかを実行します。
 - プライマリベイの場合、ライザーケージを取り外します。



- セカンダリベイの場合、リアウォールブランクを取り外します。



- ドライブケースを設置します。



- ドライブバックプレーンの配線を行います。
- ドライブブランクまたはドライブを取り付けます。
- アクセスパネルを取り付けます。
- サーバーをスライドさせてラックに押し込みます。



11. 各電源コードをサーバーに接続します。
12. 各電源コードを電源ソースに接続します。
13. サーバーの電源を入れます。

電源装置の上へのリア2 SFF (2.5型) SAS/SATAドライブケースの取り付け

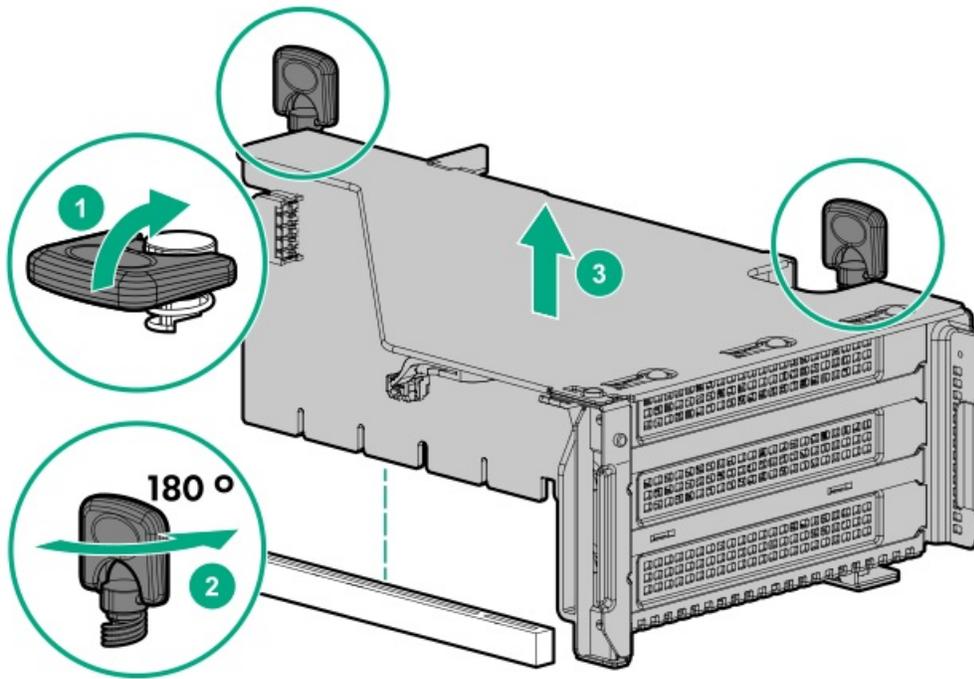
前提条件

この手順を実行する前に、次のものを用意しておきます。

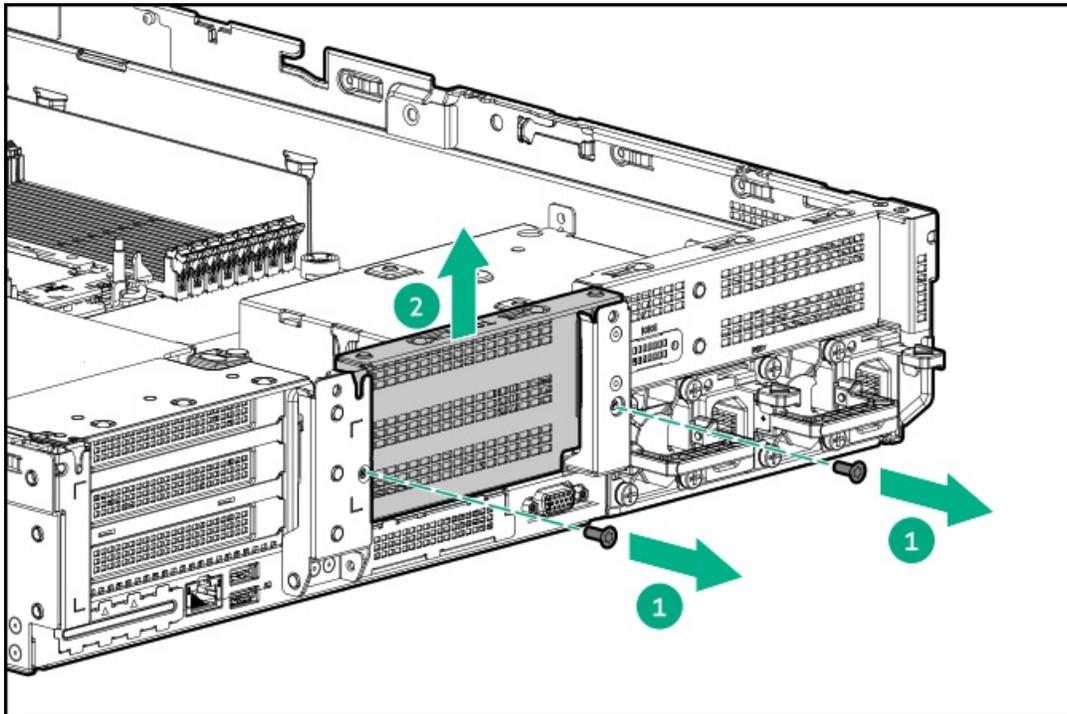
- T-10トルクスドライバー
- ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネント
- フロントベイに12個のLFF (3.5型) ドライブまたは24個のSFF (2.5型) ドライブが完全に取り付けられている必要がある
- すべてのファンベイに高性能ファンが取り付けられている必要がある

手順

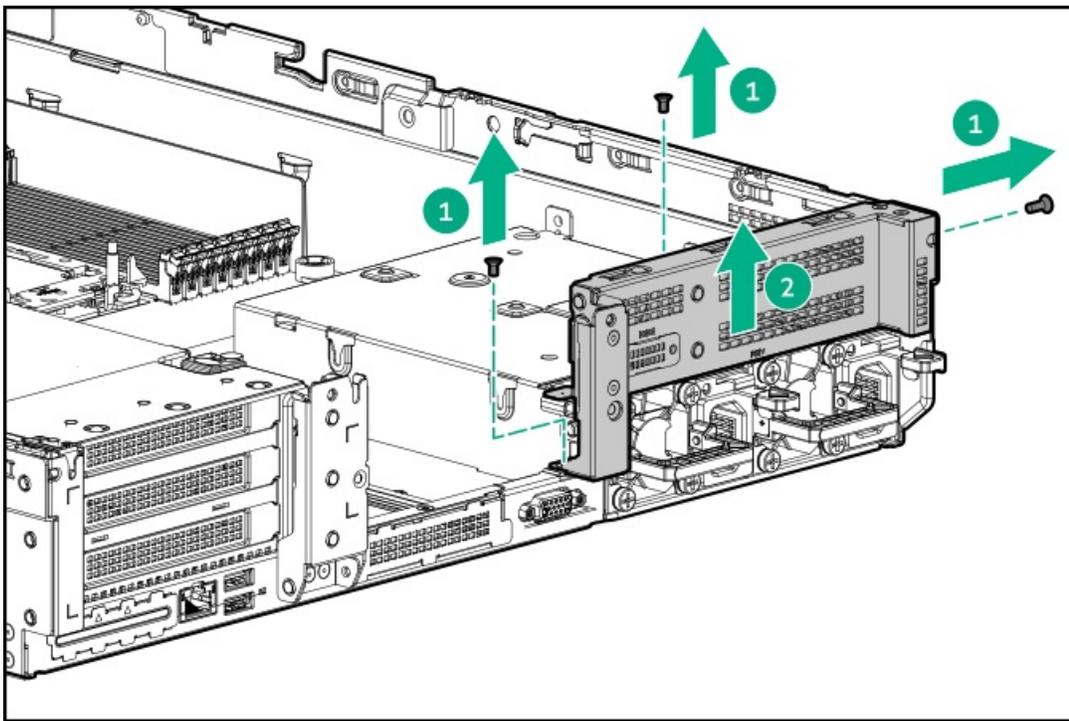
1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源を取り外します。
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - サーバーをラックから取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. 次のいずれかを実行します。
 - セカンダリライザーケースが取り付けられている場合は取り外します。



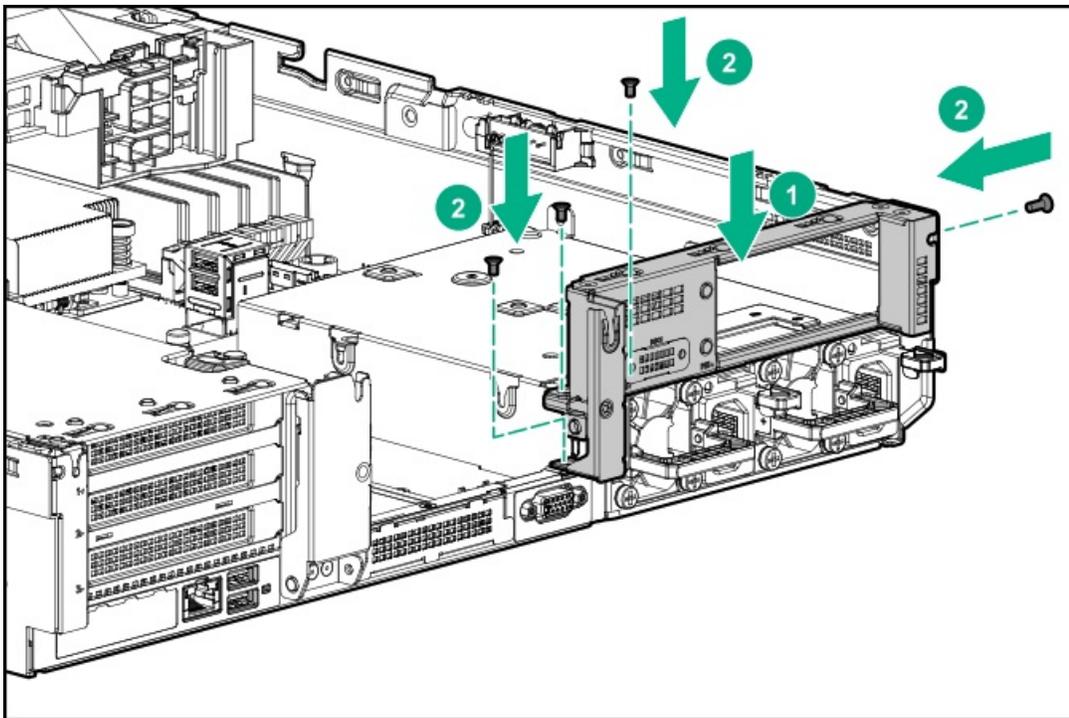
- セカンダリウォールブラックを取り外します。



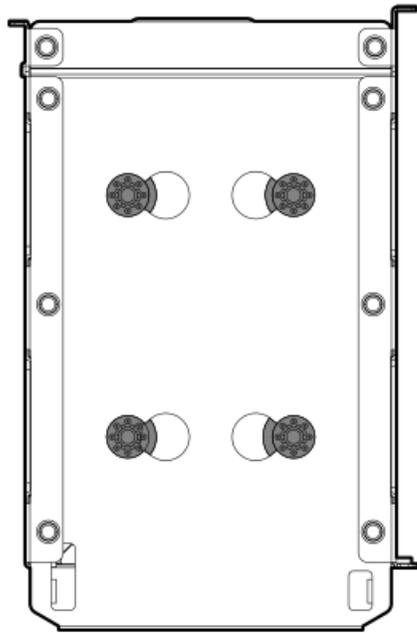
6. ターシャリウォールブラックを取り外します。



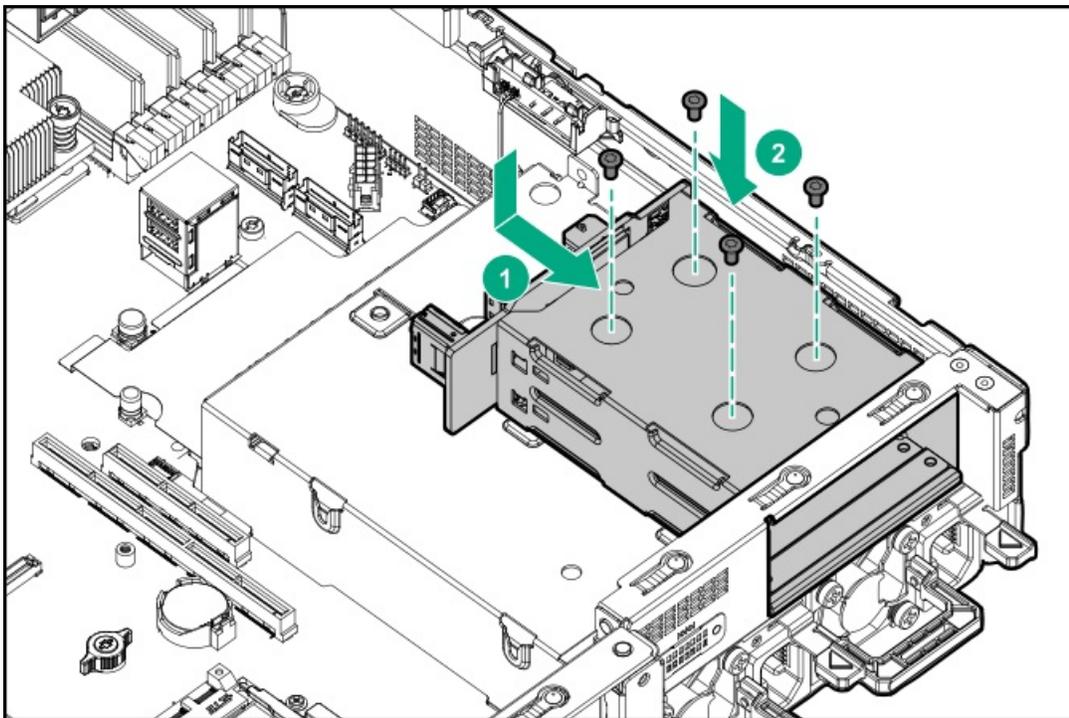
7. ドライブケージと互換性のあるリアウォールを取り付けます。



8. ドライブケージに4つのゴム脚を取り付けます。



9. ドライブページを取り付けます。



10. ドライブblankまたはドライブを取り付けます。
11. セカンダリアウウォールまたはセカンダリライザーページを取り付けます。
12. ドライブバックプレーンの配線を行います。
13. アクセスパネルを取り付けます。
14. サーバーをスライドさせてラックに押し込みます。
15. 各電源コードをサーバーに接続します。
16. 各電源コードを電源ソースに接続します。
17. サーバーの電源を入れます。

プライマリまたはセカンダリライザーへのリア2LFF（3.5型）SAS/SATAドライブ ケージの取り付け

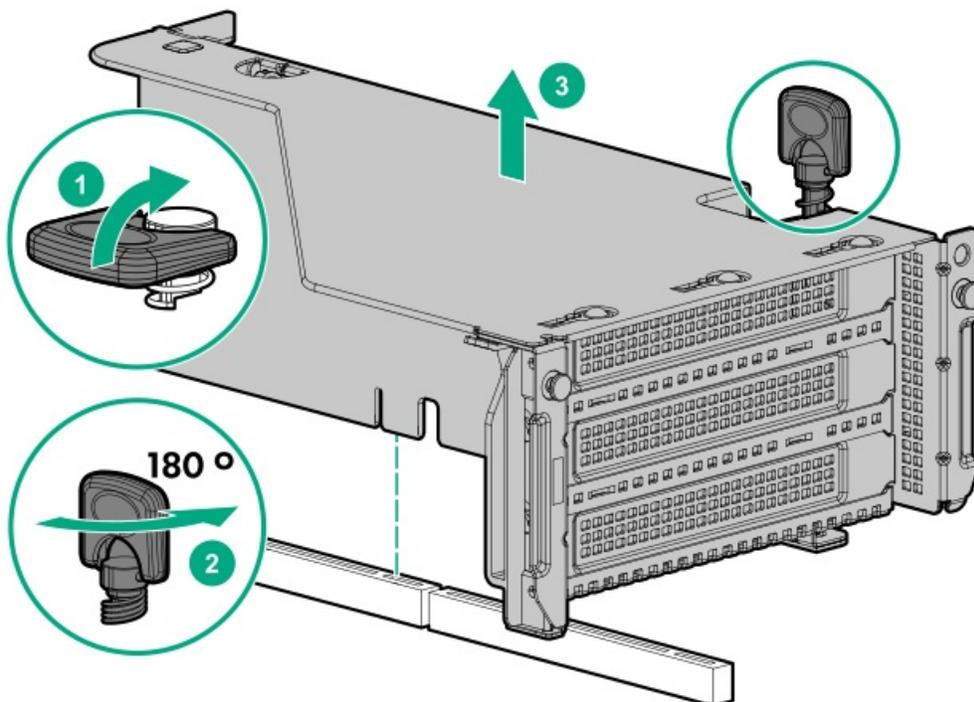
前提条件

この手順を実行する前に、次のものを用意しておきます。

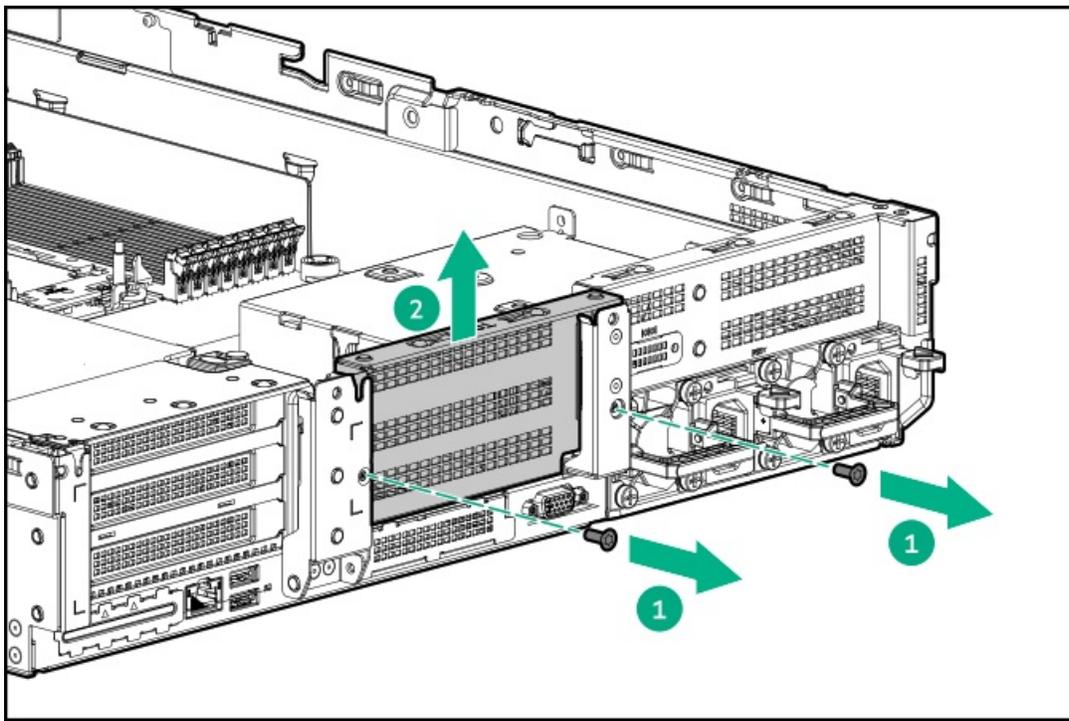
- T-10トルクスドライバー
- ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネント
- フロントドライブベイに12個のLFF（3.5型）ドライブまたは24個のSFF（2.5型）ドライブが完全に取り付けられている必要があります。
- すべてのファンベイに高性能ファンが取り付けられている必要があります。

手順

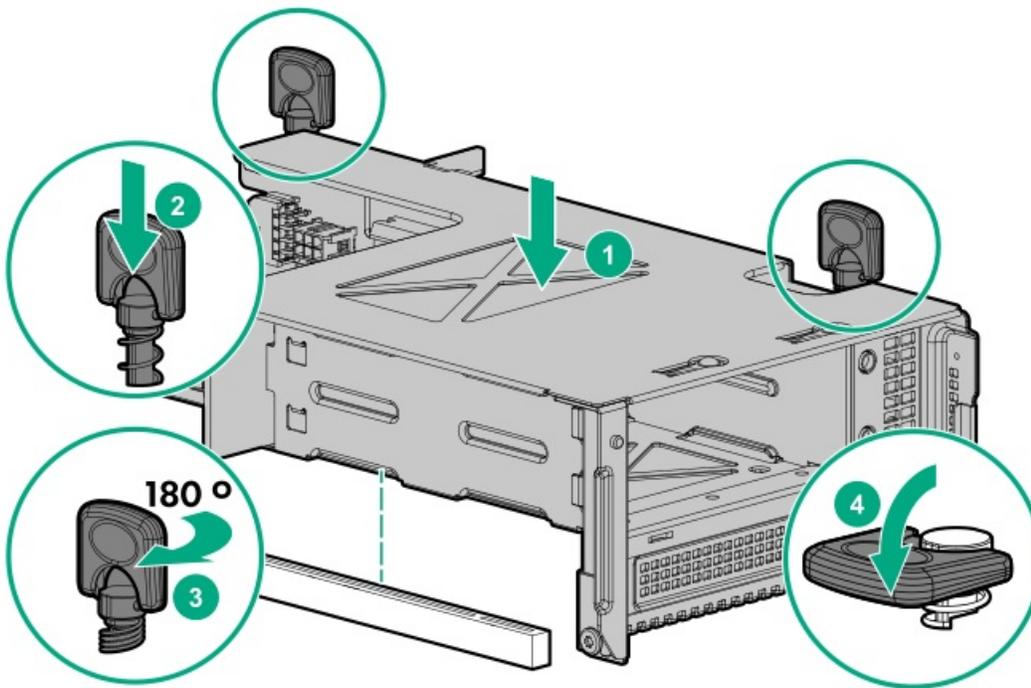
1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源を取り外します。
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - サーバーをラックから取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. 次のいずれかを実行します。
 - プライマリベイの場合、ライザーケージを取り外します。



- セカンダリベイの場合、リアウォールブランクを取り外します。



6. ドライブケースを設置します。



7. ドライブバックプレーンの配線を行います。
8. ドライブblankまたはドライブを取り付けます。
9. アクセスパネルを取り付けます。
10. サーバーをスライドさせてラックに押し込みます。
11. 各電源コードをサーバーに接続します。
12. 各電源コードを電源ソースに接続します。
13. サーバーの電源を入れます。

タスクの結果

以上で取り付けは完了です。

プロセッサとヒートシンクのオプション

サブトピック

[プロセッサヒートシンクアセンブリの取り付け](#)

[高性能ヒートシンクの取り付け](#)

プロセッサヒートシンクアセンブリの取り付け

前提条件

このオプションを設置する前に、以下のものがあることを確認します。

- オプションキットに含まれるコンポーネント
- T-30トルクスドライバー

手順

1. [ヒートシンクとソケットのコンポーネントを確認](#)します。
2. 次のアラートに注意してください。

△ 注意: ヒートシンクを扱うときは、常にフィンの上部と下部を持ってください。側面を持つとフィンが損傷する可能性があります。

△ 注意: サーバーの誤動作や装置の損傷を防止するために、マルチプロセッサ構成では、必ず、同じ部品番号のプロセッサを使用してください。

△ 注意: 以前より高速のプロセッサを取り付ける場合は、プロセッサを取り付ける前に、システムROMをアップデートしてください。
ファームウェアをダウンロードしてインストール手順を表示するには、[Hewlett Packard Enterprise サポートセンターのWebサイト](#)を参照してください。

△ 注意: 接点は非常に壊れやすく、簡単に損傷します。ソケットまたはプロセッサの損傷を防止するために、接点には触れないでください。

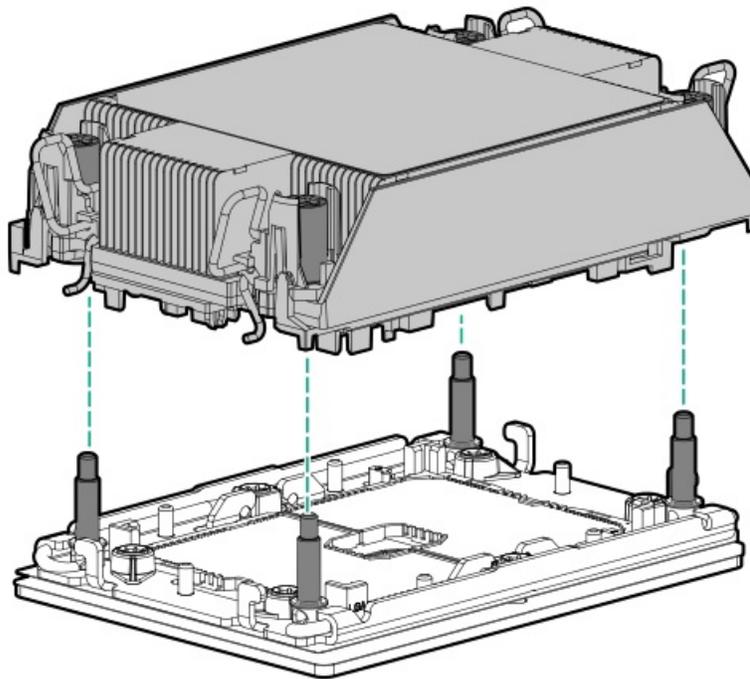
3. [サーバーの電源を切る](#)。
4. すべての電源を取り外す:
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
5. 次のいずれかを実行します。
 - a. [サーバーをラックから引き出す](#)。
 - b. [サーバーをラックから取り外す](#)。
6. [アクセスパネルを取り外す](#)。

7. 150W以上のプロセッサを取り付ける場合、高性能ファンを取り付けます。

8. プロセッサヒートシンクアセンブリを取り付けます。

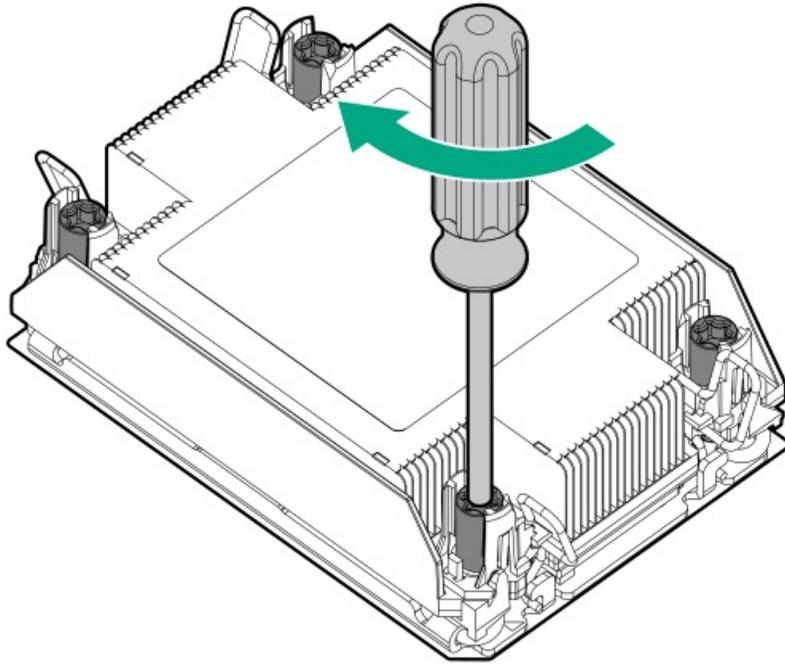
- a. ソケットからダストカバーを外します。
- b. ヒートシンクのサーバー前面のラベルを確認します。
- c. アセンブリをソケットに合わせ、ゆっくり下げてソケットの上に配置します。

ラッチによってヒートシンクが所定の位置に固定されるようにします。ヒートシンクとソケットにはキーが付いています。プロセッサは、一方向にのみ取り付けることができます。



d. T-30トルクスドライバーを使用して、ナットを締めます。

 注記: 12インチポンドまたは1.3Nm以上でナットを締めないでください。きつく締めすぎると、ナットが割れたり破損したりする可能性があります。



タスクの結果

以上で取り付けは完了です。

高性能ヒートシンクの取り付け

前提条件

- △ 注意: 高性能ヒートシンクを取り付けるには、プロセッサアセンブリをヒートシンクに取り付ける必要があります。サーバーまたはコンポーネントの損傷を防止するために、他のヒートシンクの取り付けや交換の際に、プロセッサアセンブリを取り外したり取り付けたりしないでください。

高性能ヒートシンクをサーバーに取り付けるタイミングを判断するには、サーバーの QuickSpecs (<https://www.hpe.com/info/qs>) を参照してください。

このオプションを設置する前に、以下のものがあることを確認します。

- ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネント
- T-30トルクスドライバー

手順

1. 次のアラートに注意してください。

- △ 注意: プロセッサアセンブリはユニットとして取り外し、交換する必要があります。プロセッサはキャリアから取り外さないでください。

- △ 注意: ヒートシンクを扱うときは、常にフィンの上部和下部を持ってください。側面を持つとフィンが損傷する可能性があります。

- △ 注意: 接点は非常に壊れやすく、簡単に損傷します。ソケットまたはプロセッサの損傷を防止するために、接点には触れないでください。

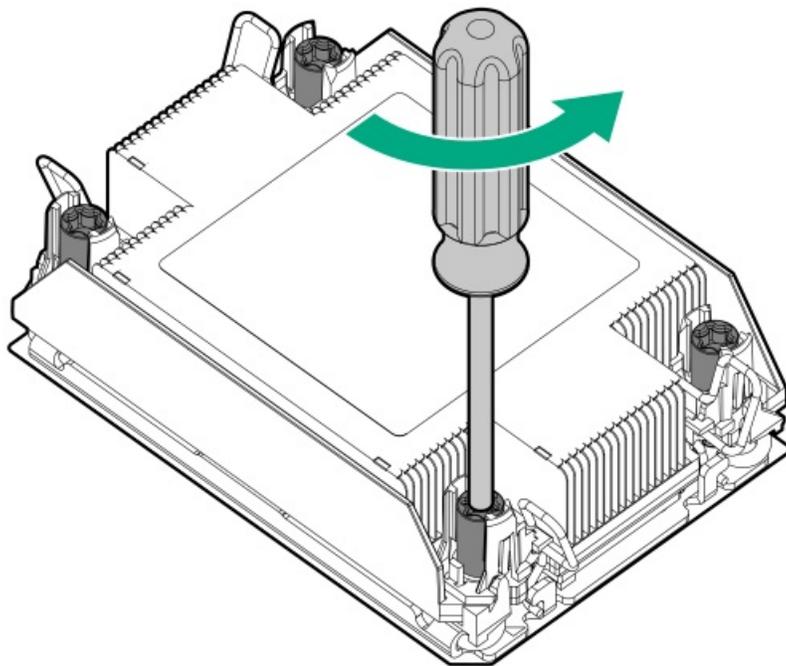
2. サーバーの電源を切る。

3. すべての電源を取り外す:
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
4. 次のいずれかを実行します。
 - a. サーバーをラックから引き出す。
 - b. サーバーをラックから取り外す。
5. アクセスパネルを取り外す。
6. 次の注意事項に従ってください。

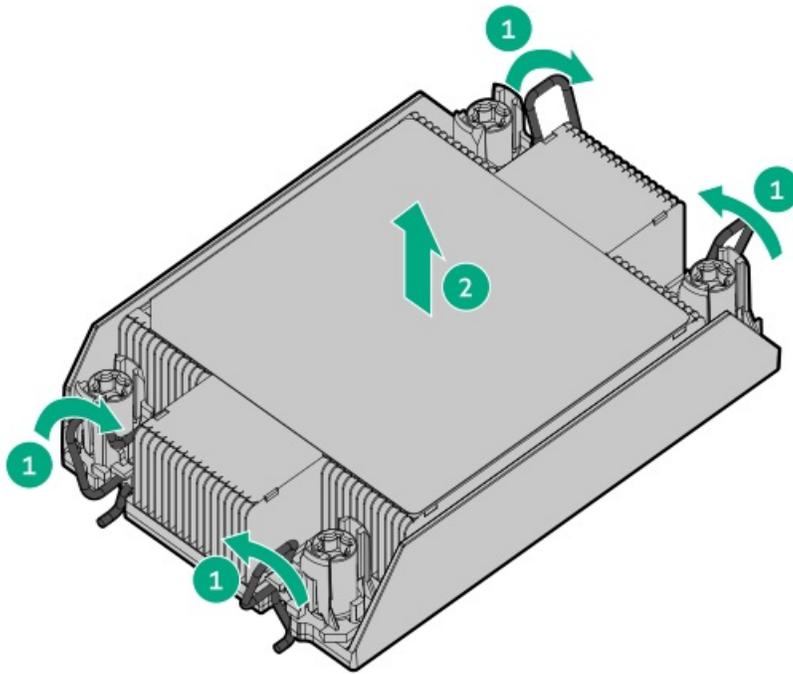
△ 注意: 各ヒートシンクナットは必ず指定された順序で緩めてください。そうしないと、ヒートシンクやプロセッサが損傷する可能性があります。

△ 注意: プロセッサソケットを取り外した後、すぐにプロセッサヒートシンクアセンブリを取り付けてください。プロセッサソケットを長期間未装着のままにしないでください。

7. 既存のプロセッサ/ヒートシンクアセンブリを取り外します。
 - a. ヒートシンクを冷まします。
 - b. T-30トルクスドライバーを使用して、ヒートシンクナットを緩めます。



- c. プロセッサヒートシンクアセンブリを取り外します。

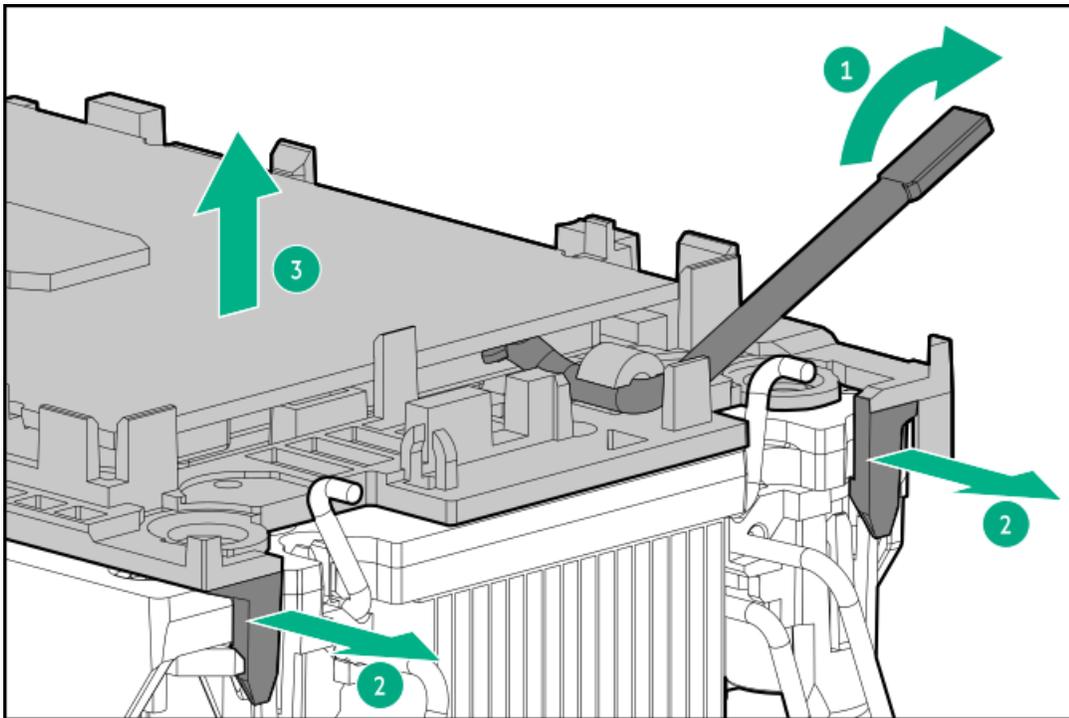


d. プロセッサ熱シンクアセンブリを裏返しにし、プロセッサアセンブリを上向きにして作業台に置きます。

8. ヒートシンクからプロセッサを取り外します。

プロセッサキャリアのすべての角のラッチを外してください。

プロセッサはキャリアに接続されたままです。

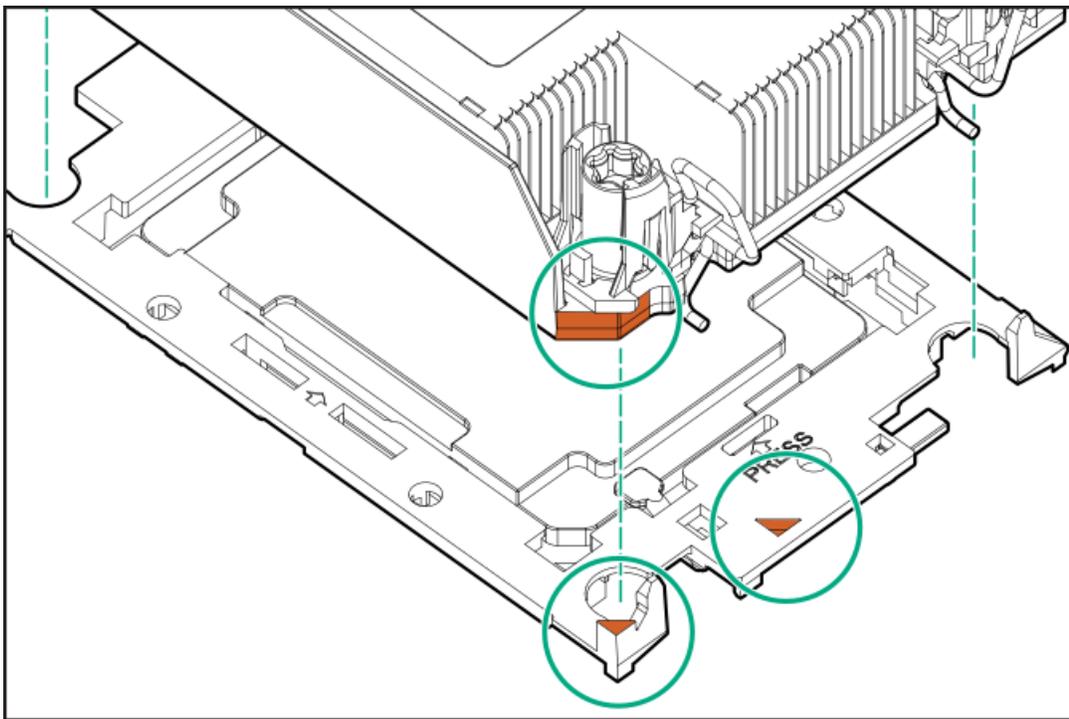


9. アルコールワイプを使用して、プロセッサとヒートシンクに付いたサーマルグリースを除去します。アルコールが蒸発してから次の手順に進んでください。

10. 高性能ヒートシンクのサーマルグリースを保護しているプラスチックカバーを取り外します。

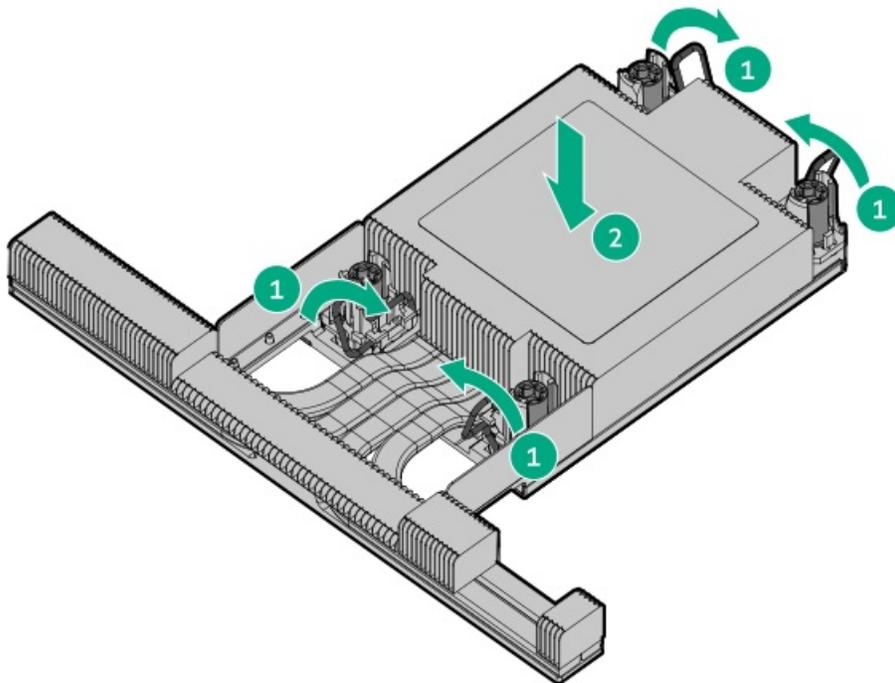
11. プロセッサのピンインジケータをヒートシンクに合わせ、プロセッサアセンブリをヒートシンクに取り付けます。





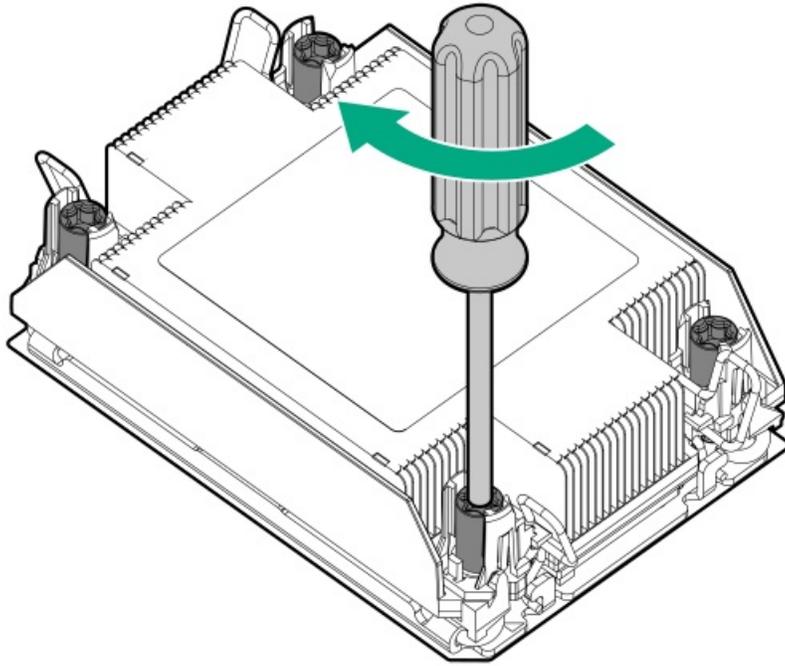
12. プロセッサ熱シンクアセンブリを取り付けます。

- a. 熱シンクのサーバー前面のラベルを確認します。
- b. アセンブリを位置決めポストに合わせ、ゆっくり下げてソケットの上に配置します。
プロセッサ熱シンクアセンブリは、一方向にのみ取り付けることができます。



c. T-30トルクスドライバーを使用して、ナットを締めます。

注記: 12インチポンドまたは1.3Nm以上でナットを締めないでください。きつく締めすぎると、ナットが割れたり破損したりする可能性があります。



タスクの結果

以上で取り付けは完了です。

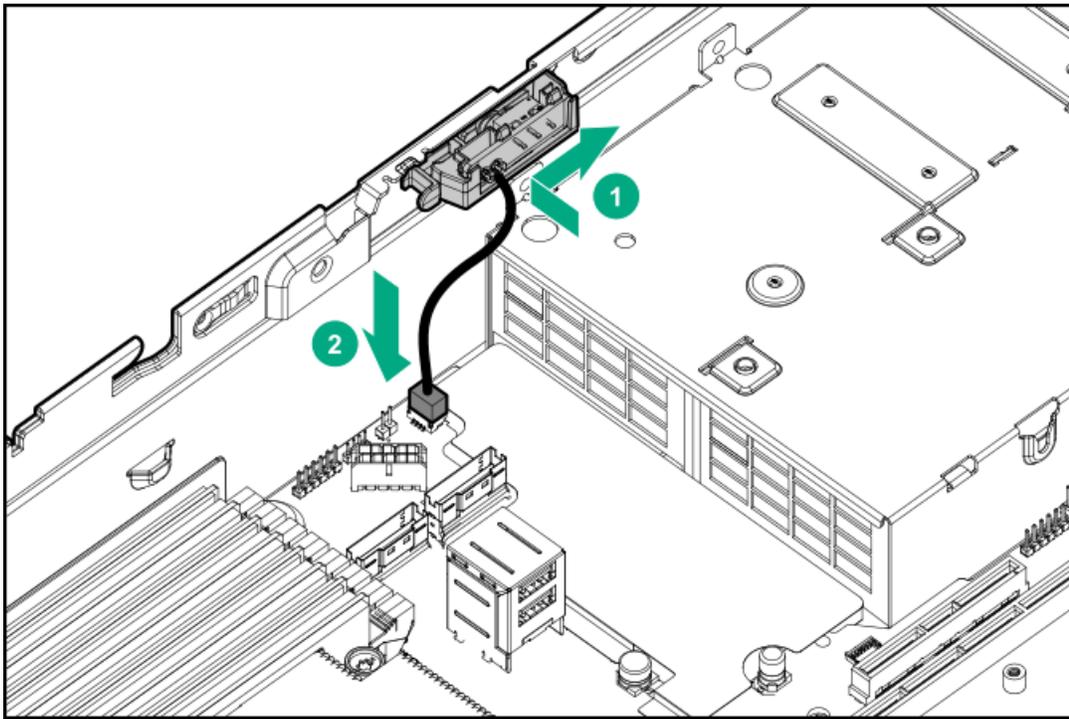
シャーシ侵入検出スイッチの取り付け

前提条件

この手順を実行する前に、ハードウェアオプションキットに付属のコンポーネントが揃っていることを確認してください。

手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源を取り外します。
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - サーバーをラックから取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. シャーシ侵入検知スイッチを取り付けます。



6. アクセスパネルを取り付けます。
7. サーバーをラックに取り付けます。
8. 各電源コードをサーバーに接続します。
9. 各電源コードを電源ソースに接続します。
10. サーバーの電源を入れます。

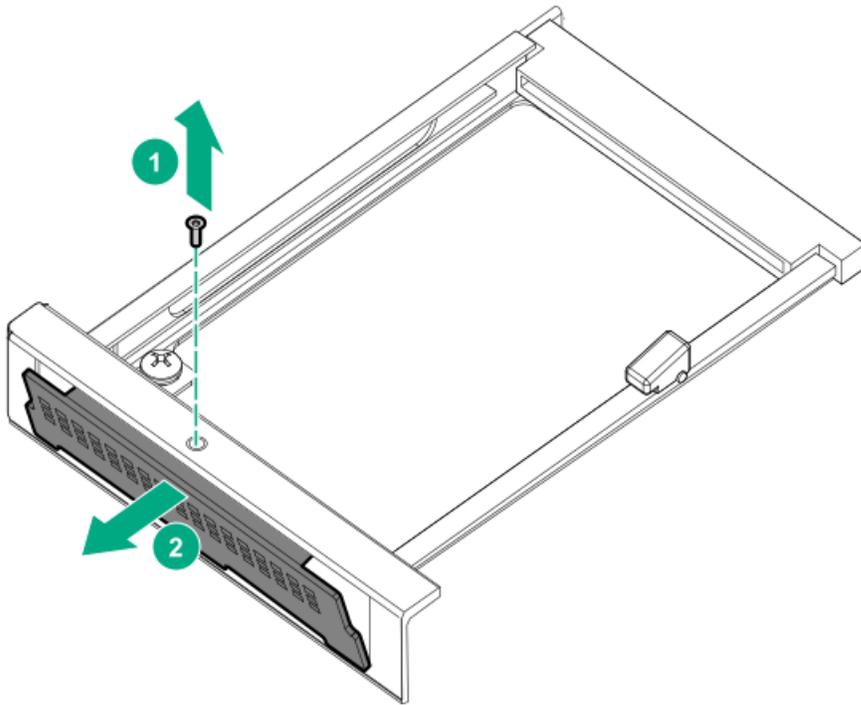
OCP 3.0アダプターカードの取り付け

前提条件

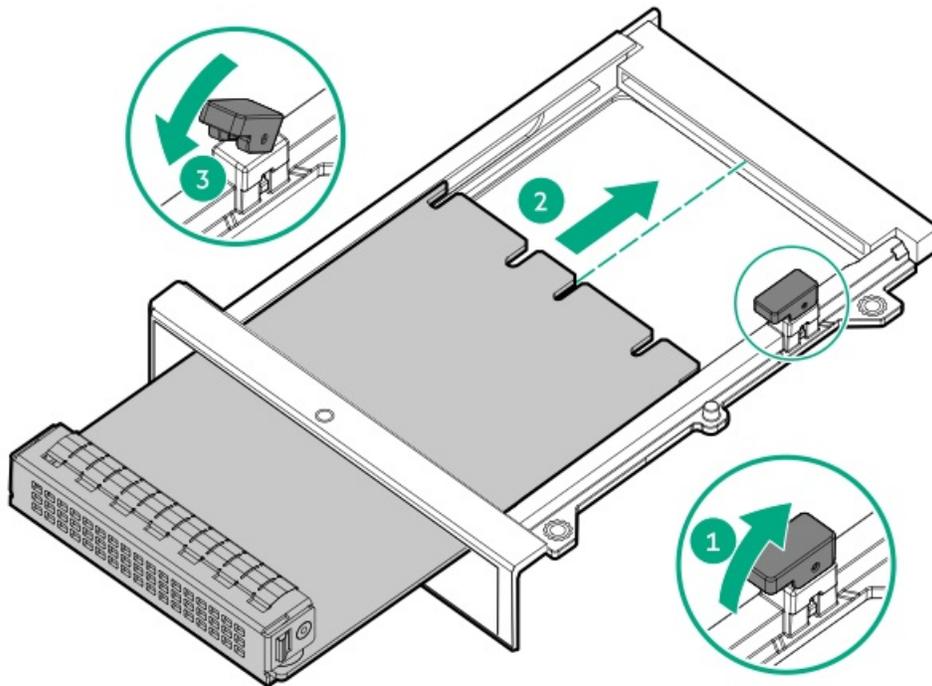
この手順を始める前に、ハードウェアオプションキットに付属のコンポーネントが使用可能であることを確認してください。

手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源を取り外す：
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - サーバーをラックから取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. リアウォールブラックまたはライザーを取り外します。
6. OCP 3.0アダプターブラックを取り外します。



7. OCP 3.0アダプターを取り付けます。



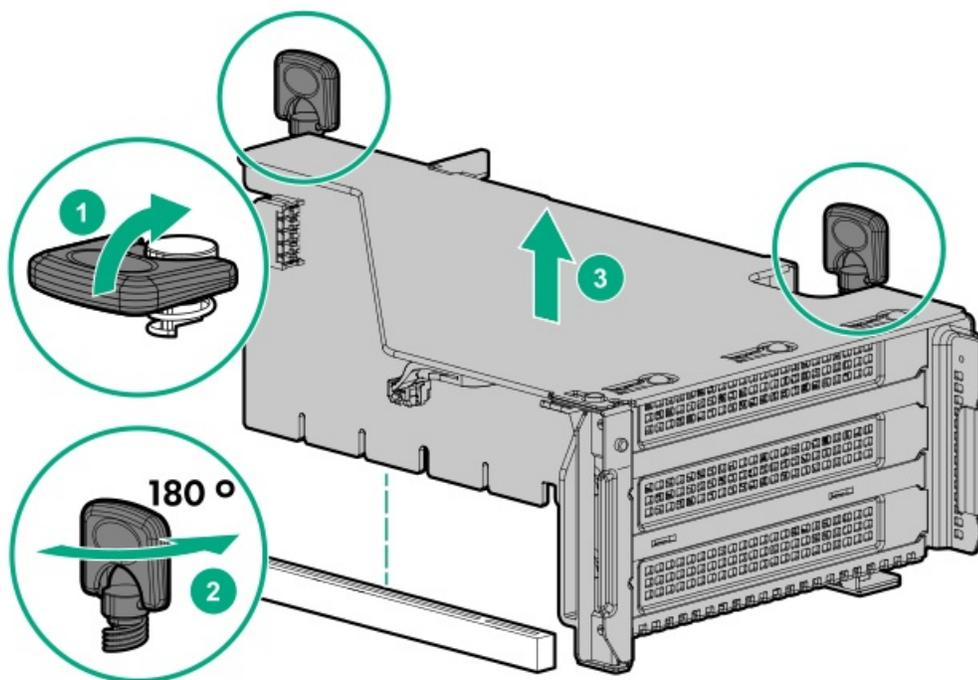
8. ケーブルを接続します。
9. アクセスパネルを取り付けます。
10. サーバーをスライドさせてラックに押し込みます。
11. 各電源コードをサーバーに接続します。
12. 各電源コードを電源ソースに接続します。
13. サーバーの電源を入れます。



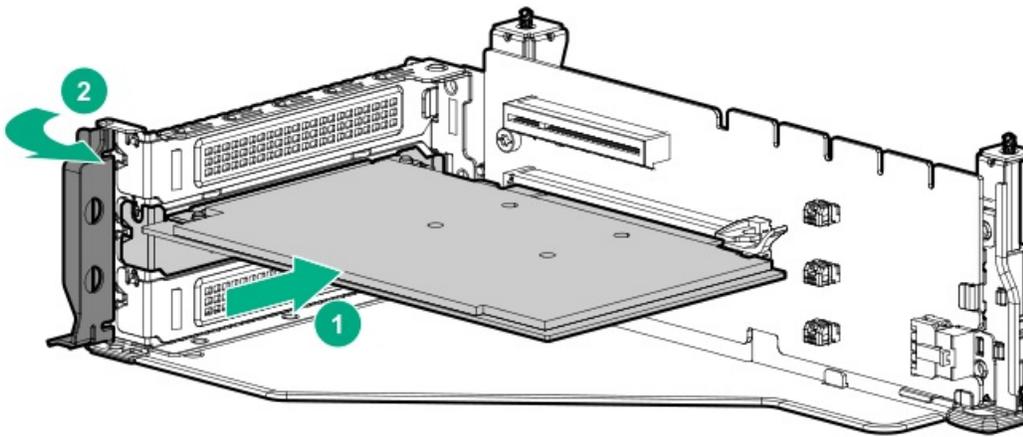
Pensando DSP DSC-25 2p SFP28カードの取り付け

手順

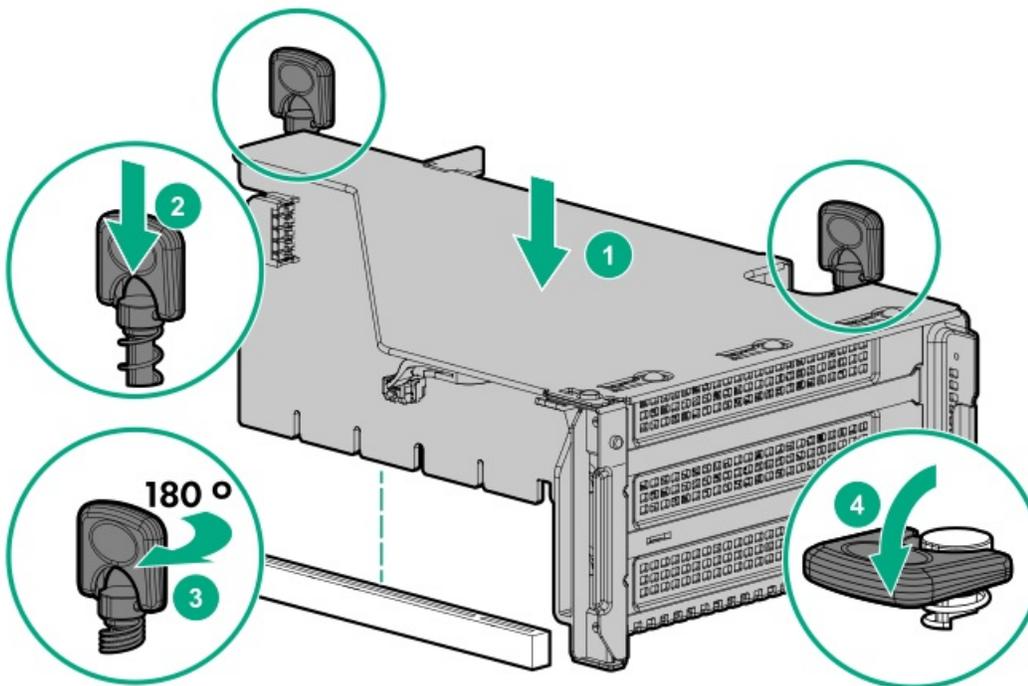
1. サーバーの電源を切ります。
2. 次のいずれかを実行します。
 - フロントドライブケージをシャーシから引き出します。
 - サーバーをラックから取り外します。
 - コンピュートモジュールをエンクロージャーから取り外します。
3. サーバーを平らで水平な面に置きます。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. 該当する場合、PCIeライザーケージを取り外します。



6. PCIeスロットに Pensando DSP DSC-25 2p SFP28カードを取り付けます。



7. サーバーにPCIeライザーケースを取り付けます。



8. アクセスパネルを取り付けます。

9. サーバーをスライドさせてラックに押し込みます。

10. 各電源コードをサーバーに接続します。

11. 各電源コードを電源ソースに接続します。

12. サーバーの電源を入れます。

13. 新しいカードをPensando Policy and Services Manager (PSM) に関連付けます。

詳しくは、PSM Enterprise Edition User Guideを参照してください。

HPE NS204i-p NVMe OSブートデバイスオプションの取り付け

前提条件

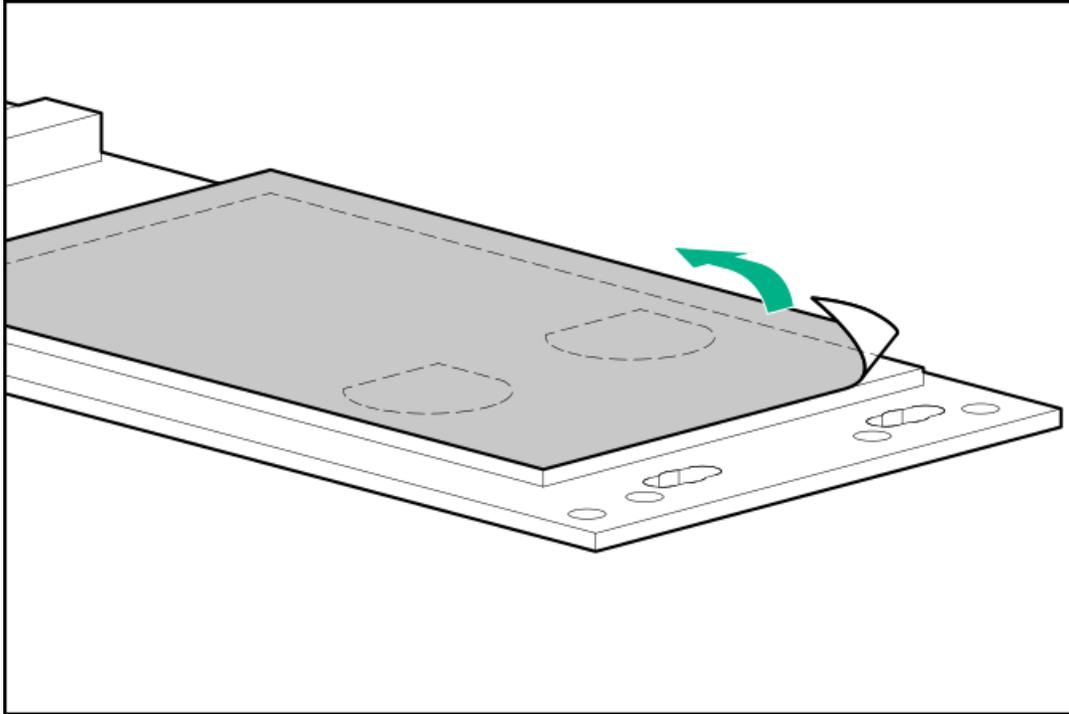
取り付けを開始する前に、サーバーが最新のオペレーティングシステムファームウェアとドライバーでアップデートされていることを確認してください。

このタスクについて

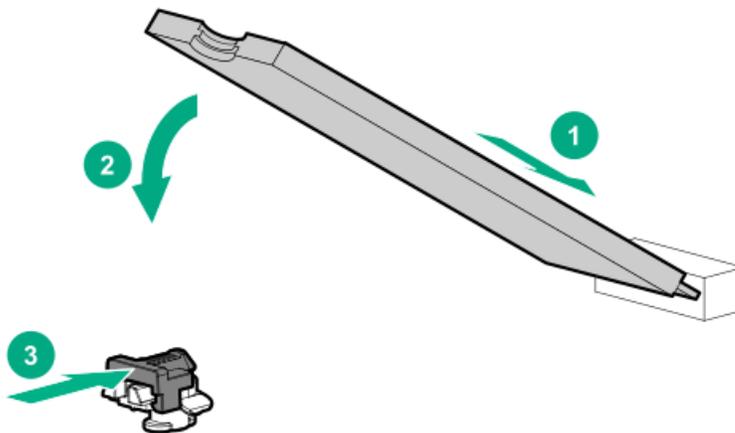
手順

ブートデバイスへのドライブの取り付け

1. サーマルインターフェイスパッドからライナーを取り外します。



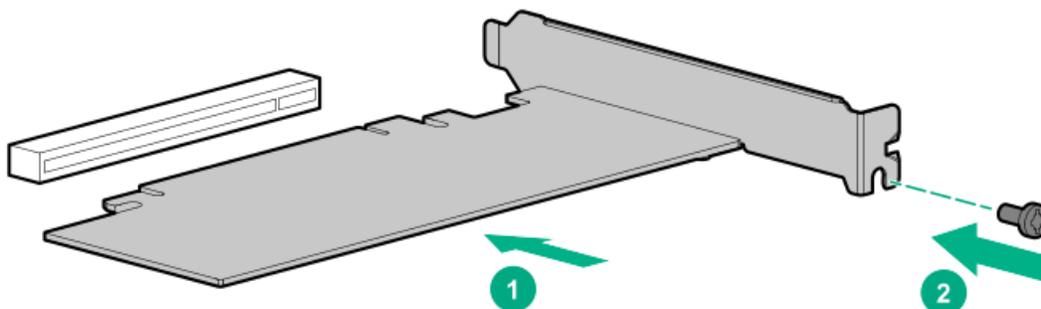
2. ドライブを取り付けます。



ブートデバイスの取り付け

3. システムの電源を切ります。
4. 次のいずれかを実行します。
 - フロントドライブケースをシャーシから引き出します。
 - ラックからシステムを取り外します。
 - コンピュートモジュールをエンクロージャーから取り外します。

5. サーバーを平らで水平な作業台に置きます。
6. アクセスパネルを取り外します。
7. x8物理サイズおよびx4電気サイズの利用可能なPCIe拡張スロットを選択します。
8. 拡張スロットのカバーを外します。
固定用ネジがある場合は、それを保管しておきます。
9. ブートデバイスを取り付けます。



10. 拡張スロットにアクセスするために取り外したコンポーネントをすべてインストールします。
11. アクセスパネルを取り付けます。
12. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをスライドさせてラックに押し込みます。
 - サーバーをラックに取り付けます。
13. サーバーの電源を入れます。

オペレーティングシステムの展開

14. サポートされているオペレーティングシステムを ブートデバイスドライブに展開します。

詳しくは、製品のQuickSpecs (<https://www.hpe.com/info/qs>) を参照してください。

OSのインストールが完了すると、システムはオペレーティングシステムを ブートデバイスの2番目のミラー化されたドライブに自動的にコピーします。

15. 通常のシステムセットアップと操作を続行します。

リアシリアルポートインターフェイスの取り付け

前提条件

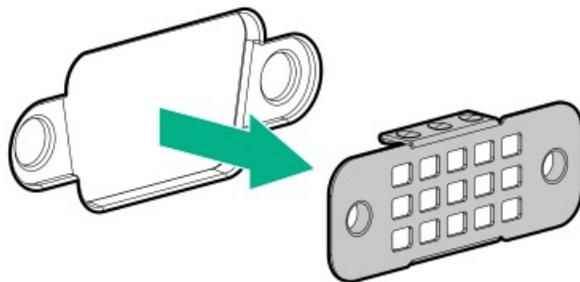
この手順を実行する前に、次のものを用意しておきます。

ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネント

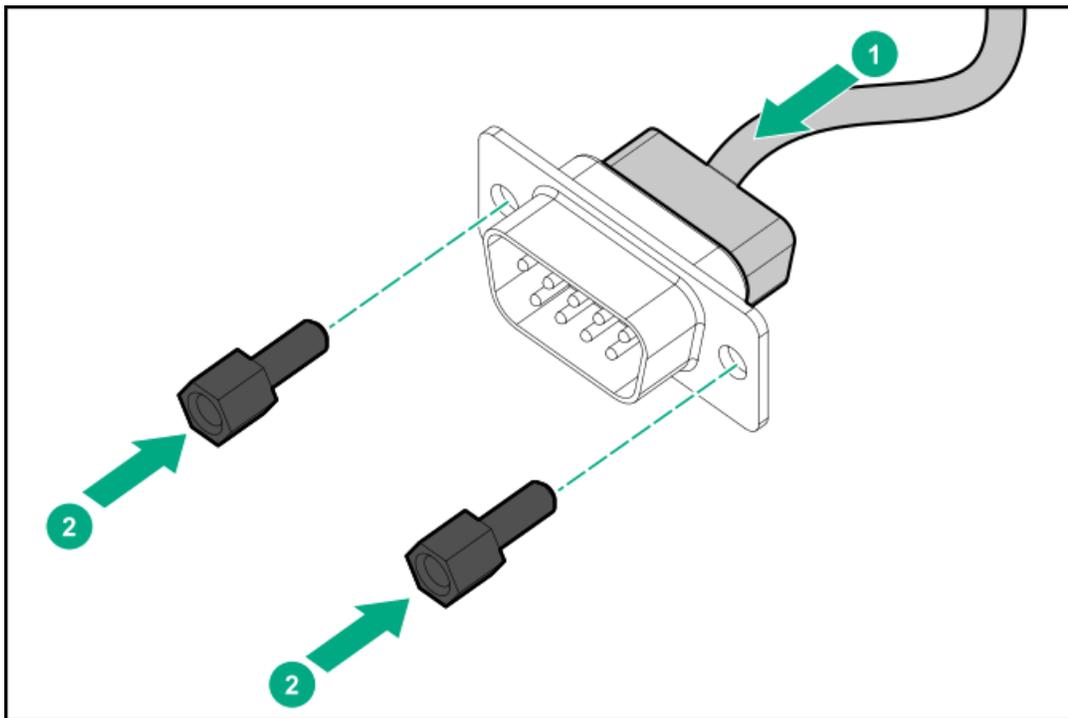
手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. 次のいずれかを実行します。
 - 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。

- サーバーをラックから引き出します。
 - サーバーをラックから取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
 5. シリアルポートブランクを取り外します。



6. シリアルポートインターフェイスを取り付けます。



7. ケーブルをシステム ボードに接続します。
8. アクセスパネルを取り付けます。
9. サーバーをラックに取り付けます。
10. 各電源コードをサーバーに接続します。
11. 各電源コードを電源ソースに接続します。
12. サーバーの電源を入れます。

タスクの結果

以上で取り付けは完了です。

Systems Insight Displayの取り付け

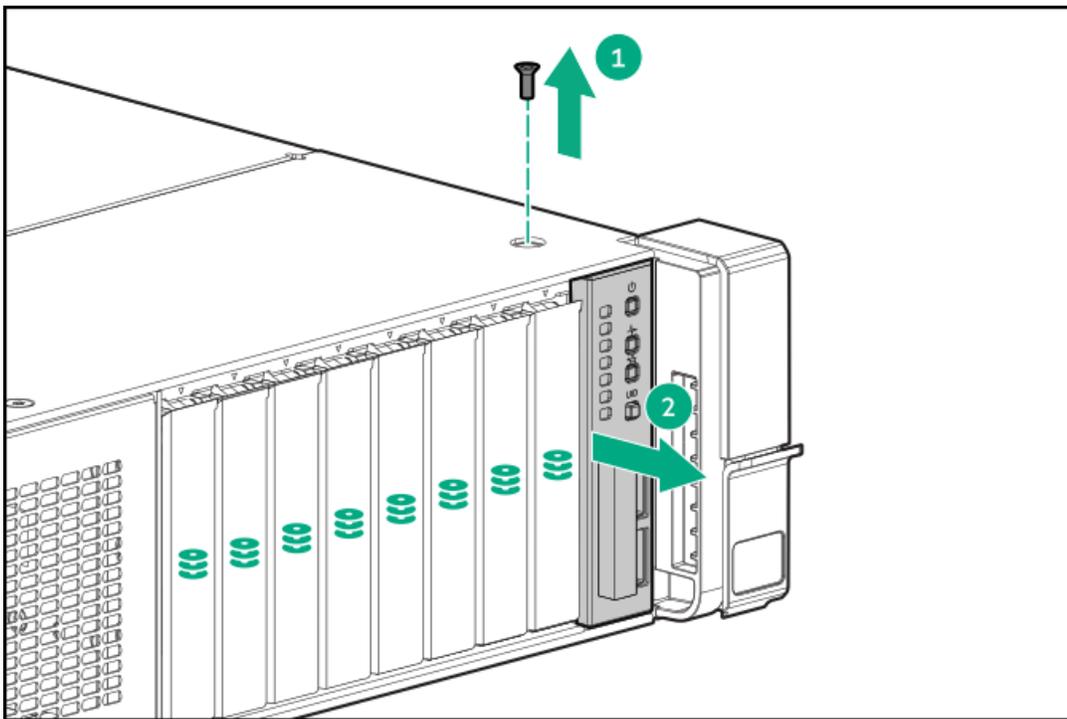
前提条件

この手順を実行する前に、次のものを用意しておきます。

- ハードウェアオプションキットに含まれるコンポーネント
- T-10トルクスドライバー

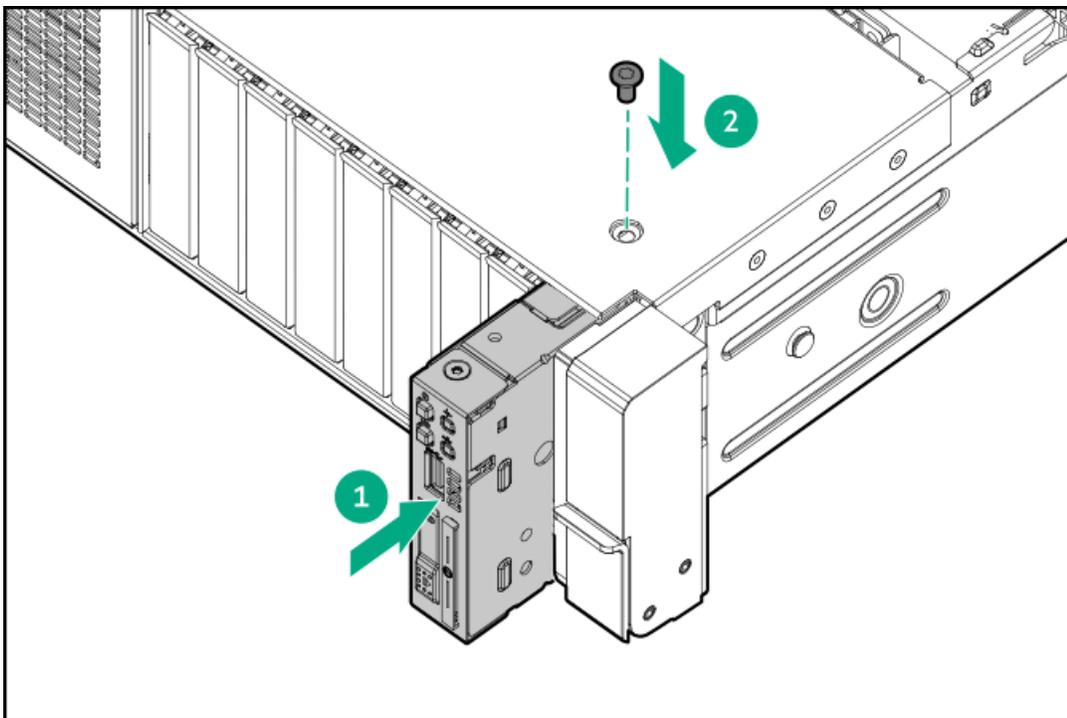
手順

1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源を取り外します。
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。
3. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - サーバーをラックから取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. 次のいずれかを実行します。
 - エアバッフルを取り外します。
 - 4LFF (3.5型) ミッドプレーンドライブケースが取り付けられている場合は、取り外します。
6. ファンケースを取り外します。
7. 電源スイッチ/SIDモジュールコネクタから電源スイッチモジュールケーブルを外します。
SIDモジュールケーブルを同じコネクタに接続します。
8. 電源スイッチモジュールを取り外します。T-10ネジは保管しておいてください。



△ 注意: ケーブルを配線するには、ケーブルがはさまれたり折り曲げられたりする可能性のない位置に配線してください。

9. サーバー前面の開口部を通してSIDケーブルを配線し、SIDモジュールを取り付けます。T-10ネジを使用して、モジュールを固定します。



10. SIDモジュールケーブルを電源スイッチ/SIDモジュールコネクターに接続します。
11. ファンケージを取り付けます。
12. 次のいずれかを実行します。
 - エアバッフルを取り付けます。



- ミッドプレーンまたはエアバッフルを取り付けます。
13. アクセスパネルを取り付けます。
 14. サーバーをスライドさせてラックに押し込みます。
 15. 各電源コードをサーバーに接続します。
 16. 各電源コードを電源に接続します。
 17. サーバーの電源を入れます。

タスクの結果

以上で取り付けは完了です。

HPE Trusted Platform Module 2.0 Gen10 Plusオプション

サブトピック

概要

[HPE Trusted Platform Module 2.0ガイドライン](#)

[HPE TPM 2.0 Gen10 Plusオプションの取り付けと有効化](#)

概要

このガイドに記載された手順に従って、HPE TPM 2.0 Gen10 Plusキットをサポートされているサーバーに取り付け、有効にしてください。このオプションは、Gen10以前のサーバーではサポートされません。

この手順には、次の3つの項があります。

1. Trusted Platform Moduleボードの取り付け
2. Trusted Platform Moduleの有効化
3. リカバリキー/パスワードの保管

HPE TPM 2.0のインストールは、特定のオペレーティングシステムサポート（Microsoft Windows Server 2012 R2以降など）でサポートされます。オペレーティングシステムのサポートについて詳しくは、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト（<https://www.hpe.com/info/qs>）にある製品のQuickSpecsを参照してください。Microsoft WindowsのBitLockerドライブ暗号化機能について詳しくは、MicrosoftのWebサイト（<https://www.microsoft.com>）を参照してください。

△ 注意: TPMが元のサーバーから取り外され、別のサーバーで電源が投入されると、TPMに格納されたデータ（キーを含む）は消去されます。

ⓘ 重要: UEFIブートモードでは、サポートされているでTPM 2.0（デフォルト）またはTPM 1.2として動作するようにサーバーを構成できます。レガシーブートモードでは、構成をTPM 1.2とTPM 2.0に切り替えることができますが、サポートされている動作はTPM 1.2のみです。

HPE Trusted Platform Module 2.0ガイドライン

△ 注意: 必ず、このガイドに記載されているガイドラインに従ってください。ガイドラインに従わないと、ハードウェアが損傷したり、データアクセスが中断したりする場合があります。

Hewlett Packard Enterprise特別な注意事項：このシステムでTPM機能を有効にする前に、TPMの用途が関連する地域の法律、規定および政策に準拠することを保証し、該当する場合、承認または免許を取得しなければなりません。

TPMの操作や使用から発生する上記の要件に違反する準拠問題については、全面的にお客様単独の責任になります。Hewlett Packard Enterpriseは、この問題について責任を負いません。

慧与特别提醒：在您启用系统中的TPM功能前，请务必确认您对TPM的使用遵守当地相关法律、法规及政策，并已事先获得所需的一切批准及许可（如适用），因您未获得相应的操作/使用许可而导致的违规问题，皆由您自行承担全部责任，与慧与无涉。

TPMの取り付けまたは交換の際には、次のガイドラインに従ってください。

- 取り付けたTPMを取り外さないでください。一度取り付けると、TPMは恒久的にシステムボードの一部となります。
- ハードウェアの取り付けや交換の際に、Hewlett Packard Enterpriseのサービス窓口でTPMまたは暗号化テクノロジーを有効にすることはできません。セキュリティ上の理由から、これらの機能を有効にできるのはユーザーだけです。
- サービス交換のためにシステムボードを返送する際は、システムボードからTPMを取り外さないでください。要求があれば、Hewlett Packard Enterpriseサービスまたはサービス窓口は、TPMをスペアのシステムボードとともに提供します。
- 取り付けられたTPMのカバーをシステムボードから取り外そうとすると、TPMのカバー、TPM、およびシステムボードが損傷する可能性があります。
- TPMが元のサーバーから取り外され、別のサーバーで電源が投入されると、TPMに格納されたすべてのデータ（キーを含む）は消去されます。
- BitLockerを使用する際は、常に、リカバリキー/パスワードを保管してください。システムの安全性が侵害された可能性をBitLockerが検出した後にリカバリモードに入るには、リカバリキー/パスワードが必要です。
- Hewlett Packard Enterpriseは、TPMの不適切な使用によって発生したデータアクセスのブロックについては、責任を負いかねます。操作手順については、オペレーティングシステムに付属の暗号化テクノロジー機能のドキュメントまたはTPMのドキュメントを参照してください。

HPE TPM 2.0 Gen10 Plusオプションの取り付けと有効化

サブトピック

[Trusted Platform Moduleボードの取り付け](#)

[Trusted Platform Moduleの有効化](#)

[BitLockerのリカバリキー/パスワードの保管](#)

Trusted Platform Moduleボードの取り付け

サブトピック

[取り付けのためのサーバーの準備](#)

[TPMボードとカバーの取り付け](#)

[稼働のためのサーバーの準備](#)

取り付けのためのサーバーの準備

手順

1. 次の警告に注意してください。

 **警告:** フロントパネルにある電源ボタンではシステムの電源を切ることはできません。AC電源コードを抜き取るまで、電源装置の一部といくつかの内部回路はアクティブのままです。けが、感電、または装置の損傷リスクを抑えるために、サーバーの電源を切ります。

- 電源コードを抜き取ります（ラックマウント型およびタワー型サーバー）。
- サーバーブレードとコンピューモジュールについては、エンクロージャーからこれらを取り外します。

 **警告:** 表面が熱くなっているため、やけどをしないように、ドライブやシステムの内部部品が十分に冷めてから手を触れてください。

2. システムROMをアップデートします。

Hewlett Packard EnterpriseサポートセンターのWebサイト (<https://www.hpe.com/support/hpesc>) から、最新バージョンのROMを見つけて、ダウンロードします。システムROMをアップデートするには、Webサイトの指示に従ってください。

3. サーバーの電源を切ります。

- a. OSのドキュメントの指示に従って、OSをシャットダウンします。
- b. サーバーをスタンバイモードにするには、電源ボタンを押します。サーバーがスタンバイ電源モードに入ると、システム電源LEDがオレンジ色になります。
- c. 電源コードを抜き取ります（ラックマウント型およびタワー型サーバー）。

4. 以下のいずれかを実行します。

- 製品に応じて、サーバーをラックから引き出すか取り外します。
- サーバーをエンクロージャーから取り外します。

5. 取り外されている場合は、サーバーを平らで水平な作業台に置きます。

6. アクセスパネルを取り外します。

7. TPMコネクタにアクセスするのに妨げとなるオプション製品やケーブルがあれば、取り外します。

8. 「TPMボードとカバーの取り付け」に進みます。

TPMボードとカバーの取り付け

手順

1. 次のアラートに従ってください。

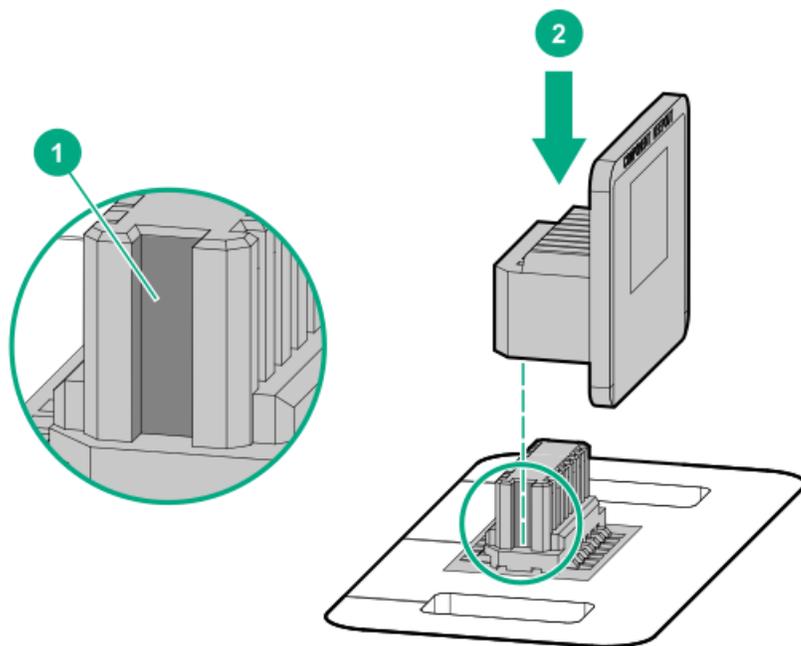
 **注意:** TPMが元のサーバーから取り外され、別のサーバーで電源が投入されると、TPMに格納されたデータ（キーを含む）は消去されます。

 **注意:** 示された方向にのみTPMを取り付けることが重要です。別の方向にTPMを取り付けようとする、TPMまたはシステムボードが損傷する場合があります。

2. TPMボードを取り付けます。

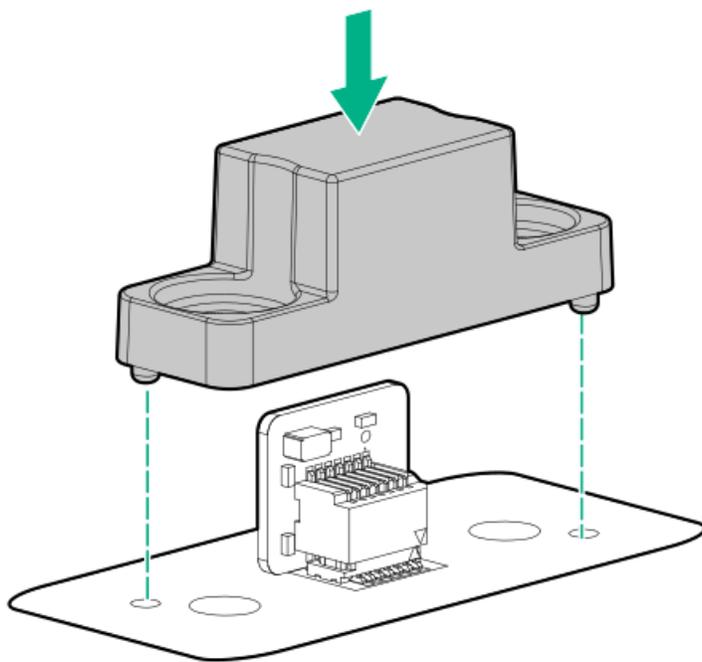
- a. システムボード上のTPMコネクタの位置を確認します。正確な位置については、サーバーのフードラベルを参照してください。
- b. TPMボードをコネクタ上のキーに合わせて、TPMボードを取り付けます。ボードを取り付けるには、TPMボードをコ

ネクターにしっかりと押し込みます。



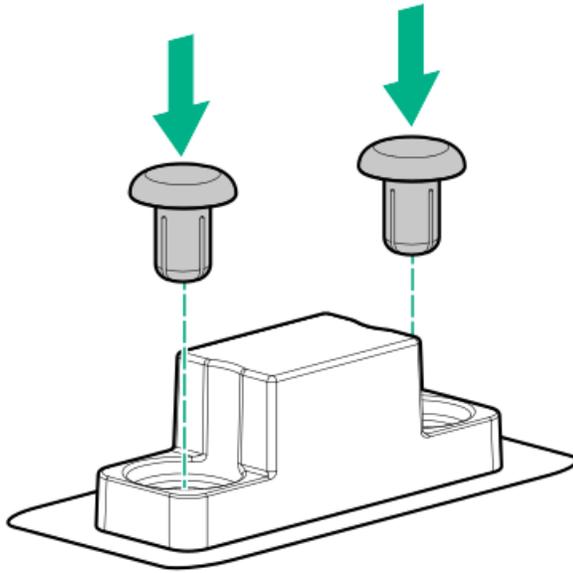
3. TPMのカバーを取り付けるには、以下の手順に従います。

- a. カバーのピンをシステムボードの開口部に合わせます。
- b. 位置決めピンが穴に固定されるまで、カバーの中央部をまっすぐ下に押し込みます。



4. TPMカバーの穴にリベットをしっかりと押し込んで、リベットを所定の位置に固定します。





5. 「稼働のためのサーバーの準備」に進みます。

稼働のためのサーバーの準備

手順

1. 前の手順でTPMコネクタにアクセスするために取り外したオプション製品やケーブルがあれば、取り付けます。
2. アクセスパネルを取り付けます。
3. 以下のいずれかを実行します。
 - サーバーをラック内部へスライドさせるか、または取り付けます。
 - サーバーをエンクロージャーに取り付けます。
4. サーバーの電源を入れます。
 - a. 電源コードを接続します（ラックマウント型およびタワー型サーバー）。
 - b. 電源をオンにする/スタンバイ ボタンを押します。

Trusted Platform Moduleの有効化

Trusted Platform Moduleを有効にするには、次のガイドラインに従ってください。

- デフォルトでは、Trusted Platform Moduleを取り付けた後にサーバーの電源がオンになると、Trusted Platform ModuleはTPM 2.0として有効化されます。
- UEFIブートモードでは、Trusted Platform ModuleをTPM 2.0（デフォルト）またはTPM 1.2として動作するように構成できます。
- レガシーブートモードでは、Trusted Platform Module構成をTPM 1.2とTPM 2.0（デフォルト）に切り替えることができますが、サポートされている動作はTPM 1.2のみです。

サブトピック

[Trusted Platform Module \(TPM 2.0\) の有効化](#)

[Trusted Platform Module \(TPM 1.2\) の有効化](#)

Trusted Platform Module (TPM 2.0) の有効化

このタスクについて

手順

1. サーバーの起動シーケンス中、F9キーを押して、システムユーティリティにアクセスします。
2. システムユーティリティ画面で、システム構成 > BIOS/プラットフォーム構成 (RBSU) > サーバーセキュリティ > Trusted Platform Moduleオプションを選択します。
3. 次を確認します。
 - 「現在のTPMのタイプ」がTPM 2.0に設定されている。
 - 「現在のTPMの状態」が装着済で有効に設定されている。
 - 「TPMジビリティ」が隠さないに設定されている。
4. 前の手順で変更が行われた場合、F10キーを押して、選択した内容を保存します。
5. 前の手順でF10キーが押された場合は、次のいずれかの操作を行います。
 - グラフィカルモードである場合、はいをクリックします。
 - テキストモードである場合、Yキーを押します。
6. ESCキーを押して、システムユーティリティを終了します。
7. 変更が行われて保存された場合、サーバーの再起動が要求されます。Enterキーを押して、再起動を確認します。

次の操作が実行された場合、ユーザーの入力なしに、サーバーはもう一度再起動します。この再起動中に、TPMの設定が有効になります。

 - TPM 1.2およびTPM 2.0からの変更
 - TPMバスのFIFOからCRBへの変更
 - TPMの有効化または無効化
 - TPMのクリア
8. Microsoft Windows BitLocker、メジャーブートなど、OSでTPM機能を有効にします。

詳しくは、[MicrosoftのWebサイト](#)を参照してください。

Trusted Platform Module (TPM 1.2) の有効化

このタスクについて

手順

1. サーバーの起動シーケンス中、F9キーを押して、システムユーティリティにアクセスします。
2. システムユーティリティ画面で、システム構成 > BIOS/プラットフォーム構成 (RBSU) > サーバーセキュリティ > Trusted Platform Moduleオプションを選択します。

3. 「TPMモードの切り替え操作」をTPM 1.2に変更します。
4. 「TPMビジビリティ」が隠さないに設定されていることを確認します。
5. F10キーを押して選択を保存します。
6. システムユーティリティで変更の保存を求めるメッセージが表示されたら、次のいずれかの操作を行います。
 - グラフィカルモードである場合、はいをクリックします。
 - テキストモードである場合、Yキーを押します。
7. ESCキーを押して、システムユーティリティを終了します。

サーバーが、ユーザーの入力なしで、2回目の再起動を実行します。この再起動中に、TPMの設定が有効になります。
8. Microsoft Windows BitLocker、メジャーブートなど、OSでTPM機能を有効にします。

詳しくは、[MicrosoftのWebサイト](#)を参照してください。

BitLockerのリカバリキー/パスワードの保管

リカバリキー/パスワードは、BitLockerのセットアップ時に生成され、BitLockerを有効にした後に保存および印刷できません。BitLockerを使用する際は、常に、リカバリキー/パスワードを保管してください。システムの安全性が侵害された可能性をBitLockerが検出した後にリカバリモードに入るには、リカバリキー/パスワードが必要です。

最大限のセキュリティを確保できるように、リカバリキー/パスワードを保管する際は、次のガイドラインに従ってください。

- リカバリキー/パスワードは必ず、複数の場所に保管してください。
- リカバリキー/パスワードのコピーは必ず、サーバーから離れた場所に保管してください。
- リカバリキー/パスワードを、暗号化されたハードディスクドライブに保存しないでください。

ケーブル接続

サブトピック

[ケーブル接続のガイドライン](#)

[電源ケーブルの接続](#)

[ケーブル配線図](#)

[ケーブル配線：フロントI/Oのケーブル接続](#)

[ケーブル配線：シリアルポート](#)

[ケーブル配線：OCP NVMeの有効化](#)

ケーブル接続のガイドライン

この章で使用するケーブル配線図のケーブルの色は、説明目的でのみ使用されます。

サーバーケーブルを取り扱う際は、次のガイドラインを守ってください。

ケーブルを接続する前

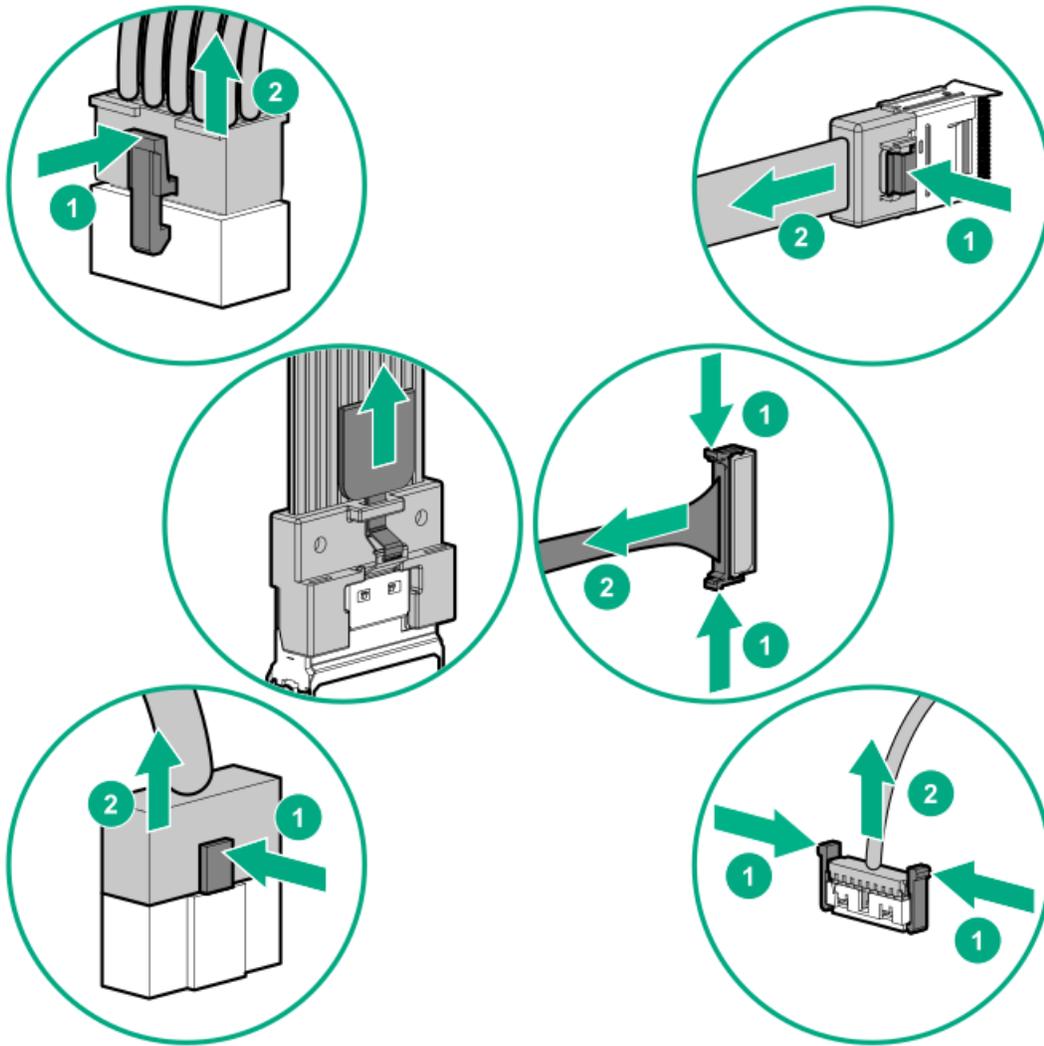
- PCAコンポーネントのポートラベルに注意してください。すべてのサーバーがすべてのコンポーネントを使用するわけではありません。
 - システムボードのポート
 - ドライブおよび電源装置バックプレーンのポート
 - 拡張ボードのポート（コントローラー、アダプター、エキスパンダー、ライザーなどのボード）
- 各ケーブルコネクタ付近のラベルに注意してください。このラベルは、ケーブルコネクタの宛先ポートを示します。
- 一部のデータケーブルは事前に曲がっています。ケーブルを伸ばしたり、操作したりしないでください。
- 機械的損傷を防いだり、手指の油分やその他の汚れが付かないようにするため、コネクタの終端には触らないようにしてください。

ケーブルの接続時

- ケーブルをポートに接続する前に、所定の場所にケーブルを置いて、ケーブルの長さを確認します。
- 内部ケーブル管理機能を使用し、ケーブルを適切に配線し、固定します。
- ケーブルを配線する際には、ケーブルがはさまれたり折り曲げられたりする可能性のない位置に配線してください。
- 電源コードまたはサーバーのケーブルの内部ワイヤーの損傷を防止するために、きつく曲げることは避けてください。電源コードやサーバーのケーブルを被覆材にしわができるほどきつく曲げないでください。
- 余分な長さのケーブルを適正に固定して、曲げすぎたり邪魔になったり、通気が制限されないようにしてください。
- コンポーネントの損傷や信号干渉を防ぐため、すべてのケーブルが正しい配線位置にあることを確認した後で新しいコンポーネントを取り付け、ハードウェアの取り付け/保守後にサーバーを閉じてください。

ケーブルを取り外す場合

- ケーブルコネクタの本体をしっかりと持ちます。ケーブル本体は引っ張らないようにしてください。ケーブルを引っ張ると、ケーブル内部のワイヤーや、ポートのピンが損傷を受けることがあります。
- ケーブルをスムーズに取り外せない場合は、ケーブルを取り外すために使われるリリースラッチの有無を確認してください。



- 使用しないケーブルを取り外します。サーバーの中に残したままにしておくと、通気の妨げになることがあります。取り外したケーブルを後から使用する場合は、再利用できるようラベルを付けて保管してください。

電源ケーブルの接続

次の表に、ケーブル接続情報とケーブル接続図を示します。

表 1. 電源ケーブル

ケーブルの説明	ケーブルの部品番号	接続元	接続先
PWR、1x5から2x4、LFF (3.5型)、240mm	P14341-001	バックプレーン	システムボード
PWR、1x5から2x4、LFF (3.5型)、400mm	P14342-001	バックプレーン	システムボード
PWR、1x5から2x4 + x、LFF (3.5型)、400mm	P14343-001	バックプレーン	システムボード
PWR、2x3から2x3、SFF (2.5型)	P14345-001	バックプレーン	システムボード
PWR、2x5から2x3 + 2x4ミッドプレーン	P14346-001	バックプレーン	システムボード
PWR、4LFF (3.5型) / 8SFF (2.5型)	869825-001	バックプレーン	システムボード
I/O配線からボード、フロント	P14312-001	バックプレーン	システムボード

サブトピック

ケーブル配線：フロント8SFF（2.5型）電源のケーブル接続

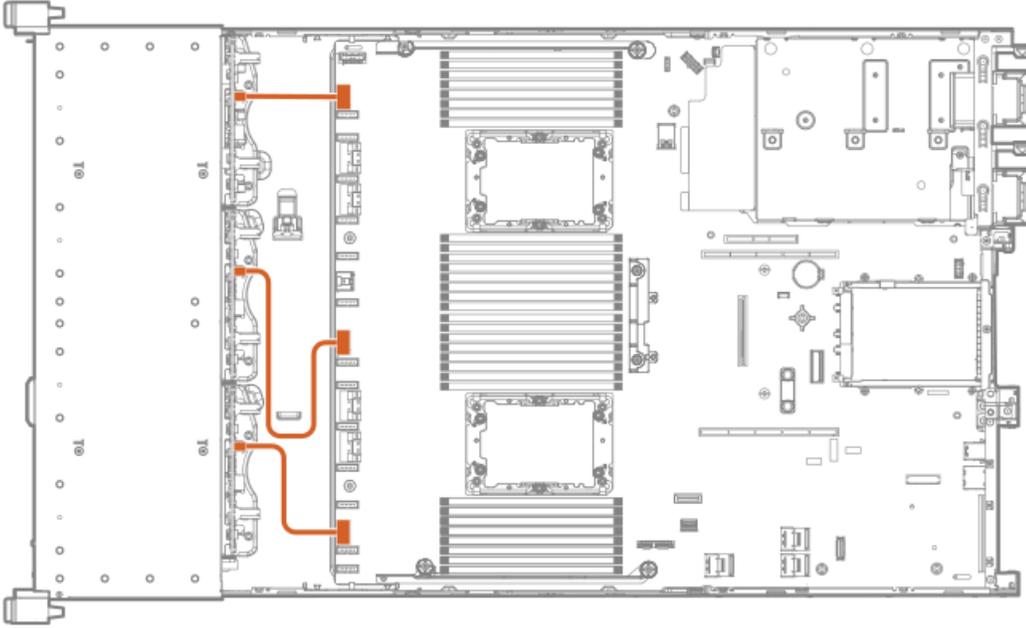
ケーブル配線：フロント12LFF（3.5型）電源のケーブル接続

ケーブル配線：ミッドプレーン電源のケーブル接続

ケーブル配線：フロント2SFF（2.5型）並列電源のケーブル接続

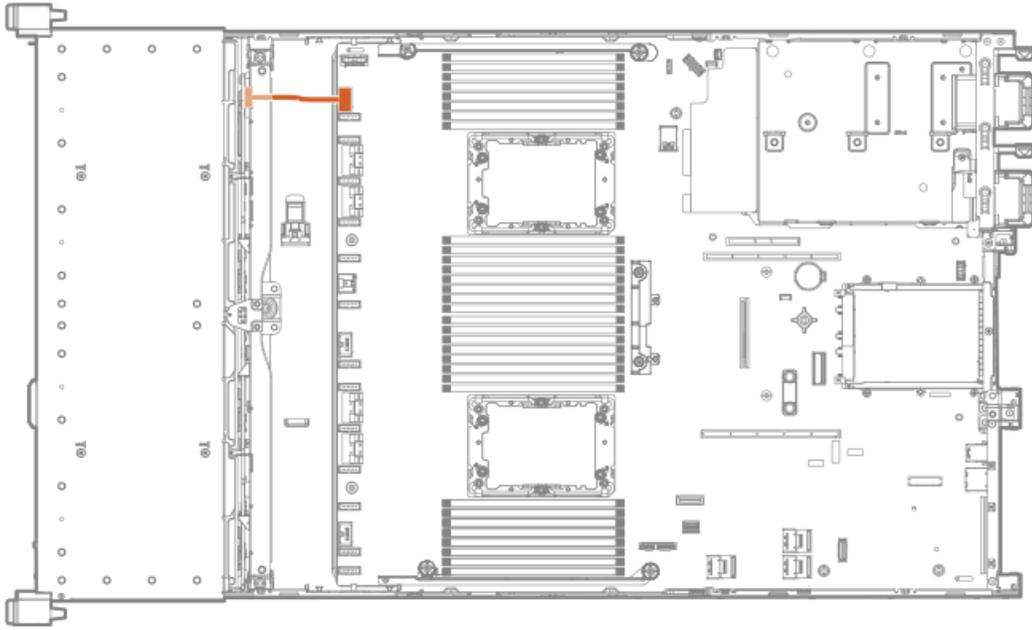
ケーブル配線：リア2SFF（2.5型）電源のケーブル接続

ケーブル配線：フロント8SFF（2.5型）電源のケーブル接続

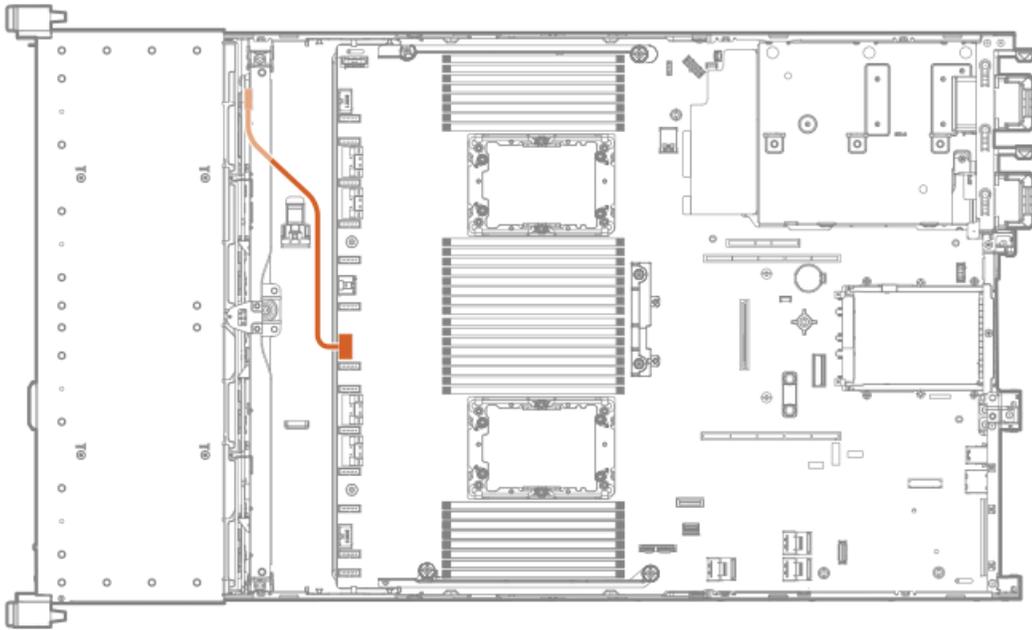


ケーブル配線：フロント12LFF（3.5型）電源のケーブル接続

ボックス1

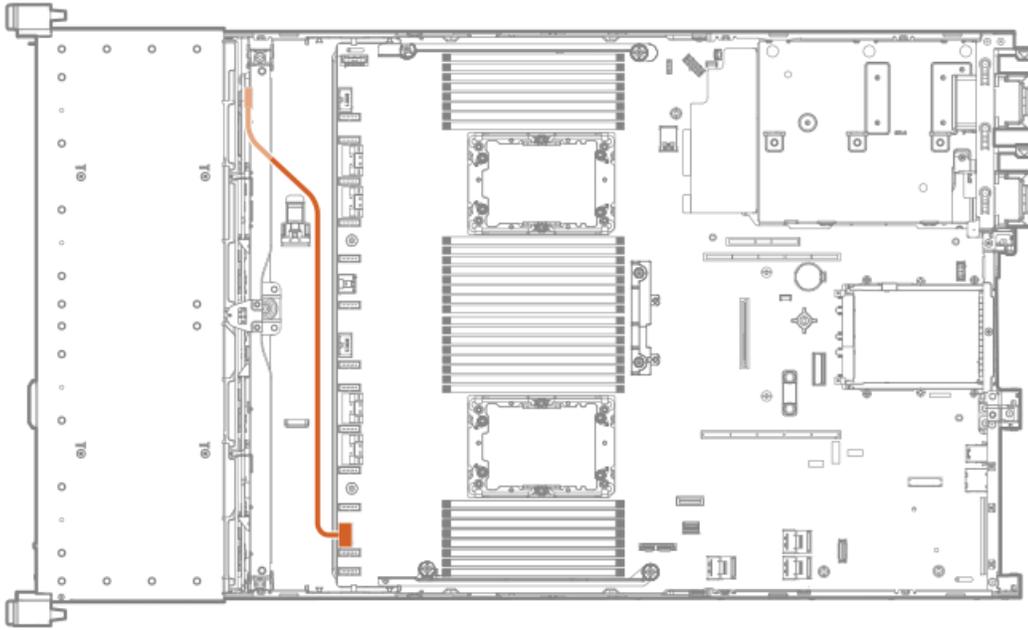


ボックス2



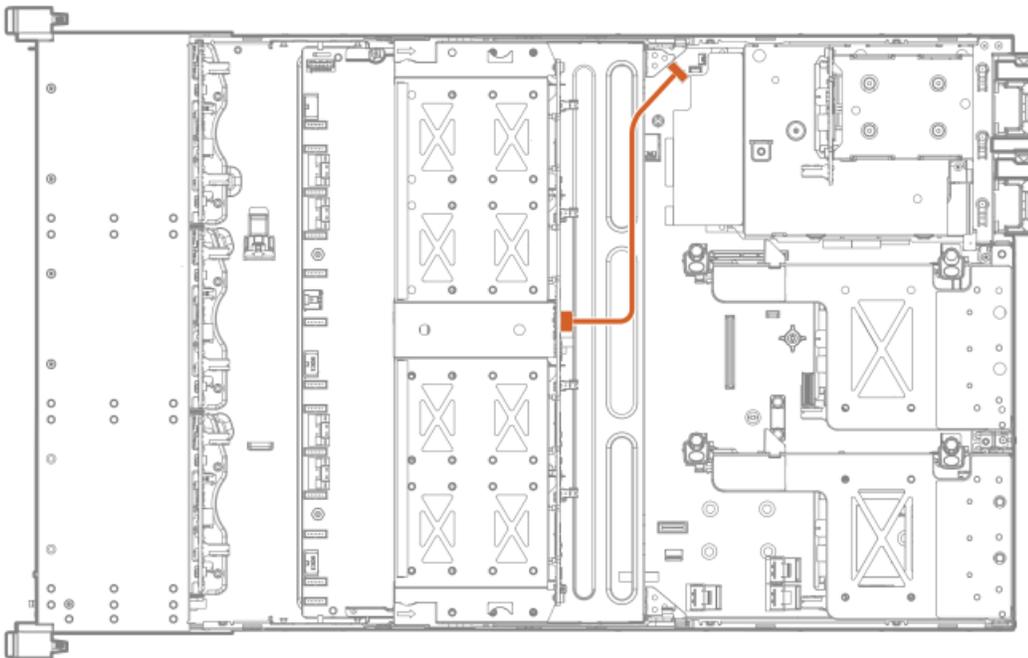
ボックス3





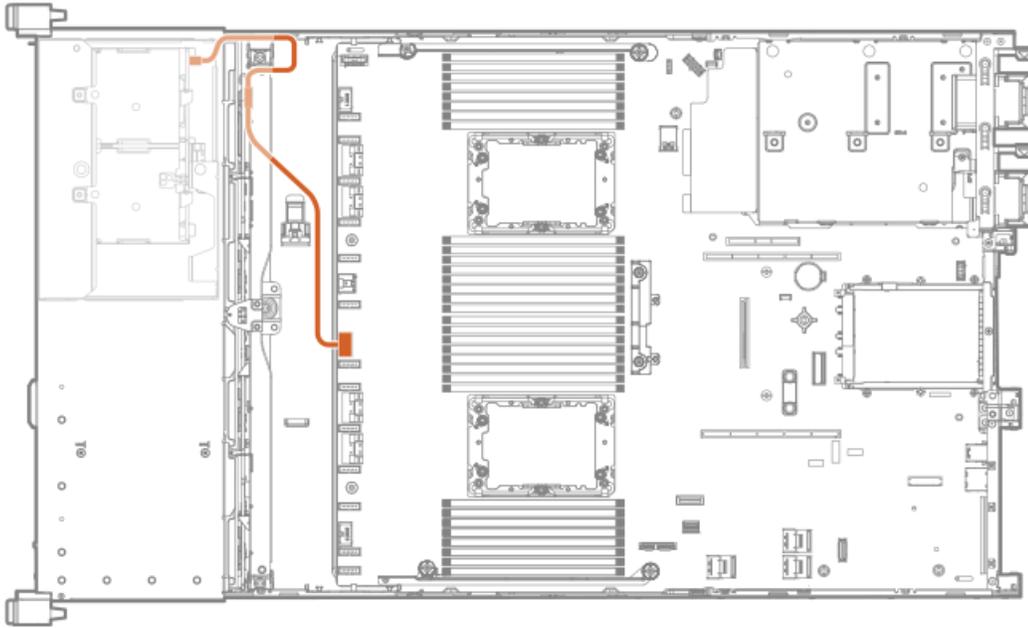
ケーブル配線：ミッドプレーン電源のケーブル接続

8SFF (2.5型) ミッドプレーンの図

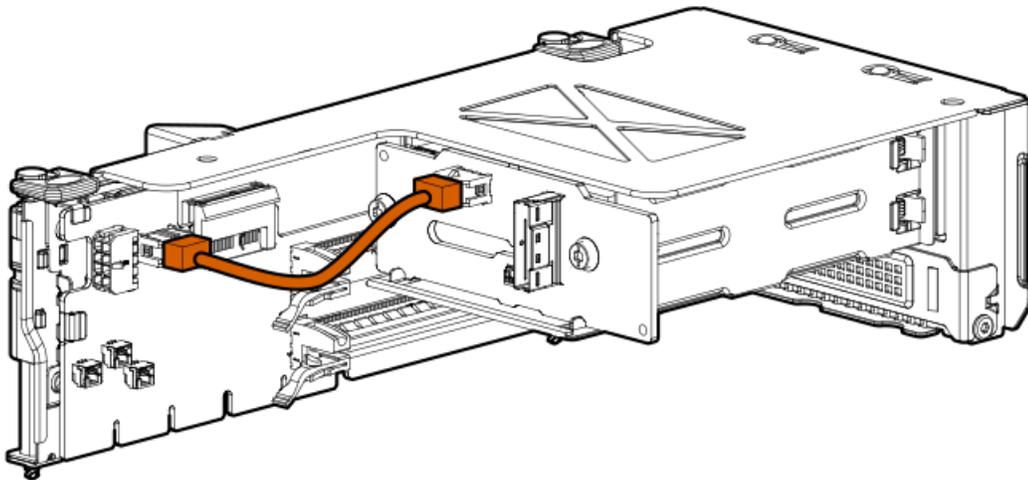


ケーブル配線：フロント2SFF (2.5型) 並列電源のケーブル接続





ケーブル配線：リア2SFF（2.5型）電源のケーブル接続



ケーブル配線図

次の表に、ケーブル接続情報とケーブル接続図を示します。

表 1. ケーブルキット

オプションキット	ケーブルの部品番号*	接続元	接続先
スタックされた2SFF（2.5型）	P22903-001	2SFF（2.5型）ボックス6	AROCからNVMeアダプター

オプションキット	ケーブルの部品番号*	接続元	接続先
スタックされた2SFF (2.5型)	P22761-001	スタックされた2SFF (2.5型)	タイプaコントローラー
8SFF (2.5型) SAS/SATA	776402-001	ボックス1/2	タイプa/pコントローラー
	747568-001	ボックス3	タイプa/pコントローラー
	P14335-001	ボックス1/2/3	タイプa/pコントローラー
8NVMe	P22345-001	ボックス1/2 ポート1および2	システムボード ポート1A-B / 2A-B
	P22346-001	ボックス2/3 ポート3~4	システムボード ポート1B/2B
	P22347-001	ボックス2/3 Port 3	タイプaコントローラー
8SFF (2.5型) ミッドプレーン	P14334-001	ボックス7 ポート1~4	タイプpコントローラー
8NVMeミッドプレーン	P14329-001	ボックス7 ポート1	タイプpコントローラー
NVMe直接接続	P14331-001	ボックス2 ポート1~2	タイプa/pコントローラー
	P14332-001	ボックス2 ポート3~4	タイプa/pコントローラー
	P14330-001	ボックス1/3 ポート3~4	プライマリ/ターシャリタイプpコントローラー
	P14333-001	ボックス1/3 ポート1~2	プライマリ/ターシャリタイプpコントローラー
	P14326-001	ボックス2 ポート1~4	タイプpコントローラー
	P14327-001	ボックス1 ポート1~4	タイプpコントローラー
	P14328-001	ボックス1 スタックされた2SFF (2.5型)	ターシャリタイプpコントローラー
	P14324-001	ボックス2 ポート1~2	セカンダリタイプpコントローラー
	P14325-001	ボックス2 ポート3~4	セカンダリタイプpコントローラー
	P14320-001	ボックス3 ポート1~4	プライマリライザー

オプションキット	ケーブルの部品番号*	接続元	接続先
	P14321-001	ボックス3 ポート1~4	プライマリタイプp コントローラー
	P14322-001	ボックス2 ポート1~4	システムボード ポート1A-B / 2A-B
OCP対応キット	P14337-001	OCPアダプター	プライマリライザー
	P14339-001	OCPアダプター	セカンダリライザー

表 2. 前面I/O

ケーブルの説明	ケーブルの部品番号	接続元	接続先
ディスプレイポート + USB 2.0	P14314-001	コンポーネント	システムボード
USBからUSBポート	P14315-001	コンポーネント	システムボード
オプティカルディスクドライブ、SATA	P14316-001	コンポーネント	システムボード
シリアルポート	P14317-001	コンポーネント	システムボード

表 3. 電源ケーブル

ケーブルの説明	ケーブルの部品番号	接続元	接続先
I/O配線からボード、フロント	P14312-001	バックプレーン	システムボード
PWR、1x5から2x4、LFF (3.5型)、240mm	P14341-001	バックプレーン	システムボード
PWR、1x5から2x4、LFF (3.5型)、400mm	P14342-001	バックプレーン	システムボード
PWR、1x5から2x4 + x、LFF (3.5型)、400mm	P14343-001	バックプレーン	システムボード
PWR、2x3から2x3、SFF (2.5型)	P14345-001	バックプレーン	システムボード
PWR、2x5から2x3 + 2x4	P14346-001	バックプレーン	システムボード
PWR、4LFF (3.5型) / 8SFF (2.5型)	869825-001	バックプレーン	システムボード

サブトピック

ケーブル配線：2NVMeボックス6からAROC NVMeアダプター

ケーブル配線：6NVMeボックス3から3ポートプライマリライザー

ケーブル配線：6NVMeボックス3から3ポートプライマリライザー

ケーブル配線：8NVMeバランスボックス2からシステムボード

ケーブル配線：8NVMe P2ボックス1からシステムボード/セカンダリライザー

ケーブル配線：8NVMe P1ボックス3からシステムボード/プライマリライザー

ケーブル配線：12NVMe BAL P1ボックス2+3からシステムボード/プライマリライザー/OCP NVMeアダプター/タイプaコントローラー

ケーブル配線：12NVMe BAL P2ボックス1+2からシステムボード/4ポートNVMeセカンドライザー

ケーブル配線：12NVMe DIFF P1ボックス2+3からシステムボード/4ポートNVMeプライマリライザー

ケーブル配線：12NVMe DIFF P1ボックス1+2からシステムボード/4ポートNVMeセカンダリライザー

ケーブル配線：24NVMeバランス

ケーブル配線：24NVMeディファレンシャル

ケーブル配線：8NVMeボックス3から4ポートプライマリライザー

ケーブル配線：8NVMeボックス1から4ポートセカンダリライザー

ケーブル配線：8NVMeボックス1+2からタイプaコントローラー

ケーブル配線：8SFF（2.5型）ボックス2からタイプaコントローラー

ケーブル配線：8SFF（2.5型）ボックス3から2ポートプライマリタイプpコントローラー

ケーブル配線：8SFF（2.5型）ボックス2から2ポートプライマリタイプpコントローラー

ケーブル配線：2SFF（2.5型）並列からプライマリタイプpコントローラー

ケーブル配線：8SFF（2.5型）4ポートボックス1から4ポートセカンダリタイプpコントローラー

ケーブル配線：8SFF（2.5型）4ポートボックス2から4ポートプライマリタイプpコントローラー

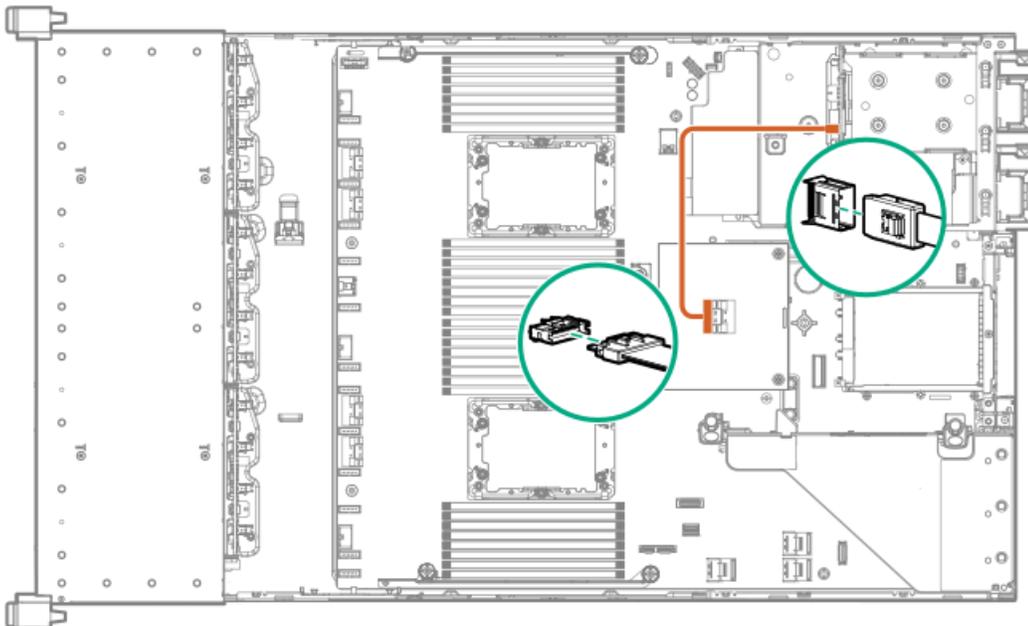
ケーブル配線：8SFF（2.5型）4ポートボックス3から4ポートプライマリタイプpコントローラー

ケーブル配線：8SFF（2.5型）ボックス1+2+3から4ポートセカンダリタイプpコントローラー

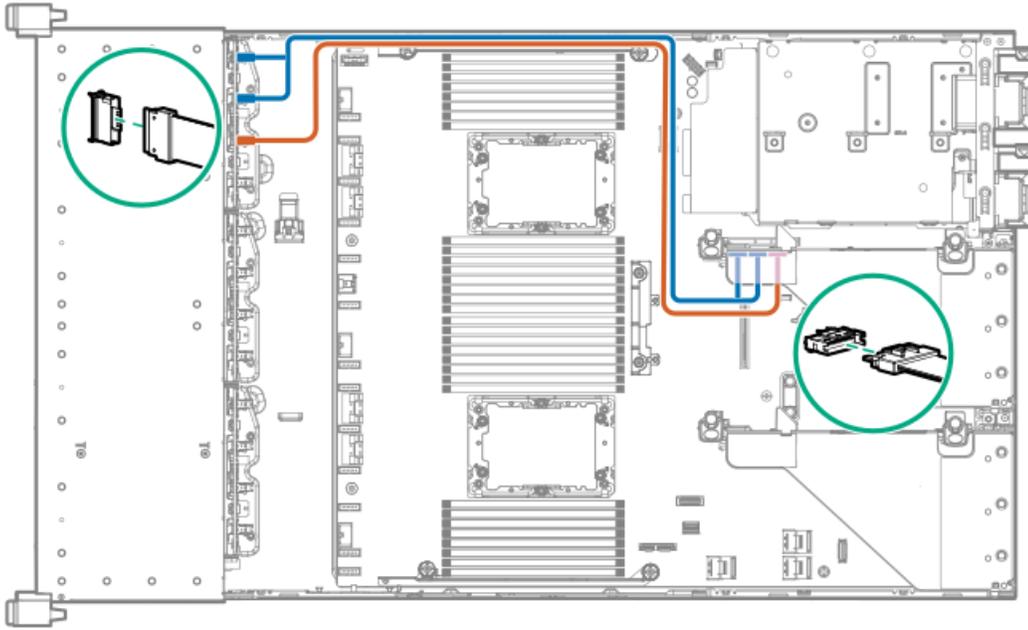
ケーブル配線：8SFF（2.5型）ボックス1+2+3から4ポートプライマリタイプpコントローラー

ケーブル配線：4LFF（3.5型）SAS/SATAボックス7から4ポートタイプaコントローラー

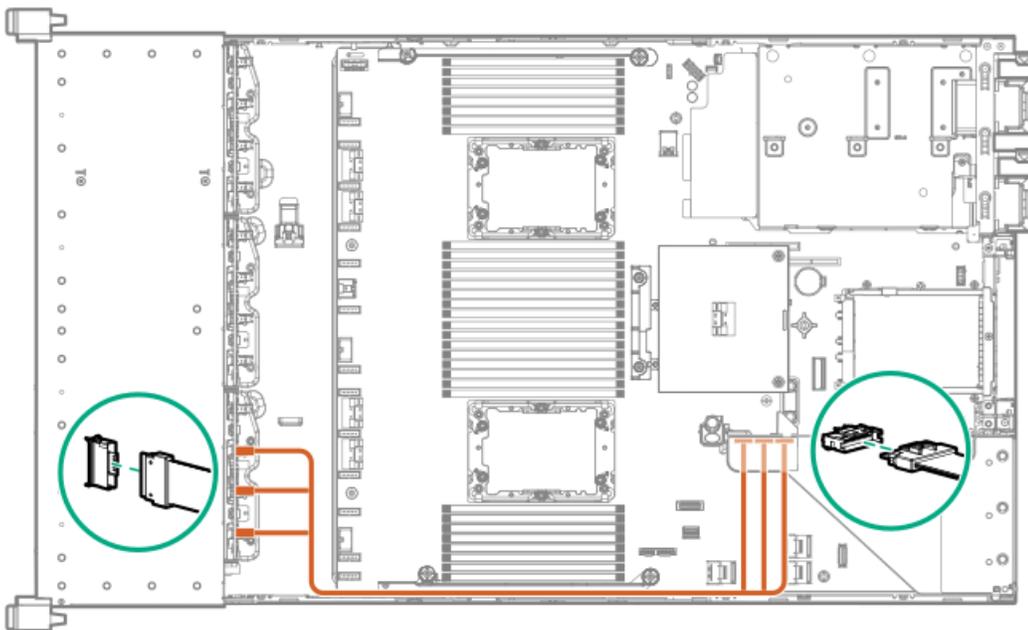
ケーブル配線：2NVMeボックス6からAROC NVMeアダプター



ケーブル配線：6NVMeボックス3から3ポートプライマリライザー



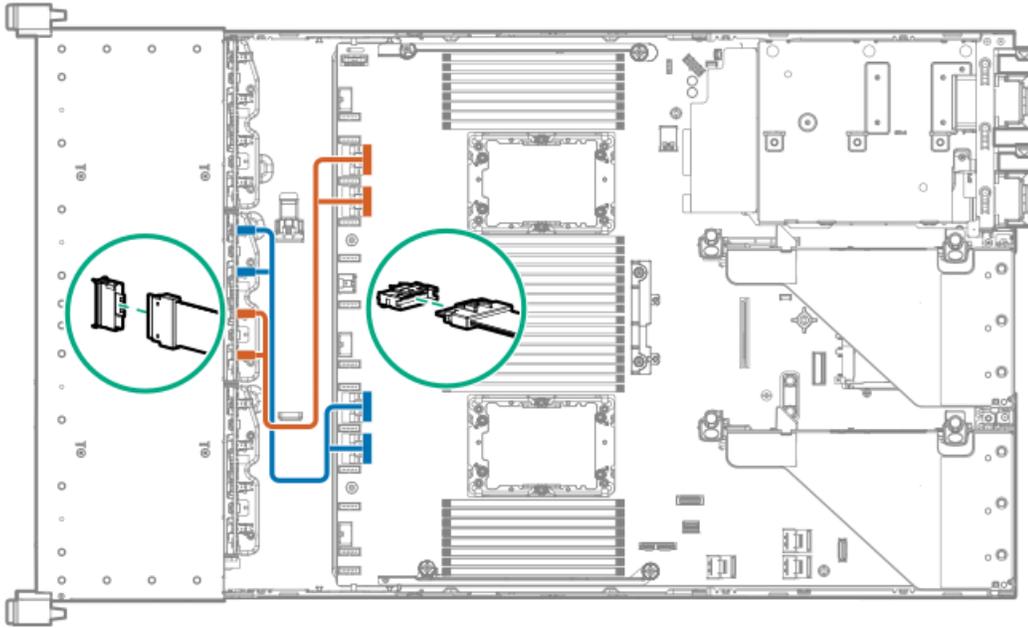
ケーブル配線 : 6NVMeボックス3から3ポートプライマリライザー



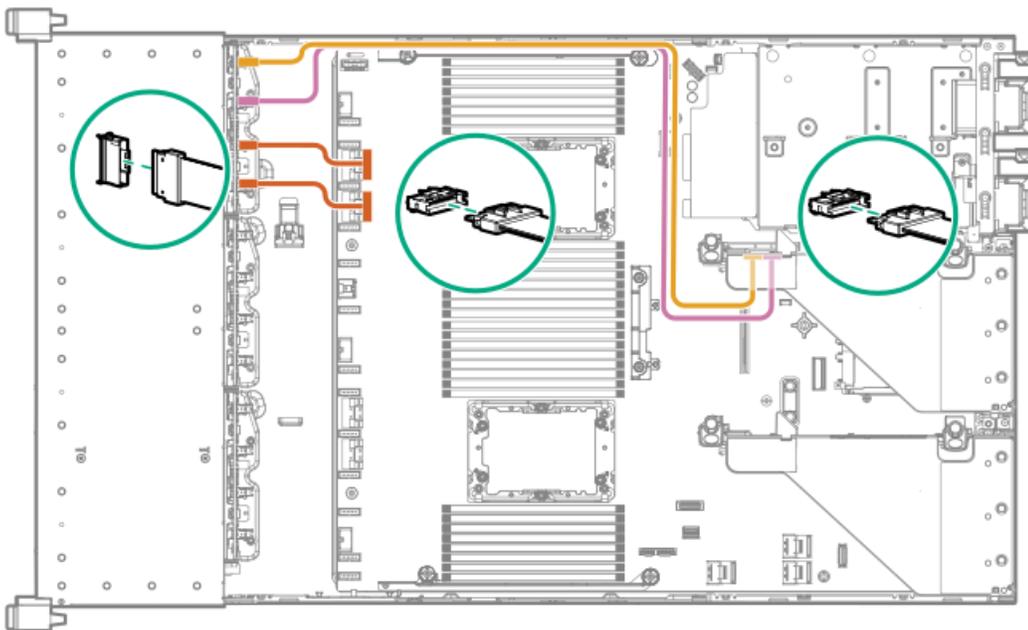
ケーブル配線 : 8NVMeバランスボックス2からシステムボード

8NVMe直接接続



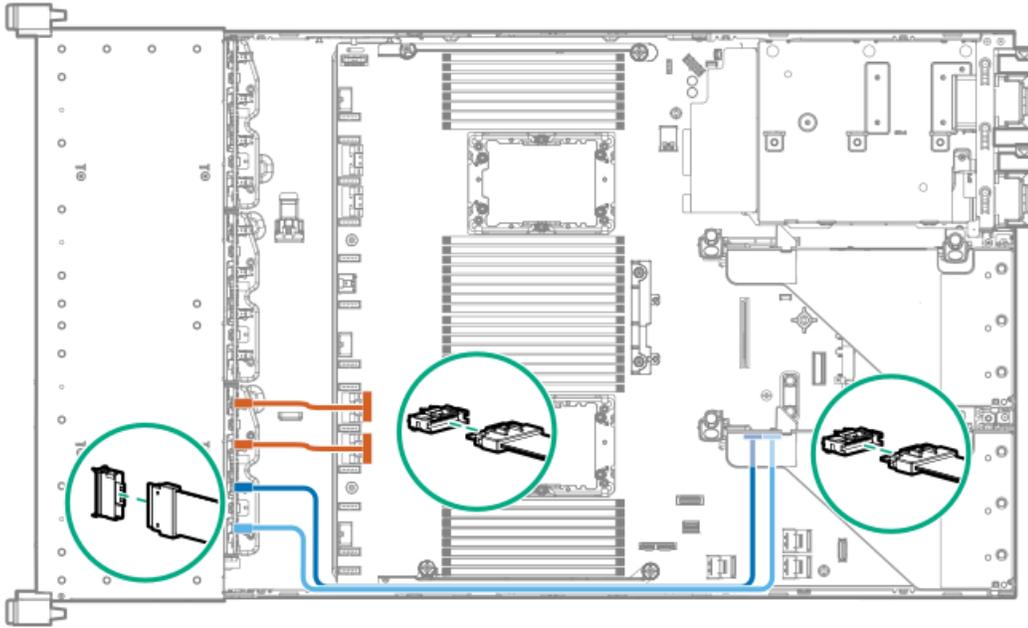


ケーブル配線 : 8NVMe P2ボックス1からシステムボード/セカンダリライザー



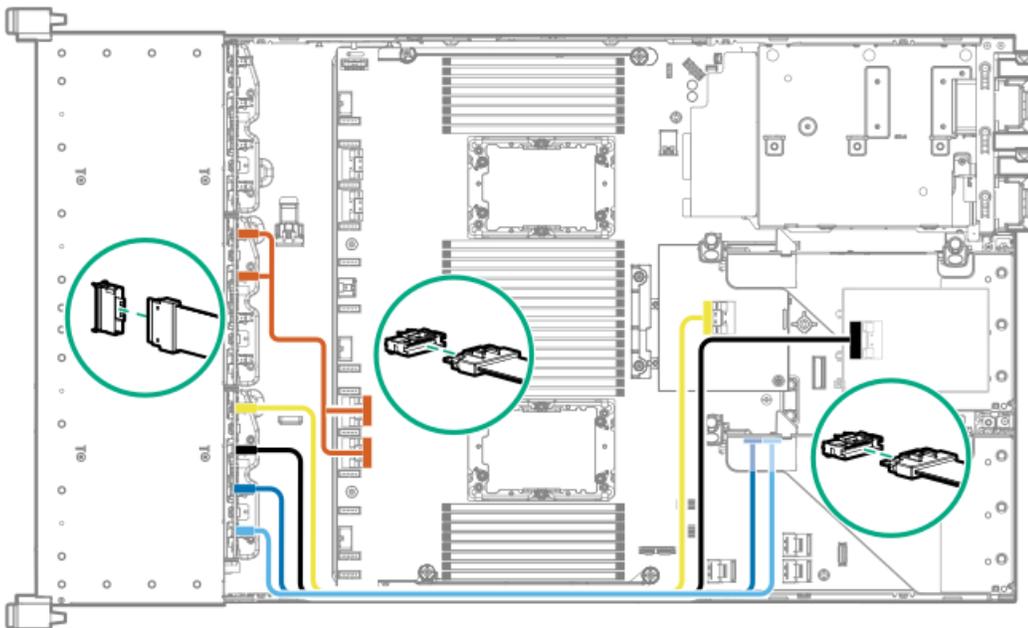
ケーブル配線 : 8NVMe P1ボックス3からシステムボード/プライマリライザー





ケーブル配線 : 12NVMe BAL P1ボックス2+3からシステムボード/プライマリライ
 ザー/OCP NVMeアダプター/タイプaコントローラー

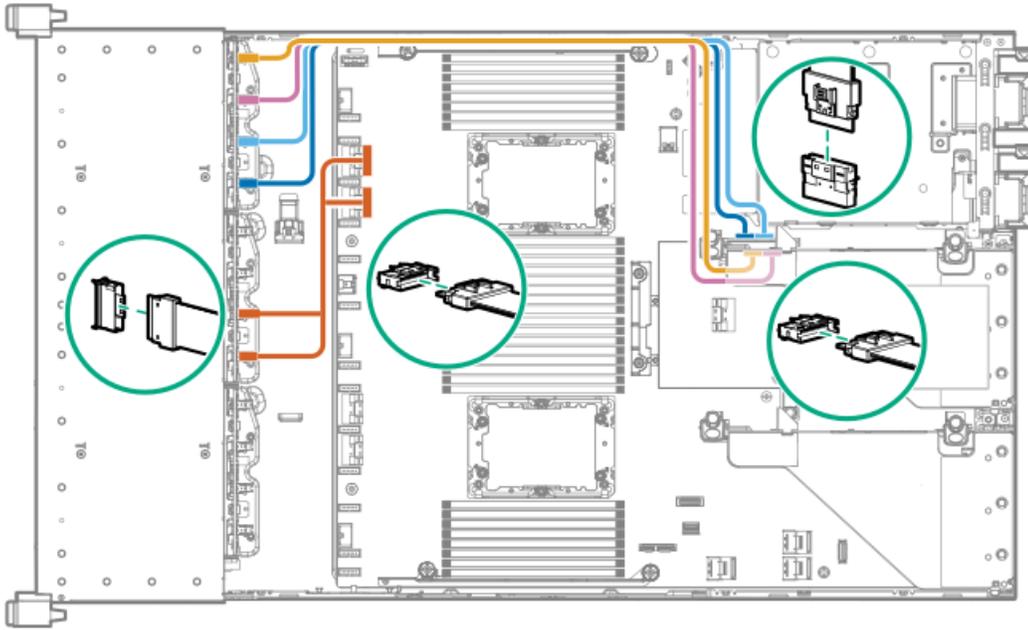
12NVMe P1



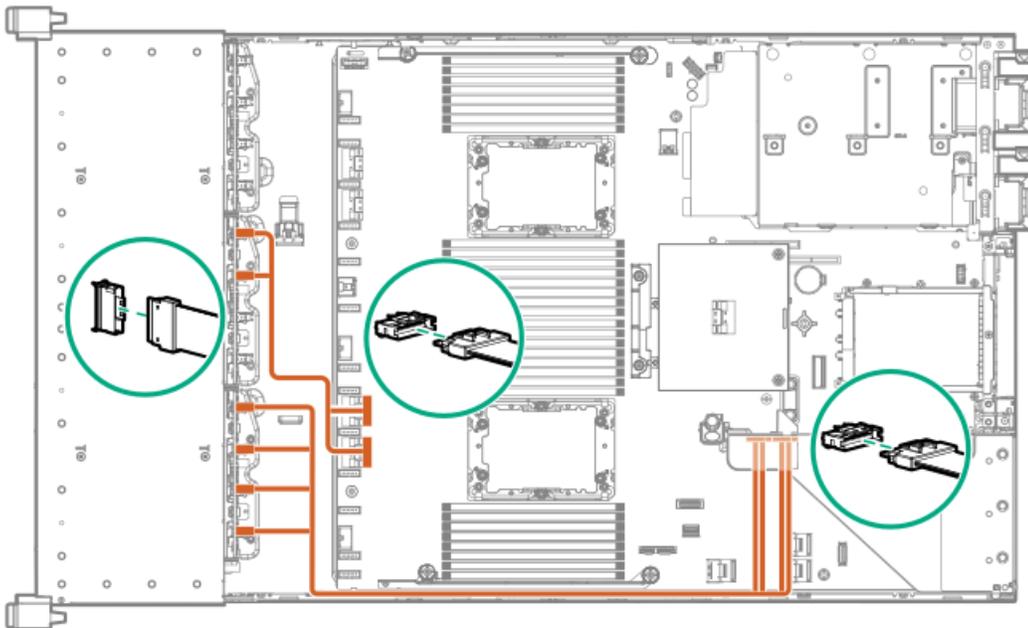
ケーブル配線 : 12NVMe BAL P2ボックス1+2からシステムボード/4ポートNVMeセカ



ンドライザー



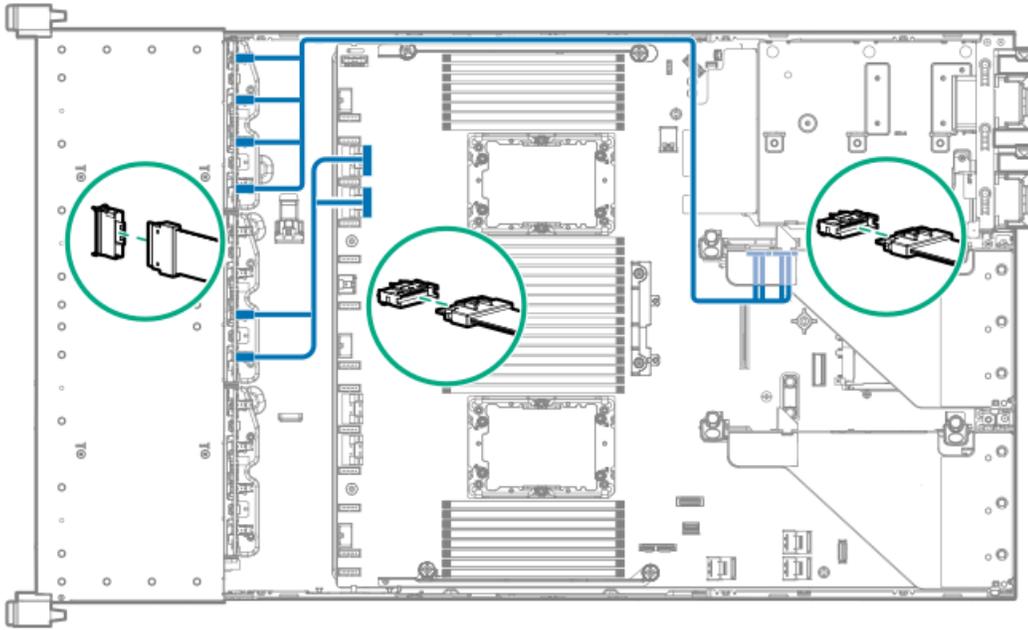
ケーブル配線 : 12NVMe DIFF P1ボックス2+3からシステムボード/4ポートNVMeプライマリライザー



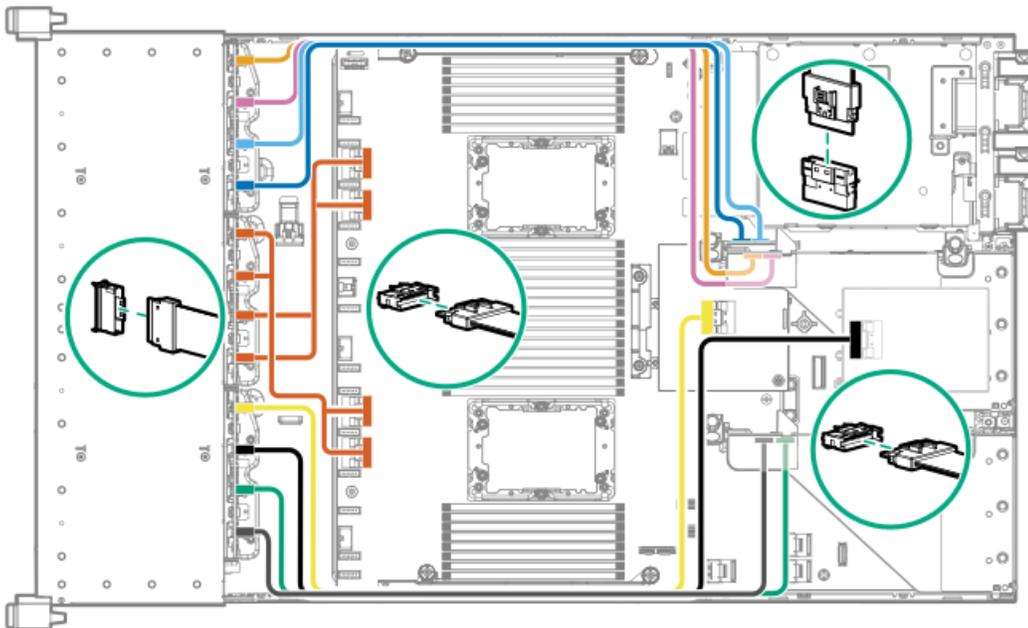
ケーブル配線 : 12NVMe DIFF P1ボックス1+2からシステムボード/4ポートNVMeセカ



ンダリライザー

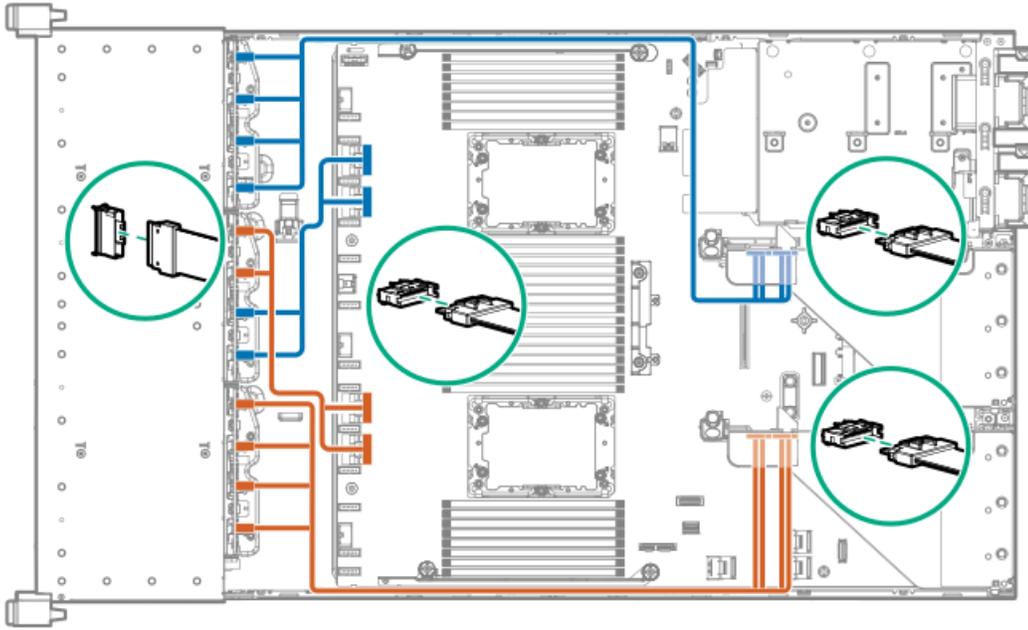


ケーブル配線 : 24NVMeバランス

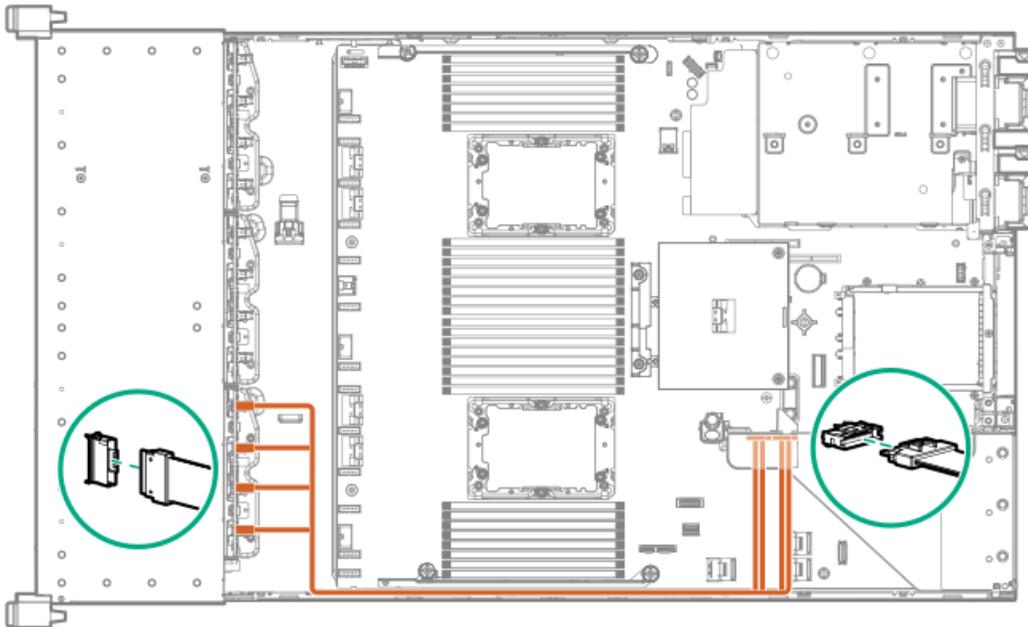


ケーブル配線 : 24NVMeディファレンシャル



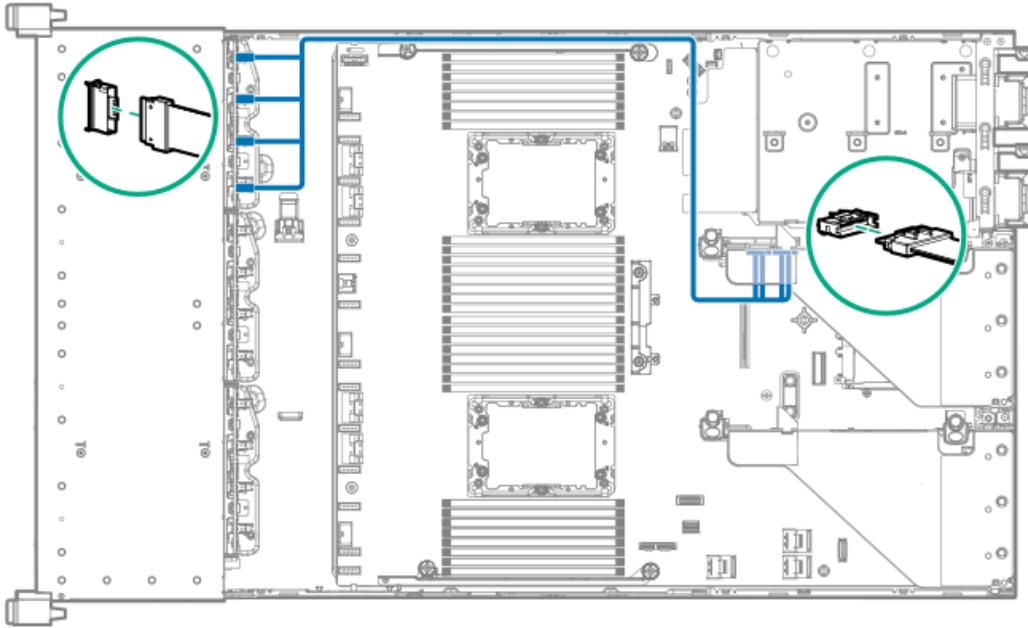


ケーブル配線 : 8NVMeボックス3から4ポートプライマリライザー

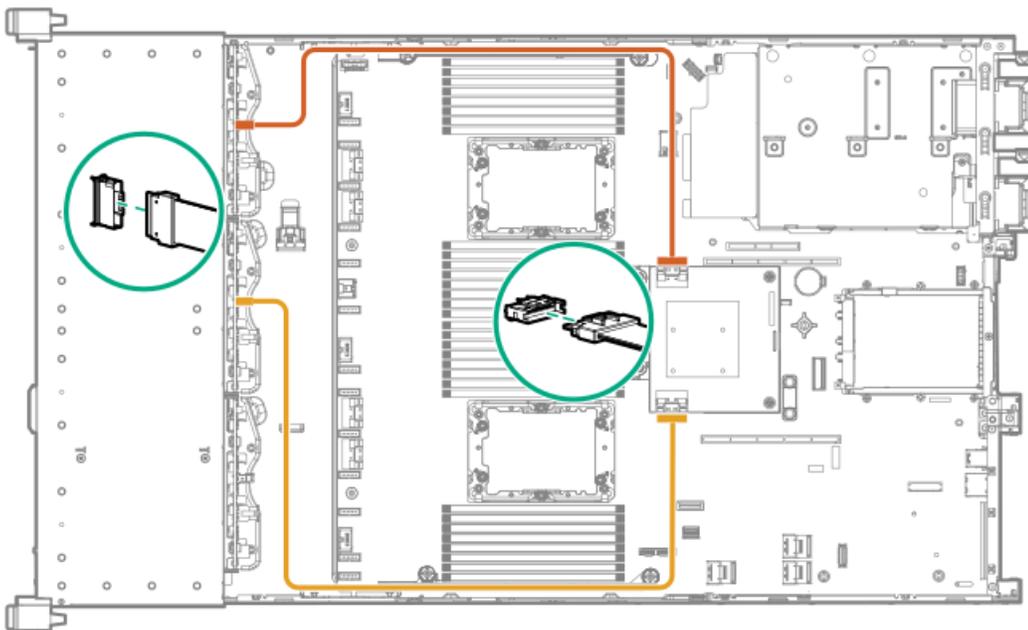


ケーブル配線 : 8NVMeボックス1から4ポートセカンダリライザー



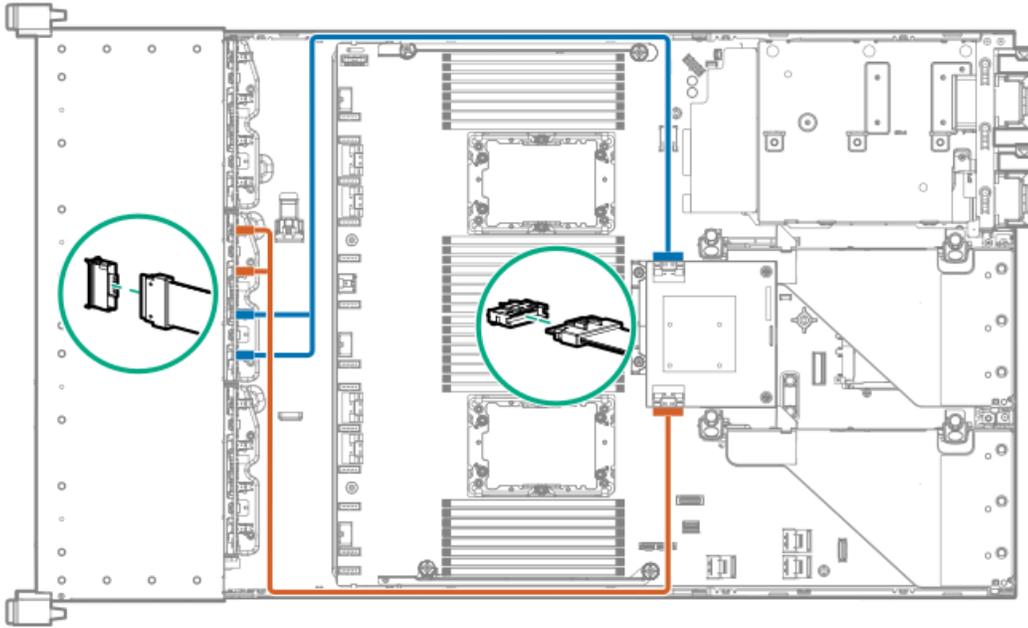


ケーブル配線 : 8NVMeボックス1+2からタイプaコントローラー

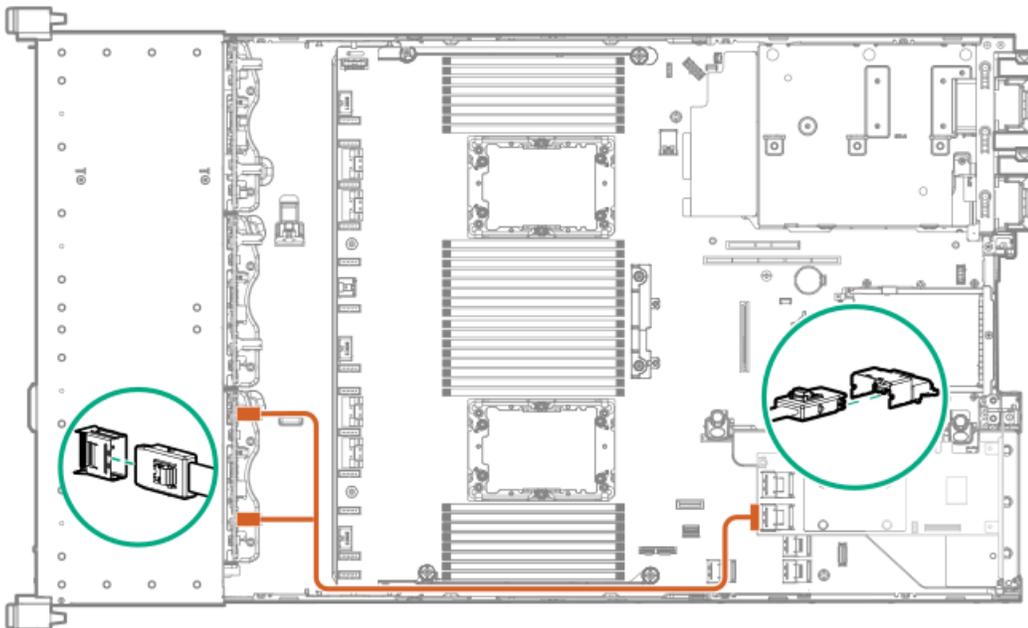


ケーブル配線 : 8SFF (2.5型) ボックス2からタイプaコントローラー



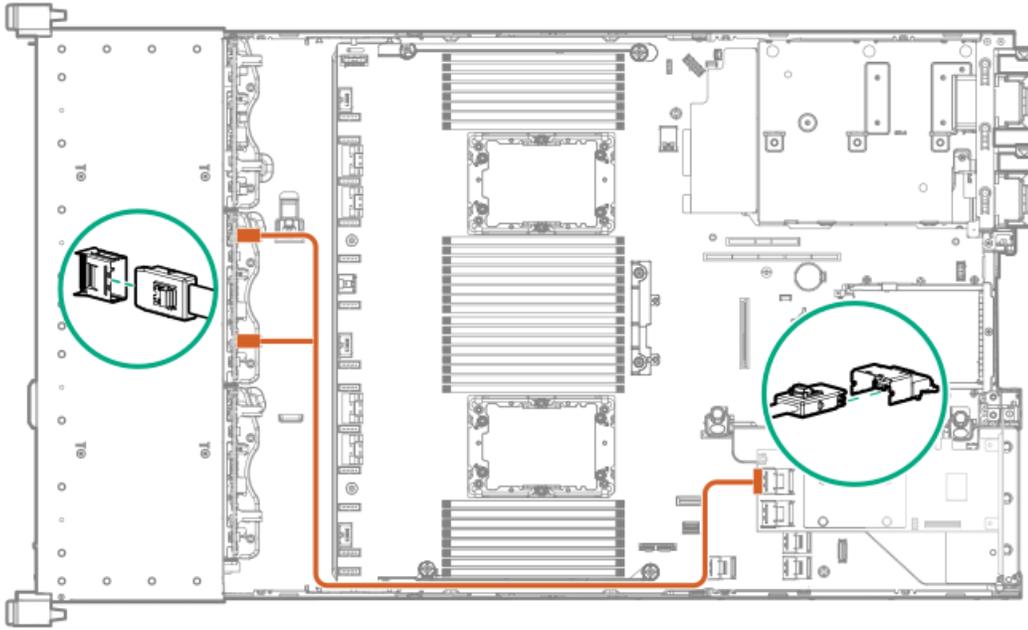


ケーブル配線 : 8SFF (2.5型) ボックス3から2ポートプライマリタイプコントローラー

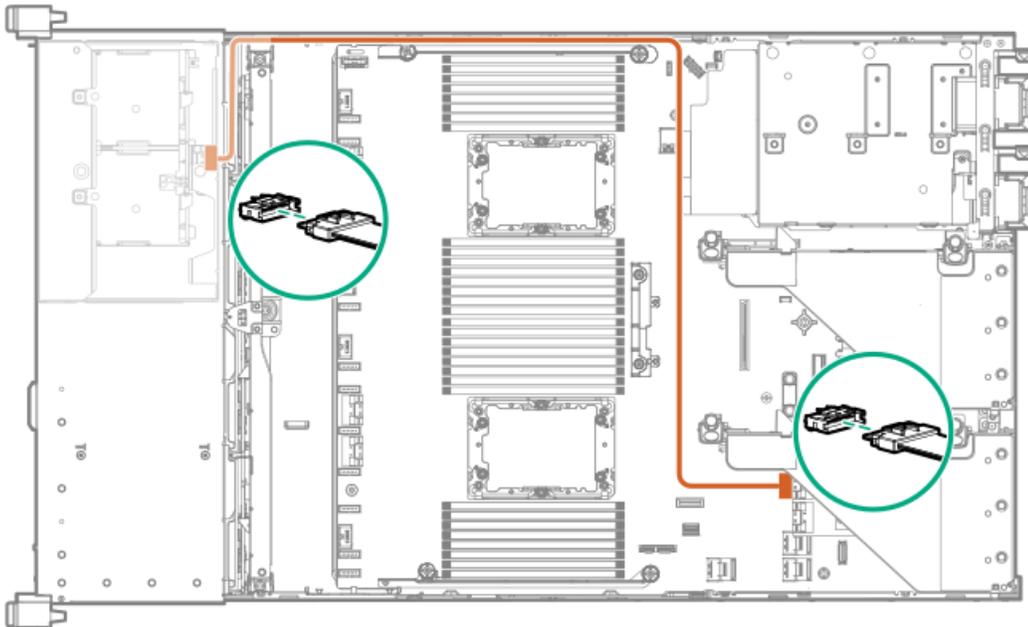


ケーブル配線 : 8SFF (2.5型) ボックス2から2ポートプライマリタイプコントローラー



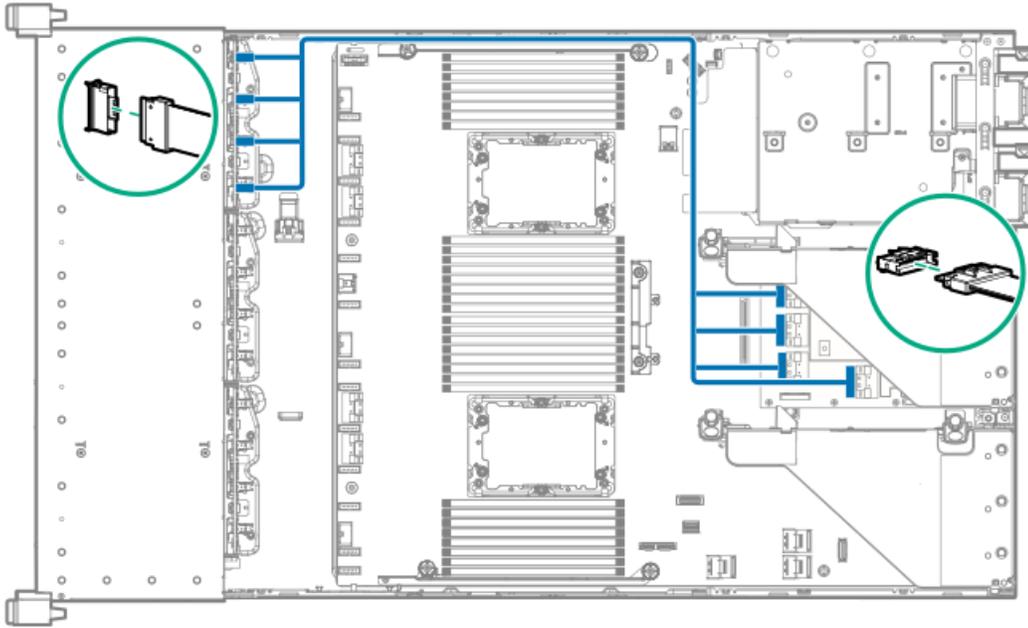


ケーブル配線 : 2SFF (2.5型) 並列からプライマリタイプpコントローラー

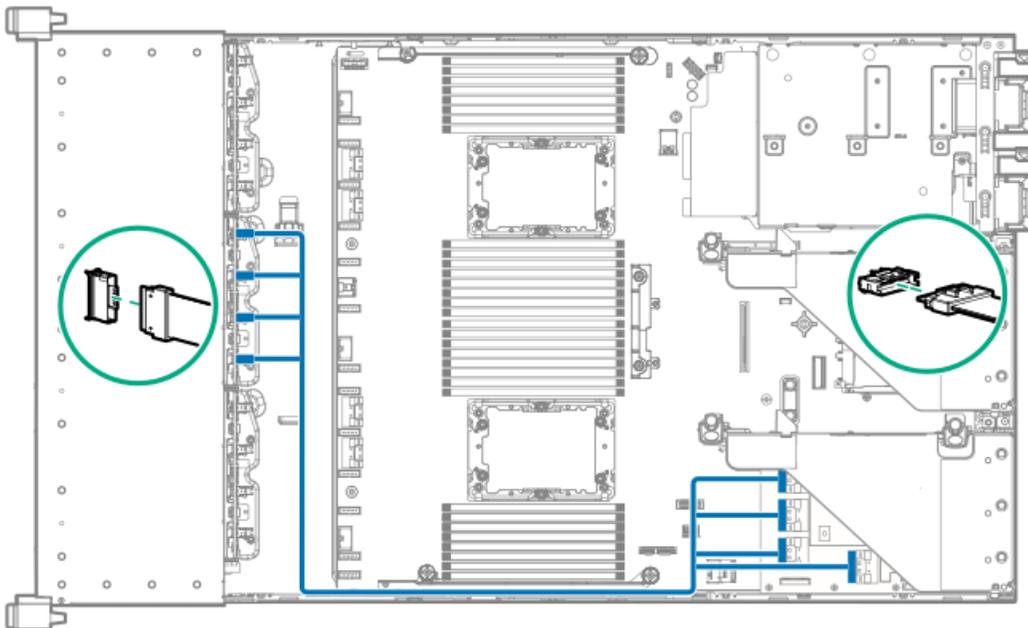


ケーブル配線 : 8SFF (2.5型) 4ポートボックス1から4ポートセカンダリタイプpコントローラー



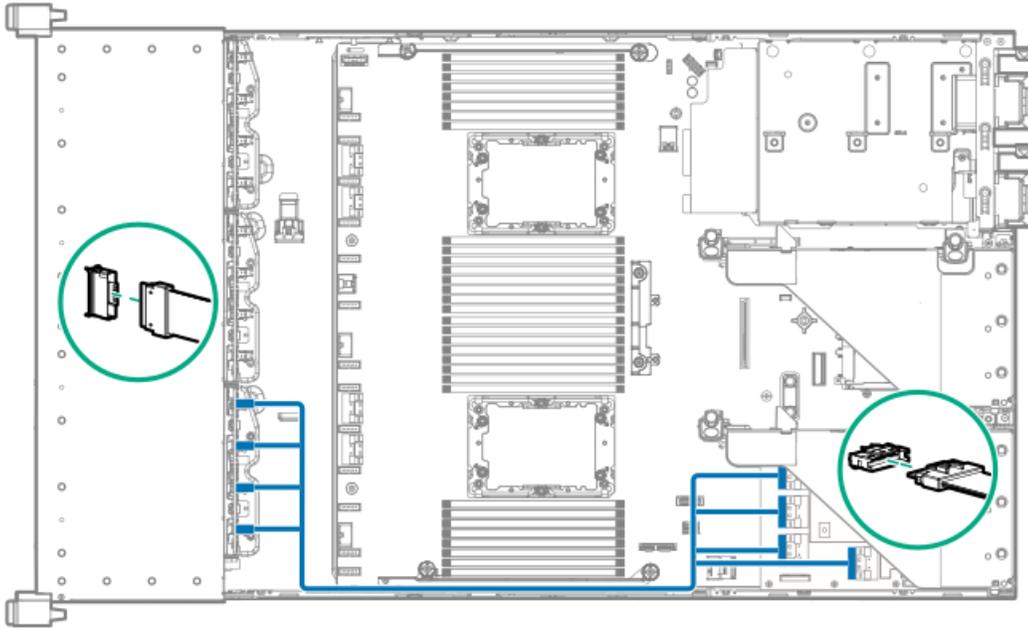


ケーブル配線 : 8SFF (2.5型) 4ポートボックス2から4ポートプライマリタイプpコントローラー

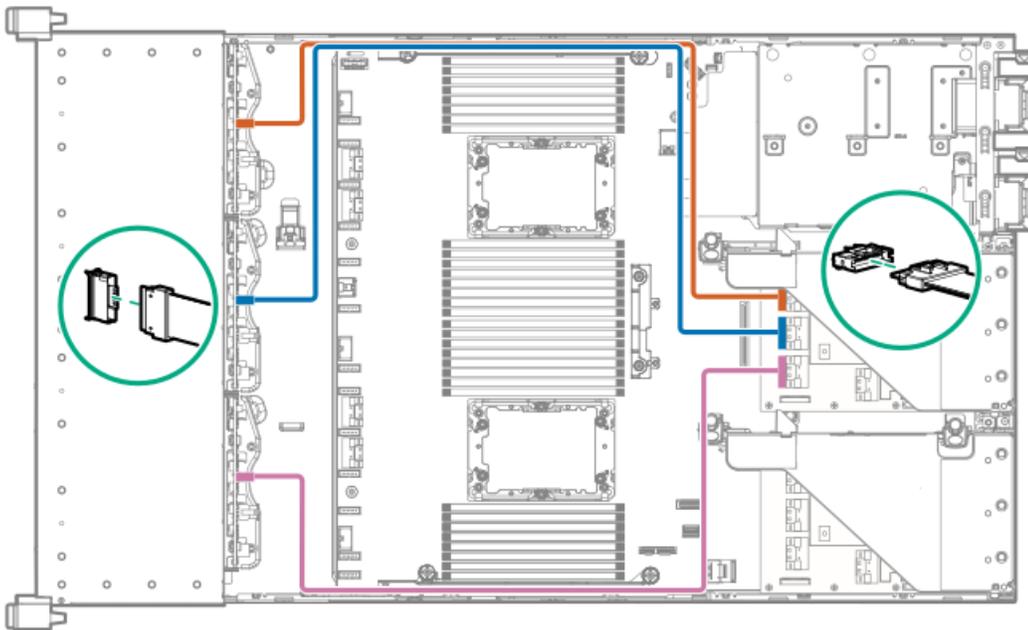


ケーブル配線 : 8SFF (2.5型) 4ポートボックス3から4ポートプライマリタイプpコントローラー



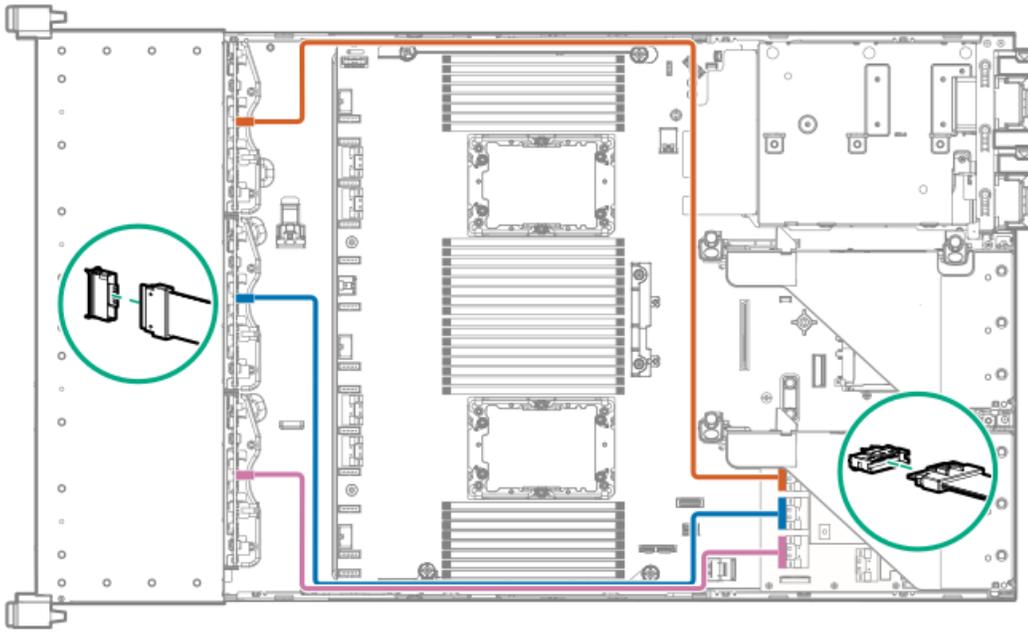


ケーブル配線 : 8SFF (2.5型) ボックス1+2+3から4ポートセカンダリタイプpコントローラー

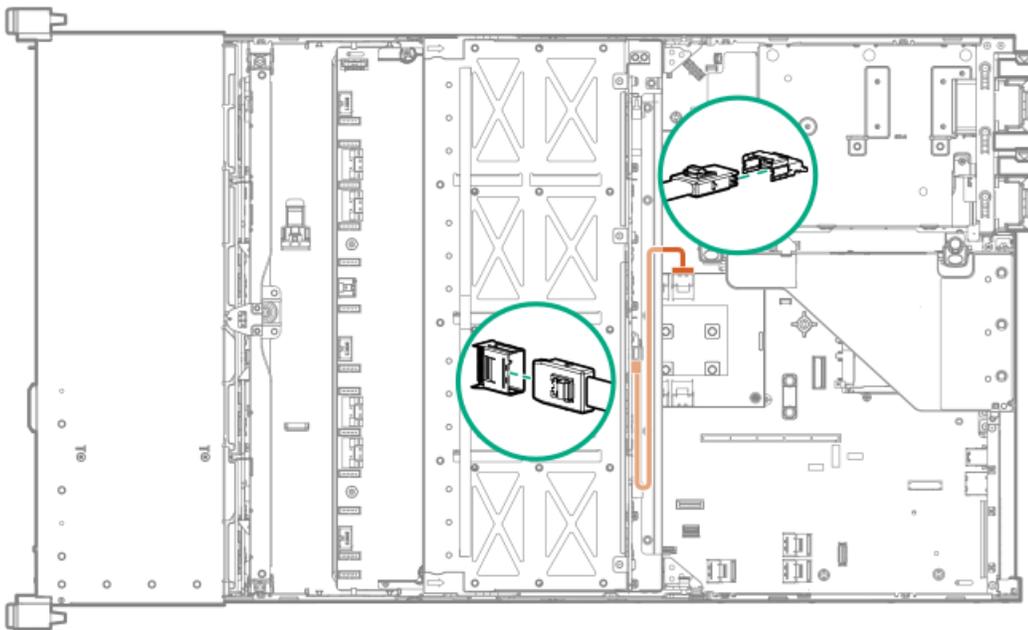


ケーブル配線 : 8SFF (2.5型) ボックス1+2+3から4ポートプライマリタイプpコントローラー





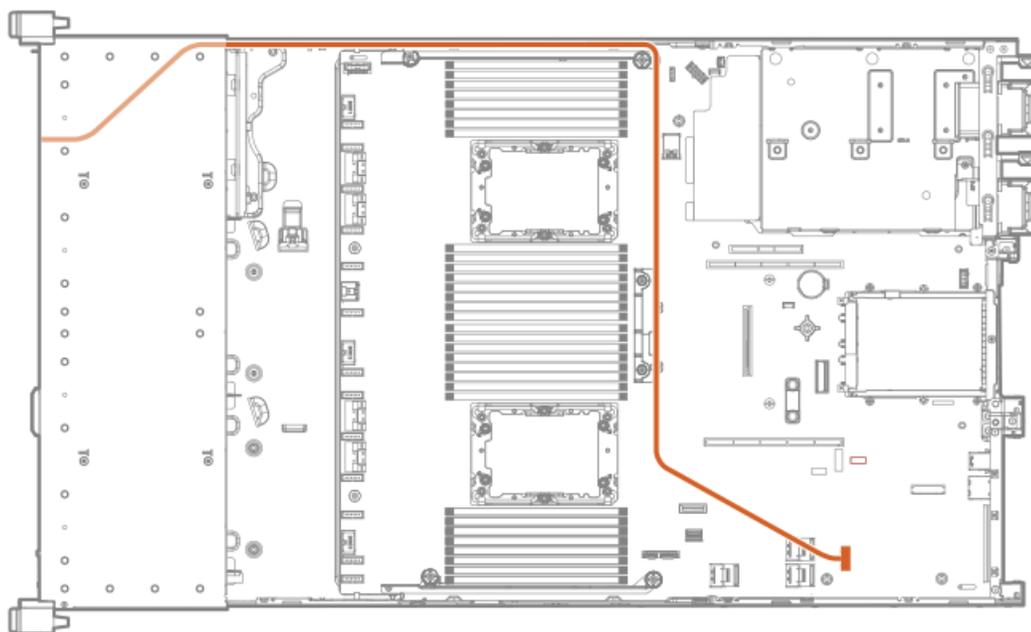
ケーブル配線 : 4LFF (3.5型) SAS/SATAボックス7から4ポートタイプaコントローラー



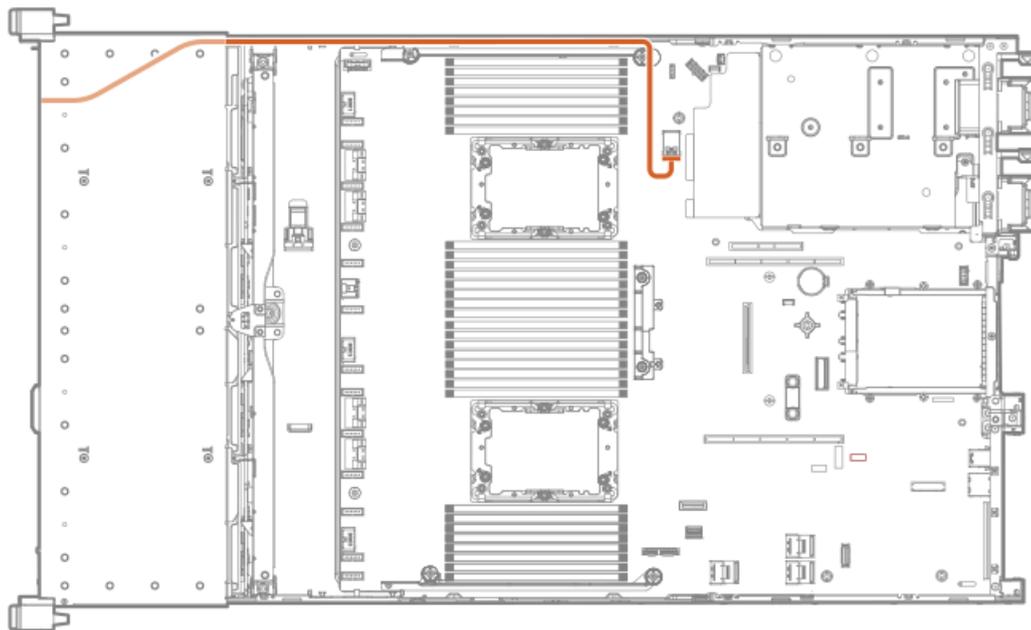
ケーブル配線 : フロントI/Oのケーブル接続



SFF (2.5型) ユニバーサルメディアベイディスプレイポート

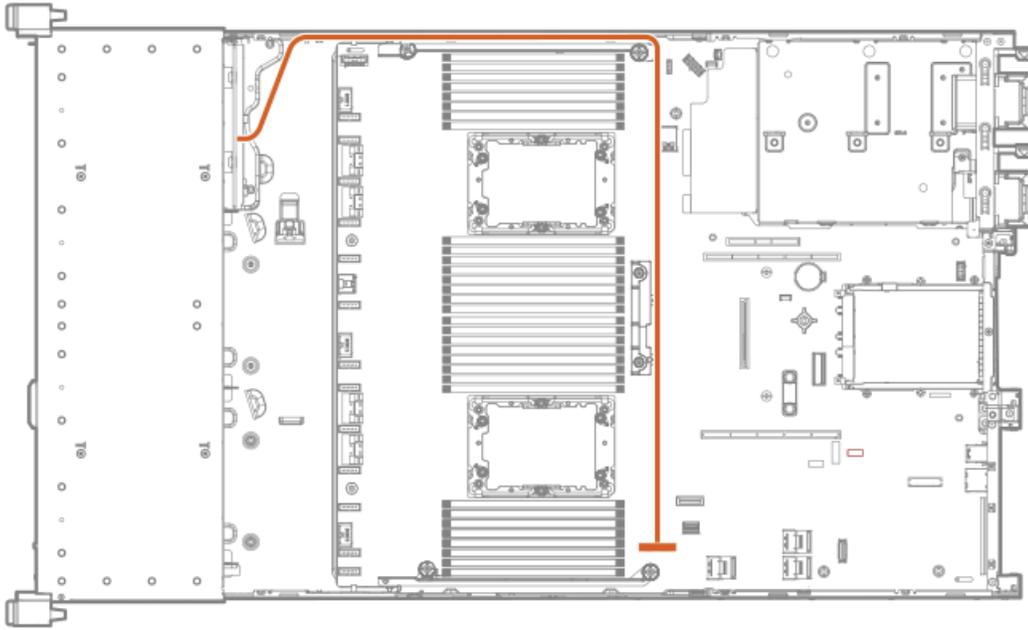


SFF (2.5型) ユニバーサルメディアベイUSBからシステムボード

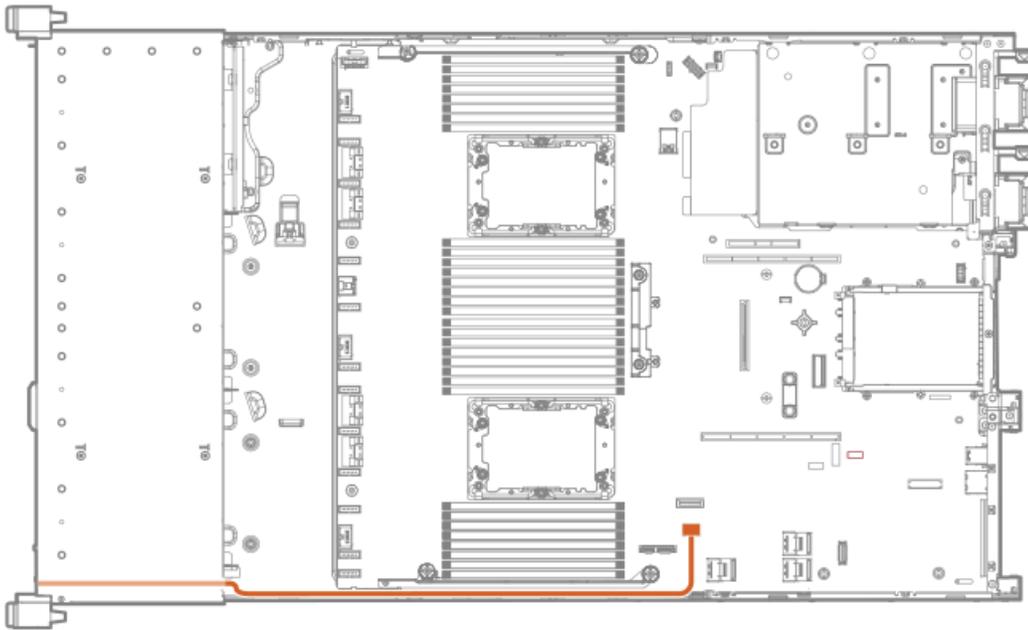


SFF (2.5型) ユニバーサルメディアベイのオプティカルディスクドライブ



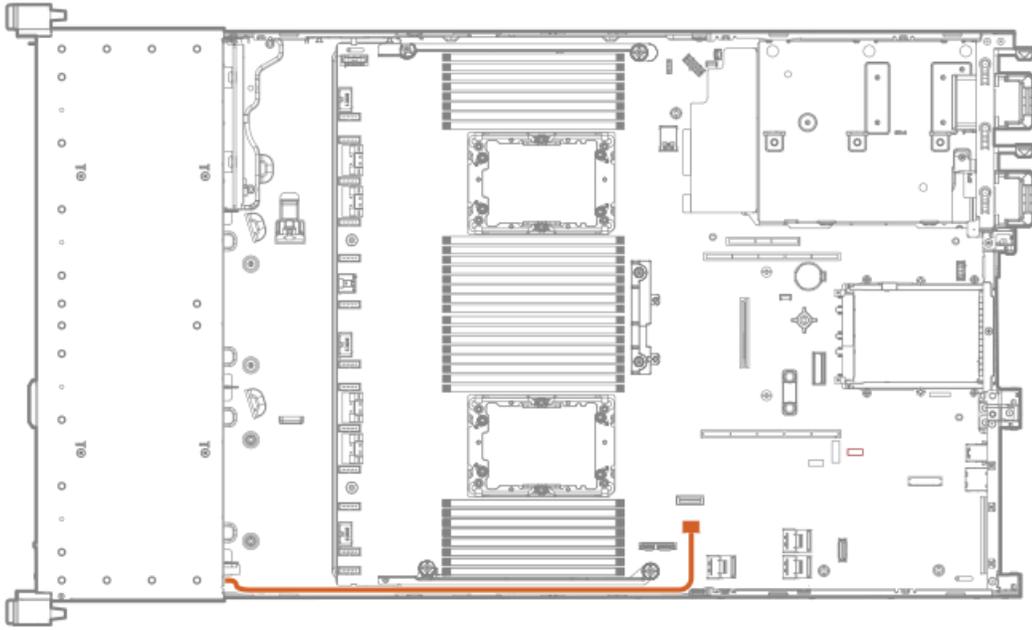


SFF (2.5型) /LFF (3.5型) 電源スイッチ

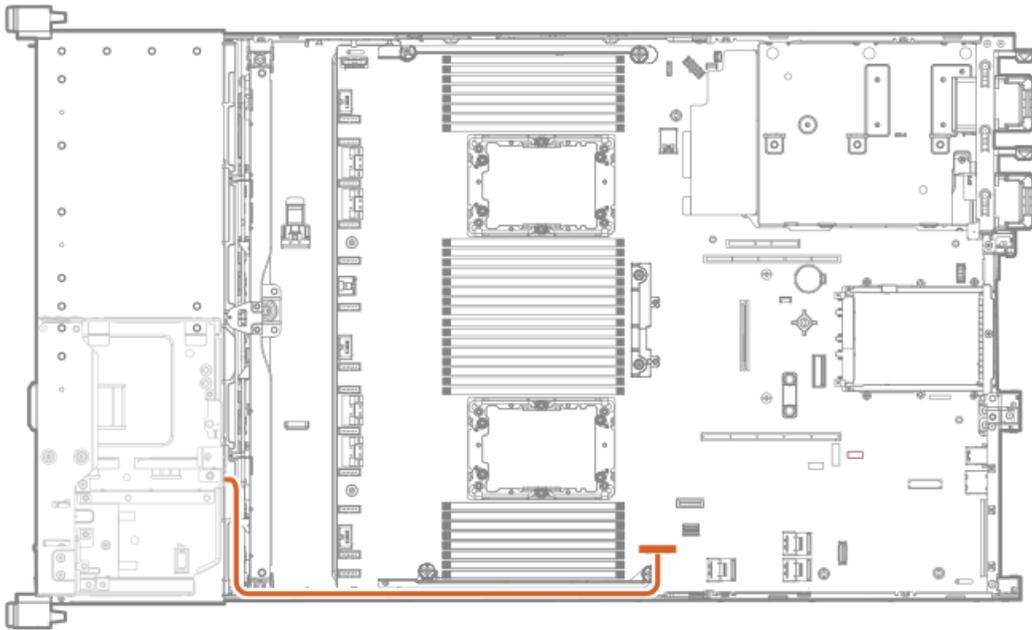


SFF (2.5型) /LFF (3.5型) Systems Insight Display



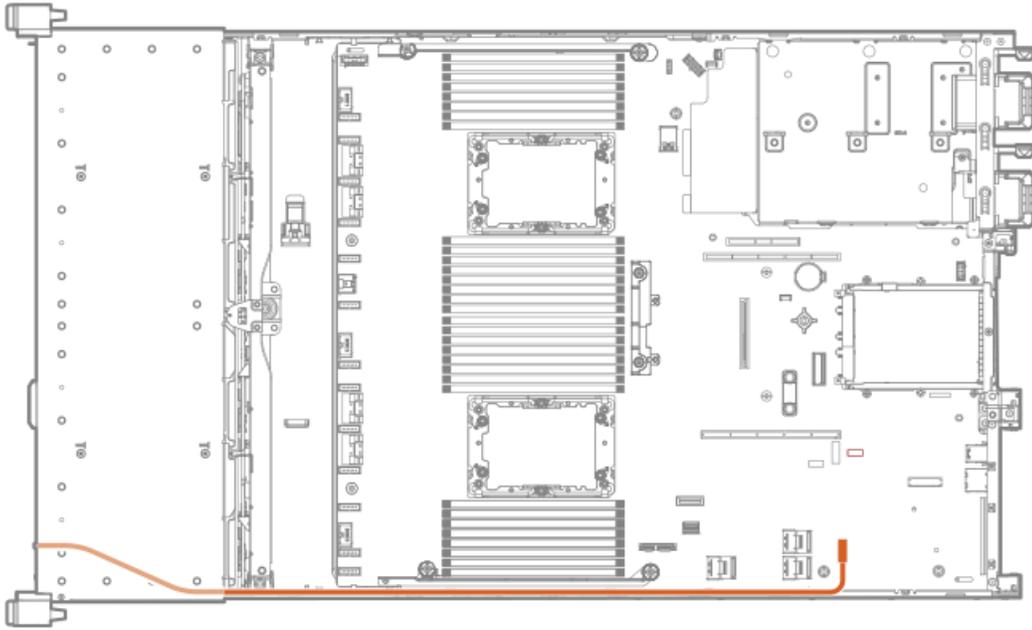


LFF (3.5型) オプティカルディスクドライブ

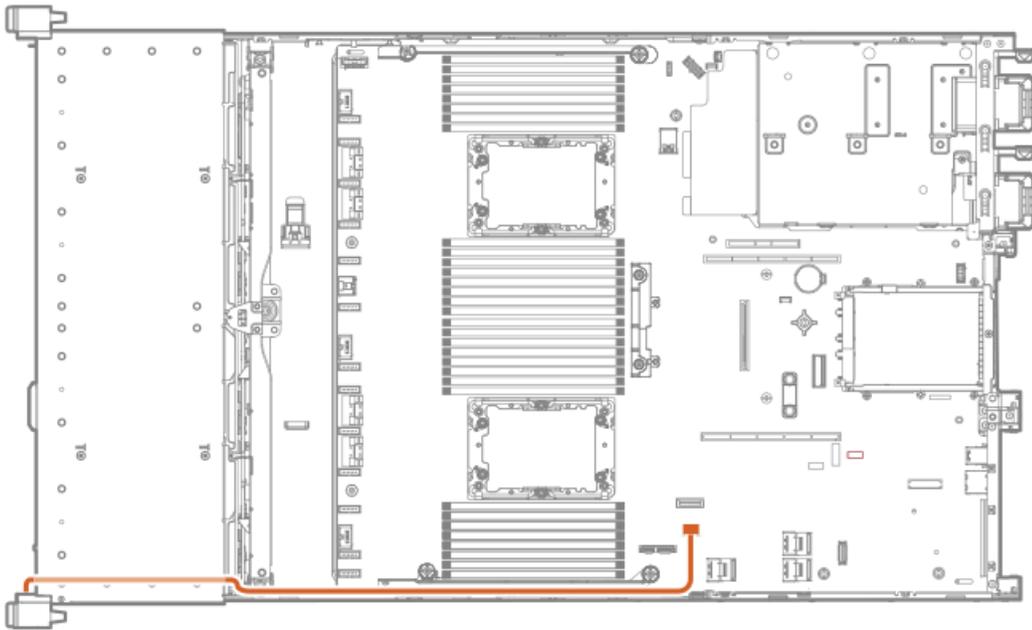


LFF (3.5型) ディスプレイポート





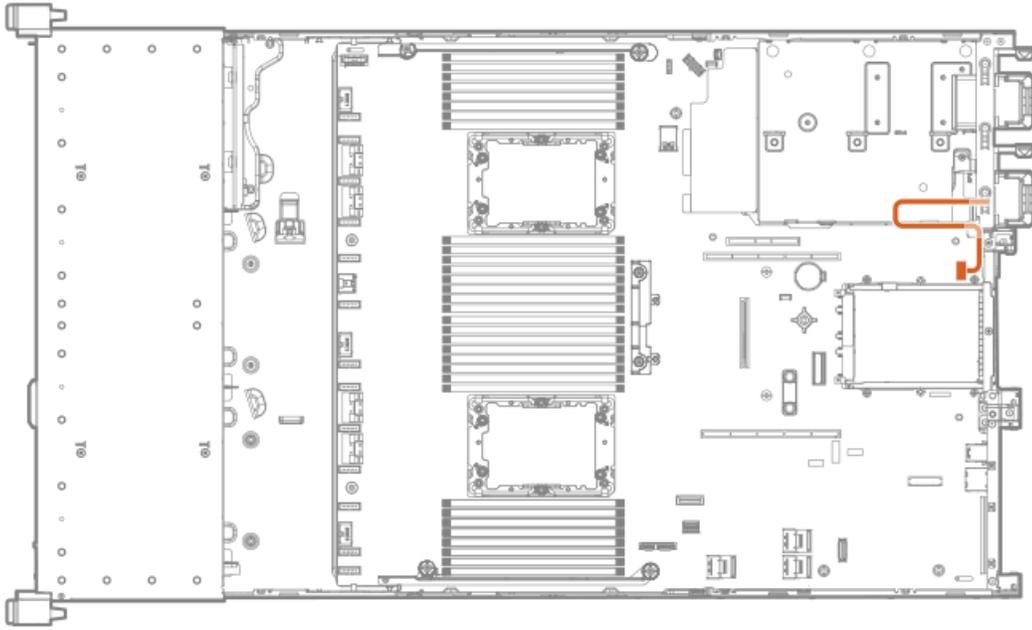
LFF (3.5型) 電源スイッチモジュール



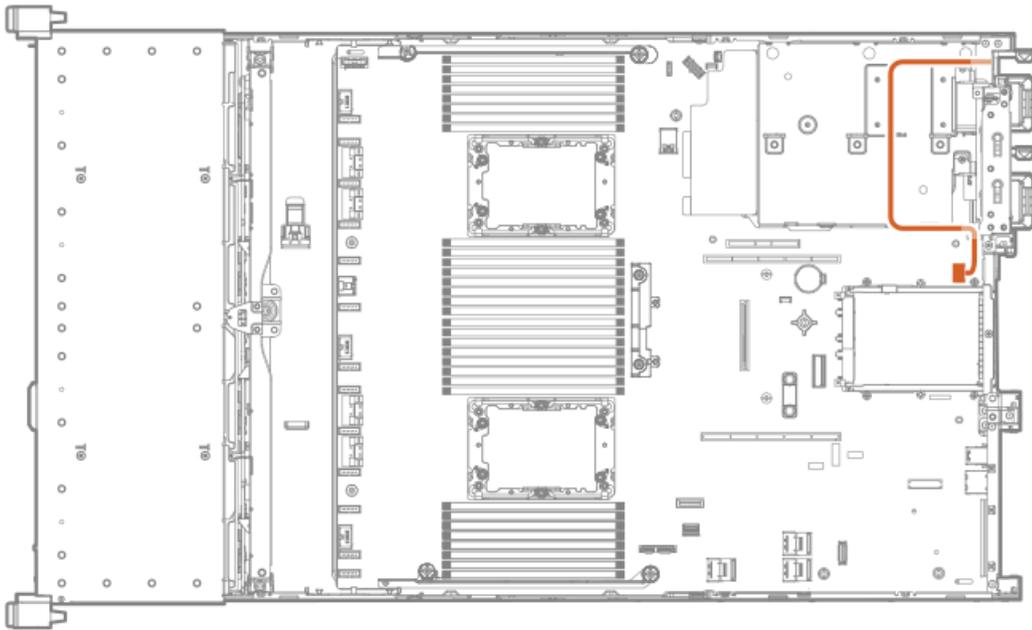
ケーブル配線：シリアルポート

標準



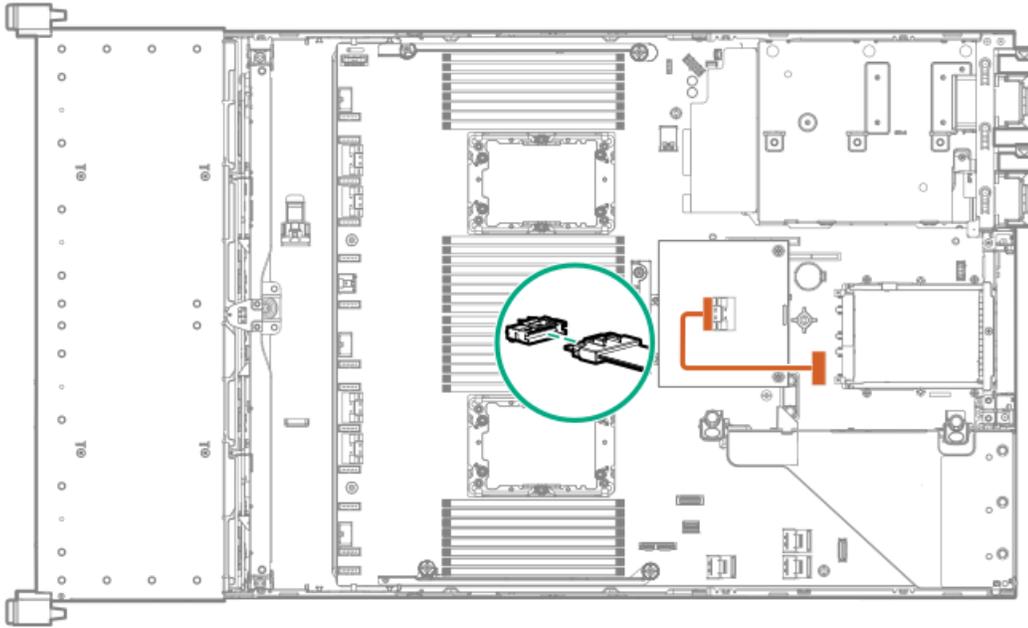


ターシャリライザー



ケーブル配線 : OCP NVMeの有効化





ソフトウェアおよび構成ユーティリティ

サブピック

サーバー モード

製品QuickSpecs

Active Health System Viewer

HPE iLO 5

インテグレートッドマネジメントログ

Intelligent Provisioning

管理セキュリティ

WindowsおよびLinux用のScripting Toolkit

HPE Message Passing Interface (MPI)

HPE Performance Cluster Manager

UEFIシステムユーティリティ

HPE Smart Storage Administrator

HPE InfoSight for Servers

USBサポート

冗長ROMのサポート

システムの最新状態の維持

サーバー モード

本セクションにソフトウェアおよび構成ユーティリティは、オンラインモード、オフラインモード、または両方のモードで動作します。

ソフトウェアまたは構成ユーティリティ	サーバー モード
Active Health System	オンラインおよびオフライン
HPE iLO 5	オンラインおよびオフライン
HPE Smart Storage Administrator	オンラインおよびオフライン
iLO RESTful API	オンラインおよびオフライン
Intelligent Provisioning	オンラインおよびオフライン
WindowsおよびLinux用のScripting Toolkit	オンライン
Service Pack for ProLiant	オンラインおよびオフライン
Smart Update Manager	オンラインおよびオフライン
UEFIシステムユーティリティ	オフライン

製品QuickSpecs

製品の特長、仕様、オプション、構成、および互換性について詳しくは、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト (<https://www.hpe.com/info/qs>) にある製品のQuickSpecsを参照してください。

Active Health System Viewer

Active Health System Viewer (AHSV) は、AHSのアップロードデータを使用してサーバーの問題を迅速に読み取り、診断し、解決するために使用するオンラインツールです。AHSVは、Hewlett Packard Enterpriseが推奨する、経験とベストプラクティスに基づいた修復処置を提供します。AHSVには、以下の機能があります。

- サーバーの構成情報の読み取り
- ドライバー/ファームウェアインベントリの表示
- イベントログの確認
- 障害検出解析アラートへの応答
- 新しいサポートケースのオープンおよび既存のサポートケースのアップデート

サブトピック

[Active Health System](#)

Active Health System

Active Health Systemは、サーバーハードウェアとシステム構成の変化を監視し、記録します。

Active Health Systemは、以下の機能を提供します。

- 1,600を超えるシステムパラメーターの継続的なヘルス監視
- すべての構成変更のログの取得
- ヘルスおよびサービス通知の統合（正確なタイムスタンプ付き）
- アプリケーションのパフォーマンスに影響を与えないエージェントレスの監視

Active Health Systemについて詳しくは、<https://www.hpe.com/support/ilo-docs>にあるiLOユーザーガイドを参照してください。

サブトピック

[Active Health Systemのデータ収集](#)

[Active Health Systemログ](#)

Active Health Systemのデータ収集

Active Health Systemでは、ユーザーの経営、財務、顧客、従業員、またはパートナーに関する情報を収集しません。

収集される情報の例を示します。

- サーバーモデルとシリアル番号
- プロセッサのモデルと速度
- ストレージの容量と速度
- メモリの容量と速度
- ファームウェア/BIOSおよびドライバーのバージョンと設定

Active Health Systemは、サードパーティのエラーイベントログ活動（たとえば、OSを介して作成し、渡した内容）からOSデータを解析したり、変更したりしません。

Active Health Systemログ

Active Health Systemが収集したデータはActive Health Systemログに保存されます。データは、安全に記録され、オペレーティングシステムから分離され、しかも顧客データから独立しています。ホストのリソースは、Active Health Systemデータの収集およびロギングで消費されることはありません。

Active Health Systemログが満杯になると、ログ内の最も古いデータが新しいデータで上書きされます。

Active Health Systemログがダウンロードされ、サポート担当者に送信されて、担当者がお客様の問題の解決をサポートするのにかかる時間は5分以内です。

Active Health Systemデータをダウンロードし、Hewlett Packard Enterpriseに送信することで、お客様は、分析、技術的な解決、および品質改善のためにデータが使用されることに同意したものと見なされます。収集されるデータは、Privacy Statement (<https://www.hpe.com/info/privacy>)に掲載されています)に従って管理されます。

ログをHPE InfoSight for Serversにアップロードして、ログデータを表示したり、有効な保証またはサポート契約に基づくサーバーのサポートケースを作成したりできます。詳しくは、次のWebサイトにあるHPE InfoSight for Serversのドキュメントを参照してください：<https://www.hpe.com/support/infosight-servers-docs>。

HPE iLO 5

iLO 5は、HPEサーバーおよびコンピュートモジュールのシステムボードに組み込まれたリモートサーバー管理プロセッサです。iLOでは、リモートの場所からサーバーを監視および制御できます。iLO管理は、サーバーをリモートで構成、アップデート、監視、および修復するための複数の方法を提供する強力なツールです。

iLOについて詳しくは、<https://www.hpe.com/support/iilo-docs>のWebサイト上のiLOユーザーガイドを参照してください。

サブトピック

[iLO連携](#)

[iLOサービスポート](#)

[iLO RESTful API](#)

[RESTfulインターフェイスツール](#)

[iLO Amplifier Pack](#)

iLO連携

iLO連携では、iLO Webインターフェイスを使用して、1つのシステムから複数のサーバーを管理できます。

iLO連携が構成されている場合、iLOはマルチキャスト検出およびピアツーピア通信を使用して、iLO連携グループ内のシステム間の通信を可能にします。

iLO連携ページの1つに移動すると、Webインターフェイスを実行するiLOシステムからそのピアへ、そしてそれらのピアから他のピアへ、選択したiLO連携グループのすべてのデータが取得されるまでデータリクエストが送信されます。

iLOは次の機能をサポートします。

- グループのヘルスステータス - サーバーのヘルス情報とモデル情報を表示します。
- グループ仮想メディア - サーバーのグループからアクセスできるURLベースのメディアに接続します。
- グループ電力制御 - サーバーのグループの電源ステータスを管理します。
- グループ消費電力上限 - サーバーのグループに消費電力上限を動的に設定します。
- グループファームウェアアップデート - サーバーのグループのファームウェアをアップデートします。
- グループライセンスのインストール - ライセンスキーを入力して、サーバーのグループでライセンス済みのiLO機能を有効にします。
- グループ構成 - 複数のiLOシステムに対するiLO連携グループメンバーシップを追加します。

どのユーザーもiLO連携ページの情報を表示できますが、次の機能を使用するにはライセンスが必要です。グループ仮想メディア、グループ電源制御、グループ消費電力上限、グループ構成、およびグループファームウェアアップデート。

iLO連携について詳しくは、<https://www.hpe.com/support/iilo-docs>のWebサイト上のiLOユーザーガイドを参照してください。

iLOサービスポート

サービスポートは、サポートされているサーバーおよびコンピュートモジュールでiLOのラベルが付けられているUSBポートです。

お使いのサーバーまたはコンピュートモジュールがこの機能に対応しているか調べるには、次のWebサイト (<https://www.hpe.com/info/qs>) にあるサーバーの仕様ドキュメントを参照してください。

サーバーに物理的にアクセスできる場合、サービスポートを使用して次のことができます。

- サポートされているUSBフラッシュドライブにActive Health Systemログをダウンロードします。

この機能を使用する場合、接続されているUSBフラッシュドライブにホストオペレーティングシステムはアクセスできません。

- サポートされるUSBイーサネットアダプターにクライアント（ノートパソコンなど）を接続して以下にアクセスします。
 - iLOのWebインターフェイス
 - リモートコンソール
 - iLO RESTful API
 - CLI

Hewlett Packard Enterpriseは、HPE USBイーサネットアダプター（部品番号Q7Y55A）を使用することをお勧めします。

XL170rなど、サーバーによっては、アダプターを使用してUSBをiLOサービスポートからイーサネットアダプターに接続する必要があります。

Hewlett Packard Enterpriseは、HPE Micro USBを使用してUSBアダプターに接続することをお勧めします（部品番号789904-B21）。

iLOサービスポートを使用すると、次のようになります。

- 操作がiLOイベントログに記録されます。
- サービスポートのステータスを示すようにサーバーのUIDが点滅します。
RESTクライアントとiLO RESTful APIを使用してサービスポートのステータスを取得することもできます。
- サービスポートを使用してサーバー内のデバイスまたはサーバー自体を起動することはできません。
- サービスポートに接続してサーバーにアクセスすることはできません。
- 接続されているデバイスにサーバーからアクセスすることはできません。

iLOサービスポートについて詳しくは、<https://www.hpe.com/support/i-lo-docs>のWebサイトのiLOユーザーガイドを参照してください。

 詳しくは、[HPE ProLiant Gen10サーバーへのAnywhereアクセスのビデオ](#)をご覧ください。

iLO RESTful API

iLOには、Redfish API準拠であるiLO RESTful APIが含まれています。iLO RESTful APIは、基本的なHTTPS操作（GET、PUT、POST、DELETE、およびPATCH）をiLO Webサーバーに送信することで、サーバー管理ツールからサーバーの構成、イベントリ、および監視を実行できる管理インターフェイスです。

iLO RESTful APIについて詳しくは、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト（<https://www.hpe.com/support/restful-interface/docs>）を参照してください。

iLO RESTful APIを使用したタスクの自動化について詳しくは、<https://www.hpe.com/info/redfish>にあるライブラリとサンプルコードを参照してください。

 詳しくは、[Redfish & How it works with HPE Server Management](#)のビデオをご覧ください。

RESTfulインターフェイスツール

RESTfulインターフェイスツール (iLOREST) は、HPEサーバー管理タスクを自動化するためのスクリプティングツールです。これは、iLO RESTful APIを利用する、簡素化されたコマンドのセットを提供します。ツールは、ご使用のコンピューターにインストールしてリモートで使用することも、WindowsまたはLinuxオペレーティングシステムを搭載するサーバーにローカルでインストールすることもできます。RESTfulインターフェイスツールでは、自動化時間を短縮するための対話型モード、スクリプト可能なモード、およびCONREPのようなファイルベースモードが提供されます。

詳しくは、次のWebサイトを参照してください。 <https://www.hpe.com/info/resttool>

iLO Amplifier Pack

iLO Amplifier Packは、iLO Advancedの機能を活用して迅速な検出、詳細なインベントリレポート、ファームウェア、およびドライバーのアップデートを可能にする、高度なサーバーインベントリ、ファームウェア、およびドライバーのアップデートソリューションです。iLO Amplifier Packは、ファームウェアとドライバーの大規模アップデートを目的として、サポートされている数千台のサーバーの迅速なサーバー検出およびインベントリを実行します。

iLO Amplifier Packについて詳しくは、次のWebサイトにあるiLO Amplifier Packユーザーガイドを参照してください (<http://www.hpe.com/support/iilo-ap-ug-ja>)。

インテグレートドマネジメントログ

IMLは、数百のイベントを記録して簡単に表示できる形式で格納します。IMLは、各イベントに1分単位のタイムスタンプを設定します。

IMLに記録されたイベントは、次のような複数の方法で表示できます。

- HPE SIMから
- UEFIシステムユーティリティから
- 内蔵UEFIシェルから
- iLO Webインターフェイスから

Intelligent Provisioning

Intelligent Provisioningは、ProLiantサーバー、およびHPE Synergyコンピュートモジュールに組み込まれた単一サーバーの展開ツールです。Intelligent Provisioningによって、サーバーのセットアップがシンプルになり、信頼性が高く一貫した方法でサーバーを展開できます。

Intelligent Provisioningは、使用許諾されたベンダーのオリジナルメディアおよびHewlett Packard EnterpriseブランドバージョンのOSソフトウェアをシステムにインストールします。Intelligent Provisioningは、Service Pack for ProLiant (SPP) に含まれている最適化されたサーバーサポートソフトウェアを統合するためにシステムも準備します。SPPは、ProLiantサーバーとサーバーブレードおよびそれらのサーバーを収納するエンクロージャー、ならびにHPE Synergyコンピュートモジュール向けの包括的なシステムソフトウェアおよびファームウェアソリューションです。これらのコンポーネントには、ファームウェアコンポーネントとOSコンポーネントの基本的なセットがプリロードされています。これらのコンポーネントは、Intelligent Provisioningとともにインストールされます。

i 重要:

HPE ProLiant XLサーバーは、Intelligent Provisioningによるオペレーティングシステムのインストールはサポートしませんが、メンテナンス機能はサポートします。詳しくは、Intelligent Provisioningユーザーガイドの「メンテナンスの実行」およびオンラインヘルプを参照してください。

サーバーの実行後、ファームウェアをアップデートすると、追加コンポーネントをインストールできます。サーバーの製造時以降のすでに古くなったコンポーネントをアップデートすることもできます。

Intelligent Provisioningにアクセスするには、次の操作を行います。

- POST画面からF10を押して、Intelligent Provisioningを入力します。

- iLO Webインターフェイスからライフサイクル管理を使用します。ライフサイクル管理を使用すると、サーバーを再起動せずにIntelligent Provisioningにアクセスできます。

管理セキュリティ

HPE ProLiant Gen10、HPE ProLiant Gen10 PlusおよびHPE Apolloサーバーは、業界内で最も高度な、かつすぐに使用できるさまざまなセキュリティ機能を備えており、内蔵のセキュアな管理アプリケーションとファームウェアに基づいています。HPEの内蔵管理製品によって提供される管理セキュリティは、最新のワークロードをセキュアにサポートし、未許可アクセスや未承認の用途からコンポーネントを保護します。iLO Advancedライセンスで使用可能な内蔵管理およびオプションのソフトウェアとファームウェアは、高度なサイバー攻撃に対する保護、検出、リカバリを確実に実行するセキュリティ機能を提供します。詳しくは、[Hewlett Packard Enterpriseサポートセンター](#)にあるHPE Gen10およびGen10 Plusセキュリティリファレンスガイドを参照してください。

WindowsおよびLinux用のScripting Toolkit

WindowsおよびLinux用のSTKは、サーバーの無人/自動での大量展開の作成を可能にするサーバー展開製品です。STKは、ProLiantサーバーをサポートするように設計されています。このツールキットには、モジュール式のユーティリティセットと、このユーティリティセットを使用して自動サーバー展開プロセスを作成する方法を記載した非常に役立つドキュメントが含まれています。

STKを使用すると、標準となるサーバー構成スクリプトを柔軟に作成できます。ユーザーは、作成したスクリプトを使用して、サーバーの構成プロセスで発生する多くの手動での手順を自動化することができます。この自動サーバー構成プロセスにより、各展開にかかる時間が短縮されるため、迅速に多数のサーバーを設置してサイトを拡張することができます。

STKのダウンロードについて詳しくは、またはSTKをダウンロードするには、[Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト](#)を参照してください。

HPE Message Passing Interface (MPI)

HPE Message Passing Interface (MPI) は、高性能コンピューティング (HPC) Linuxアプリケーションの開発および最適化を可能にするMPI開発環境です。HPE Message Passing Interface (MPI) は、再編成の必要なくHewlett Packard Enterprise HPCクラスター上の既存のMPIアプリケーションのパフォーマンスを強化することでスケーラブルなMPIライブラリを活用し基礎となるサーバーインフラストラクチャを利用します。詳しくは、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト (<https://www.hpe.com/software/mpi>) にあるHPE Message Passing Interface (MPI) のドキュメントを参照してください。

HPE Performance Cluster Manager

HPE Performance Cluster Managerは、HPEクラスターシステム上の展開、システム管理、監視、およびレポートングにおける接点です。詳しくは、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト (<https://www.hpe.com/software/hpcm>) にあるHPE Performance Cluster Managerのドキュメントを参照してください。

UEFIシステムユーティリティ

UEFIシステムユーティリティは、システムROMに内蔵されています。これを使用すると、次のような広範な構成作業を実行

できます。

- システムデバイスとインストールされたオプションの構成。
- システム機能の有効化と無効化。
- システム情報の表示。
- プライマリブートコントローラーまたはパーティションの選択。
- メモリオプションの構成。
- その他のプリブート環境の起動。

UEFIを搭載するHPEサーバーでは、以下を提供できます。

- サイズが2.2 TB以上のブートパーティションのサポート。このような構成は、以前まで、RAIDソリューションを使用している場合に、ブートドライブでしか使用できませんでした。
- セキュアブート。システムファームウェア、オプションカードファームウェア、オペレーティングシステム、ソフトウェアを連携して、プラットフォームのセキュリティを強化することができます。
- UEFIグラフィカルユーザーインターフェイス (GUI)
- 内蔵UEFIシェル。スクリプトやツールを実行するための起動前環境を提供します。
- UEFIオプションROMのみをサポートするオプションカード向けブートサポート。

サブトピック

ブートモードの選択

セキュアブート

内蔵UEFIシェルの起動

ブートモードの選択

このタスクについて

このサーバーには、2つのブートモード構成があります。UEFIモードおよびレガシーBIOSモードです。一部のブートオプションでは、特定のブートモードを選択することが必要です。デフォルトでは、ブートモードはUEFIモードに設定されています。次の特定のオプションを使用するには、システムをUEFIモードで起動する必要があります。

- セキュアブート、UEFI最適化ブート、汎用USBブート、IPv6 PXEブート、iSCSIブート、NVMeブート、およびURLからのブート
- ファイバーチャネル/FCoEスキャンポリシー

注記:

使用するブートモードはオペレーティングシステムのインストールと一致しなければなりません。そうでない場合、ブートモードを変更するとサーバーがインストール済みのオペレーティングシステムで起動する機能に影響を与える場合があります。

前提条件

UEFIモードで起動する場合は、UEFI最適化ブートを有効なままにしてください。

手順

1. システムユーティリティ画面で、システム構成 > BIOS/プラットフォーム構成 (RBSU) > ブートオプション > ブートモードを選択します。
2. 設定を選択します。
 - UEFIモード (デフォルト) -UEFI互換性のあるオペレーティングシステムで起動するようシステムを設定します。

- レガシーBIOSモード -レガシーBIOS互換モードで従来のオペレーティングシステムに起動するようにシステムを構成します。
3. 設定を保存します。
 4. サーバーを再起動します。

セキュアブート

セキュアブートはサーバーのセキュリティ機能で、完全にBIOSに組み込まれており、特殊なハードウェアは不要です。セキュアブートにより、ブートプロセス中に起動した各コンポーネントにデジタル記号が付けられ、この署名がUEFI BIOSに内蔵された一連の信頼済みの証明書と照合されて検証されます。セキュアブートは、ブートプロセス中に次のコンポーネントのソフトウェアIDを検証します。

- PCIeカードからロードされたUEFIドライバー
- 大容量ストレージデバイスからロードされたUEFIドライバー
- プリブートUEFIシェルアプリケーション
- OS UEFIブートローダー

セキュアブートが有効になっている場合には、以下が必要です。

- ブートプロセス中、ブートローダーを持つオペレーティングシステムとファームウェアコンポーネントは、実行するために適切なデジタル署名を持っている必要があります。
- オペレーティングシステムは、起動するためには、セキュアブートをサポートし、認証済みキーの1つで署名されたEFIブートローダーを持っている必要があります。サポートされるオペレーティングシステムについて詳しくは、<https://www.hpe.com/servers/ossupport>を参照してください。

独自の証明書を追加または削除することにより、UEFI BIOSに組み込まれている証明書をカスタマイズできます。カスタマイズは、サーバーに直接取り付けられた管理コンソールから行うことも、またはiLOリモートコンソールを使用してサーバーにリモート接続して行うこともできます。

セキュアブートは、次のように構成できます。

- 以下の各項で説明されているシステムユーティリティオプションを使用する。
- iLO RESTful APIを使用して、証明書をクリアし、復元する。詳しくは、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト (<https://www.hpe.com/info/redfish>) を参照してください。
- 内蔵UEFIシェルで `secboot` コマンドを使用し、セキュアブートデータベース、キー、およびセキュリティレポートを表示する。

内蔵UEFIシェルの起動

前提条件

- 内蔵UEFIシェルが有効に設定されていること。

このタスクについて

内蔵UEFIシェルオプションを使用して、内蔵UEFIシェルを起動します。内蔵UEFIシェルは、UEFIブートローダーを含むUEFIアプリケーションのスクリプトを作成し、実行するための起動前のコマンドライン環境です。このシェルには、システム情報を取得し、システムBIOSを構成およびアップデートするために使用できるCLIベースのコマンドも用意されています。

手順

1. システムユーティリティ画面で、内蔵アプリケーション > 内蔵UEFIシェルを選択します。

内蔵UEFIシェル画面が表示されます。

2. 任意のキーを押して、その場にいることを知らせます。

この手順により、セキュアブートの無効化や他社製のUEFIツールを使用したセキュアブート証明書の管理など、特定の機能が制限されなくなります。

3. 管理者パスワードが設定されている場合はプロンプトで入力し、Enterキーを押します。

Shell> プロンプトが表示されます。

4. タスクの完了に必要なコマンドを入力します。

5. Exit コマンドを入力して、シェルを終了します。

HPE Smart Storage Administrator

HPE SSAは、HPE SmartアレイSRコントローラーでアレイを構成するためのメインツールです。これには、HPE SSA GUI、HPE SSA CLI、およびHPE SSAスクリプティングの3つのインターフェイス形式があります。どの形式も構成タスクをサポートしています。高度なタスクのいくつかは、1つの形式だけで使用可能です。

HPE SSAの診断機能は、スタンドアロンのソフトウェアHPE Smart Storage Administrator診断ユーティリティCLIでも使用できます。

サーバーまたはコンピュータモジュールの初回プロビジョニング中は、アレイを構成してからでないとオペレーティングシステムをインストールできません。アレイはSSAを使用して構成することができます。

HPE SSAはオフライン（HPE Intelligent Provisioningを経由するか、スタンドアロンのブート可能なISOイメージとして）とオンラインのどちらでもアクセスできます。

- オフライン環境でのHPE SSAへのアクセス

i 重要: オフライン環境で既存のサーバーをアップデートする場合は、構成手順を実行する前にService Pack for ProLiantからHPE SSAの最新バージョンを入手します。

さまざまな方法のいずれかを使用して、ホストオペレーティングシステムを起動する前にHPE SSAを実行できます。オフラインモードでは、オプションのSmartアレイコントローラーや内蔵Smartアレイコントローラーなど、検出済みでサポート済みのデバイスを構成したり、保守したりできます。ブートコントローラーやブートボリュームの設定のような一部のHPE SSA機能は、オフライン環境でのみ使用できます。

- オンライン環境でのHPE SSAへのアクセス

この方法では、管理者がHPE SSA実行可能ファイルをダウンロードしてインストールする必要があります。ホストオペレーティングシステムを起動した後で、HPE SSAをオンラインで実行できます。

詳しくは、HPE SSAのオンラインヘルプを参照してください。

サブトピック

Smart Storage Administrator

Smart Storage Administrator

SSAは、これらのコントローラーでアレイを構成するためのメインツールです。SSAには、SSA GUI、SSA CLI、およびSSAスクリプティングの3つのインターフェイス形式があります。どの形式も構成タスクをサポートしています。高度なタスクのいくつかは、1つの形式だけで使用可能です。

SSAの診断機能は、スタンドアロンのソフトウェアSmart Storage Administrator診断ユーティリティCLIでも使用できます。

- **オフライン環境でのSSAへのアクセス:** さまざまな方法のいずれかを使用して、ホストオペレーティングシステムを起動する前にSSAを実行できます。オフラインモードでは、オプションのコントローラーや内蔵コントローラーのような検出

されたサポートされるHPE ProLiantデバイスの構成と保守を行うことができます。ブートコントローラーの設定やスプリットミラー操作の実行のような一部のSSA機能は、オフライン環境でのみ使用できます。

- **オンライン環境でのSSAへのアクセス**：この方法では、管理者がSSA実行可能ファイルをダウンロードしてインストールする必要があります。ホストオペレーティングシステムを起動した後で、SSAをオンラインで実行できます。

HPE InfoSight for Servers

HPE InfoSightポータルは、HPEによってホストされている安全なWebインターフェイスで、サポートされているデバイスをグラフィカルインターフェイスによって監視できます。

HPE InfoSight for Servers :

- HPE InfoSightの機械学習と予測分析を、Active Health System (AHS) およびHPE iLOのヘルスとパフォーマンス監視と組み合わせて、パフォーマンスを最適化し、問題を予測して防止します
- AHSからのセンサーデータとテレメトリデータを自動的に収集および分析し、インストールベースの動作から洞察を導き出して、問題の解決とパフォーマンスの向上に関する推奨事項を提供します

HPE InfoSight for Serversを使用するための準備について詳しくは、<https://www.hpe.com/info/infosight-servers-docs>を参照してください。

USBサポート

Hewlett Packard EnterpriseのGen10およびGen10 Plusサーバーでは、サーバーに接続されているデバイスに応じて、USBのすべての動作速度をサポートします。

サブトピック

外部USB機能

外部USB機能

外部USBのサポートにより、サーバーの管理、構成、および診断のために、ローカル接続したUSBデバイスを使用できます。セキュリティを強化するには、UEFIシステムユーティリティのUSBオプションで外部USB機能を無効にできます。

冗長ROMのサポート

サーバーでは、冗長化されたROMのサポートで、ROMを安全にアップグレードしたり構成したりすることができます。サーバーには、1つのROMが搭載され2つの独立したROMイメージとして機能します。標準の実装では、ROMの片方のサイドに現在のバージョンのROMプログラムが内蔵され、ROMのもう一方のサイドにバックアップバージョンのROMが内蔵されています。

 **注記**：サーバーの工場出荷時には、ROMの両サイドに同じバージョンのROMが実装されています。

サブトピック

安全とセキュリティ上の利点

安全とセキュリティ上の利点

システムROMをフラッシュする場合、フラッシュメカニズムがバックアップROMを上書きし、現在のROMをバックアップとして保存して、新しいROMが何らかの理由で壊れたときに代替のバージョンのROMに簡単に戻ることができるようにします。この機能では、ROMのフラッシュ中に電源障害が発生した場合でも、既存のバージョンのROMが保護されます。

システムの最新状態の維持

サブトピック

[ファームウェアまたはシステムROMのアップデート](#)

[ドライバー](#)

[ソフトウェアおよびファームウェア](#)

[オペレーティングシステムバージョンのサポート](#)

[HPE Pointnextポートフォリオ](#)

[事前通知](#)

ファームウェアまたはシステムROMのアップデート

このタスクについて

ファームウェアまたはシステムROMをアップデートするには、以下のいずれかの方法を使用します。

- システムユーティリティのファームウェアアップデートオプション。
- 内蔵UEFIシェルの `fwupdate` コマンド。
- Service Pack for ProLiant (SPP)
- HPEオンラインフラッシュコンポーネント
- Moonshot Component Pack

サブトピック

[Service Pack for ProLiant](#)

[システムユーティリティからのファームウェアのアップデート](#)

[UEFI 内蔵シェルからのファームウェアのアップデート](#)

[オンラインフラッシュコンポーネント](#)

Service Pack for ProLiant

SPPは、単一のISOファイルのダウンロードとして提供されるシステムソフトウェアおよびファームウェアソリューションです。このソリューションは展開ツールとしてSUMを使用し、サポートされるHPE ProLiant、HPE BladeSystem、HPE Synergy、HPE Apolloサーバーおよびインフラストラクチャでテストされています。

SPPはSUMおよびSUTと連携してHPE ProLiant、HPE BladeSystem、HPE Synergy、HPE Apolloサーバーおよびインフラストラクチャを体系的にアップデートする、Smart Updateシステムメンテナンスツールです。

SPPは、Windows、Linux、またはVMware vSphere ESXiでオンラインモードで使用することができ、また、ISOファイルに格納されたオペレーティングシステムでサーバーを起動することで、オフラインモードで使用することができます。

推奨されるSPPのダウンロード方法は、<https://www.hpe.com/servers/spp/custom>にあるSPPカスタムダウンロードを使用することです。

サブトピック

Smart Update Manager

Integrated Smart Update Tools

Smart Update Manager

SUMは、HPE ProLiant、HPE BladeSystem、HPE Synergy、HPE Superdome Flexサーバー、およびHPE Apolloサーバー、インフラストラクチャ、および関連オプションのファームウェア、ドライバー、システムソフトウェアの保守とアップデートを行う革新的ツールです。

SUMは相互依存性の問題を回避するために、同時にアップデートできる関連ノードを特定します。

SUMの主な機能は、次のとおりです。

- ノードに取り付けられているハードウェアや、インストールされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョンを検出する検出エンジン。
- SUMは、アップデートを正しい順序で展開します。また、アップデートの展開前にすべての依存関係が満たされていることを確認します。
- 相互依存性チェック。
- 順を追って進む自動のローカルホストガイドアップデートプロセス。
- Webブラウザベースのユーザーインターフェイス。
- カスタムベースラインとISOを作成する機能。
- iLOレポジトリ用のサポート（Gen10以降のiLO 5ノードのみ）。
- 複数のリモートノード用のファームウェアとソフトウェアの同時展開。
- SPPによるローカルのオフラインファームウェア展開。
- すべてのモードでの広範なログ機能。

注記:

HPE Integrityサーバーのサポートは、SUM 8.xから廃止されました。

Integrated Smart Update Tools

Integrated Smart Update Tools (SUT) は、ファームウェアとドライバーのオンラインアップデートを実行するためのスマートアップデートソリューションです。SUTは、iLO 4、iLO 5、およびiLO Amplifier PackまたはHPE OneViewおよびSmart Update Managerなどのアップデートソリューション（管理アプライアンスなど）と共に使用され、ファームウェアのアクティブ化およびドライバーのアップデートをステージング、インストールするために利用します。

ソリューションは、リッチインフラストラクチャサービス（RIS）通信を介して結果をアップデートするオペレーティングシステムにインストールする必要があります。

- SUT：iLOをポーリングして、OSにインストールされたiLOチャンネルインターフェイスドライバーを使用してローカルiLOを介したアップデートについてSUM、iLO Amplifier Pack、またはHPE OneViewからの要求をチェックし、アップデートのステージング、展開、およびアクティブ化を調整します。SUTによって提供される適切なコマンドラインオプションを

発行することで、ポーリング間隔を調整することができます。ターゲットサーバー上でインベントリを実行し、展開をステージングし、アップデートを展開してから、サーバーを再起動します。

- **iLO5およびIntegrated Smart Update (Gen10以降のサーバーのみ)** : iLOインストールキューに、SUTによってアップデートできるコンポーネントが入っているときは、iLOレポジトリからそのコンポーネントをダウンロードすることによってiLOレポジトリベースのアップデートを実行します。
- **iLO Amplifier PackおよびHPE OneView** : サーバーに対して利用可能なアップデートを表示します。SUT (またはSUT 1.x) と通信し、iLO Redfishインターフェイスを使用してアップデートを開始します。SUTは、iLO Restfulインターフェイスを介してiLO Amplifier Packにアップデートのステータスを報告します。
- **SUM** : HPE ProLiantサーバーおよび関連付けられたオプションのファームウェアとドライバーをメンテナンスするためのツールです。



注記:

SUMおよびiLO Amplifier Packで同じノードを管理しないでください。

システムユーティリティからのファームウェアのアップデート

このタスクについて

システムBIOS、NIC、ストレージカードなどのシステムのファームウェアコンポーネントをアップデートするのにファームウェアアップデートオプションを使用します。

手順

1. Hewlett Packard Enterpriseサポートセンターから、ご使用のサーバーのシステムROMフラッシュバイナリコンポーネントにアクセスします。
2. バイナリファイルをUSBメディアまたはiLO仮想メディアにコピーします。
3. メディアをサーバーに接続します。
4. システムユーティリティを起動し、内蔵アプリケーション > ファームウェアアップデートを選択します。
5. デバイスを選択します。
ファームウェアのアップデート画面に、現在使用中のファームウェアバージョンを含め、選択したデバイスの詳細が表示されます。
6. ファームウェアファイルを選択を選択します。
7. ファイルエクスプローラーのリストからフラッシュファイルを選択します。
ファームウェアファイルがロードされ、ファームウェアのアップデート画面のファームウェアファイルを選択フィールドにファイルの詳細が表示されます。
8. イメージの説明を選択し、ファームウェアイメージを選択します。
デバイスは、複数のファームウェアイメージを持つことができます。
9. ファームウェアのアップデートを開始を選択します。

UEFI 内蔵シェルからのファームウェアのアップデート

手順

1. Hewlett Packard Enterpriseサポートセンターから、ご使用のサーバーのシステムROMフラッシュバイナリコンポーネントにアクセスします。 (<https://www.hpe.com/support/hpesc>)

2. USBメディアまたはiLO仮想メディアにバイナリファイルをコピーします。
3. メディアをサーバーに接続します。
4. UEFI内蔵シェルへ起動します。
5. USBキーに割り当てられているファイルシステムボリュームを取得するには、`map -r`を入力します。
6. ご使用のサーバー用のシステムROMフラッシュバイナリコンポーネントを含むファイルシステムへと変更します。`fs0:`、`fs1:`など、利用可能な`fsx`ファイルシステムの1つを入力し、**Enter**キーを押します。
7. `cd`コマンドを使用して、現在のディレクトリから、バイナリファイルを含むディレクトリに移動します。
8. `fwupdate -d BIOS -f filename`と入力し、システムROMをフラッシュします。
9. サーバーを再起動します。アップデートを有効にして、ハードウェアの安定性を維持するには、ファームウェアのアップデート後に再起動する必要があります。

オンラインフラッシュコンポーネント

このコンポーネントは、サポートされるオペレーティングシステム上で直接インストールできる、アップデートされたシステムファームウェアを提供します。さらに、SUMと組み合わせて使用すると、このスマートコンポーネントによって、中央の場所からリモートサーバー上のファームウェアをアップデートすることができます。このリモート展開機能により、ファームウェアのアップデートを実行するために、サーバーの場所に物理的にいる必要がなくなります。

ドライバー

重要: 必ず、バックアップを作成してから、デバイスドライバーをインストールまたはアップデートしてください。

次のいずれかの**Smart Updateソリューション**を使用してドライバーをアップデートします。

- 最新のService Pack for ProLiant (Smart Update Managerを含む) のダウンロード
- カスタムSPPダウンロードの作成
- Smart Update Manager for Linuxのダウンロード
- 特定のドライバーのダウンロード
サーバーに対応するドライバーを見つけるには、**Hewlett Packard EnterpriseサポートセンターのWebサイト**に移動してから、ご使用の製品名または製品番号を検索します。

ソフトウェアおよびファームウェア

インストールされているソフトウェアまたはコンポーネントで古いバージョンが必要な場合を除き、サーバーを最初に使用する前に、ソフトウェアとファームウェアをアップデートしてください。

システムソフトウェアおよびファームウェアアップデートを入手するには、次のいずれかの方法を使用します。

- Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト (<https://www.hpe.com/servers/spp/download>) から、SPPをダウンロードしてください。
- 個々のドライバー、ファームウェア、またはその他のシステムソフトウェアコンポーネントを、Hewlett Packard EnterpriseサポートセンターのWebサイト (<https://www.hpe.com/support/hpesc>) のサーバー製品ページからダウンロードしてください。

オペレーティングシステムバージョンのサポート

サポートされているオペレーティングシステムのバージョンについては、[オペレーティングシステムサポートマトリックス](#)を参照してください。

HPE Pointnextポートフォリオ

HPE Pointnextは、信頼を提供し、リスクを軽減して、俊敏性と安定性を実現します。ハイブリッドITにより、オンプレミス環境を簡素化して強化し、パブリッククラウドの性質や特性を活かすことで、お客様の成功を支援します。

サポートサービスでは、ビジネスニーズに合わせて、適切なサービスレベル、対象期間、応答時間を選択できます。詳しくは、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイトを参照してください。

<http://www.hpe.com/jp/services/support>

次の分野でアドバイザーおよび変換サービスを利用します。

- プライベートまたはハイブリッドのクラウドコンピューティング
- ビッグデータおよびモビリティの要件
- データセンターのインフラストラクチャの改善
- サーバー、ストレージ、およびネットワーク技術の活用

詳しくは、Hewlett Packard EnterpriseのWebサイトを参照してください。

<http://www.hpe.com/jp/services/consulting>

事前通知

Hewlett Packard Enterpriseは、今後予定されている以下のものについて、登録したお客様に 30 ~ 60 日前に通知を送信します。

- ハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェアの変更
- 報告
- パッチ
- セキュリティアラート

[Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト](#)で事前通知を登録できます。

トラブルシューティング

サブトピック

[NMI機能](#)

[トラブルシューティングの資料](#)

NMI機能

システムがハングし、従来のデバッグメソッドに回答しない場合、管理者はNMIクラッシュダンプを使用して、クラッシュダンプファイルを作成することができます。

クラッシュダンプのログ解析は、オペレーティングシステム、デバイスドライバー、およびアプリケーションでのハングなど、信頼性に関わる問題を診断するために重要です。クラッシュが起きると多くの場合、システムがフリーズし、管理者はシステムの電源を一度切って入れ直すことしかできません。システムをリセットすると、問題の解析をサポートできる情報が消去されます。ただし、NMIを使って、システムリセットの前にメモリダンプを実行し、その情報を保持できます。

管理者はiLO生成NMI機能を使って、OSに強制的にNMIハンドラーを開始させ、クラッシュダンプログを生成することができます。

トラブルシューティングの資料

トラブルシューティングの資料は、以下のドキュメントのHPE Gen10およびGen10 Plusサーバー製品で使用できます。

- HPE ProLiant Gen10およびGen10 Plusサーバートラブルシューティングガイドでは、一般的な問題を解決するための手順を紹介し、障害を特定し識別するための一連の包括的な対策、問題の解決方法、ソフトウェアのメンテナンスについて説明しています。
- HPE ProLiant Gen10 PlusサーバーおよびHPE Synergyエラーメッセージガイドでは、エラーメッセージのリストを提供し、エラーメッセージの意味と解決方法について説明しています。
- HPE ProLiant Gen10サーバー、Gen10 Plusサーバー、およびHPE Synergy用のインテグレートドマネジメントログメッセージおよびトラブルシューティングガイドでは、クリティカルおよび警告IMLイベントを解決するためのIMLメッセージおよび関連するトラブルシューティング情報を提供しています。

お使いの製品のトラブルシューティングの資料にアクセスするには、[Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト](#)を参照してください。

バッテリーの交換

サーバーが正しい日付と時刻を自動的に表示しなくなった場合、リアルタイムクロックに電力を供給しているバッテリーを交換しなければならない可能性があります。

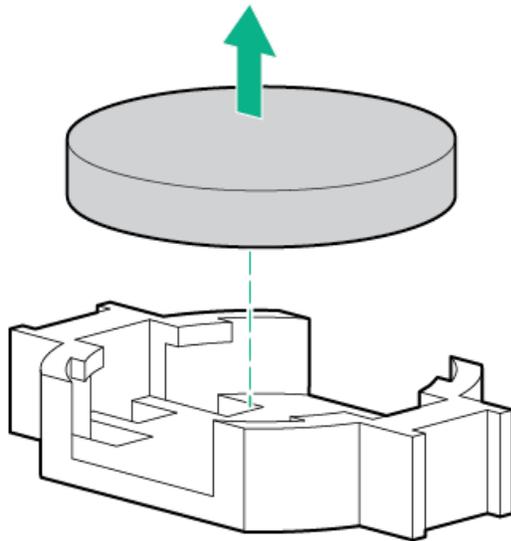
警告: コンピューターは内部に、リチウム二酸化マンガン、五酸化バナジウム、あるいはアルカリバッテリーパックを含んでおり、バッテリーパックの取り扱いを誤ると火災が発生したり、やけどをしたりする危険性があります。けがを防ぐために、次の点に注意してください。

- バッテリーを再充電しないでください。
- 温度が60° Cを超える場所でバッテリーを使用しないでください。
- バッテリーを分解したり、つぶしたり、穴を開けたり、ショートさせたり、火や水の中に投げたりしないでください。
- 交換するバッテリーは、この製品専用のスペアバッテリーだけをご使用ください。

コンポーネントを取り外すには、以下の手順に従ってください。

1. サーバーの電源を切ります。
2. すべての電源を取り外します。
 - a. 各電源コードを電源ソースから抜き取ります。
 - b. 各電源コードをサーバーから抜き取ります。

3. 次のいずれかを実行します。
 - サーバーをラックから引き出します。
 - サーバーをラックから取り外します。
4. アクセスパネルを取り外します。
5. セカンダリPCIeライザーケースを取り外します（取り付けられている場合）。
6. バッテリーの位置を確認します。
7. バッテリーを取り外します。



バッテリーの交換または正しい廃棄方法について詳しくは、製品販売店またはサービス窓口にお問い合わせください。

仕様

ケーブル、電源、環境、コンプライアンス、および一般的な仕様について詳しくは、[HPE Compute Transceiver and Cable Hardware Matrix](#)を参照してください。

サブトピック

[環境仕様](#)

[機械仕様](#)

[電源装置の仕様](#)

環境仕様

仕様	値
温度範囲 ¹	–
動作時	10° C～35° C
非動作時	–30° C～60° C
相対湿度（ただし結露しないこと）	–
動作時	最小：–12° C露点温度または8%相対湿度 最大：24° C露点温度または90%相対湿度
非動作時	5～95% 38.7° C、最高湿球温度

¹ ここで示す温度の定格はすべて海拔0 mでのものです。海拔3,048 mまでは、高度が304.8 m上昇するごとに1.0° C低くなります。直射日光が当たらないようにしてください。最大変化率は20° C/時です。上限と変化率は、取り付けられているオプションのタイプと数によって制限される可能性があります。

特定の承認済みのハードウェア構成については、サポートされるシステムの吸気温度の範囲が次のように拡大されます。

- 海拔0 mで5～10° Cおよび35～40° C。この温度は、海拔900 mから3048 mまでは、高度が175 m上昇するごとに1.0° C低くなります。
- 海拔0 mで40° C～45° C。この温度は、海拔900 m～3048 mまでは、高度が125 m上昇するごとに1.0° C低くなります。

このシステムの承認済みのハードウェア構成については、[Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト](#)を参照してください。

機械仕様

仕様	値
高さ	8.75 cm (3.44インチ)
奥行き、SFF (2.5型)	71.2 cm (28.00インチ)
奥行き、LFF (3.5型)	74.9 cm (29.50インチ)
幅	44.54 cm (17.54インチ)
重量、SFF (2.5型) 最小	16.12 kg (35.54ポンド)
重量、SFF (2.5型) 最大	28.77 kg (63.43ポンド)
重量、LFF (3.5型) 最小	22.48 kg (49.56ポンド)
重量、LFF (3.5型) 最大	33.99 kg (74.94ポンド)

電源装置の仕様

インストールされたオプションや、サーバーを購入した地域によって、サーバーは以下の電源装置のいずれかで構成されません。

- [HPE 800 W FS LHパワーサプライ \(高電圧\) \(HPE 800 W Flex Slot Universal Hot Plug Low Halogen Power Supply\)](#)
- [HPE 800 W FS Platinum LHパワーサプライ \(HPE 800 W Flex Slot Platinum Hot-plug Low Halogen Power Supply\)](#)
- [HPE 800 W FS Titanium LHパワーサプライ \(HPE 800 W Flex Slot Titanium Hot-plug Low Halogen Power Supply\)](#)
- [HPE 800 W FS DC - 48V LHパワーサプライ \(HPE 800 W Flex Slot -48 VDC Hot-plug Low Halogen Power Supply\)](#)

- [HPE 1600 W FS Platinum LHパワーサプライ \(HPE 1600 W Flex Slot Platinum Hot-plug Low Halogen Power Supply\)](#)
- [HPE 1600 W FS DC-48Vパワーサプライ \(HPE 1600 W Flex Slot -48 VDC Hot-plug Power Supply\)](#)

サポートされている電源装置の仕様について詳しくは、[Hewlett Packard EnterpriseのWebサイト](#)にあるQuickSpecsを参照してください。

サブトピック

[HPE 800 W FS LHパワーサプライ \(高電圧\) \(HPE 800 W Flex Slot Universal Hot Plug Low Halogen Power Supply\)](#)

[HPE 800 W FS Platinum LHパワーサプライ \(HPE 800 W Flex Slot Platinum Hot-plug Low Halogen Power Supply\)](#)

[HPE 800 W FS Titanium LHパワーサプライ \(HPE 800 W Flex Slot Titanium Hot-plug Low Halogen Power Supply\)](#)

[HPE 800 W FS DC - 48V LHパワーサプライ \(HPE 800 W Flex Slot -48 VDC Hot-plug Low Halogen Power Supply\)](#)

[HPE 1600 W FS Platinum LHパワーサプライ \(HPE 1600 W Flex Slot Platinum Hot-plug Low Halogen Power Supply\)](#)

[HPE 1600 W FS DC-48Vパワーサプライ \(HPE 1600 W Flex Slot -48 VDC Hot-plug Power Supply\)](#)

HPE 800 W FS LHパワーサプライ (高電圧) (HPE 800 W Flex Slot Universal Hot Plug Low Halogen Power Supply)

仕様	値
入力要件	-
定格入力電圧	200~277 VAC 380 VDC
定格入力周波数	50~60 Hz
定格入力電流	4.4 A (200 VAC時) 3.8 A (230 VAC時) 2.3 A (380 VDC時)
最大定格入力電力	869 W (200 VAC時) 865 W (230 VAC時) 861 W (277 VAC時) 863 W (380 VDC時)
BTU/時	2964 (200 VAC時) 2951 (230 VAC時) 2936 (277 VAC時) 2943 (380 VDC時)
電源装置出力	-
安定時定格電力	800 W (200~277 VAC入力時)
ピーク時の最大電力	800 W (200~277 VAC入力時)

HPE 800 W FS Platinum LHパワーサプライ (HPE 800 W Flex Slot Platinum Hot-

plug Low Halogen Power Supply)

仕様	値
入力要件	–
定格入力電圧	100～127 VAC 200～240VAC 240 VDC (中国のみ)
定格入力周波数	50～60 Hz 240 VDC時には該当しません
定格入力電流	9.1 A (100 VAC時) 4.4 A (200 VAC時) 3.6 A (240 VDC時 (中国のみ))
最大定格入力電力	899 W (100 VAC時) 867 W (200 VAC時) 864 W (240 VDC時 (中国のみ))
BTU/時	3067 (100 VAC時) 2958 (200 VAC時) 2949 (240 VAC時 (中国のみ))
電源装置出力	–
安定時定格電力	800 W (100～127 VAC入力時) 800 W (100～240 VAC入力時) 800 W (240 VDC入力時 (中国のみ))
ピーク時の最大電力	800 W (100～127 VAC入力時) 800 W (100～240 VAC入力時) 800 W (240 VDC入力時 (中国のみ))

HPE 800 W FS Titanium LHパワーサプライ (HPE 800 W Flex Slot Titanium Hot-plug Low Halogen Power Supply)

仕様	値
入力要件	–
定格入力電圧	200～240 VAC 240 VDC（中国のみ）
定格入力周波数	50～60 Hz 240 VDC時には該当しません
定格入力電流	4.3 A（200 VAC時） 3.6 A（240 VAC時） 3.6 A（240 VDC時（中国のみ））
最大定格入力電力	851 W（200 VAC時） 848 W（240 VAC時） 848 W（240 VDC時（中国のみ））
BTU/時	2905（200 VAC時） 2893（240 VAC時） 2893（240 VDC時、中国のみ）
電源装置出力	–
安定時定格電力	800 W（200～240 VAC入力時） 800 W（240 VDC入力時（中国のみ））
ピーク時の最大電力	800 W（200～240 VAC入力時） 800 W（240 VDC入力時（中国のみ））

HPE 800 W FS DC - 48V LHパワーサプライ (HPE 800 W Flex Slot -48 VDC Hot-plug Low Halogen Power Supply)

仕様	値
入力要件	-
定格入力電圧	-40 VDC~-72 VDC -48 VDC (定格入力)
定格入力電流	22.1 A (-40 VDC入力時) 18.2 A (-48 VDC入力時、定格入力) 12.0 A (-72 VDC入力時)
定格入力電力 (W)	874 W (-40 VDC入力時) 865 W (-48 VDC入力時、定格入力) 854 W (-72 VDC入力時)
定格入力電力 (BTU/時)	2983 (-40 VDC入力時) 2951 (-48 VDC入力時、定格入力) 2912 (-72 VDC入力時)
電源装置出力	-
安定時定格電力 (W)	800 W (-40 VDC~-72 VDC時)
ピーク時の最大電力 (W)	800 W (-40 VDC~-72 VDC時)
ピーク時の最大電力	800 W (-40 VDC~-72 VDC入力時)



警告: 感電や高電圧によるけがを防止するために、次の注意事項を守ってください。

- この装置の設置は、必ずトレーニングを受けた専門の担当者が行ってください。
- 正しくアースされているセカンダリ回路の電源に、装置を接続してください。セカンダリ回路はプライマリ回路と直接の接続はなく、変圧器、コンバータ、または同等の隔離装置から電力を得ます。
- 分岐回路の過電流保護は27 Aにする必要があります。



注意: この装置は、DC供給回路のアース用導体と装置のアース用導体を接続できるように設計されています。

上記の接続の場合、次の条件がすべて満たされている必要があります。

- この装置は、DC供給システムのアース電極導体、またはその接続先であるアース端末のバーまたはバスからのボンディングジャンパーに直接接続する必要があります。
- この装置は、同じDC供給回路のアースされている導体とアース用導体間が接続されている他の装置、およびDCシステムのアースポイントと同じ隣接区域（隣接するキャビネットなど）に設置する必要があります。DCシステムは、別の場所でアースされている必要があります。
- DC供給源は、装置と同じ建物内に設置する必要があります。
- スイッチや電源切断用のデバイスは、DC供給源とアース電極導体の接続ポイントの間にある、アースされている回路導体には置かないでください。

HPE 1600 W FS Platinum LHパワーサプライ (HPE 1600 W Flex Slot Platinum Hot-plug Low Halogen Power Supply)

仕様	値
入力要件	–
定格入力電圧	200~240 VAC 240 VDC (中国のみ)
定格入力周波数	50~60 Hz
定格入力電流	8.7 A (200 VAC時) 7.5 A (230 VAC時)
最大定格入力電力	1734 W (200 VAC時) 1727 W (230 VAC時)
BTU/時	5918 (200 VAC時) 5891 (230 VAC時)
電源装置出力	–
安定時定格電力	1600 W (200~240 VAC入力時) 1600 W (240 VDC入力時)
ピーク時の最大電力	1ミリ秒2200 W (ターボモード) (200~240 VAC入力時)

HPE 1600 W FS DC-48Vパワーサプライ (HPE 1600 W Flex Slot -48 VDC Hot-plug Power Supply)

仕様	値
入力要件	–
定格入力電圧	-40 VDC~-72 VDC
定格入力周波数	DC
定格入力電流	44.2 A DC (-40 VDC入力時) 36.6 A DC (-48 VDC入力時) 24.4 A DC (-72 VDC入力時)
最大定格入力のワット数定格	1766 W (-40 VDC入力時) 1758 W (-48 VDC入力時) 1755 W (-72 VDC入力時)
BTU/時	6026 (-40 VDC入力時) 6000 (-48 VDC入力時) 5989 (-72 VDC入力時)
電源装置出力	–
安定時定格電力	1600 W (-40 VDC~-72 VDC時)
最大ピーク電力	1600 W (-40 VDC~-72 VDC時)

サポートと他のリソース

サブトピック

[Hewlett Packard Enterpriseサポートへのアクセス](#)

[アップデートへのアクセス](#)

[リモートサポート \(HPE通報サービス\)](#)

[保証情報](#)

[規定に関する情報](#)

[ドキュメントに関するご意見、ご指摘](#)

Hewlett Packard Enterpriseサポートへのアクセス

- ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise WorldwideのWebサイトにアクセスします。

<https://www.hpe.com/info/assistance>

- ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard EnterpriseサポートセンターのWebサイトにアクセスします。

<https://www.hpe.com/support/hpesc>

ご用意いただく情報

- テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- オペレーティングシステム名およびバージョン
- ファームウェアバージョン
- エラーメッセージ
- 製品固有のレポートおよびログ
- アドオン製品またはコンポーネント
- 他社製品またはコンポーネント

アップデートへのアクセス

- 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。ご使用の製品のドキュメントで、ソフトウェアの推奨されるソフトウェアアップデート方法を確認してください。
- 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかにアクセスします。

Hewlett Packard Enterpriseサポートセンター

<https://www.hpe.com/support/hpesc>

Hewlett Packard Enterpriseサポートセンター：ソフトウェアのダウンロード

<https://www.hpe.com/support/downloads>

マイHPEソフトウェアセンター

<https://www.hpe.com/software/hpesoftwarecenter>

- eNewslettersおよびアラートをサブスクライブするには、以下にアクセスします。

<https://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

- お客様の資格を表示、アップデート、または契約や保証をお客様のプロファイルにリンクするには、Hewlett Packard EnterpriseサポートセンターのMore Information on Access to Support Materialsページに移動します。

<https://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>

① 重要:

一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterpriseサポートセンターからアクセスするときに製品資格が必要になる場合があります。関連する資格を使ってHPEパスポートをセットアップしておく必要があります。

リモートサポート（HPE通報サービス）

リモートサポートは、お客様の保証またはサポート契約の一部として、サポートされているデバイスで使用できます。これは優れたイベント診断、Hewlett Packard Enterpriseへのハードウェアイベント通知の自動かつ安全な送信を提供します。また、お使いの製品のサービスレベルで高速かつ正確な解決方法を開始します。Hewlett Packard Enterpriseでは、ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くお勧めします。

ご使用の製品にリモートサポートの追加詳細情報が含まれる場合は、検索を使用してその情報を見つけてください。

HPE通報サービス

<http://www.hpe.com/jp/hpalert>

HPE Pointnext Tech Care

<https://www.hpe.com/jp/ja/services/tech-care.html>

HPEデータセンターケア

<https://www.hpe.com/jp/ja/services/datacenter-hybrid-services.html>

保証情報

ご使用の製品の保証情報を確認するには、以下のリンクを参照してください。

HPE ProLiantとIA-32サーバーおよびオプション

<https://www.hpe.com/support/ProLiantServers-Warranties>

HPE EnterpriseおよびCloudlineサーバー

<https://www.hpe.com/support/EnterpriseServers-Warranties>

HPEストレージ製品

<https://www.hpe.com/support/Storage-Warranties>

HPEネットワーク製品

<https://www.hpe.com/support/Networking-Warranties>

規定に関する情報

安全、環境、および規定に関する情報については、Hewlett Packard Enterpriseサポートセンターからサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照してください。

<https://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

規定に関する追加情報

Hewlett Packard Enterpriseは、REACH（欧州議会と欧州理事会の規則EC No 1907/2006）のような法的な要求事項に準拠する必要に応じて、弊社製品の含有化学物質に関する情報をお客様に提供することに全力で取り組んでいます。この製品の含有化学物質情報レポートは、次を参照してください。

<https://www.hpe.com/info/reach>

RoHS、REACHを含むHewlett Packard Enterprise製品の環境と安全に関する情報と準拠のデータについては、次を参照してください。

<https://www.hpe.com/info/ecodata>

社内プログラム、製品のリサイクル、エネルギー効率などのHewlett Packard Enterpriseの環境に関する情報については、次を参照してください。

<https://www.hpe.com/info/environment>

ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterpriseでは、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントの改善に役立てるために、Hewlett Packard Enterpriseサポートセンターポータル (<https://support.hpe.com/hpesc>) にあるフィードバックボタンとアイコン（開いているドキュメントの下部にあります）から、エラー、提案、またはコメントを送信いただけます。すべてのドキュメント情報は、プロセスによってキャプチャーされます。